土　木　学　会　認　定　C　P　D　プ　ロ　グ　ラ　ム

土木学会
平成26年度全国大会 案内

Japan Society of Civil Engineers 2014 Annual Meeting

大会テーマ

百年の計、変わらぬ使命感と
進化する土木

日時：平成26年9月10日（水）～ 12日（金）

会場：大阪大学豊中キャンパス・ホテル阪急エキスポパーク

主催：公益社団法人 土木学会

共催：国立大学法人 大阪大学

全国大会情報

http://www.jsce.or.jp/taikai2014/

QRコード

なお大会期間前後に携帯用サイトを開設します。
http://www.jsce.or.jp/taikai2014/m/
（パケット通信料は、利用者の負担となります。情報料はかかりません。）

本付録の掲載情報は、2014年5月31日現在のものです。
掲載情報が変更になっている場合もございますので、ホームページもあわせてご確認ください。

平成26年度全国大会参加者へのアンケートご協力のお願い

http://committees.jsce.or.jp/zenkoku/node/80

QRコード

全国大会参加者へのサービス向上と運営の効率化のため、
アンケートへのご協力をお願いいたします。
（2014年9月30日までにご回答ください）

NIPPON KOEI

地球上のいくつもの国々で
60有余年、
注いできた、仕事への情熱。
紡いできた、人と人との堅い絆。
今までも、そして、これからも。

1946年、戦後の復興を願う技術者たちが集い、日本工営は誕生しました。以来、国内のフィールドを始め、海外での異なる文化の中、独自の歴史を持つ人々と言葉を重ね、物を造り、共に仕事をしてきました。発電水力、電力送配電、農業開発、河川砂防、交通網の整備、都市・地域開発、環境保全など、その地で暮らす人々の幸せと明日の希望を叶える仕事に力を尽くしてきました。これからも、国や地域の発展のため、技術力に磨きをかけるとともに、次代が必要とする技術を開発し、常に新たなる領域に踏み出す勇気を忘れずに、多様な仕事に挑んでいきます。

日本工営株式会社
http://www.n-koei.co.jp/

「土木学会全国大会案内」

2014 Kansai

日時：平成26年9月10日（水）～12日（金）　会場：大阪大学豊中キャンパス・ホテル阪急エキスポパーク

大会テーマ「百年の計、変わらぬ使命感と進化する土木」

CONTENTS

◆挨拶・講師等のプロフィール

土木学会平成26年度全国大会を迎えて …… 3
基調講演会講師の紹介…… 4
特別講演会講師の紹介…… 5
全体討論会の趣旨と講師の紹介…… 5
土木学会100周年記念土木遺産国際シンポジウム…… 7

◆全国大会会場案内・大会行事

会場所在地（広域図）…… 9
大阪大学豊中キャンパス会場図…… 10
行事案内…… 11
（1）基調講演会…… 12
（2）特別講演会…… 12
（3）全体討論会…… 12
（4）第69回年次学術講演会 …… 12
（5）研究討論会…… 12
（6）交流会（学生を含む）…… 12
（7）International Programs（国際関連行事）…… 12
（8）映画会…… 13
（9）土木学会100周年記念討論会…… 14
(10) 土木学会100周年記念土木遺産国際シンポジウム…… 14
(11) 橋梁模型コンテスト…… 15
(12) アンサンブルシヴィル演奏…… 15
一時保育のご紹介…… 15
年次学術講演会講演要領…… 15
演題発表に関わる注意事項【重要】…… 15
ウィルス対策について…… 16
土木学会年次学術講演会優秀講演者表彰制度について…… 16

◆研究討論会等内容紹介

研究討論会一覧…… 18

◆第69回年次学術講演会プログラム

第69回年次学術講演会会場および座長（予定者）一覧表 …… 24
第Ⅰ部門…… 26
第Ⅱ部門…… 37
第Ⅲ部門…… 41
第Ⅳ部門…… 48
第Ⅴ部門…… 51
第Ⅵ部門…… 63
第Ⅶ部門…… 76
共通セッション…… 78

挨拶・講師等のプロフィール

挨 拶　土木学会平成26年度全国大会を迎えて

「百年の計、変わらぬ使命感と進化する土木」

宮川　豊章
MIYAGAWA Toyoaki
平成26年度土木学会全国大会実行委員会
委員長

平成26年度土木学会全国大会を、９月10日（水）から12日（金）までの３日間、大阪大学豊中キャンパスを主会場として開催いたします。

平成26年は、土木学会創立100周年の年にあたります。大阪での全国大会の開催は、平成３年に関西大学で開催して以来24年ぶり、また大阪大学としては昭和26年に開催して以来実に63年ぶりとなりますが、土木学会創立100周年の年に全国大会をこの地で開催できますことを大変喜ばしく思います。

大阪は、豊臣秀吉が大阪城を築いて以来、日本の経済・商業の中心として栄えてきました。現在でも、大阪は関西の経済・商業の中心都市でもありますが、江戸時代には「江戸の八百八町」「京都の八百八寺」と並び、「浪華の八百八橋」と呼ばれ世界最大の「水の都」として栄えました。当時の大阪では、諸藩の年貢米を堀江によって運搬したため、数多くの橋梁が掛けられました。実はその多くは「橋普請」による橋梁であり、町人たちの意思により架けられた「町橋」でした。また江戸時代に天下の台所としても知られた大阪は、全国から船が往来する港湾都市でもありました。明治期には、港湾の近代化のために官民一体となって築港事業が行われ、国際的な港湾都市としての礎を築きました。土木技術者は、時代に合わせた使命を負いながら、社会を築き人々の暮らしを支えてきたのです。

一方で、我々は様々な自然災害と対峙し、時には大きな被害を経験しながらも、街を守り社会生活を維持してきました。ところが近年、自然災害に対するリスクが変化しており、新しい対応が求められています。平成23年３月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」では、死者・行方不明者が二万人を超え、３年が経過した現在でも被災者の多くは生活の基盤を取り戻せずにおり、その爪痕を大きく残しています。また関西では、南海トラフ地震の脅威や、奈良県・和歌山県で発生した記録的な豪雨による大規模な深層崩壊など、今までに経験したことのない自然現象と向き合う必要がでてきました。いま、土木技術者に求められる使命とは、時々刻々と変化する自然の脅威に対し、強靭な社会を作り上げていくことであり、幅広い分野における英知を集結して、土木技術を進化させていくことにあるのではないでしょうか土木学会では、100周年を記念して、「社会貢献」、「国際貢献」、「市民交流」を３本の柱とした事業を展開しています。これからも、土木技術者集団としての土木学会が果たす役割は大きく、その責務を真摯に受け止めるとともに、昔と変わらぬ使命感を持ちながら、より一層の努力と社会に対する貢献が求められています。

今大会のテーマは「百年の計、変わらぬ使命感と進化する土木」とさせていただきました。特別講演会では、前大阪大学総長鷲田清一氏をお招きし、哲学者がみた土木のあり様についてご講演頂きます。また、全体討論会では、50年後の社会を見据え、パネリストに他分野の方々をお招きし将来の土木のあり方ついて討議していただきます。また、土木学会100周年記念討論会として、未来社会に向けて土木技術者が果たすべき役割について、他分野の技術者とともに討議していただきます。

土木学会全国大会は、７つの研究分野に渡り広く知見が得られる唯一の機会であり、学会としての最大の行事でもあります。全国からご参加いただく会員・市民の皆様それぞれが、学術研究の研鑽、会員相互の交流、情報交換などを通じて、改めて土木技術者の使命と役割について考える機会となることを期待しております。100年という節目の年に、水の都として知られる歴史ある大阪の地において、このような重要な大会を開催できることを喜ばしく感じるとともに、土木学会の更なる発展向上に寄与することを祈念しまして挨拶とさせていただきます。

基調講演会

９月11日（木）14:00～14:45　ホテル阪急エキスポパーク

会長講演

第102代土木学会　会長　**高知工科大学　副学長**

磯部　雅彦　ISOBE Masahiko

学会歴
1975年　学生会員
1978年　正会員
1993年　学会誌編集委員会幹事長
1995年　フェロー会員
2006年　理事
2007年　海岸工学委員会委員長
2008年　関東支部長
2009年　副会長
2010年　論文集編集委員会委員長
2014年　会長

学歴・職歴
1975年　東京大学工学部土木工学科卒業
1981年　横浜国立大学工学部土木工学科講師
1987年　東京大学工学部土木工学科助教授
1992年　東京大学工学部土木工学科教授
1999年　東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻教授
2009年　東京大学副学長
2013年より現職

講演題目：「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」

土木学会は、1879年に設立された日本工学会を前身として、1914年に設立された。初代会長である古市公威は第１回総会会長講演において、土木工学の総合性を表して「指揮者ヲ指揮スル人即所謂将ニ将タル人ヲ要スル場合ハ土木ニ於テ最多シトス」とし、そのために「本會ノ研究ハ土木ヲ中心トシテ八方ニ發展スルヲ要ス」と述べた。この講演会では、工学系の他、医学、理学、法律、経済、軍事の分野において諸外国事情を含めて活発な討議が展開された。

明治時代に始まる近代土木の中心は河川、鉄道、港湾である。1872年の鉄道開業から、1880年の逢坂山トンネルの竣工を経て、明治時代に主要幹線を敷設し、大正時代にはその高度化と新線・支線の建設が行われた。また、明治時代の小樽築港は近代港湾の幕開けとなったし、琵琶湖疎水事業では、灌漑・上水道・工業用水道・舟運・水力発電という総合開発を実現した。1923年の関東大震災は甚大な被害を及ぼしたが、その復興を成し遂げ、隅田川に架かる多様で優れた形式の橋梁群、地下鉄の開業が結実した。

昭和に入って世界恐慌に襲われながらも、ダム、鉄道、工業地帯、道路、港湾などの建設を推進し、近代国家としての産業基盤の整備を進めた。昭和初期には土木学会員は3,000人に達し、1938年には「土木技術者の信条・実践要綱」を発表した。

戦後の国土荒廃と経済混乱、さらには頻発する台風、地震、火山噴火などの自然災害から立ち上がらせた土木の貢献は著しい。連合国軍設営土木工事から始まり、河川総合開発事業、佐久間・奥只見・田子倉・黒部などのダム建設、戦災復興・市街地整理、新幹線・地下鉄・道路・港湾・空港建設が急速に進行し、高度経済成長を支え、オイルショックなどの経済危機を乗り越えて、日本を世界の先進国に押し上げた。

その後、1974年の山陽新幹線新関門トンネルや中央自動車道恵那山トンネルの開通、1978年の新東京国際空港の開港、1979年の大飯原子力発電所の完成、1981年の高瀬ダム・新高瀬川水力発電所の完成、1988年の青函トンネル・瀬戸大橋による４島連結などにより着実に社会基盤整備が進むとともに、既に昭和30年代には環境問題の深刻化の兆しも見られていた。また、閉鎖性海域の水質汚濁、水俣病の発生、1994年の長良川河口堰反対運動などの象徴的出来事が起きた。さらに近年は、高齢化問題やエネルギー問題も顕在化しているし、地球温暖化問題が現実のものとなりつつある。そして、1995年の阪神淡路大震災や2011年の東日本大震災は改めて社会安全を大きな問題として提起した。

このような問題の全てに対して、土木は真摯な姿勢で取組み、最大限の貢献をしなくてはならない。これまで整備してきた社会基盤施設を適切に維持し管理することは、社会の維持に不可欠であり、土木の責務である。東日本大震災は、最大クラスの津波に対してあらゆる手段をもって人命を守り、それよりも発生頻度の高い津波に対しては施設などによって人命とともに産業や生活を守るという方針を明確化した。我が国が抱える様々な自然災害や事故による危険性に対してこの考え方を援用し、リスクを適切に管理しながら、人的被害を限りなく抑え、生活や産業の継続性を確保していかなければならない。人々がいきいきとした生活を送ることができるように、高齢化社会を乗り切るためにも、高齢者や女性を含むすべての人々が健康を維持し、社会のために快適に働くことができる環境を築くことが肝要である。エネルギー資源の持続的利用のためには、省エネルギーを徹底的に進めながら、再生可能エネルギーの導入を最大限に増加させるとともに、エネルギー転換の過渡的段階として化石エネルギーや原子力エネルギーの利用を適切な方向に導く必要がある。顕在化しつつあると見られる地球温暖化問題に対しては、できるだけ緩和策を進めるとともに、問題に対する適応策を準備し、手遅れにならないうちに実行

しなければならない。そして、長期的に快適で安定的な社会を維持するには、適切な土地利用が基本となることを踏まえ、未来の世代を見据えた社会を構築することを忘れてはならない。これらを始めとする課題に取り組みながら、国際社会との協調を保ち、日本の経験をもって他国に貢献することは、国際社会の要請であり、日本の義務である。

このような社会に対する貢献を土木学会が最大限に行っていくために、初代会長の講演の趣旨を十分に理解し、橋本前会長を始めとする歴代会長の方針を引き継ぐことを基本として、土木分野の周辺にあるすべての境界をひらき、他分野の知識と知恵を吸収し、むしろ他分野の中に舞台を広げながら、人材を育成し、究極的に目指すべき持続可能な社会を実現するための礎を築く決意を、土木学会創立100周年を機に新たにするものである。

特別講演会

９月11日（木）14:50～15:50　ホテル阪急エキスポパーク

特別講演

講演題目：『「シヴィル」ということの意味』

哲学者／大谷大学教授・せんだいメディアテーク館長
大阪大学名誉教授
鷲田　清一　WASHIDA Kiyokazu

1949年京都市生まれ。京都大学文学部卒業。関西大学教授、大阪大学教授、理事・副学長、大阪大学総長を経て、現職。これまで哲学の視点から、身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを論じるとともに、さまざまな社会・文化批評をおこなってきた。主な著書に、『「聴く」ことの力』（桑原武夫学芸賞）、『「ぐずぐず」の理由』（読売文学賞）、『モードの迷宮』（サントリー学芸賞）など。前・日本倫理学会会長、アートミーツケア学会会長。

全体討論会

９月11日（木）16:05～17:45　ホテル阪急エキスポパーク

テーマ　「百年の計、変わらぬ使命感と進化する土木」

討論内容

関西には、田邊朔郎による琵琶湖疎水と水力発電、關一による御堂筋の整備、小林一三による鉄道を起点とした都市開発をはじめ、当時の常識を超えた発想で、半世紀先の都市の姿をイメージして推進され、結果として現在の関西の基礎を作ったプロジェクトが多数あります。これらのプロジェクトを発案した先人達は、欧米等の先進国をモデルに日本の将来をイメージして構想を練っていったと考えられます。しかしながら、これからの土木のあり方を考えるに際し、現在の日本にとってモデルとなる国を探すことは難しく、現代ではオリジナルのモデルを作らなければならない状況に置かれています。

オリジナルのモデルを作るためには、日本の将来の姿を見据える必要があります。そこで、この全体討論会では、50年後辺りの日本と世界の将来を多様な視点から見極め、将来土木が何をなすべきかを考えることにします。このため、例えば社会動態、情報化、世界情勢、地球環境、など、様々な視点から将来の見通しをパネリストの方々に語っていただき、土木のあり方について構想を深めたいと考えています。

全体討論会講師の紹介

［パネリスト］**阪口 秀**　SAKAGUCHI Hide
（独）海洋研究開発機構　数理科学・先端技術研究分野長

1985年京都大学農学部農業工学科後、米国ウィスコンシン州立大学大学院土木工学科、京都大学大学院農学研究科博士課程で農業工学を学ぶ。1991年神戸大学農学部助手に採用された後、1998年オーストラリア連邦科学産業研究機構、東京大学地震研究所を経て、2003年から現職に移籍。粒状体の力学、計算科学、固体地球科学等を専門とし、深海域の地殻活動不安定性から地球環境の変化と大規模災害の予測法の開発に取り組んでいる。農学博士。

[パネリスト]**佐藤 友美子** SATO Yumiko

追手門学院大学　特別任用教授

1975年立命館大学文学部日本文学科を卒業、同年サントリー株式会社に入社。1989年サントリー不易流行研究所の設立に携わり、1998年3月部長、2008年4月（公財）サントリー文化財団の上席研究フェローを経て、2013年10月より現職。これまでに内閣府観光立国懇談会、国土交通省交通政策審議会委員、文化庁世界文化遺産特別委員会他多数の委員を歴任。「成熟し、人はますます若くなる」（NTT出版）他多数の著書がある。

[パネリスト]**髙木 康志** TAKAGI Yasushi

日本電信電話株式会社　ネットワーク基盤技術研究所長

1987年大阪大学大学院工学研究科修士課程修了。同年日本電信電話株式会社入社。以来、同社ネットワークサービスシステム研究所／本社技術部／ネットワーク基盤技術研究所等において通信ネットワークの研究開発に従事。2013年7月よりネットワーク基盤技術研究所長、現在に至る。博士（工学）。

[パネリスト]**内藤 智之** NAITO Tomoyuki

世界銀行　東アジア大洋州地域総局　東京開発ラーニングセンター　マネージャー

1990年東海大学工学部建築学科卒業、同年フジタ工業（現フジタ）入社。国際CMエンジニアとしてパプアニューギニア、ベトナム、シンガポールに計4年間駐在。1999年早稲田大学大学院アジア太平洋研究科にて国際関係学修士取得後、国際協力機構（JICA）へ移籍。インドネシア事務所駐在、経済基盤開発部計画課長、外務省出向等などを経て、2011年に世界銀行へ移籍。現在に至る。専門は東南アジア華人経済、インドネシア経済、運輸交通・情報通信インフラ開発、アジアの人材育成。一級建築士。

[パネリスト]**藻谷 浩介** MOTANI Kosuke

株式会社日本総合研究所 調査部主席研究員

1988年東京大学法学部私法コース卒業。日本開発銀行に入社後、米国コロンビア大学経営大学院でMBAを取得。2012年に株式会社日本総合研究所に移籍し、現在に至る。内閣官房「東日本大震災復興構想会議専門委員会」委員、内閣府・財務・経産・国交・総務・厚生労働・文科省等の委員、大学非常勤講師多数を兼任。地勢把握のため平成合併前3,200市町村の全部や、海外60カ国を自費にて巡歴。

[コーディネーター]**建山 和由** TATEYAMA Kazuyoshi

立命館大学　教授

1980年京都大学工学部土木工学科卒業。同大学院工学研究科修士課程、博士課程を経て、1985年から京都大学工学部で助手、講師、助教授として教育・研究にあたり、2004年に立命館大学理工学部に移り、現在に至る。地盤工学、建設施工学を専門とし、現在は、主に情報化施工、建設ロボットに関する技術開発と普及に努めている。工学博士。

土木学会100周年記念土木遺産国際シンポジウム　9月10日(水)14:00〜17:00　大阪大学豊中キャンパス

テーマ 「土木遺産の地平　〜地域の核から世界遺産まで〜」

企画主旨

近年、土木遺産の存在価値が内外で高まっており、世界各地にてその利活用が模索されている。その意義は「全地球人たちの営為」といった世界遺産レベルのものから、「地域の誇り」「身近な原風景」といったきわめてローカルなレベルにまで広く浸透している。元来の機能を維持しながら、同時に地域社会における「魅力」あるいは「公共性(さまざまな地域活動の舞台等)」を獲得しているものも数多い。

我々はこれらの新しい土木遺産にどうアプローチし、市民はこれにどう触れ合っていくことができるのだろうか？そして世界はこれに対しどう向き合っていこうとしているのだろうか。本シンポジウムでは、土木学会100周年記念に相応しい「歴史的課題」として土木を捉え直し、その所産として現代世界に姿を現し始めた「土木遺産」に注目することで、100年という時間が土木に醸成させた価値の実態と、その「有意義な使い方」について議論することとしたい。特に当該分野において世界の先端を走るイギリスにて活躍されている専門家を招き先進的事例をご紹介頂くほか、「風景」あるいは「公共性」といった切り口を加え、土木遺産の可能性を立体的に議論することを試みたい。

当シンポジウムは土木コレクション事業の一環として開催します。

講師の紹介

[基調講演] **マイルズ・オグリソープ** Miles Oglethorpe
ヒストリックスコットランド産業遺産政策責任者(Head of Industrial Heritage)

1979年 英国ダラム大学地理学科卒業。1983年英国グラスゴー大学大学院博士課程修了。その後、ストラックライド大学歴史学科スコットランド産業考古学調査ユニット研究員等を経て現職。イングリッシュヘリテージ産業考古学審査員、TICCIHボードメンバーなど歴任。2014年１月のフォース橋世界遺産認定にも深く関わる。著書に、Scottish Collieries: An Inventory of Scotland's Coal Industry in the Nationalised Era (Royal Commission on the Ancient and Historical Mon, 2008)等。

[パネリスト] **中村 良夫** NAKAMURA Yoshio
東京工業大学名誉教授。工学博士。専門は景観工学、国土史

1963年東京大学工学部土木工学科卒業。著書に、『風景学入門』(サントリー学芸賞、土木学会著作賞)、『風景学・実践篇』(土木学会出版文化賞)、『研ぎすませ風景感覚１・２』(土木学会出版文化賞)、『都市をつくる風景-「場所」と「身体」をつなぐもの』等。
設計監修した古河総合公園がメリナ・メルクーリ国際賞受賞(2003年)
土木学会功労賞受賞(2007年)

[パネリスト] **ヒラリー・オレンジ** Hilary Orange
ロンドン大学応用考古学研究センタープロジェクトマネージャ　専門は文化遺産学、パブリックアルケオロジー、現代考古学

1989年英国ラフバラー大学芸術学部卒業。2012年英国ロンドン大学考古学科博士課程修了、PhD。大英博物館勤務などを経て現職。世界遺産コーンウォールの鉱山景観における戦後の公共認識(博士論文)、ブライトンにおけるパブリックアルケオロジープロジェクトなど幅広いヘリテージ研究事業に携わる。
論文に、「工業空間の再活性化」(Left Coast Press, 2014)等。

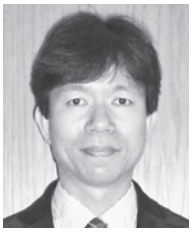
[パネリスト]**浅田 利嗣** ASADA Toshitsugu

1995年に京都大学経済学部卒業。1995年に近畿日本鉄道(株)入社、2009年から歴史街道推進協議会に出向・広報部長兼メインルート部長の現職に至る。
日本の歴史文化を歴史の現場を訪れ、体感的に知っていただく“歴史街道”の魅力を発信するかたわら、地域づくりの一環として、日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会の副会長として、伊勢街道沿道の民間団体や行政とともに地域の魅力づくりに取り組んでいる。

[パネリスト]**北河 大次郎** KITAGAWA Daijiro

文化庁 文化財調査官。東京大学客員教授

1992年 東京大学工学部土木工学科卒業。1999年フランス国立エコール・デ・ポンゼショセにて博士号取得。その後文化庁に入庁し、主に近代化遺産の調査、指定、登録に携わる。2010年から2011年までローマのイクロム(ICCROM、文化財保存修復研究国際センター)に勤務。主な著書に『図説日本の近代遺産』(共編著)、『技術者たちの近代』、『近代都市パリの誕生』(河出書房新社)でサントリー学芸賞受賞、交通図書賞受賞。



[コーディネーター]**岡田 昌彰** OKADA Masaaki

近畿大学理工学部社会環境工学科教授、博士(工学) 専門は景観工学、ヘリテージスタディ

1991年東京工業大学工学部土木工学科卒業。1996年同大学院博士後期課程修了。
(株)長大、国総研、東京大学アジア生物資源環境研究センター研究員等を経て現職。2010-11年ケンブリッジ大学マクドナルド研究所客員研究員。著書に、『テクノスケープ〜同化と異化の景観論』(鹿島出版会2003年)、共著に『日本の土木遺産』(講談社:2012年)等。TICCIH Japan副代表、ICOHTEC Executive Member、奈良県近代化遺産調査委員会副委員長などを歴任。日本造園学会研究奨励賞受賞(2006年)

[通訳]**中西 裕見子** NAKANISHI Yumiko

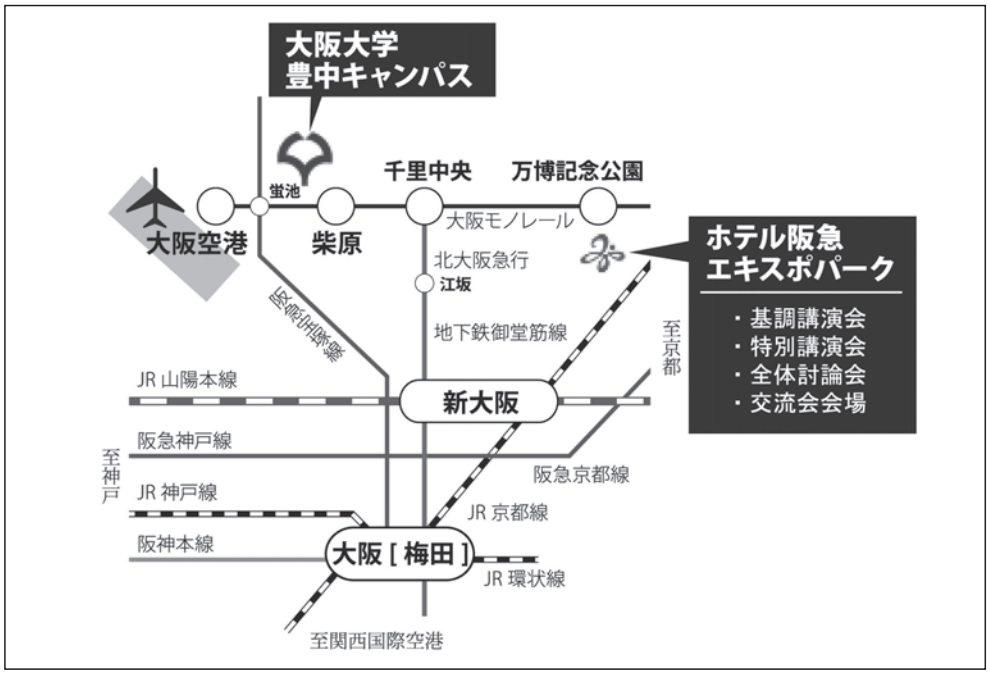
大阪府教育委員会 事務局文化財保護課

英国ダラム大学考古・人類学科卒業。英国ケンブリッジ大学大学院修士課程修了(博物館学と文化遺産研究)。大阪府入庁後世界遺産登録推進担当を経て、現在は史跡等にかかわる業務を担当。関西大学文学部非常勤講師。論文に「英国における文化遺産研究の理論と実践」(日本遺跡学会誌『遺跡学研究』第1号)、「博物館の社会的役割の推移」(『関西大学 博物館紀要』第16号)等、翻訳論文にロバート・レイトン著「文化遺産の普遍性と異文化の関係」(古代学研究会誌『古代学研究』第 182 号)等。

全国大会会場案内・大会行事

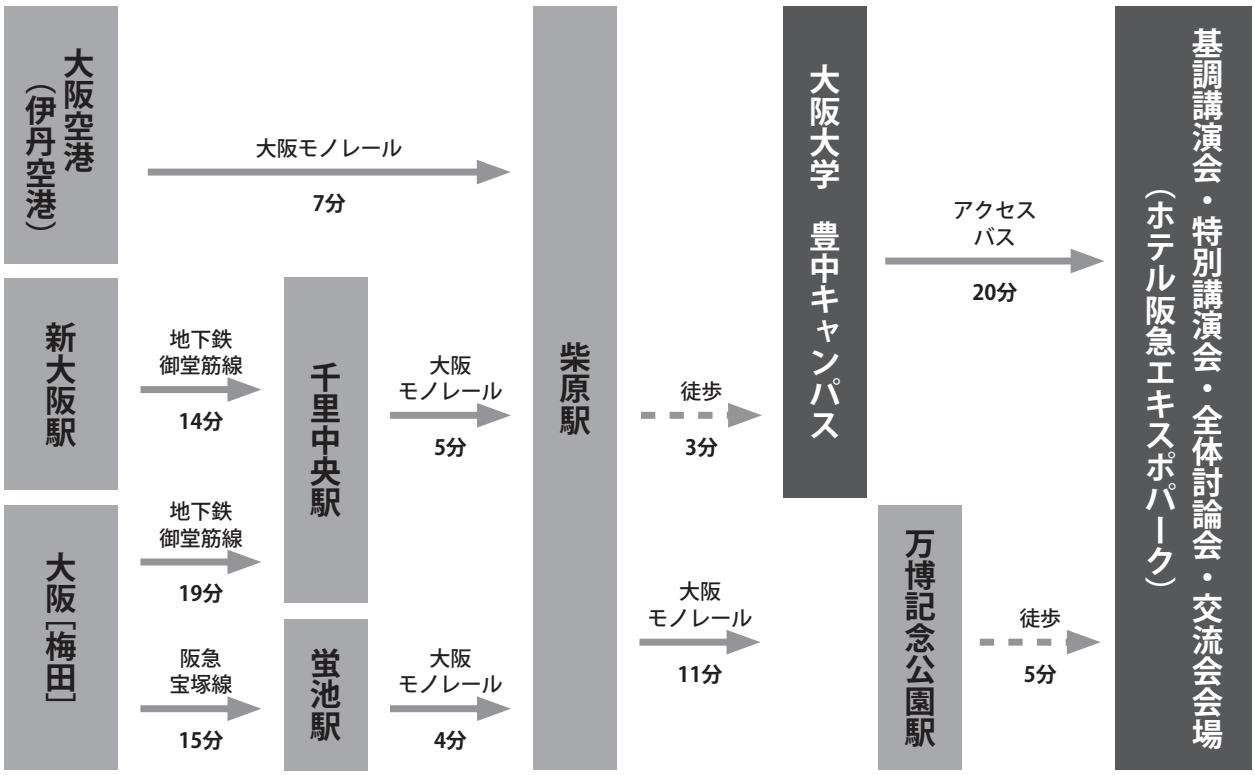
会場所在地

・大阪大学 豊中キャンパス　〒560-0043　豊中市待兼山町1-2
・ホテル阪急エキスポパーク　〒565-0826　吹田市千里万博公園1-5

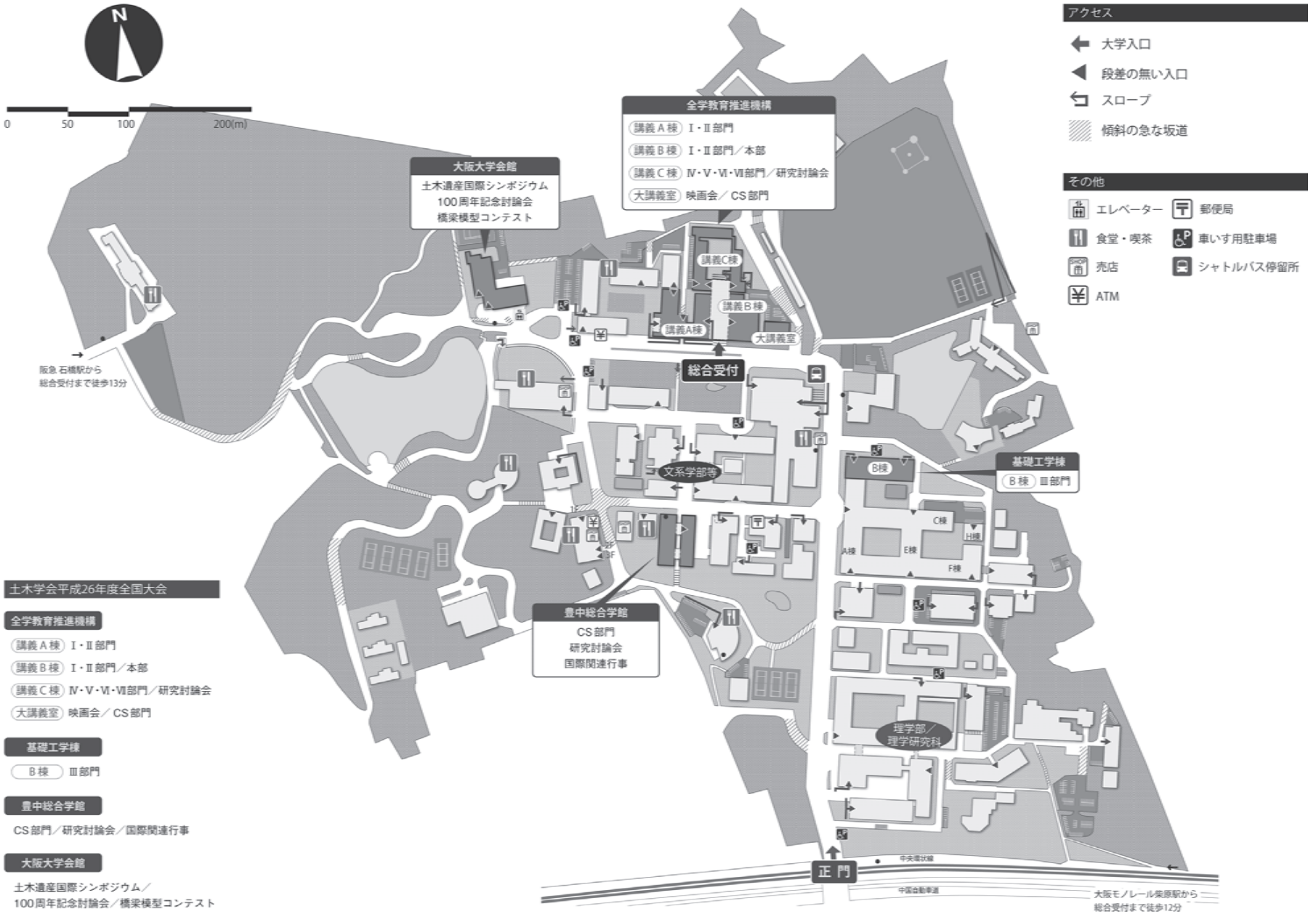


※駐車場はございませんので、お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

大阪大学豊中キャンパス、ホテル阪急エキスポパークまでのアクセス

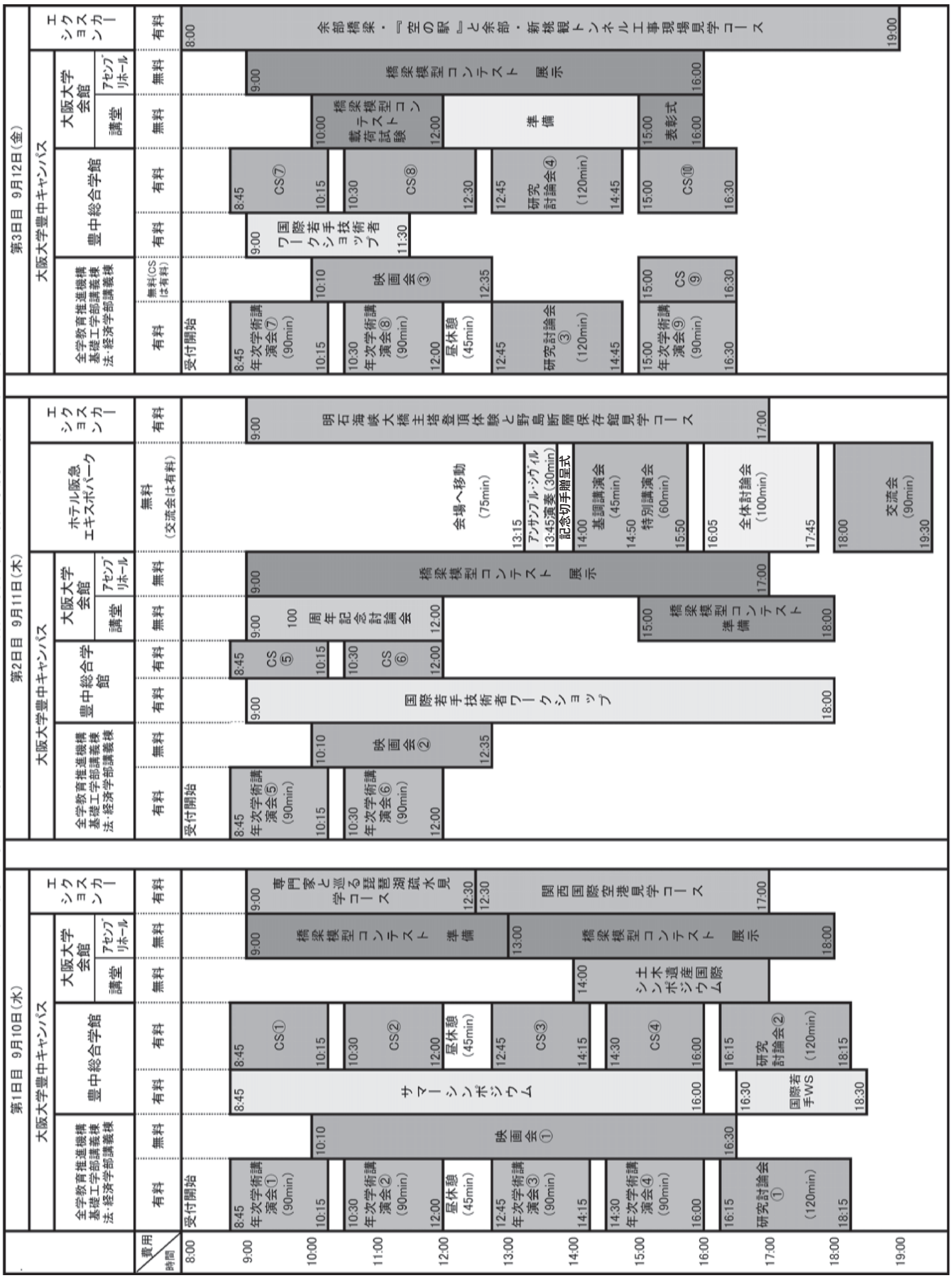


大阪大学豊中キャンパス会場図



（平成26年5月7日現在）

行事案内



※上記の他、エクスカーション「ボクマニアのカリスマと巡るどぼくカフェツアー」を9月13日(土)9:00～18:00に実施

（1）基調講演会

９月11日（木）14:00～14:45　ホテル阪急エキスポパーク「オービットホール」

会長講演「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」

土木学会 会長　磯部　雅彦（高知工科大学副学長）

（2）特別講演会

９月11日（木）14:50～15:50　ホテル阪急エキスポパーク「オービットホール」

特別講演

講演題目：『「シヴィル」ということの意味』

大谷大学教授・せんだいメディアテーク館長・大阪大学名誉教授　鷲田　清一

（3）全体討論会

９月11日（木）16:05～17:45　ホテル阪急エキスポパーク「オービットホール」

テーマ「百年の計、変わらぬ使命感と進化する土木」

・パネリスト	阪口　　秀	（独）海洋研究開発機構　数理科学・先端技術研究分野長
	佐藤友美子	追手門学院大学　教授
	髙木　康志	日本電信電話（株）ネットワーク基盤技術研究所長
	内藤　智之	世界銀行 東京開発ラーニングセンターマネージャー
	藻谷　浩介	（株）日本総合研究所 調査部主席研究員
・コーディネーター	建山　和由	立命館大学　教授

（4）第69回年次学術講演会

９月10日（水）～12日（金）　大阪大学豊中キャンパス

（5）研究討論会

９月10日（水）、12日（金）　大阪大学豊中キャンパス

（6）交流会（学生を含む）

９月11日（木）18:00～19:30　ホテル阪急エキスポパーク「星雲」

参加料：一般6,000円　学生3,000円：当日交流会会場受付にてお申し込み下さい。参加費のお支払いは現金のみといたします。

（7）International Programs（国際関連行事）

９月10日（水）～12日（金）　大阪大学豊中キャンパス

International Programs（国際関連行事）

JSCE Annual Meeting International Program focuses on current issues and challenges facing the civil engineering profession. All registrants of the annual meeting are cordially invited to participate in the 16th International Summer Symposium and Open discussion session†. Please take this opportunity to meet and share ideas and opinions with engineering professionals from around the world.

†2. International Workshop for Young Engineers is discussed only by the selected young engineers.

国際関連行事として、期間中に英語による以下の行事を実施いたします。全国大会登録者であれば、どなたでも参加できます。ふるってご参加ください（2. International Workshop for Young Engineersにおける議論は選出された若手技術者のみで行われますが、見学していただくことは可能です）。

○Venue：Osaka University, Toyonaka Campus, Common Hall for Humanities and Social Sciences
（会場：大阪大学豊中キャンパス　豊中総合学館）

1. The 16th International Summer Symposium（第16回インターナショナルサマーシンポジウム）
Date & Time：September 10(Wed)　8:45 ～ 16:00

2. International Workshop for Young Engineers（国際若手技術者ワークショップ）
Topic："Facing the Challenges of Our Future Society"
Date & Time：September 10(Wed)　16:30～18:30
11(Thu)　9:00～18:00
12(Fri)　9:00～11:30

3. Open discussion session（研究討論会）
Topic：Open Discussion on 'Facing the Challenges of Our Future Society'
Date & Time：September 12(Fri)　12:45 ～14:45
Venue：See program of open discussion session
For further details, please visit the JSCE website: http://www.jsce-int.org
詳細については、土木学会英文ホームページをご覧ください。

（8）映画会

9月10日（水）～12日（金）　大阪大学豊中キャンパス

土木映画の100年を振り返り未来の土木を展望する

第２弾（関西ファンタスティック土木映画祭!?）

土木技術映像委員会では、前回大会に引き続き３日間連続で映画会を開催いたします。研究討論会テーマ「土木映画の100年」と連動し、タモリ倶楽部「ファンタスティック土木映画祭」で放映された歴代の映画コンクール受賞作品５本を始め、「関西映画特集」や東日本大震災貴重映像など、たくさんの優れた映像をお届けします。

1日目	タモリ倶楽部上映作品特集＆関西ミニ特集＆震災ミニ特集	10:10	10:15	挨拶		年
		10:15	10:52	本州四国連絡橋　長大橋の基礎を築く第３部	37分	1983
		10:53	11:18	富士山を測る	25分	1994
		11:19	12:06	青函トンネル	47分	1985
		12:07	12:27	街の一体化と安全のために 目黒線不動前～洗足駅間地下切替工事	20分	2006
		12:28	12:48	ファンタスティック土木映画祭	20分	2013
		12:48	14:19	パッテンライ！！	90分	2008
		14:20	14:45	海を渡る砂	25分	1963
		14:46	15:11	世界へ開く24時間　関西国際空港	25分	1995
		15:12	15:28	住宅密集地下・含水未固結地山を掘る　神戸市道高速道路２号線 長田トンネル	16分	1999
		15:29	15:49	阪神大震災による道路の被災と復旧	20分	1995
		15:50	16:30	東日本大震災記録映像紹介	40分	2011
2日目	タモリ倶楽部上映作品特集	10:10	10:15	挨拶		
		10:15	10:52	本州四国連絡橋　長大橋の基礎を築く第３部	37分	1983
		10:52	11:17	富士山を測る	25分	1994
		11:17	11:54	青函トンネル	47分	1985
		11:54	12:14	街の一体化と安全のために 目黒線不動前～洗足駅間地下切替工事	20分	2006
		12:15	12:35	ファンタスティック土木映画祭	20分	2013
3日目	タモリ倶楽部上映作品＆貴重映像	10:10	10:15	挨拶		
		10:15	11:45	パッテンライ！！	90分	2008
		11:46	12:14	勝鬨橋（解説版　1940年復刻映像を含む）	28分	2013
		12:15	12:35	ファンタスティック土木映画祭	20分	2013

（9）土木学会100周年記念討論会　　9月11日（木）9:00〜12:00　大阪大学豊中キャンパス

「土木学会創立100周年：土木界・土木学会の目指す社会と今後の活動」

1．目的

本年（2014年）11月24日に、公益社団法人土木学会は創立100周年を迎えます。この100年の間、わが国をとりまく環境は大きく変化し、土木界・土木学会に求められる社会的な要請もまた大きく変化してきています。土木学会は、100周年を迎えるにあたり、この変化の中で、これからの土木が何をビジョンとし、何をすべきかを考え、また、その結果を行動につなげていくために、「100周年記念討論会」を全国大会において開催しています。土木学会の全国大会は、全国から延べ２万人を超える人が集まる大きな大会であり、会員間の意見交換や情報共有を行う絶好の機会となっています。この機会を活かし、2010年度には『「土木」の原点と100周年』、2011年度には『市民工学への回帰』、2012年度には『土木界・土木学会は、これまで何をしてきたか、これから何をすべきか』、2013年度には『次の100年に向けて土木技術者の果たす役割とは』というテーマで議論を行ってきました。本年度は、これまでの集大成として『土木学会創立100周年：土木界・土木学会の目指す社会と今後の活動』というテーマを掲げ、土木界・土木学会が目指す社会と今後の活動について他分野の技術者とともに語りあう討論会を開催します。

2．プログラム

■第一部　基調報告　『土木界・土木学会の将来ビジョン』　9：00 〜9：50

基調報告１　『JSCE2015（土木学会５カ年計画）』について－あらゆる境界をひらき、市民生活の質の向上を目指す－
中村　　光　名古屋大学教授/企画委員会幹事長

基調報告２　『社会と土木の100年ビジョン』について－あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く－
木村　　亮　京都大学教授/将来ビジョン策定特別委員会幹事長、100周年事業実行委員会国際部会長

■第二部　パネルディスカッション

『土木界・土木学会の目指す社会と今後の活動』　10：00〜12：00

コーディネーター：磯部　雅彦　高知工科大学副学長/土木学会会長、将来ビジョン策定特別委員会委員長、100周年事業実行委員会 顧問 グループ議長

パ ネ リ ス ト：青木　豊彦（東大阪市モノづくり親善大使）
楓　　千里（（株）JTBパブリッシング執行役員）
廣瀬　典昭（日本工営（株）代表取締役社長、土木学会次期会長）
森　　昌文（国土交通省近畿地方整備局長、土木学会関西支部長）

総　合　司　会：日比野直彦　政策研究大学院大学准教授/土木学会将来ビジョン策定特別委員会副幹事長、100周年事業実行委員会副幹事長、企画委員会みらい構想小委員会委員長

(10)土木学会100周年記念土木遺産国際シンポジウム　9月10日（水）14:00〜17:00　大阪大学豊中キャンパス

テーマ「土木遺産の地平　〜地域の核から世界遺産まで〜」

開会挨拶：宮川 豊章（京都大学教授・平成26年度土木学会全国大会実行委員長）

基調講演：「土木遺産〜過去を未来に活かす（Civil Engineering Heritage: making our past work for our future）」
マイルズ・オグリソープ（ヒストリックスコットランド産業遺産政策責任者）

ショートプレゼンテーション及びパネルディスカッション：

「地域資産としてのインフラストラクチャー」 中村 良夫（東京工業大学名誉教授）

「土木遺産の世界遺産認定と地域への波及」 ヒラリー・オレンジ（ロンドン大学応用考古学研究センターPM）

「土木が語る日本の歴史〜歴史街道的土木遺産の楽しみ方〜」 浅田 利嗣（歴史街道推進協議会広報部長）

「日本における土木遺産の現状と課題」 北河大次郎（文化庁／東京大学客員教授）

コーディネーター：岡田 昌彰（近畿大学教授・土木学会選奨土木遺産支部推薦選考委員会委員）

通訳：中西 裕見子（大阪府教育委員会・土木学会選奨土木遺産支部推薦選考委員会委員）

(11)橋梁模型コンテスト　　9月10日(水)～12日(金)　大阪大学豊中キャンパス

9月10日から11日まで大阪大学会館アセンブリー・ホールに展示。
9月12日に大阪大学会館講堂にて載荷実験を実施。
詳細等について、http://www.kyokai-kinki.or.jp/kengi2014/doboku-kyoryo/の特設HPを御覧ください。

(12)アンサンブルシヴィル演奏　9月11日(木)13:15～13:45　ホテル阪急エキスポパーク「オービットホール」

演奏曲目　チャイコフスキー　弦楽セレナード　ハ長調　より　第１楽章
　　モーツァルト　　セレナード第13番　ト長調　「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
　　バッハ　　管弦楽組曲　第３番　ニ長調　より　アリア
詳細につきましては、大会情報ホームページ(http://www.jsce.or.jp/taikai2014/emsamble_civil.html)をご覧ください。

一時保育のご紹介

場　　所:大阪大学豊中キャンパス
日　　時:平成26年９月10日(水) ～12日(金)の８:00～18:30
対　　象:６ヵ月から未就学児まで(大会参加者のお子様に限ります。)
利用料金:お子様お一人１日につき　1,000円(差額は大会運営側が負担します)
申込期限:平成26年８月27日(水)まで(定員に達し次第締め切らせて頂きます)
詳　　細:大会情報ホームページ(http://www.jsce.or.jp/taikai2014/)をご覧ください

年次学術講演会講演要領―学術講演会での講演者の方へのご注意―

1)講演会の各セッションの運営は、そのセッションの座長に一任されています。
2)座長と講演者の打合せをセッション開始直前にその会場で行います。その際、座長より、講演順番、講演時間、討論時間などについて指示がありますので、これを遵守してください。
3)発表時間は原則として、入退場も含めて７分です。７分以内に発表が完了できるように、準備をお願い致します。
4)発表に際しては、液晶プロジェクターを使用します。パソコンの操作は、講演者自身でお願い致します(会場担当係では対応しかねますのでご了承ください)。
5)パソコンは全セッションに用意します。個人のパソコンの持込みは禁止致します。

Attention to Presenters

1) The chairperson of each session is responsible for its organization.
2) The chairperson will decide the order of presentations, the presentation time, and the style of discussions. A meeting will be held shortly before the session, where the chairperson will spell out these rules. Presenters are required to follow the instructions of the chairperson.
3) In principle, the presentation time will be seven minutes including presentation and arrangement time. Presenters should prepare to finish the presentation in seven minutes.
4) Presentation shall use a PC and LCD projector, which should be operated by the presenters themselves. (Please note that the hall staff will not be able to assist you.)
5) A PC will be provided for each session. It is prohibited to bring your own PC to the session.

演題発表に関わる注意事項【重要】

1. 発表方法

発表会場に備え付けのWindowsPCには、PowerPoint（2007/2010/2013に対応）とAdobeReaderXをインストールしてご用意いたします。OHPによる発表はできません。MacintoshのPCをご利用の方は、pptファイルとpdfファイルの両者をご持参ください。

2. 発表データについて

1)電子データをUSBメモリスティックもしくはCD-R（ファイナライズされたもの）に保存しご持参ください。それ以外のメディアはご利用いただけません。また、ウィルスチェックを必ず事前に実施していただくようお願い致します。（試写室のPCを利用できます）

2)サイズは20MB以下を目安とし、これを超える場合も100MBを遵守してください。

3)発表用ファイルの名前は演題番号としてください。

＊演題番号.ppt（例えばⅡ部門の演題番号138の場合は、Ⅱ138.pptとなります）

4)動画アプリケーションについてはWindows Media Player, Quick Time Player, GOM Playerがご使用可能です。（コーデック：K-Lite Codec Pack）

5)フォントは標準装備されているものをお使いください。

（MS 明朝、MSゴシック、MS P明朝、MS Pゴシック、Times New Roman、Century）

3. 試写室について

ファイルの動作確認等のチェック用の試写室を設けています。事前に、フォント・動画等のチェックをしていただくようお願い致します。

4. 発表会場においての注意事項

1)発表セッションの10分前までにご自身の発表される会場に発表データをご持参下さい。遅れると発表できない場合がございます。

2)発表者の方は会場前方の席にて待機してください。

3)進行をスムーズに行うために、ファイルの立ち上げは会場担当係が行います。

4)トラブルにより発表順が変更になる場合もありますのでご了承ください。

5)発表終了後、会場担当係が責任を持ってファイルを削除致します。

ウィルス対策について

会場内の全てのPCにウィルス対策ソフトをインストールしていますが、ウィルス感染に関する責任は学会として負いかねます。各自の責任で会場内のPCをご利用ください。また、発表の際に使用したメディアをお持ち帰りの後、ご自身のPCに接続する前に再度ウィルスチェックをしていただくようお願い致します。

土木学会年次学術講演会優秀講演者表彰制度について

全国大会委員会

全国大会年次学術講演会の発表者を対象に「土木学会年次学術講演会優秀講演者表彰」を実施しております。

この「表彰規定」は、将来の土木界を担っていく若手の研究者および技術者の論文内容や講演技術が向上し、さらに全国大会が活性化することを目的とし定めたものです。

今回講演される若手研究者、技術者の方々のご健闘を期待いたします。

土木学会年次学術講演会優秀講演者表彰規定

この規定は土木学会全国大会における研究発表の表彰に関する取り扱いについて定めたものである。

1．表彰の目的

土木学会全国大会で優れた講演を行った若手研究者、技術者を表彰し、

①論文内容、講演技術の向上に寄与する。

②若手研究者、技術者の参加意欲の向上を図る。

③全国大会全体の活性化に貢献する。

などを目的とする。

2．名称

この表彰の名称は「土木学会年次学術講演会優秀講演者表彰」とする。

3．対象者

・全国大会で実際に講演を行う個人会員の中で、40歳以下の研究者、技術者を対象に、論文内容に加え、講演が簡潔明瞭で優れたものに与える。

・講演予定者と講演者が一致しない場合は、審査の対象外とする。

・ポスターセッションは対象外とする。

4．選出方法

・各セッションの座長（司会者）は、対象者の講演を「土木学会年次学術講演会優秀講演者採点表記入上の留意事項」に基づき採点し、合計得点最上位者１名を推薦する。

・本部事務局（全国大会実行委員会事務局）にて、部門ごとに各セッションからの被推薦者の合計得点を集計する。その中から、各部門セッション数の２分の１の人数となる合計得点の上位者を、優秀講演者として選出する。なお、ボーダーラインにある合計得点数が同じ被推薦者を全て含めた場合に、各部門セッション数の２分の１の人数を超えるときには、合計得点が同じ被推薦者の中から年齢の若い順番に選出し、２分の１を超えない人数に調整する。

5．表彰

・土木学会全国大会報告号において氏名を発表する。

・後日、個人あてに表彰状を送付する。

・表彰は全国大会実行委員会講演部会長と全国大会委員会委員長の連名で行う。

6．その他

・この規定は、1995年度全国大会から施行する。

・本規定は必要に応じて全国大会委員会において見直す。

附則（平成７年３月24日理事会了承）

（平成８年６月18日一部改正）

研究討論会等内容紹介

研究討論会一覧（大阪大学豊中キャンパス）　平成26年９月10日（水）、12日（金）

	日時／会場	題　目	座長および話題提供者
防災関係	【研01】 9月10日（水） 16:15-18:15 豊中総合学館 402	**自然災害に強いしなやかな国土創出に向けての土木学会の役割** 企画委員会 http://committees.jsce.or.jp/kikaku/	座　長　中村　光　名古屋大学大学院教授（企画委員会幹事長） 話題提供者　濱田政則　早稲田大学名誉教授 那須清吾　高知工科大学教授 山仲善彰　滋賀県野洲市長 森　昌文　国土交通省近畿地方整備局
	昨年度、国土強靱化基本法が制定されたが、大規模自然災害に対して強靭（レジリエント）で持続可能（サステイナブル）な国土を構築するための土木の役割は大きいものである。 本研究討論会では、上述の土木の役割に対して、国土デザイン、効率的なハード・ソフト面での事前防災・減災対策、発災時の危機管理マネージメント、効果的な地域防災計画などの観点から土木学会が果たすことが出来るべき事項や今後の取組みについて討論する。		
	【研04】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進 機構C206	**市民参加型防災まちづくりについて** コンサルタント委員会市民合意形成小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/SubGoui.htm	座　長　上野俊司　国際航業株式会社副社長執行役員東日本事業本部長 話題提供者　鶴見英次　株式会社都市交流プランニング技術部長 伊藤将司　株式会社福山コンサルタント運営企画室長 松下佳広　株式会社国際開発コンサルタンツプロジェクトマネージャー 森本章倫　早稲田大学理工学術院社会環境工学科教授 藤江　徹　あおぞら財団 事務局長
	本委員会ではこれまで活動してきた市民合意形成に関する研究成果を活かしながら、市民参加型防災まちづくりの必要性や事業別の市民合意形成手法、地域防災力の向上などについて「市民参加型防災まちづくりハンドブック」としてとりまとめた。 国土強靱化基本法のもと積極的に防災まちづくりの取り組みが進められている機会をとらえ、本研究討論会においては、このハンドブックを活用しながら、防災まちづくりの市民合意形成の進め方や留意事項、また地域防災力を向上させていくためのあり方などを議論し、今後のコンサルタントをはじめとする技術者の関わり方を探ってみたい。		
	【研09】 9月10日（水） 16:15-18:15 豊中総合学館 302	**豪雨災害に挑む！** **ー近年の国内での水害の特徴と対策ー** 水工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/	座　長　堀　智晴　京都大学防災研究所 話題提供者　秋山壽一郎　九州工業大学大学院工学研究院 藤田一郎　神戸大学大学院工学研究科 中北英一　京都大学防災研究所 清水康行　北海道大学大学院工学研究科 立川康人　京都大学大学院工学研究科
	2013年は、山形、山口・島根、秋田、京都・滋賀、伊豆大島など、豪雨に起因した洪水氾濫、土砂災害などが多く発生した。また、2012年は九州北部、宇治・大津で、2011年は紀伊半島南部で水害・土砂災害が発生するなど、近年は毎年のように豪雨に起因した非常に多くの大規模水害が国内で発生している。これらの水害の特徴を気象特性、降雨流出特性、土砂流出特性、河川水理特性、洪水・土砂氾濫特性、河川構造物の耐水害特性などに着目して講師から話題提供頂く。また、これらの特徴を踏まえた上での今後の防災・減災対策について、会場からの質問も受けながら話題提供者を中心として討論を行う。		
国際関係	【研17】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進 機構C402	**（仮）日本の留学で学んだこと** **ー海外で活躍する元留学生からのメッセージー** 国際センター国際交流グループ韓国グループ http://committees.jsce.or.jp/kokusai/	座　長　江上和也　エコー 話題提供者　未定
	土木学会には海外分会が９の国・地域に設置されており、その多くは日本に留学経験のある方々によって活動が行われている。全国大会ではサマーシンポジウムを開催するなど、留学生を対象とした様々な交流活動が行われる。この機会に過去に留学経験のある方々にお越しいただき、日本の留学経験も含めてお話をいただき、現在留学生として日本に滞在する学生へのアドバイスやメッセージをお話いただく。使用言語は英語です。		
社会インフラメンテ関係	【研06】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進 機構C302	**「標準化」が変える社会インフラへのセンサ利用** 土木情報学委員会 http://committees.jsce.or.jp/cceips/	座　長　藤原　博　ネクスコ東日本エンジニアリング 話題提供者　先本　勉　国土交通省近畿地方整備局 石川裕治　株式会社NTTデータ 鞆　和美　アンリツ株式会社 羽矢　洋　ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社 田島剛之　川田テクノシステム株式会社
	国土交通省は、老朽化が進む社会資本の維持管理に向けて2013年１月に「社会資本の老朽化対策会議」を設置した。この中で、老朽化対策に資する新技術の活用等として「Ⅰ点検・診断技術の開発・導入」、「Ⅱモニタリングシステムの開発」「Ⅲ維持管理情報のプラットフォームの構築」に取り組むことが予定されている。点検・診断やモニタリングに係る情報の重要性がますます増大する。加えて維持管理情報を長期的に扱うため、調査・計測機器やその取得データの『標準化』が不可欠といえる。社会資本の維持管理・更新に向けた『標準化』の在り方について議論する。		
環境関係	【研03】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進 機構C101	**気候変動に適応・緩和するための土木技術** 環境システム委員会、地球環境委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/envsys/ http://www.jsce.or.jp/committee/global/	座　長　松下　潤　中央大学 片谷教孝　桜美林大学 話題提供者　肱岡靖明　国立環境研究所 森　信人　京都大学 木根原良樹　三菱総合研究所
	気候変動により異常気象の頻発化など、影響が顕在化している。気候変動による健康、及び農林水産業、自然環境への影響に関する緩和・適応策の検討は進む一方で、都市の環境機能を維持するための基盤である都市環境インフラに関する検討は未だ不十分である。特に、リスクという面では、インフラ整備が遅れている途上国での対応も急務である。本討論会では、アジア地域を中心に気候変動による影響とその脆弱性を整理し、適応策・緩和策において求められる土木技術について議論を行う。		

	日時／会場	題　目	座長および話題提供者	
その他	【研07】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進機構C306	**―グローカル（GLOCAL）な視点で見直そう、土木分野におけるNPO・NGO活動を！―** **建設系NPO中間支援組織設立準備会および土木計画学研究委員会** http://committees.jsce.or.jp/education14/	座　　長 話題提供者	有岡正樹　NPO法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会理事長 山本卓朗　NPO法人シビルNPO連携プラットフォーム代表理事 多々納裕一　京都大学防災研究所教授、土木計画学研究委員会幹事長 山内直人　大阪大学大学院国際公共政策研究科教授 松田曜子　関西学院大学災害復興制度研究所研究員・准教授 皆川　勝　東京都市大学教授（シビルNPO連携プラットフォーム地域連携担当常務理事）
	「新しい公共」や「共助社会」と言われる、市民や地域の自主的な力を活かす社会システムの考え方は、更に重要な位置づけを得てきており、我が土木分野においてもその役割は重要性を増しつつある。土木学会教育企画・人材育成委員会では、小委員会を立ち上げ建設系NPO法人活動の現況と課題について５年余調査研究を行なった。その後小委員会の中の連絡協議会の活動を経て、土木学会100周年記念事業の一環としてこの４月に「シビルNPO連携プラットフォーム」と称するNPO支援組織の設立をすることになった。この機会にNPO法人そのもの、ならびにその支援組織が果たす役割と今後の課題について、グローバルかつローカルの両面に視点をあてて教育企画・人材育成／土木計画学研究両委員会の共催で議論を展開する。外部からはNPO活動研究の第一人者である山内直人日本NPO学会元会長にも話題提供ならびに討論に加わっていただき、意見交換を行い今後の具体的な活動の動機付けとしたい。			
	【研13】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進機構C106	**「CVVフォーラム」～生涯シビルエンジニアを目指して～** CVV（シビル・ベテランズ＆ボランティアズ）	座　　長 基調講演者 パネルディスカッション： 趣旨説明 パネリスト	松井　保　大阪大学名誉教授 田邉康雄　元三菱化成［現三菱化学］：「生涯現役エンジニアと田邉朔郎」 「CVVの思いと願い」 川谷充郎　神戸大学教授 隅野哲郎　元大阪ガス 藤田昭治　元大阪市 谷平　勉　元近畿大学 西田純二　社会システム総合研究所
	CVV（シビル・ベテランズ＆ボランティアズ）は、土木学会関西支部FCC（フォーラム・シビル・コスモス）の構想である定年退職したシビルエンジニアOB達の高度な見識や能力を発揮できる場を提供するネットワークシステムの構築から生まれ、1999年１月に発足し今年で15年の節目を迎えました。その現在に至る活動の集大成として研究討論会を企画しました。基調講演（生涯現役エンジニアと田邉朔郎）とCVVメンバーを中心とするパネルディスカッション（CVVの思いと願い）の２部構成とし、土木学会関西支部独自のCVV活動を広く世間にアピールするとともに、さらなる活動の活性化を目指します。			
	【研19】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進機構C102	**木材利用による低炭素化社会の実現** **－土「木」の貢献－** **木材工学委員会** http://committees.jsce.or.jp/mokuzai/	座　　長 話題提供者	村野昭人　東洋大学 橋本征二　立命館大学 佐々木貴信　秋田県立大学 明石浩和　京都府農林水産技術センター 原　忠　高知大学 加藤英雄　（独）森林総合研究所
	日本の森林資源は、現在極めて豊富な状態にあり、森林を適切に管理しながら伐採し使用すべき時期に来ています。伐採した木を木材製品として長期間使うことは、炭素循環の点で人間生活の中に新たな森を築くことと同じ意味を持ち、社会の低炭素化が期待されます。 このような状況を踏まえ、当委員会では（一社）日本森林学会・（一社）日本木材学会と共同で、2020年までに土木分野で400万m^3/年の木材利用を実現するロードマップを作成し、これを具現化するための活動を進めてきました。討論会では、各利用分野における取組を報告するとともに、木材の良さを世間にどのように訴えるか、木材利用を推進する政策をどのように実現するかについて議論します。			
	【研25】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進機構C202	**「洋上風力発電技術の実証と新展開」** **構造工学委員会** **洋上風力発電設備支持物構造設計小委員会** http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm http://www.jsce.or.jp/journal/kaikoku/m201103/10.shtml	座　　長 話題提供者	勝地　弘　横浜国立大学教授　「洋上風力発電設備支持物構造設計小委員会」副委員長 石原　孟　東京大学 宇都宮智昭　九州大学 林田宏二　鹿島建設 鈴木三樹雄　新日鉄住金エンジニアリング 嶋田健司　清水建設 山口　敦　東京大学 石井大吾　清水建設 岡田直仁　前田建設工業
	わが国においては、福島第一原子力発電所事故以来、再生可能エネルギーの飛躍的な導入拡大が期待され、その中でも圧倒的なポテンシャルを誇る洋上風力発電に対する期待は高い。現在、国家プロジェクトとも言える大規模実証研究が全国四つの海域において実施されている。千葉県銚子市の沖合と福岡県北九州市の沖合での着床式洋上風力発電所は昨年２月と６月に運開した。また、長崎県五島市の沖合と福島県楢葉町の沖合で浮体式洋上風力発電所が同じく10月と11月に相次いで運転開始した。さらに、本年３月には固定買取り価格が設定され、本格的に洋上風力発電が事業として成立する環境が整いつつある。 土木学会においても、2011年度から洋上風力発電設備支持物構造設計小委員会（前身は風力発電設備耐風設計小委員会、風力発電設備の動的解析と構造設計小委員会）を設置し、現在、「風力発電設備支持物構造設計指針・同解説2010年版」の改訂作業を進めており、2014年度中の発刊を目標に活動している。新しい指針は陸上編と洋上編の二部構成で、台風、高波、地震、津波といった世界的に見ても厳しいわが国の気象・海象条件を考慮した設計法が導入される予定である。本研究討論会では、わが国における洋上風力発電の実証研究を概観するとともに、今後の洋上風力発電の導入拡大のための最近の研究開発について話題を提供する。			

	日時／会場	題　目	座長および話題提供者
その他	【研22】 9月10日（水） 16:15-18:15 豊中総合学館 301	**変わる/変わらないコンクリート、変える／変えないコンクリート工学** コンクリート委員会 https://www.jsce.or.jp/committee/concrete/j/	座　長　大内雅博　高知工科大学・教授 話題提供者　丸山久一　長岡技術科学大学（新たな自然の脅威への対応） 久田　真　東北大学（天然資源枯渇への対応） 坂井悦郎　東京工業大学（長期耐久性の確保） 坂井康人　日本高速道路インターナショナル（新規建設から維持管理への転換） 上田多門　北海道大学（国際展開の取組み）
	これからのコンクリート工学のあり方について議論し認識を共有する。時代の変わり目に対応した「これからのテーマ」の研究または実務の取りまとめの任にある５名による話題提供から、これからの時代に求められるコンクリートとコンクリート工学のあり方を浮き彫りにする。（鉄筋）コンクリート自体が時代の要請に合わせて変えていく必要がある一方、変えてはいけないコンクリートの持ち味もある。そして、コンクリートを作り維持するためのコンクリート工学についても、これまで築いてきた体系で有効なものがある一方で、新たに構築する必要性が見えてきたものもある。時代の変わり目の先端を行くテーマの研究から見えてきた「これから」を展望し、会場の皆で議論を深めたい。		
	【研23】 9月10日（水） 16:15-18:15 全学教育推進 機構C406	**数値解析におけるＶ＆Ｖ（検証と妥当性確認）をご存知ですか？** 応用力学委員会 土木分野の数値解析におけるV&Vに関する小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/amc/ http://www.jsce.or.jp/journal/kaikoku/m201403/09.shtml	座　長　渦岡良介　徳島大学 話題提供者　越塚誠一　東京大学 吉村　忍　東京大学 佐藤靖彦　北海道大学
	数値計算を援用した設計の実務では、目前の技術課題に対して迅速に対応するために商用ソフトウェアが用いられる。しかし、ユーザーはその理論や適用範囲を十分に理解せずに利用している場合があり、対象とする問題に対して解析ツールが十分に検証されているか（Verification）、また、工学的に妥当な解析結果が得られているか（Validation）を確認しないまま利用している可能性も否定できない。このV&V（Verification & Validation）については、機械分野・原子力分野では積極的に議論されているが、自然材料を対象とする地盤などの土木分野においては方向性が確立されていない。本討論会では、先行している分野の動向や成果を紹介するとともに、土木分野のV&Vの方向性について議論する。		
防災関係	【研08】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進 機構C206	**安全・安心・安定な社会づくりに向けた地域継続計画** **ー万一の災害からの復旧復興　市民目線で捉えた地域社会の基盤整備ー** 安全問題研究委員会 https://www.jsce.or.jp/committee/csp/csp1.htm	座　長　白木　渡　香川大学 話題提供者　須藤英明　鹿島建設 磯打千雅子　香川大学 山下祐一　一山コンサルタント代表 柄谷友香　名城大学 中澤幸介　リスク対策.com編集長
	安全・安心・安定した社会のためには、地域住民はもとより、我が国の将来を担う子供たちに、万一の災害に備えて自分の身はまず自分で守り（自助）、自分を取り巻く家庭・学校・職場等が安全で安心かつ安定した生活の場として継続できる基盤づくりの大切さを知ってもらい（共助・公助）、さらに、自分たちが何をすべきか（権利・義務・責任）を考えて行動できる力を体得してもらうことが重要かつ必要である。当討論会は、こうした観点から、全国各地域に暮らす人々が、自分を取り巻く家庭・学校・職場等が万一の災害に直面しても損失を最小限に抑え、生活の場を復旧復興そして継続していくための基盤整備に関する情報を共有し議論する場としたい。		
	【研05】 9月12日（金） 12:45-14:45 豊中総合学館 401	**「土木×フィールドロボティックス」** **ーロボット技術への期待と社会実装への課題ー** 建設用ロボット委員会 http://committees.jsce.or.jp/robot/	座　長　建山和由　建設用ロボット委員会委員長 話題提供者　藤野陽三　横浜国立大学特任教授、内閣府政策参与 岩見吉輝　国土交通省総合政策局公共事業企画調整課　施工安全企画室長 淺間　一　東京大学大学院教授、COCN「災害対応ロボットの社会実装」プロジェクトリーダー 加藤直三　大阪大学大学院教授
	我が国では、老朽化が進む社会インフラの維持管理や頻発する風水害等の災害への迅速な対応が重要かつ喫緊の課題となっている。人口減少・少子高齢化が進む中で、これらの課題に対応するソリューションの一つとして、ロボット技術への期待が高まっている。その一環として、国土交通省と経済産業省の連携による社会インフラ用ロボットの開発・導入プロジェクトや、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）における社会インフラ用ロボットの開発プロジェクトなどが鋭意進められている。本研究討論会では、産学官の関係者よりこれらのプロジェクトについての話題提供をいただき、社会インフラの維持管理・災害対応に対するロボット技術について紹介するとともに、それらの開発・導入に向けた方策について討論する。		
	【研12】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進 機構C302	**火山地域における豪雨による大規模土砂災害の減災に向けて** 地盤工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/jiban/	座　長　後藤　聡　山梨大学 話題提供者　千葉達朗　アジア航測㈱ 若井明彦　群馬大学 田中規夫　埼玉大学 二瓶泰雄　東京理科大学 畑山満則　京都大学防災研究所
	日本列島には、数多くの活火山が存在し、活発な火山活動を背景に、火山地形が発達してきました。このような地域においては、多数の斜面災害等の地盤災害の発生が懸念される箇所が存在し、豪雨時に火山地形独特の斜面災害が発生する懸念があるなど、大規模土砂災害の減災に向けての取り組みが急務となっています。 平成25年10月に発生した、台風26号の豪雨による伊豆大島での土砂災害では、このような火山地形の影響もあり、死者・行方不明の合計が39名という甚大な被害が出る結果となりました。ひとつの台風でこれだけ多くの犠牲者がでたことに対して技術者は真摯に受け止め、火山地域における大規模土砂災害の減災に向けた対策を急がなくてはいけません。 そこで、本討論会では、土木学会・地盤工学会・日本応用地質学会・日本地すべり学会が共同で派遣した「平成25年10月台風26号による伊豆大島豪雨災害緊急調査団」のメンバーである、土木学会地盤工学委員会、水工学委員会、土木計画学委員会の3委員会のメンバーとともに、昨年の豪雨災害を総括し、今後の災害への減災に向けた提言等について討論したいと思います。		

	日時／会場	題　目	座長および話題提供者
防災関係	【研14】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進機構C406	**ケースメソッドによる災害対応マネジメント力育成の可能性について** 建設マネジメント委員会 http://committees.jsce.or.jp/cmc/	座　　長　木下賢司　（一社）プレストレスト・コンクリート建設業協会 話題提供者　小澤一雅　東京大学 松本直也　（一財）建設経済研究所 見波　潔　（一社）日本建設機械施工協会 黒川純一郎　国土交通省　災害対策室長 中村健一　国土交通大学校　副校長
	平成25年度重点研究の成果である東日本大震災の初動対応を題材とした制作したケースの概要と、それを用いて行うケースメソッドの授業の進め方等について紹介した後、建設分野の防災行政、研修機関等から代表者を迎えパネルディスカッションを行い、これらの実践の場での活用、普及に当たっての課題やその対応策について議論する。あわせて、建設分野の組織・職員の災害対応力向上に向けた課題、今後の取り組みのあり方等について広範に議論する。		
	【研24】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進機構C202	**「放射性汚染廃棄物対策の進展と福島の復興を目指して」** 放射性汚染廃棄物対策土木技術特定テーマ委員会 エネルギー委員会（低レベル放射性廃棄物の余裕深度処分に関する研究小委員会） http://committees.jsce.or.jp/enedobo/	座　　長　勝見　武　京都大学 話題提供者　出口　朗　原子力発電環境整備機構 藤塚哲朗　環境省 吉原恒一　原子力安全推進協会 河西　基　電力中央研究所/アサノ大成基礎エンジニアリング
	福島第一原発事故由来の放射性物質により汚染された廃棄物を対象とする環境修復や中間貯蔵施設の設置あるいは東電福島第一原発の廃止措置に向けての取り組み、ならびに遅れているサイト選定への取り組み方法を一新して新たな展開を図りつつある高レベル放射性廃棄物地層処分事の最近の進展状況について、関連分野の専門家からご報告をいただくとともに、それらの廃棄物を総合的に俯瞰した今後の課題と取り組みの方向性や土木技術の役割などについて討論する。		
	【研26】 9月12日（金） 12:45-14:45 豊中総合学館402	**「これまでの活動成果を巨大災害発災時にどのように活かすか？」** 「安全な国土の再設計」支部連合TF	登壇予定者　林　良嗣　（名古屋大学）支部連合TF代表 甲村謙友　（水資源機構）支部連合TF副代表 萩原　亨　（北海道大学）北海道支部 真野　明　（東北大学）東北支部 山田　正　（中央大学）関東支部 辻本哲郎　（名古屋大学）中部支部 三村　衛　（京都大学）関西支部 一井康二　（広島大学）中国支部 後藤文男　（国土交通省）四国支部 塚原健一　（九州大学）西部支部
	支部連合TFでは、2011年東日本大震災の甚大な被害により再認識させられた我が国の災害に対する脆弱性を踏まえて、土木学会の各支部が中心となって、安全な国土への再設計について活動を展開してきた。これまでに、各地域の特徴を整理し、地域特性や社会構造を考慮した被災ポテンシャルの検討、学生フォーラムや防災演習を通した次世代技術者の育成、市民フォーラムなどを通した普及活動、災害アーカイブス事業の推進など、着実な成果を挙げている。本研究討論会では、これまでの各支部の活動を踏まえて、巨大災害発災時に、諸活動の成果をどのように活用できるのかについて、具体的な議論を行う。これにより、地域、主体、枠組みの異なる各種取り組みの集約をはかる。		
国際関係	【研11】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進機構C402	**Open Discussion on ‘Facing the Challenges of Our Future Society’** 100周年事業実行委員会 国際部会 若手技術者ワークショップWG http://committees.jsce.or.jp/jsce100/ http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/49	座　　長　石田哲也　東京大学 話題提供者　木村　亮　京都大学 佐々木邦明　山梨大学
	全国大会期間中に、土木学会100周年記念事業の一環として、“Facing the Challenges of Our Future Society”と題した若手土木技術者向けの国際ワークショップを開催いたします。このワークショップでは、留学生を含む日本在住の技術者・研究者と海外在住の技術者・研究者が参加して2050年における社会を想像し、そこで直面する問題の解決に向けて土木技術者が果たす役割について議論します。 本研究討論会では、国際ワークショップでの議論の成果を公表するとともに、若手技術者のみならず、話題提供者や討論会参加者と広く議論を展開します。使用言語は英語です。		
社会インフラメンテ関係	【研18】 9月12日（金） 12:45-14:45 豊中総合学館301	**点検の先へ** **～点検結果に基づいた鋼構造物の性能照査～** 鋼構造委員会 http://committees.jsce.or.jp/steel/	座　　長　髙木千太郎　（公財）東京都道路整備保全公社・（一財）首都高速道路技術センター 話題提供者　紫桃孝一郎　（株）高速道路総合技術研究所（高速道路橋） 山路　徹　（独）港湾空港技術研究所（港湾鋼構造物） 山本広祐　（一財）電力中央研究所（電力鋼構造物） 村越　潤　（独）土木研究所CAESAR（鋼橋の調査・診断に関する研究開発）
	近年、社会基盤施設の高経年化が進む中、構造物の維持管理における点検の重要性については、広く社会に浸透してきており、鋼構造物においても、順次点検が進められているところである。一方で、点検・診断技術の不確実性が顕在化する現状において、点検で得られた結果に基づいた、残存性能評価や補修・補強、更新の判断を行うための性能照査方法については必ずしも確立された手法が存在しない。本研究討論会では、点検・診断の現状と課題を明確にするとともに点検結果に基づいた鋼構造物の性能照査方法について各種構造物における現状を紹介し、今後解決すべき課題や将来開発が望まれる技術などについて広く議論する。		

	日時／会場	題　目	座長および話題提供者
環境関係	【研16】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進機構C101	**都市の代謝機能の将来** 環境工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec/	座　長　味埜　俊　東京大学大学院新領域創成科学研究科 話題提供者　田中宏明　京都大学 中久保豊彦　大阪大学 西村文武　京都大学 細井由彦　鳥取大学
	都市では多くの人々により生産・消費活動がなされ、環境負荷が発生している。都市の代謝機能とは、これらの環境負荷を低減する役割を担い、排水処理、廃棄物収集・処理等が挙げられる。エネルギー・資源の枯渇、財政困窮、人口減少など、将来に向けて様々な課題が想定される中で、今後、都市の代謝機能はどのようにあるべきであろうか？ 本研究討論会では、都市での水循環、排水処理と廃棄物処理の連携、人口減少下の観点からの話題提供とともに、都市の代謝機能の将来的なあり方について討論を行う。		
その他	【研02】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進機構C306	**新たな「土木技術者の倫理規定（平成26年版）」に基づいた倫理プログラムの構築へ向けて** 倫理・社会規範委員会 企画運営小委員会 http://committees.jsce.or.jp/rinri/ http://committees.jsce.or.jp/rinri01/node/1	座　長　皆川　勝　東京都市大学、倫理・社会規範委員会企画運営小委員会委員長 話題提供者　阪田憲次　元会長、倫理規定検討特別委員会委員長 山本卓朗　元会長、社会安全研究会委員長 藤井　聡　京都大学、倫理・社会規範委員会教育小委員会委員長 坂　克人　内閣府沖縄総合事務局、倫理規定検討特別委員会幹事
	研究討論会の主題：1999年（平成11年）、土木学会は、「土木技術者の信条および実践要綱」（1938年制定）を、その基本的な精神を引き継ぎながら時代の要請に沿うものとして改定し、「土木技術者の倫理規定」を制定した。以来10年余が経過し、土木および土木学会を取り巻く環境は大きく変化し、さらに2011年３月11日の東日本大震災が発生した。2014年（平成26年）、土木学会は創立100周年を迎えるにあたり、「土木技術者の信条および実践要綱」以来の精神を引き継ぐとともに、公益社団法人として、社会に開かれた倫理規定を求め、「土木技術者の倫理規定」を改定した。本討論会では、改定された倫理規定の理念を共有するとともに、そのもとでこれからの土木技術者がいかにあるべきかを考える。		
	【研10】 9月12日（金） 12:45-14:45 豊中総合学館302	**水理・水文解析のための汎用プラットホームによる協力連携と人材育成** 水工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/	座　長　山田　正　中央大学理工学部土木工学科 話題提供者　大平一典　中央大学 菊森佳幹　国土技術政策総合研究所 立川康人　京都大学
	水理・水文解析のためのソフトウェアやソフトウェア同士の連携を可能にする様々な汎用プラットフォームや共通インターフェース（以下、汎用プラットフォーム等という）が開発されている。しかしながら、これらの汎用プラットフォーム等は、それぞれ開発者コミュニティが形成され、広く水理・水文モデル開発者同士が連携するという状態には至っていない。また、これらの汎用プラットフォーム等の活用ももっぱら開発者サイドに近いところに留まり、広く水理・水文モデル開発の研究成果を事業に反映させるためには、ユーザとしての汎用プラットフォーム活用のため人材育成も推進していく必要がある。本討論会においては、汎用プラットフォーム同士の連携や、それに必要な水理・水文データに関する連携、及び活用のための人材育成について議論するものである。		
	【研20】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進機構C102	**社会インフラの改築・更新のあり方を考える** 複合構造委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/fukugou/	座　長　島　弘　高知工科大学 話題提供者　葛西　昭　熊本大学（小委員会設立趣旨説明） 加賀山泰一　阪神高速道路（株） 木村元哉　西日本旅客鉄道（株） 野崎芳郎　神宮司庁
	近年、社会資本が抱える社会的要請の大部分が維持管理に関する問題となっている中、「構造物の長寿命化＝構造物の維持管理」と捉えられているが、機能の持続性という観点では、ある程度の時期に土木構造物のリビルド、すなわち、更新を行うことが、結果的には持続性社会を形成する。複合構造委員会では、平成26年度に「構造物の改築・更新技術に関する研究小委員会」を立ち上げる予定である。本小委員会では、上記の思想を掲げ、まずは改築および更新技術の現状と課題を把握することに努める予定である。 例えば、伊勢神宮の式年遷宮では、20年に1回の割合で、定期的に構造物を作り直すことで、1300年前の建築様式を継承している。20年後には構造物を解体し、作り替えることを前提としており、資材や用地等の準備を含めて、総合的な見地から構造物が形成されている。リビルドは、ただ単に解体する、新しいものを作る、というものではなく、これらの一連の流れも総合的に捉えることに神髄がある。 本討論会では、委員会活動の成果を公表するようなこれまでのケースとは異なり、新規委員会のキックオフとして捉え、土木構造物を改築・更新する際の課題をパネラーより講演いただき、会場からの要望などを踏まえながら、今後、我々土木技術者が考えていかねばならない課題、そして、小委員会が果たすべき役割をまとめていきたい。		
	【研21】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進機構C106	**構造物の安全性確保と設計基準～現状と今後の課題～** 構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm	座　長　吉田郁政　東京都市大学教授／既設構造物を対象とした安全性評価研究小委員会委員長 話題提供者　中村　晋　日本大学 長尾　毅　神戸大学 星隈順一　土木研究所 室野剛隆　鉄道総合技術研究所 藤田宗久　清水建設 北原武嗣　関東学院大学
	構造物の安全性を確保することが設計の大きな目的である。定量的、総合的という意味ではどこまで安全性確保が実現されているのだろうか？　確率論に基づく安全性（危険性）の評価手法であるPRA（Probabilistic Risk Assessment）からの視点も踏まえて現状の設計基準における安全性確保の考え方、今後の課題について討論を行う。 ・定量的：現状の設計基準では安全性（目標、保有）の定量化がどこまで進められているのか？　異種構造物での安全性レベルを比較することは可能か？ ・総合的：設計を超える事象に対しての配慮は？（多段階の性能、危機耐性）既設構造物についての評価は？（ライフタイム、劣化の考慮、観測・点検結果の反映方法）		

	日時／会場	題　目	座長および話題提供者
その他	【研27】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進 機構C201	**原子力安全と原子力土木委員会の果たす役割** **原子力土木委員会** http://committees.jsce.or.jp/ceofnp/	座　　長　丸山久一　長岡技術科学大学 話題提供者　蛯沢勝三　電力中央研究所／東京都市大学 高橋智幸　関西大学 小長井一男　横浜国立大学 若松征男　東京電機大学名誉教授
	【研15】 9月12日（金） 12:45-14:45 全学教育推進 機構大講議室	**土木の映画の100年（仮）** **情報資料部門土木技術映像委員会** http://committees.jsce.or.jp/avc/	座　　長　大野春雄　土木技術映像委員会委員長・（特非）建設教育研究推進機構理事長、攻玉社工科短大名誉教授 話題提供者　未定
	土木技術映像委員会では、数多くの貴重な土木技術映像を収集・調査活動を行うとともに、それらの映像を技術継承、教育の場において活用するためのイブニングシアターをはじめとする上映、普及活動を行ってきた。また、昨年度は土木学会で発見し、当委員会の前身が製作した文化映画委員会の「勝鬨橋」を復刻し解説を加えた映像を制作し技術映像の持つ重要性を改めて認識する機会となった。本研究討論会では、国内の土木技術映像を大正期からはじめ、戦後復興期、高度成長期、さらにオイルショックと続いて現代の作品へと続く流れを振り返るとともに、今後製作される土木技術映像を展望する。		

第69回年次学術講演会会場および座長(予定者)一覧表

月　日			9月10日(水)			
部門	会場	教室	8:45～10:15	10:30～12:00	12:45～14:15	14:30～16:00
Ⅰ	Ⅰ-1	全学教育推進機構A棟A001			橋梁床版(1) Ⅰ-001～Ⅰ-006 街道　浩	橋梁床版(2) Ⅰ-007～Ⅰ-012 後藤昭彦
	Ⅰ-2	全学教育推進機構A棟A002		免震・制震(1) Ⅰ-051～Ⅰ-057 星隈順一	免震・制震(2) Ⅰ-058～Ⅰ-065 葛西　昭	免震・制震(3) Ⅰ-066～Ⅰ-073 松村政秀
	Ⅰ-3	全学教育推進機構A棟A101		計算力学 Ⅰ-114～Ⅰ-120 市村　強	数値解析 Ⅰ-121～Ⅰ-126 佐藤太裕	座屈・耐荷力(板・桁) Ⅰ-127～Ⅰ-133 森田千尋
	Ⅰ-4	全学教育推進機構A棟A102		橋梁一般(設計)(1) Ⅰ-169～Ⅰ-176 畑山義人	橋梁一般(設計)(2) Ⅰ-177～Ⅰ-183 加藤雅彦	橋梁一般(設計)(3) Ⅰ-184～Ⅰ-190 本間淳史
	Ⅰ-5	全学教育推進機構A棟A104		橋梁一般(測定) Ⅰ-225～Ⅰ-231 中村聖三	耐風・風工学(1) Ⅰ-232～Ⅰ-239 白土博通	耐風・風工学(2) Ⅰ-240～Ⅰ-246 松宮央登
	Ⅰ-6	全学教育推進機構A棟A201	橋梁の耐震(1) Ⅰ-284～Ⅰ-291 玉井真一	橋梁の耐震(2) Ⅰ-292～Ⅰ-299 池田　学	橋梁の耐震(3) Ⅰ-300～Ⅰ-305 五十嵐晃	橋梁の耐震(4) Ⅰ-306～Ⅰ-311 高橋良和
	Ⅰ-7	全学教育推進機構A棟A202		地震防災(1) Ⅰ-347～Ⅰ-352 三上　卓	地震防災(2) Ⅰ-353～Ⅰ-359 日下部毅明	地震防災(3) Ⅰ-360～Ⅰ-366 能島暢呂
	Ⅰ-8	全学教育推進機構A棟A214		盛土の耐震 Ⅰ-400～Ⅰ-407 小島謙一	地盤震動(観測)(1) Ⅰ-408～Ⅰ-413 山田雅行	地盤震動(観測)(2) Ⅰ-414～Ⅰ-419 津野靖士
	Ⅰ-9	全学教育推進機構B棟B207	疲労(1) Ⅰ-454～Ⅰ-461 田井政行	疲労(2) Ⅰ-462～Ⅰ-469 鈴木俊光	疲労(3) Ⅰ-470～Ⅰ-477 穴見健吾	疲労(4) Ⅰ-478～Ⅰ-485 平山繁幸
	Ⅰ-10	全学教育推進機構B棟B208		橋梁と津波 Ⅰ-514～Ⅰ-520 幸左賢二	維持管理(構造)(1) Ⅰ-521～Ⅰ-528 宮森保紀	維持管理(構造)(2) Ⅰ-529～Ⅰ-536 鈴木啓悟
	Ⅰ-11	全学教育推進機構B棟B218		維持管理(腐食)(1) Ⅰ-569～Ⅰ-576 中村一史	維持管理(腐食)(2) Ⅰ-577～Ⅰ-584 谷口　望	維持管理(腐食)(3) Ⅰ-585～Ⅰ-592 三上修一
Ⅱ	Ⅱ-1	全学教育推進機構A棟A301		津波解析 Ⅱ-001～Ⅱ-008 川崎浩司	津波防災 Ⅱ-009～Ⅱ-015 安田誠宏	消波工・護岸 Ⅱ-016～Ⅱ-021 柿木哲哉
	Ⅱ-2	全学教育推進機構A棟A302		大気水象 Ⅱ-059～Ⅱ-066 相馬一義	気候変動 Ⅱ-067～Ⅱ-073 鈴木善晴	流出・洪水 Ⅱ-074～Ⅱ-079 鼎信次郎
	Ⅱ-3	全学教育推進機構B棟B306		計測・観測 Ⅱ-105～Ⅱ-112 手計太一	水質 Ⅱ-113～Ⅱ-120 田中規夫	水生生物 Ⅱ-121～Ⅱ-128 傳田正利
	Ⅱ-4	全学教育推進機構B棟B307		構造物の水理(1) Ⅱ-158～Ⅱ-165 長田健吾	構造物の水理(2) Ⅱ-166～Ⅱ-173 内田龍彦	構造物の水理(3) Ⅱ-174～Ⅱ-181 髙橋正行
Ⅲ	Ⅲ-1	基礎工学部講義棟B201	地盤の動的挙動(1) Ⅲ-001～Ⅲ-008 飛田哲男	地盤の動的挙動(2) Ⅲ-009～Ⅲ-016 河又洋介	地盤の動的挙動(3) Ⅲ-017～Ⅲ-023 石川敬祐	地盤の動的挙動(4) Ⅲ-024～Ⅲ-030 宇野浩樹
	Ⅲ-2	基礎工学部講義棟B202		土質安定処理・地盤改良(1) Ⅲ-068～Ⅲ-074 中澤博志	土質安定処理・地盤改良(2) Ⅲ-075～Ⅲ-081 永尾浩一	土質安定処理・地盤改良(3) Ⅲ-082～Ⅲ-089 新坂孝志
	Ⅲ-3	基礎工学部講義棟B203	試験法・調査法 Ⅲ-130～Ⅲ-137 三上武子	透水・浸透(1) Ⅲ-138～Ⅲ-144 石原雅規	透水・浸透(2) Ⅲ-145～Ⅲ-150 仙頭紀明	透水・浸透(3) Ⅲ-151～Ⅲ-156 杉井俊夫
	Ⅲ-4	基礎工学部講義棟A304		トンネル(調査・評価法) Ⅲ-195～Ⅲ-202 木村定雄	トンネル(地山特性) Ⅲ-203～Ⅲ-210 小泉直人	トンネル(設計・力学的挙動) Ⅲ-211～Ⅲ-218 日下　敦
	Ⅲ-5	基礎工学部講義棟B301	斜面(1) Ⅲ-251～Ⅲ-257 渡邉　諭	斜面(2) Ⅲ-258～Ⅲ-265 獅子目修一	斜面(3) Ⅲ-266～Ⅲ-273 伊藤和也	斜面(4) Ⅲ-274～Ⅲ-281 桐山貴俊
	Ⅲ-6	基礎工学部講義棟B303	路床・路盤・補強土他 Ⅲ-321～Ⅲ-327 藤川拓朗	補強土 Ⅲ-328～Ⅲ-335 平川大貴	土留め Ⅲ-336～Ⅲ-342 小林　薫	締固め Ⅲ-343～Ⅲ-349 前田幸男
Ⅳ	Ⅳ-1	全学教育推進機構C棟C401	防災計画(1) Ⅳ-001～Ⅳ-007 荒谷太郎	防災計画(2) Ⅳ-008～Ⅳ-015 神谷大介	測量・リモートセンシング Ⅳ-016～Ⅳ-023 岩下圭之	高齢者・身障者交通 Ⅳ-024～Ⅳ-030 橋本成仁
	Ⅳ-2	全学教育推進機構C棟C402	公共交通 Ⅳ-066～Ⅳ-073 桑野将司	交通サービス評価 Ⅳ-074～Ⅳ-080 室井寿明	交通情報提供・交通手段分担 Ⅳ-081～Ⅳ-087 中山晶一朗	交通調査 Ⅳ-088～Ⅳ-095 倉内慎也
	Ⅳ-3	全学教育推進機構C棟C409				
Ⅴ	Ⅴ-1	全学教育推進機構C棟C105	プレキャスト・二次製品 Ⅴ-001～Ⅴ-008 伊達重之	プレストレストコンクリート Ⅴ-009～Ⅴ-016 細野宏巳	数値解析・破壊力学 Ⅴ-017～Ⅴ-024 山本佳士	耐火性 Ⅴ-025～Ⅴ-031 新　大軌
	Ⅴ-2	全学教育推進機構C棟C106	非破壊試験法(1) Ⅴ-072～Ⅴ-079 渡邉　健	非破壊試験法(2) Ⅴ-080～Ⅴ-087 谷口秀明	非破壊試験法(3) Ⅴ-088～Ⅴ-095 渡邉　健	非破壊試験法(4) Ⅴ-096～Ⅴ-103 松山公年
	Ⅴ-3	全学教育推進機構C棟C201	維持管理(1) Ⅴ-143～Ⅴ-150 古賀裕久	維持管理(2) Ⅴ-151～Ⅴ-158 花井　拓	維持管理(3)・劣化予測(1) Ⅴ-159～Ⅴ-165 秋山充良	劣化予測(2) Ⅴ-166～Ⅴ-173 加藤絵万
	Ⅴ-4	全学教育推進機構C棟C202	補修補強(材料)(1) Ⅴ-213～Ⅴ-220 山口明伸	補修補強(材料)(2) Ⅴ-221～Ⅴ-228 林　大介	補修補強(材料)(3) Ⅴ-229～Ⅴ-236 片平　博	補修補強(材料)(4) Ⅴ-237～Ⅴ-244 網野貴彦
	Ⅴ-5	全学教育推進機構C棟C203	せん断・ねじり(1) Ⅴ-284～Ⅴ-291 高橋良輔	せん断・ねじり(2) Ⅴ-292～Ⅴ-298 岩波光保	副産物利用・再生材料 Ⅴ-299～Ⅴ-306 小川由布子	エコ・緑化コンクリート Ⅴ-307～Ⅴ-314 尾上幸造
	Ⅴ-6	全学教育推進機構C棟C205	フレッシュコンクリート Ⅴ-354～Ⅴ-361 浦野真次	高流動コンクリート Ⅴ-362～Ⅴ-369 杉橋直行	締め固め・特殊コンクリート Ⅴ-370～Ⅴ-377 熊野知司	製造・施工 Ⅴ-378～Ⅴ-385 近松竜一
	Ⅴ-7	全学教育推進機構C棟C206	塩害(1) Ⅴ-426～Ⅴ-433 宮里心一	塩害(2) Ⅴ-434～Ⅴ-441 皆川　浩	鋼材腐食(1) Ⅴ-442～Ⅴ-449 田中博一	鋼材腐食(2) Ⅴ-450～Ⅴ-457 高谷　哲
	Ⅴ-8	全学教育推進機構C棟C207	アスファルト系舗装(1) Ⅴ-498～Ⅴ-505 城本政一	アスファルト系舗装(2) Ⅴ-506～Ⅴ-513 中原大磯	舗装一般(1) Ⅴ-514～Ⅴ-521 木村清和	舗装一般(2) Ⅴ-522～Ⅴ-529 石田　樹
	Ⅴ-9	全学教育推進機構C棟C208	寒冷地舗装 Ⅴ-570～Ⅴ-577 渡邉一弘	セメント系舗装 Ⅴ-578～Ⅴ-585 東本　崇	維持・修繕(舗装)(1) Ⅴ-586～Ⅴ-593 森石一志	維持・修繕(舗装)(2) Ⅴ-594～Ⅴ-601 高橋茂樹
Ⅵ	Ⅵ-1	全学教育推進機構C棟C301	山岳トンネル(1) Ⅵ-001～Ⅵ-008 尾畑　洋	山岳トンネル(2) Ⅵ-009～Ⅵ-016 島根米三郎	山岳トンネル(3) Ⅵ-017～Ⅵ-024 谷　卓也	山岳トンネル(4) Ⅵ-025～Ⅵ-032 森田　篤
	Ⅵ-2	全学教育推進機構C棟C302	リニューアル(1) Ⅵ-071～Ⅵ-078 内藤英樹	リニューアル(2) Ⅵ-079～Ⅵ-085 熊坂徹也	リニューアル(3) Ⅵ-086～Ⅵ-092 木村泰三	リニューアル(4) Ⅵ-093～Ⅵ-099 中嶋裕和
	Ⅵ-3	全学教育推進機構C棟C303	地下構造物(1) Ⅵ-139～Ⅵ-146 小川　晃	地下構造物(2) Ⅵ-147～Ⅵ-153 新井　泰	地下構造物(3) Ⅵ-154～Ⅵ-160 古荘伸一郎	地下構造物(4) Ⅵ-161～Ⅵ-169 秋好賢治
	Ⅵ-4	全学教育推進機構C棟C305	建設マネジメント(1) Ⅵ-207～Ⅵ-214 藤田宗久	建設マネジメント(2) Ⅵ-215～Ⅵ-222 今石　尚	CIM　(1) Ⅵ-223～Ⅵ-231 辻奈津子	CIM　(2) Ⅵ-232～Ⅵ-240 山村正人
	Ⅵ-5	全学教育推進機構C棟C306	各種基礎 Ⅵ-271～Ⅵ-278 坂梨利男	ダム Ⅵ-279～Ⅵ-287 江波正満	測量・計測(1) Ⅵ-288～Ⅵ-295 小泉圭吾	測量・計測(2) Ⅵ-296～Ⅵ-302 片山政弘
	Ⅵ-6	全学教育推進機構C棟C307	軌道の維持管理(1) Ⅵ-331～Ⅵ-339 森高寛功	軌道の維持管理(2) Ⅵ-340～Ⅵ-348 及川祐也	軌道の維持管理(3) Ⅵ-349～Ⅵ-356 宮垣圭吾	軌道の維持管理(4) Ⅵ-357～Ⅵ-363 橘谷栄一
	Ⅵ-7	全学教育推進機構C棟C308	軌道の維持管理(9) Ⅵ-397～Ⅵ-405 今城正嗣	軌道の維持管理(10) Ⅵ-406～Ⅵ-411 矢作秀之	軌道の維持管理(11) Ⅵ-412～Ⅵ-418 力武基樹	鉄道工事(1) Ⅵ-419～Ⅵ-426 三宅修司
	Ⅵ-8	全学教育推進機構C棟C403	検査技術・診断(1) Ⅵ-461～Ⅵ-468 水田真紀	検査技術・診断(2) Ⅵ-469～Ⅵ-476 羽矢　洋	検査技術・診断(3) Ⅵ-477～Ⅵ-484 松田　敏	検査技術・診断(4) Ⅵ-485～Ⅵ-491 戸田勝哉
	Ⅵ-9	全学教育推進機構C棟C405	安全管理(1) Ⅵ-529～Ⅵ-536 田中啓之	安全管理(2)・施工技術(1) Ⅵ-537～Ⅵ-543 宮田　和	施工技術(2) Ⅵ-544～Ⅵ-550 野澤伸一郎	施工技術(3) Ⅵ-551～Ⅵ-556 清水正巳
	Ⅵ-10	全学教育推進機構C棟C406			シールドトンネル(1) Ⅵ-594～Ⅵ-601 平石富茂	シールドトンネル(2) Ⅵ-602～Ⅵ-610 上田　潤
	Ⅵ-11	全学教育推進機構C棟C408	技術開発(1) Ⅵ-645～Ⅵ-651 山本多成	技術開発(2) Ⅵ-652～Ⅵ-658 岩波　基	技術開発(3)・地盤改良(1) Ⅵ-659～Ⅵ-665 宇野洋志城	地盤改良(2) Ⅵ-666～Ⅵ-672 中出　剛
Ⅶ	Ⅶ-1	全学教育推進機構C棟C101	用排水処理技術(1) Ⅶ-001～Ⅶ-008 水野裕之	用排水処理技術(2) Ⅶ-009～Ⅶ-015 笠原伸介	物理化学処理 Ⅶ-016～Ⅶ-023 井出一貴	廃水処理・資源化 Ⅶ-024～Ⅶ-030 惣田　訓
	Ⅶ-2	全学教育推進機構C棟C102	埋立処分場管理 Ⅶ-067～Ⅶ-073 和田有朗	廃棄物処理・リサイクル Ⅶ-074～Ⅶ-081 水谷　聡	土壌地下水汚染(1) Ⅶ-082～Ⅶ-088 大石雅也	土壌地下水汚染(2) Ⅶ-089～Ⅶ-095 緒方浩基
CS	CSの1会場	豊中総合学館301	計算力学(1) CS11-001～CS11-007 紅露一寛	計算力学(2) CS11-008～CS11-014 車谷麻緒	計算力学(3) CS11-015～CS11-022 中畑和之	計算力学(4) CS11-023～CS11-030 森口周二
	CSの2会場	豊中総合学館302		放射性廃棄物の処分技術(1) CS9-001～CS9-008 新宮康之	放射性廃棄物の処分技術(2) CS9-009～CS9-015 田中真弓	放射性廃棄物の処分技術(3) CS9-016～CS9-023 渡邊保貴
	CSの3会場	豊中総合学館401			インフラ構造システムのリダンダンシー CS8-001～CS8-008 奥井義昭	土木構造物の長寿命化デザインを考える CS10-001～CS10-007 佐々木葉
	CSの4会場	豊中総合学館402				
	CSの5会場	豊中総合学館501	International session国際セッション(1) CS2-001～CS2-007 水谷　司	International session国際セッション(2) CS2-008～CS2-013 蘇　　迪	International session国際セッション(9) CS2-051～CS2-054 四辻裕文	
	CSの6会場	豊中総合学館講義室L3	International session国際セッション(3) CS2-014～CS2-019 3 安田誠宏	International session国際セッション(4) CS2-020～CS2-024 田中茂信	International session国際セッション(5) CS2-025～CS2-030 小林健一郎	International session国際セッション(6) CS2-031～CS2-035 宮本仁志
	CSの7会場	豊中総合学館講義室L4	International session国際セッション(7) CS2-036～CS2-043 中島伸一郎	International session国際セッション(8) CS2-044～CS2-050 木元小百合	International session国際セッション(10) CS2-055～CS2-060 千々和伸浩	International session国際セッション(11) CS2-061～CS2-065 Yao Luan
	CSの8会場	全学教育推進機構大講義室				

9月11日（木）		9月12日（金）		
8:45～10:15	10:30～12:00	8:45～10:15	10:30～12:00	15:00～16:30
橋梁床版（3） Ⅰ-013～Ⅰ-020 大西弘志	橋梁床版（4） Ⅰ-021～Ⅰ-028 久保圭吾	橋梁振動（実験・測定）（1） Ⅰ-029～Ⅰ-035 松本泰尚	橋梁振動（実験・測定）（2） Ⅰ-036～Ⅰ-042 渡辺　勉	構造同定 Ⅰ-043～Ⅰ-050 宮森保紀
診断・補修・補強（1） Ⅰ-074～Ⅰ-081 小林裕介	診断・補修・補強（2） Ⅰ-082～Ⅰ-089 春田健作	診断・補修・補強（3） Ⅰ-090～Ⅰ-097 菅沼久忠	診断・補修・補強（4） Ⅰ-098～Ⅰ-105 山中明彦	診断・補修・補強（5） Ⅰ-106～Ⅰ-113 田中浩一
座屈・耐荷力（柱・その他） Ⅰ-134～Ⅰ-140 平野秀一	座屈・耐荷力（板・その他） Ⅰ-141～Ⅰ-147 藤井　堅	ダム・タンクの耐震（1） Ⅰ-148～Ⅰ-154 平野廣和	ダム・タンクの耐震（2） Ⅰ-155～Ⅰ-162 上島照幸	非破壊評価、検査技術・診断 Ⅰ-163～Ⅰ-168 木本和志
橋梁一般（設計）（4） Ⅰ-191～Ⅰ-195 平山　博	橋梁一般（施工） Ⅰ-196～Ⅰ-202 古田富保	地中構造物の耐震（1） Ⅰ-203～Ⅰ-210 大竹省吾	地中構造物の耐震（2） Ⅰ-211～Ⅰ-218 濱野雅裕	基礎の耐震 Ⅰ-219～Ⅰ-224 石井　晃
耐風・風工学（3） Ⅰ-247～Ⅰ-254 勝地　弘	耐風・風工学（4） Ⅰ-255～Ⅰ-259 村上琢哉	衝撃（解析） Ⅰ-260～Ⅰ-267 栗橋祐介	衝撃（実験）（1） Ⅰ-268～Ⅰ-275 森山卓郎	衝撃（実験）（2） Ⅰ-276～Ⅰ-283 山口　悟
橋梁の耐震（5） Ⅰ-312～Ⅰ-319 豊岡亮洋	耐震実験 Ⅰ-320～Ⅰ-324 党起	地震応答解析（1） Ⅰ-325～Ⅰ-332 矢部正明	地震応答解析（2） Ⅰ-333～Ⅰ-339 西田秀明	地震応答解析（3） Ⅰ-340～Ⅰ-346 広瀬　剛
地震防災（4） Ⅰ-367～Ⅰ-373 庄司　学	地震防災（5） Ⅰ-374～Ⅰ-380 丸山喜久	地盤液状化（1） Ⅰ-381～Ⅰ-386 梶田幸秀	地盤液状化（2） Ⅰ-387～Ⅰ-392 福武毅芳	耐震設計法 Ⅰ-393～Ⅰ-399 岡田太賀雄
地盤震動（解析） Ⅰ-420～Ⅰ-427 野津　厚	強震動予測・設計地震動 Ⅰ-428～Ⅰ-434 後藤浩之	継手（1） Ⅰ-435～Ⅰ-440 橋本国太郎	継手（2） Ⅰ-441～Ⅰ-446 村越　潤	継手（3） Ⅰ-447～Ⅰ-453 木ノ本剛
疲労（5） Ⅰ-486～Ⅰ-493 判治　剛	疲労（6） Ⅰ-494～Ⅰ-500 内田大介	振動・波動 Ⅰ-501～Ⅰ-507 山田真幸	板・シェル Ⅰ-508～Ⅰ-513 全　邦釘	
維持管理（構造）（3） Ⅰ-537～Ⅰ-544 佐藤雄亮	維持管理（構造）（4） Ⅰ-545～Ⅰ-552 宮川義範	維持管理（構造）（5） Ⅰ-553～Ⅰ-560 永田和寿	維持管理（構造）（6） Ⅰ-561～Ⅰ-568 倉田幸宏	
維持管理（腐食）（4） Ⅰ-593～Ⅰ-600 大屋　誠	維持管理（腐食）（5） Ⅰ-601～Ⅰ-607 貝沼重信	維持管理（腐食）（6） Ⅰ-608～Ⅰ-615 海田辰将	維持管理（腐食）（7） Ⅰ-616～Ⅰ-623 白旗弘実	
津波・構造物（1） Ⅱ-022～Ⅱ-028 藤原隆一	津波・構造物（2） Ⅱ-029～Ⅱ-035 重松孝昌	内湾環境・生態系 Ⅱ-036～Ⅱ-043 矢野真一郎	漂砂・輸送 Ⅱ-044～Ⅱ-051 森屋陽一	海岸港湾構造物 Ⅱ-052～Ⅱ-058 中村友昭
水災害・防災 Ⅱ-080～Ⅱ-085 朝岡良浩	都市の水災害 Ⅱ-086～Ⅱ-092 川越清樹	流域管理・計画（1） Ⅱ-093～Ⅱ-098 呉　修一	流域管理・計画（2） Ⅱ-099～Ⅱ-104 河村　明	
河川環境 Ⅱ-129～Ⅱ-135 鷲見哲也	魚道 Ⅱ-136～Ⅱ-141 尾花まき子	水理・開水路 Ⅱ-142～Ⅱ-149 二瓶泰雄	閉鎖性水域 Ⅱ-150～Ⅱ-157 石塚正秀	
土砂管理 Ⅱ-182～Ⅱ-189 溝口敦子	河床移動・河川地形（1） Ⅱ-190～Ⅱ-197 市山　誠	河床移動・河川地形（2） Ⅱ-198～Ⅱ-205 竹林洋史	河床移動・河川地形（3） Ⅱ-206～Ⅱ-213 安田浩保	
土の動的性質 Ⅲ-031～Ⅲ-038 原田健二	粘土の変形強度 Ⅲ-039～Ⅲ-045 末政直晃	杭基礎（一般） Ⅲ-046～Ⅲ-053 宇野州彦	杭基礎（鉛直） Ⅲ-054～Ⅲ-060 福島宏文	杭基礎（新工法） Ⅲ-061～Ⅲ-067 濱田吉貞
土質安定処理・地盤改良（4） Ⅲ-090～Ⅲ-097 日置和昭	土質安定処理・地盤改良（5） Ⅲ-098～Ⅲ-105 田地陽一	土質安定処理・地盤改良（6） Ⅲ-106～Ⅲ-113 平野孝行	土質安定処理・地盤改良（7） Ⅲ-114～Ⅲ-121 竹内秀克	特殊工 Ⅲ-122～Ⅲ-129 鍋島康之
透水・浸透（4） Ⅲ-157～Ⅲ-163 小松　満	数値解析 Ⅲ-164～Ⅲ-170 野田利弘	不飽和土 Ⅲ-171～Ⅲ-178 河井克之	地下空洞と地下構造物 Ⅲ-179～Ⅲ-186 譽田孝宏	現場計測 Ⅲ-187～Ⅲ-194 酒匂一成
トンネル（解析） Ⅲ-219～Ⅲ-226 岩波　基	トンネル（施工法（1）） Ⅲ-227～Ⅲ-234 鈴木雅行	トンネル（施工法（2）） Ⅲ-235～Ⅲ-242 蒋　宇静	岩の工学的性質 Ⅲ-243～Ⅲ-250 鏡原聖史	
斜面（5） Ⅲ-282～Ⅲ-289 齋藤秀樹	斜面（6） Ⅲ-290～Ⅲ-297 河邑　眞	洗掘・侵食 Ⅲ-298～Ⅲ-304 ハザリカ ヘマンタ	維持・補修 Ⅲ-305～Ⅲ-312 佐藤　毅	リサイクル Ⅲ-313～Ⅲ-320 笠間清伸
リスクマネージメント Ⅲ-350～Ⅲ-355 中嶋　勇	圧縮・圧密 Ⅲ-356～Ⅲ-363 梅崎健夫	地盤の応力と変形 Ⅲ-364～Ⅲ-371 山田孝弘	土壌地下水汚染 Ⅲ-372～Ⅲ-379 稲積真哉	
景観調査・分析 Ⅳ-031～Ⅳ-037 松田泰明	景観デザイン Ⅳ-038～Ⅳ-044 大波修二	交通事故（1） Ⅳ-045～Ⅳ-052 鈴木弘司	交通事故（2） Ⅳ-053～Ⅳ-059 吉田長裕	土木史 Ⅳ-060～Ⅳ-065 大沢昌玄
歩行者・自転車 Ⅳ-096～Ⅳ-103 鳩山紀一郎	駐輪場・駐車場 Ⅳ-104～Ⅳ-109 鈴木美緒	コミュニティ・地域計画 Ⅳ-110～Ⅳ-117 鈴木春菜	観光・地域計画 Ⅳ-118～Ⅳ-125 田中一成	国土計画・土木計画 Ⅳ-126～Ⅳ-133 谷口栄一
				事故・法令 Ⅳ-134～Ⅳ-135 白川龍生
評価・試験方法・品質管理・検査 Ⅴ-032～Ⅴ-039 大城壮司	新材料・新工法（構造） Ⅴ-040～Ⅴ-047 新藤竹文	新材料・新工法（材料）（1） Ⅴ-048～Ⅴ-055 吉武　勇	新材料・新工法（材料）（2） Ⅴ-056～Ⅴ-063 福留和人	新材料・新工法（材料）（3） Ⅴ-064～Ⅴ-071 伊代田岳史
構造設計（1） Ⅴ-104～Ⅴ-111 村田裕志	構造設計（2）・曲げ Ⅴ-112～Ⅴ-119 小林　薫	補修補強（構造）（1） Ⅴ-120～Ⅴ-126 上原子晶久	補修補強（構造）（2） Ⅴ-127～Ⅴ-134 斉藤成彦	連続繊維補強コンクリート（構造） Ⅴ-135～Ⅴ-142 服部尚道
付着・定着・継手（1） Ⅴ-174～Ⅴ-181 瀧口将志	付着・定着・継手（2） Ⅴ-182～Ⅴ-188 渡部太一郎	混和材（1） Ⅴ-189～Ⅴ-196 佐川康貴	混和材（2） Ⅴ-197～Ⅴ-204 白根勇二	混和材（3）・ライフサイクル Ⅴ-205～Ⅴ-212 大脇英司
短繊維補強コンクリート（材料）（1） Ⅴ-245～Ⅴ-252 川口哲生	短繊維補強コンクリート（材料）（2） Ⅴ-253～Ⅴ-260 小倉 大季	構造物調査・診断（1） Ⅴ-261～Ⅴ-268 松田芳範	構造物調査・診断（2） Ⅴ-269～Ⅴ-276 野村倫一	構造物調査・診断（3） Ⅴ-277～Ⅴ-283 松﨑　裕
リサイクル（1） Ⅴ-315～Ⅴ-322 鶴田浩章	リサイクル（2） Ⅴ-323～Ⅴ-329 上野　敦	クリープ・収縮 Ⅴ-330～Ⅴ-337 下村　匠	温度応力 Ⅴ-338～Ⅴ-345 前田欣昌	ひび割れ Ⅴ-346～Ⅴ-353 小澤満津雄
混和剤 Ⅴ-386～Ⅴ-393 大内雅博	木材利用 Ⅴ-394～Ⅴ-403 村野昭人	耐震補強（1） Ⅴ-404～Ⅴ-410 坂井公俊	耐震補強（2） Ⅴ-411～Ⅴ-417 田所敏弥	耐震 Ⅴ-418～Ⅴ-425 佐藤靖彦
防食 Ⅴ-458～Ⅴ-465 山本　悟	耐久性一般 Ⅴ-466～Ⅴ-473 渡邉　健	アルカリシリカ反応（1） Ⅴ-474～Ⅴ-481 久保善司	アルカリシリカ反応（2） Ⅴ-482～Ⅴ-489 山田一夫	凍害 Ⅴ-490～Ⅴ-497 阿波　稔
物性（1） Ⅴ-530～Ⅴ-537 浅本晋吾	物性（2）・セメント化学 Ⅴ-538～Ⅴ-545 橋本勝文	構造評価（舗装）（1） Ⅴ-546～Ⅴ-553 川名　太	構造評価（舗装）（2） Ⅴ-554～Ⅴ-561 安倍隆二	新技術（舗装） Ⅴ-562～Ⅴ-569 寺田　剛
骨材 Ⅴ-602～Ⅴ-609 迫井裕樹	疲労・衝撃 Ⅴ-610～Ⅴ-617 渡辺　健	路面評価（1） Ⅴ-618～Ⅴ-625 田中俊輔	路面評価（2） Ⅴ-626～Ⅴ-633 富山和也	リサイクル（舗装） Ⅴ-634～Ⅴ-641 前川亮太
山岳トンネル（5） Ⅵ-033～Ⅵ-039 河野伸征	山岳トンネル（6） Ⅵ-040～Ⅵ-046 土門　剛	山岳トンネル（7） Ⅵ-047～Ⅵ-054 横尾　敦	山岳トンネル（8） Ⅵ-055～Ⅵ-062 安井成豊	山岳トンネル（9） Ⅵ-063～Ⅵ-070 大津敏郎
リニューアル（5） Ⅵ-100～Ⅵ-106 岡田誠司	リニューアル（6） Ⅵ-107～Ⅵ-114 井上　彰	リニューアル（7） Ⅵ-115～Ⅵ-122 富山　毅	リニューアル（8） Ⅵ-123～Ⅵ-130 前田芳男	リニューアル（9） Ⅵ-131～Ⅵ-138 森崎静一
アセットマネジメント（1） Ⅵ-170～Ⅵ-177 横関康祐	アセットマネジメント（2） Ⅵ-178～Ⅵ-185 鈴木春菜	河川・海洋（1） Ⅵ-186～Ⅵ-192 田坂幹雄	河川・海洋（2） Ⅵ-193～Ⅵ-199 伊藤一教	河川・海洋（3） Ⅵ-200～Ⅵ-206 小竹康夫
橋梁（1） Ⅵ-241～Ⅵ-247 大内隆志	橋梁（2） Ⅵ-248～Ⅵ-254 小林秀人	施工計画（1） Ⅵ-255～Ⅵ-262 山本忠久	施工計画（2） Ⅵ-263～Ⅵ-270 八朝秀晃	
建設環境（1） Ⅵ-303～Ⅵ-309 佐々木徹	建設環境（2） Ⅵ-310～Ⅵ-317 高畑　陽	計測・情報化施工 Ⅵ-318～Ⅵ-324 安井啓祐	新材料・新素材 Ⅵ-325～Ⅵ-330 竹本　将	
軌道の維持管理（5） Ⅵ-364～Ⅵ-371 早野公敏	軌道の維持管理（6） Ⅵ-372～Ⅵ-378 元好　茂	軌道の維持管理（7） Ⅵ-379～Ⅵ-387 新居準也	軌道の維持管理（8） Ⅵ-388～Ⅵ-396 川崎祐征	
鉄道工事（2） Ⅵ-427～Ⅵ-433 田島新一	鉄道工事（3） Ⅵ-434～Ⅵ-440 小林裕介	鉄道工事（4） Ⅵ-441～Ⅵ-447 天野健次	鉄道工事（5） Ⅵ-448～Ⅵ-453 近藤政弘	鉄道工事（6） Ⅵ-454～Ⅵ-460 室谷耕輔
検査技術・診断（5） Ⅵ-492～Ⅵ-498 岡本修一	検査技術・診断（6） Ⅵ-499～Ⅵ-505 佐藤大輔	検査技術・診断（7） Ⅵ-506～Ⅵ-512 中山昭二	設計概念・設計技術 Ⅵ-513～Ⅵ-520 山本康之	施工技術（9） Ⅵ-521～Ⅵ-528 遠藤和雄
施工技術（4） Ⅵ-557～Ⅵ-563 杉橋直行	施工技術（5） Ⅵ-564～Ⅵ-571 坂井吾郎	施工技術（6） Ⅵ-572～Ⅵ-578 高橋正登	施工技術（7） Ⅵ-579～Ⅵ-586 寺田倫康	施工技術（8） Ⅵ-587～Ⅵ-593 藤崎勝利
シールドトンネル（3） Ⅵ-611～Ⅵ-619 長屋淳一	シールドトンネル（4） Ⅵ-620～Ⅵ-627 久多羅木吉治	シールドトンネル（5） Ⅵ-628～Ⅵ-635 津野　究	シールドトンネル（6） Ⅵ-636～Ⅵ-644 玉田康一	
地盤改良（3）・耐震・免震 Ⅵ-673～Ⅵ-679 喜多直之	品質管理（1） Ⅵ-680～Ⅵ-687 五十嵐寛昌	品質管理（2） Ⅵ-688～Ⅵ-695 武田　均	土留め（1） Ⅵ-696～Ⅵ-702 中満光広	土留め（2） Ⅵ-703～Ⅵ-709 大田佳紀
振動 Ⅶ-031～Ⅶ-038 齋藤邦夫	騒音 Ⅶ-039～Ⅶ-043 北川敏樹	環境影響評価 Ⅶ-044～Ⅶ-050 小林　功	環境創造ビオトープ Ⅶ-052～Ⅶ-059 渡邉和好	森林・植生 Ⅶ-060～Ⅶ-066 川原田圭介
環境評価・環境教育 Ⅶ-096～Ⅶ-103 上野賢仁	熱環境・エネルギー Ⅶ-104～Ⅶ-110 石内鉄平	水環境モニタリング Ⅶ-111～Ⅶ-118 古川隼士	水資源・上下水道管理 Ⅶ-119～Ⅶ-125 藤川陽子	水質浄化技術 Ⅶ-126～Ⅶ-132 加藤雅彦
地下空間の多角的利用（1） CS4-001～CS4-007 武田　誠	地下空間の多角的利用（2） CS4-008～CS4-014 三田　武	土木教育一般（1） CS1-001～CS1-007 岡村未対	土木教育一般（2） CS1-008～CS1-014 岩倉成志	土木教育一般（3） CS1-015～CS1-020 原　隆史
放射性廃棄物の処分技術（4） CS9-024～CS9-029 田中幸久	放射性廃棄物の処分技術（5） CS9-030～CS9-037 畑　浩二	放射性廃棄物の処分技術（6） CS9-038～CS9-044 藤山哲雄	放射性廃棄物の処分技術（7） CS9-045～CS9-051 細谷真一	
土木分野におけるセンサ技術の利用と可能性（1） CS7-001～CS7-008 石間計夫	土木分野におけるセンサ技術の利用と可能性（2） CS7-009～CS7-016 宇野昌利		新設および大規模改修時における橋梁計画（1） CS5-001～CS5-007 丹羽信弘	新設および大規模改修時における橋梁計画（2） CS5-008～CS5-014 佐々木保隆
複合構造物（1） CS3-001～CS3-007 大久保宣人	複合構造物（2） CS3-008～CS3-014 牧　剛史	複合構造物（3） CS3-015～CS3-022 葛西　昭	複合構造物（4） CS3-023～CS3-028 溝江慶久	複合構造物（5） CS3-029～CS3-036 松本高志
				土木工学に関する資料の収集，保存と利・活用 CS12-001～CS12-008 藤澤泰雄

第69回 年次学術講演会プログラム

第Ⅰ部門　応用力学、構造工学、鋼構造、耐震工学、地震工学、風工学など

Ⅰ-1（全学教育推進機構A棟A001）／9月10日(水)

■橋梁床版(1) ／12:45～14:15／街道 浩(川田工業)

Ⅰ-001　高機能ウレタン床版防水システムのせん断疲労試験に関する研究／八戸工業大学［正］間 昭徳・松井 繁之・三田村 浩
Ⅰ-002　薄層舗装下の床版防水層に作用するせん断応力の解析的検討／西日本高速道路［正］松井 隆行・武藤 和好・竹内 収
Ⅰ-003　軽量骨材コンクリートを用いた既設床版への防水材料の塗布方法に対する一検討／富士技建［正］水内 将司・松井 隆行・山下 恭敬
Ⅰ-004　FRP歩道用拡幅床版形式の適用および耐荷性の検討／西日本高速道路［正］野田 翼・久保 圭吾
Ⅰ-005　FRP歩道用拡幅床版に対する各種舗装の適用性／宮地エンジニアリング［正］保呂 秀次・久保 圭吾・角間 恒
Ⅰ-006　FRP歩道用拡幅床版における高欄基部の耐荷性能／宮地エンジニアリング［正］田村 修一・久保 圭吾・角間 恒

■橋梁床版(2) ／14:30～16:00／後藤 昭彦(西日本高速道路)

Ⅰ-007　多層版解析におけるOMNIBUS法の開発について／井沢設計［正］廣瀬 清泰・鍋島 益弘・堀川 都志雄
Ⅰ-008　舗装の影響を考慮した道路橋RC床版の健全度評価に関する一考察／福山コンサルタント［正］宮村 正樹・春山 俊仁・岩崎 正二
Ⅰ-009　移動載荷により損傷したRC床版の応力状態と有効幅の検討／北武研究所［正］細川 真利・坂口 淳一・渡辺 忠朋
Ⅰ-010　斜角が道路橋用アルミニウム床版の発生応力に与える影響／大阪大学［学］重久 純平・大倉 一郎
Ⅰ-011　鋼コンクリート合成床版における凍結融解試験について／日本橋梁建設協会［正］酒井 武志・久保 圭吾・表 真也
Ⅰ-012　道路橋床版における凍結融解試験方法について／日本橋梁建設協会［正］皆田 龍一・久保 圭吾・表 真也

Ⅰ-1（全学教育推進機構A棟A001）／9月11日(木)

■橋梁床版(3) ／8:45～10:15／大西 弘志(岩手大学)

Ⅰ-013　不均等分割ブロックをもつ併用法の鋼板接着補強床版への適用／三井住友建設［F］三上 浩・水野 政純・廣瀬 清泰
Ⅰ-014　鋼板接着補強工法における鋼板の浮き位置が床版の疲労寿命に与える影響／ショーボンド建設［正］平塚 慶達・前川 宏一
Ⅰ-015　アラミド繊維シートによる補強および再補強時での余寿命推定／ファイベックス［正］井之上 賢一・三上 浩・今田 文男
Ⅰ-016　増厚界面に接着剤を塗布した下面増厚補強における耐疲労性の評価／日本大学［学］及川 裕介・阿部 忠・小森 篤也
Ⅰ-017　UFC道路橋床版の既設橋への適用に関する解析的検討／阪神高速道路［正］小坂 崇・金治 英貞・一宮 利通
Ⅰ-018　UFC道路橋床版の接合構造に関する実験的検討／鹿島建設［正］樽谷 早智子・小坂崇・一宮 利通
Ⅰ-019　スタッドボルトを用いてあて板したUリブ鋼床版の力学特性／大阪市立大学［学］儀賀 大己・山口 隆司・田畑 晶子
Ⅰ-020　超早強SFRC上面補強法における鋼床版のたわみ低減効果に関する研究／日本大学［学］野口 博之・阿部 忠・川井 豊

■橋梁床版(4) ／10:30～12:00／久保 圭吾(宮地エンジニアリング)

Ⅰ-021　振動試験に基づく実道路橋RC床版の疲労損傷評価／東北大学［学］八嶋 宏幸・土屋 祐貴・山口 恭平
Ⅰ-022　FWDによる既設RC床版のたわみ量と床版の性状／ネクスコ・エンジニアリング東北［正］早坂 洋平・山口 恭平・曽田 信雄
Ⅰ-023　FWDによる既設RC床版の健全度評価手法の一提案／東日本高速道路［正］山口 恭平・早坂 洋平・曽田 信雄
Ⅰ-024　コンクリート床版内部に発生した水平ひび割れの探査方法に関する実験的研究／日本建設機械施工協会［正］渡邉 晋也・岡田 慎哉・佐竹 紳也
Ⅰ-025　超音波法による合成床版の滞水検知技術の検討／IHI［正］柳原 有紗・畠中 宏明・戸田 勝哉
Ⅰ-026　遠隔非接触振動計測装置を用いたRC床版の劣化検知に関する研究／長崎大学［正］出水 享・松田 浩・藤岡 靖
Ⅰ-027　部分打ち換えで補修した軽量RC床版の疲労耐久性／横河ブリッジホールディングス［正］春日井 俊博・岸田 政彦・副島 直史
Ⅰ-028　リブ付きアーチフォームを適用したRC床版の輪荷重走行試験／川田工業［正］街道 浩・西條 龍・松井 繁之

Ⅰ-1（全学教育推進機構A棟A001）／9月12日(金)

■橋梁振動(実験・測定)(1) ／8:45～10:15／松本 泰尚(埼玉大学)

Ⅰ-029　国内最大級の支間長を有する鋼ポータルラーメン橋の振動試験／西日本高速道路［正］前原 直樹・岩元 和彦・片山 和也
Ⅰ-030　供用中の大牟田連続高架橋における起振機を用いた現地振動試験／八千代エンジニヤリング［正］高山 健一・川畑 宏志・上田 浩章
Ⅰ-031　簡易風洞試験(S-VFD)を利用した大牟田連続高架橋の耐風安定性検討／八千代エンジニヤリング［正］川畑 宏志・上田 浩章・高山 健一
Ⅰ-032　性能照査型維持管理法に向けた新設橋梁の構造同定／長岡技術科学大学［学］大谷 拓矢・宮下 剛・有馬 直秀
Ⅰ-033　性能照査型維持管理法に向けた鋼2主I桁橋の劣化シナリオについて／中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋［正］有馬 直秀・石川 裕一・橘 吉宏
Ⅰ-034　温度および支承条件による鋼ランガートラス桁橋の振動特性変化に関する解析的検討／長崎大学［学］小島 孝仁・奥松 俊博・中村 聖三
Ⅰ-035　斜角を有する鋼橋の損傷と動特性変化についての実橋実験／舞鶴工業高等専門学校［学］井尻 和秀・玉田 和也・木村 祐太

■橋梁振動(実験・測定)(2) ／10:30～12:00／渡辺 勉(鉄道総合技術研究所)

Ⅰ-036　鋼合成鉄道橋における共振発生条件の分析／JR西日本［正］安達 直希・丹羽 雄一郎・公門 和樹
Ⅰ-037　跨座型モノレールPC高架橋の振動特性／エイト日本技術開発［正］小野 カズユキ・川谷 充郎・金 哲佑
Ⅰ-038　鉄道工事桁における単純桁から連続桁への構造変更に伴う対策と計測結果／阪急設計コンサルタント［正］西本 英一郎・岡重 嘉泰・海老原 学
Ⅰ-039　圧電素子を用いた橋梁構造物の走行荷重による損傷同定の可能性について／大阪府立大学工業高等専門学校［正］小幡 卓司・西村 勇軌
Ⅰ-040　走行車両動的応答による橋梁固有振動数の抽出／神戸大学［学］山野 歩今
Ⅰ-041　13年間供用した3径間連続PC高架橋の全体系振動計測／北見工業大学［学］潘 凱凱・宮森 保紀・綿崎 良祐
Ⅰ-042　損傷を有する実横断歩道橋の3軸加速度計測による固有振動特性同定／北見工業大学［学］綿崎 良祐・門田 峰典・岡本 覚人

■構造同定／15:00～16:30／宮森 保紀(北見工業大学)

Ⅰ-043　外部因子に着目したベイズ回帰による長期橋梁振動モニタリング／京都大学［学］森田 知明・金 哲佑・大島 義信
Ⅰ-044　移動型加振源を用いたRCはりの損傷位置同定に関する基礎的検討／東北大学［学］諸橋 拓実・内藤 英樹・上田 博之
Ⅰ-045　空間及び波数領域情報を利用した平板構造物の損傷検出手法／京都大学［学］児島 啓太・古川 愛子・清野 純史
Ⅰ-046　Modal Identification of a Structure using Cross Correlation of Microtremors／東京工業大学［正］盛川 仁・濱崎 翔平
Ⅰ-047　ARXモデルを用いた単純梁振動実験における振動特性変化の検出／東京理科大学［学］塚原 美佳・佐伯 昌之
Ⅰ-048　精密小型加振機を用いた鋼製単純梁振動実験のモデル化／東京理科大学［正］栗原 幸也・森木 美沙樹・佐伯 昌之
Ⅰ-049　精密小型加振機と無線加速度センサノードを用いた振動計測における時刻同期精度の検証／東京理科大学［学］奥村 昂史・佐伯 昌之

Ⅰ-050　実送電用鉄塔を対象とした動態観測(その5)減衰特性の分析／電力中央研究所［正］佐藤 雄亮・高畠 大輔・石川 智巳

Ⅰ-2（全学教育推進機構A棟A002）／9月10日(水)

■免震・制震(1) ／10:30～12:00／星隈 順一(土木研究所)

Ⅰ-051　送風循環設備を用いた免震ゴム支承の温度依存性検証実験／川金コアテック［正］姫野 岳彦・高橋 徹・鵜野 禎史
Ⅰ-052　制震デバイスに用いられる低降伏点鋼材の低温時特性について／土木研究所 寒地土木研究所［正］岡田 慎哉・表 真也・西 弘明
Ⅰ-053　せん断試験を受けた積層ゴム支承のAEパラメータ挙動に関する考察／立命館大学［学］寺村 直人・権納 拓央・川崎 佑磨
Ⅰ-054　ウレタンエラストマーを用いた積層型免震装置に関する実用化評価／オーツケミカル［正］石花 健太・古屋 治・合田 研吾
Ⅰ-055　独立型負剛性摩擦ダンパーの開発とハイブリッド実験による検証／鉄道総合技術研究所［正］豊岡 亮洋・本山 紘希・河内山 修
Ⅰ-056　荷重および環境因子作用下における免震ゴム支承のき裂発生に関する基礎的研究／名古屋大学［F］伊藤 義人・廣畑 幹人・汪 深
Ⅰ-057　並列ハイブリッド実験による制振ブレースを挿入した鋼製ラーメン橋脚の配置形式および入力地震動の違いが制震効果に及ぼす影響の検証／名城大学［学］佐藤 大介・渡辺 孝一・篠田 将旭

■免震・制震(2) ／12:45～14:15／葛西 昭(熊本大学)

Ⅰ-058　免震橋の水平2方向耐震性能に関する漸増動的解析／埼玉大学［正］党 紀・蛯沢 佑紀・五十嵐 晃
Ⅰ-059　免震支承の力学的特性が免震支承―RC橋脚系の地震応答に及ぼす影響／東北大学［学］小野寺 周・松崎 裕・鈴木 基行
Ⅰ-060　堀切・小菅ジャンクション間改良における既設高架橋の免震・制震デバイスの最適化検討／首都高速道路［正］内海 和仁・伊原 茂・中野 博文
Ⅰ-061　小松川ジャンクション接続部の既設高架橋における地震時の支承移動制御検討／首都高速道路［正］松原 拓朗・石田 和久・伊原 茂
Ⅰ-062　橋梁に斜め方向に設置された制震デバイスに対するモデル化手法について／九州大学［学］宝蔵寺 宏一・八ッ元 仁・崔 準ホ
Ⅰ-063　BRBとSMAダンパーの導入による鋼製ラーメン橋脚の地震後の使用性向上に関する解析的研究／名城大学［学］丸山 陸也・葛 漢彬
Ⅰ-064　水平動と上下動を同時に受ける摩擦振子型免震機構付き鋼製橋脚の震動実験／早稲田大学［学］石橋 寛樹・金井 晴弘・秋山 充良
Ⅰ-065　スリット加工を施した鋼製ピンのせん断破断実験／大成建設［正］金田 貴洋・松村 政秀・中西 泰之

■免震・制震(3) ／14:30～16:00／松村 政秀(大阪市立大学)

Ⅰ-066　座屈拘束波形鋼板(BRRP)制震ダンパーの繰返し載荷実験と解析／名城大学［学］加藤 弘務・森 翔吾・宇佐美 勉
Ⅰ-067　座屈拘束波形鋼板(BRRP)制震ダンパーのハイブリッド地震応答実験と解析／名城大学［F］宇佐美 勉・森 翔吾・加藤 弘務
Ⅰ-068　座屈拘束波形鋼板(BRRP)制震ダンパーの動的性能確認実験／新日鉄住金エンジニアリング［正］山崎 伸介・野呂 直以・宇佐美 勉
Ⅰ-069　粘性系シリンダーダンパーの性能確認試験／日本鋳造［正］山崎 信宏・原田 孝志・石山 昌幸
Ⅰ-070　粘性系シリンダーダンパーの耐久性確認試験／日本鋳造［正］松本 征也・原田 孝志・馮 徳民
Ⅰ-071　鋼製橋脚のコンクリート巻立てによる減衰性向上策に関する基礎的研究／宇都宮大学［学］丸山 祥平・中島 章典・Al Shenawi Reem
Ⅰ-072　大型粘性ダンパーに対応した動的試験機の構築と性能検証試験／川金コアテック［正］高橋 徹・高井 博之・姫野 岳彦
Ⅰ-073　振動台を用いた片押し型制震デバイスBMRの動的性能に関する実験的研究／九州大学［学］和田 悠佑・田中 剛・鈴木 敬崇

Ⅰ-2（全学教育推進機構A棟A002）／9月11日(木)

■診断・補修・補強(1) ／8:45～10:15／小林 裕介(鉄道総合技術研究所)

Ⅰ-074　長崎県における耐候性鋼橋梁の健全度診断／土木研究センター［正］中島 和俊・中村 昌文・田崎 智
Ⅰ-075　鋼箱桁下フランジ上面の腐食補修／首都高速道路［正］佐藤 歩・吉田 祥二・栗林 伶二
Ⅰ-076　腐食鋼板の画像計測における計測点間隔に関する検討／IHIインフラ建設［正］山田 智之・岩崎 初美
Ⅰ-077　鋼橋の長寿命化に向けた金属溶射による防食提案／西日本高速道路［正］大城 壮司・福永 靖雄・松井 隆行
Ⅰ-078　既設鋼橋桁端部の防食に着目した金属溶射機器の開発／富士技建［正］武藤 和好・入江 政信・村山 康雄
Ⅰ-079　Al-Mg合金溶射された部材のAl-Mg溶射ボルトによる継手のすべり係数／フジエンジニアリング［正］村山 康雄・大城 壮司・松井 隆行
Ⅰ-080　Al-Mg合金溶射された部材のAl-Mg溶射ボルトによる継手の疲労耐久性に関する実験的検討／フジエンジニアリング［正］元井 邦彦・大城 壮司・松井 隆行
Ⅰ-081　CFRP接着鋼板の欠損端のテーパ形状が欠損部の応力低減効果および剥離に及ぼす影響／新日鉄住金マテリアルズ［正］秀熊 佑哉・宮下 剛・小林 朗

■診断・補修・補強(2) ／10:30～12:00／春田 健作(京都府)

Ⅰ-082　接着剤と高力ボルトを併用した当て板補修に関する実験的研究／大阪市立大学［学］行藤 晋也・丹波 寛夫・山口 隆司
Ⅰ-083　樹脂材・鉄筋を用いた腐食鋼板の耐荷力回復効果／広島大学［学］金山 惇志・藤井 堅・岩崎 初美
Ⅰ-084　部分的に緊張力を導入した当て板接着鋼部材のはく離抑制効果／名古屋大学［正］清水 優・石川 敏之・服部 篤史
Ⅰ-085　繊維製落橋防止装置に用いる引張抵抗部材の引張特性評価／IHI［正］木作 友亮・齊藤 史朗・岩本 司
Ⅰ-086　腐食損傷を受けたプレートガーダーの当て板補修による性能回復に関する研究／名古屋工業大学［学］小川 麻実・永田 和寿・町田 幸大
Ⅰ-087　活荷重作用下の実橋への当て板接着補修の適用に関する研究／京都大学［学］西木 晴彦・石川 敏之・服部 篤史
Ⅰ-088　CFRP板を用いた鋼板へのプレストレス導入工法に関する一考察／立命館大学［正］野阪 克義・須山 夏樹
Ⅰ-089　CFRP接着した断面欠損を有する鋼板の低弾性パテが剥離に及ぼす影響／長岡技術科学大学［学］田中 幹基・宮下 剛・秀熊 佑哉

Ⅰ-2（全学教育推進機構A棟A002）／9月12日(金)

■診断・補修・補強(3) ／8:45～10:15／菅沼 久忠(TTES)

Ⅰ-090　主ケーブルが破断した人道吊橋の損傷調査と対策／瀧上工業［正］松村 寿男・上田 博士・山本 正孝
Ⅰ-091　ICT技術を活用した道路付帯施設構造検査手法に関する研究(その1：シミュレーション解析及び加振実験概要) ／中日本高速道路［正］山本 浩司・小林 敦・渡壁 守正
Ⅰ-092　ICT技術を活用した道路付帯施設構造検査手法に関する研究(その2：加振時挙動および応力振幅) ／中日本高速道路［正］緒方 健治・山本 浩司・渡壁 守正
Ⅰ-093　応答曲面法を用いた統計的異常検知手法の橋梁構造物ヘルスモニタリングへの適用／東京大学［正］村山 英晶・布一馬・影山 和郎
Ⅰ-094　自己組織化特徴マップによる小型橋梁模型の健全度診断／大阪市立大学［学］森若 浩司・山口 隆司・北原 武嗣
Ⅰ-095　AHPを使用した鋼桁検査時の重み付けに関する研究／前橋工科大学［学］平山 瑛士・谷口 望
Ⅰ-096　ずれ止め設置による合成作用向上に関する実験的検討／大阪市立大学［正］松村 政秀・角掛 久雄・川﨑 佑磨
Ⅰ-097　プレテンションを導入したCFRP板接着による疲労き裂の補修に関する実験的検討／首都大学東京［学］伊藤 寛弥・中村 一史・林 帆

■診断・補修・補強(4) ／10:30～12:00／山中 明彦(パシフィックコンサルタンツ)

Ⅰ-098　橋梁に添架する補修用FRP管の共振に対する検討／NTTアクセスサービスシステム研究所［正］小林 大樹・田中 宏司・瀬田 亮
Ⅰ-099　河川内鋼製橋脚に発生した腐食損傷の補修検討／首都高速道路［正］吉田 祥二・佐藤 歩・栗林 伶二
Ⅰ-100　衝撃応答に基づくダクタイル鋳鉄管の外面腐食の非破壊評

価方法に関する基礎研究／大阪大学［学］喩 晨・鎌田 敏郎・服部 晋一
Ⅰ-101　石造アーチ橋の地震時安定性に関する簡易照査法と補強方法の提案／国土工営コンサルタンツ［正］筒井 光男・水田 洋司・坂田 力
Ⅰ-102　石造アーチ橋の模型実験と動的解析による地震時挙動の検討／熊本大学［F］山尾 敏孝・藤田 千尋・小倉 孟
Ⅰ-103　薄肉鋼管の圧縮特性に対するCFRP補強効果について／東レ［正］松井 孝洋・松本 幸大・中村 一史
Ⅰ-104　塩化ビニルと螺旋状FRPを用いた中口径下水道更生管に関する研究／大成建設［正］坂田 賢亮・古川 愛子・清野 純史
Ⅰ-105　朝地橋の車両載荷試験による静的・動的挙動の検討／熊本大学［学］小倉 孟・山尾 敏孝・藤田 千尋

■診断・補修・補強(5) ／15:00～16:30／田中 浩一(大林組)
Ⅰ-106　損傷を有する円形鋼製橋脚の二方向繰り返し載荷下でのコンクリート部分充填による補修効果に関する実験的研究／岐阜大学［学］山口 拓也・松村 寿男・水野 英二
Ⅰ-107　地震荷重によるRC部材の損傷形態と振動モードの変化に関する検討／電力中央研究所［正］永田 聖二・宮川 義範・金澤 健司
Ⅰ-108　旧鳥飼大橋コンクリート部材の材料試験／中日本高速道路［正］保田 敬一・Luiza H. Ichinose・正 忠幸
Ⅰ-109　凍結融解負荷を受けたコンクリート打継部の疲労強度について／土木研究所 寒地土木研究所［正］角間 恒・岡田 慎哉・西 弘明
Ⅰ-110　施工中の交通振動が硬化コンクリートの強度に及ぼす影響について／土木研究所 寒地土木研究所［正］表 真也・岡田 慎哉・林川 俊郎
Ⅰ-111　RC部材の補強効果モニタリングに関する基礎的研究／岩手大学［学］中鉢 竜太・大西 弘志・岩崎 正二
Ⅰ-112　小型FWD試験機を用いた実橋RC床版の振動特性調査／岩手大学［学］三東 豪士・大西 弘志・岩崎 正二
Ⅰ-113　高強度PC鋼材定着具の補強方法の検討／川田建設［正］石橋 亜希子・小川 澄・小林 大助

Ⅰ-3（全学教育推進機構A棟A101）／9月10日(水)

■計算力学／10:30～12:00／市村 強(東京大学)
Ⅰ-114　SPH法を用いた引張荷重を受けるアンカーボルトの耐荷性能評価へ向けた基礎検討／九州大学［学］清成 康平・宗本 理・園田 佳巨
Ⅰ-115　弾性拘束を受ける各種構造部材の座屈荷重におけるべき乗則の検討／北海道大学［学］丸山 俊樹・原澤 祥典・佐藤 太裕
Ⅰ-116　アルミニウム合金形材支柱を用いた橋梁用ビーム防護柵の開発に関する研究／名古屋大学［学］佐藤 遼一・吉野 彰宏・伊藤 義人
Ⅰ-117　中詰砂充填による高靱性パイプインパイプの弾塑性挙動評価法／北海道大学［学］寺田 豊・蟹江 俊仁・佐藤 太裕
Ⅰ-118　懸垂膜吊り上げ実験による膜構造大変形解析手法の検討／佐賀大学［学］富岡 正治・田原 慎太郎・井嶋 克志
Ⅰ-119　平板の曲げ解析へのp-Ritz法の適用に関する一考察／函館工業高等専門学校［正］渡辺 力
Ⅰ-120　滑節点を用いたケーブルの接触大変形解析によるあやとりシミュレーション／佐賀大学［学］日高 功裕・帯屋 洋之・井嶋 克志

■数値解析／12:45～14:15／佐藤 太裕(北海道大学)
Ⅰ-121　アンサンブルカルマンフィルタを用いた透水係数の同定／清水建設［正］山本 真哉・本多 眞・櫻井 英行
Ⅰ-122　鉄筋コンクリート構造物の耐火性評価に関する基礎的数値解析／九州大学［学］二村 俊輔・園田 佳巨・宗本 理
Ⅰ-123　津波の防波堤越流に伴う堤体挙動のCEL解析／JFEテクノリサーチ［正］長谷川 潤・蛭田 敏樹・小野 芳美
Ⅰ-124　土石塊停止機構における礫と水の分離シミュレーション／防衛大学校［学］堀口 俊行・香月 智
Ⅰ-125　敷砂緩衝材の応力伝達挙動に関する二次元個別要素法解析／名古屋工業大学［学］内藤 直人・前田 健一
Ⅰ-126　減圧法によるメタンガス生産が海底地盤の動的挙動に与える影響の数値計算による検討／京都大学［学］赤木 俊文・木元 小百合・岡 二三生

■座屈・耐荷力(板・桁) ／14:30～16:00／森田 千尋(長崎大学)
Ⅰ-127　SBHS500およびSM490Yからなる十字断面柱の耐荷力に関する実験的研究／大阪市立大学［学］中川 翔太・松村 政秀・小野 潔
Ⅰ-128　高強度鋼SHY685を用いた鋼製橋脚の耐力および変形能に関する解析的研究／大阪大学［学］橋本 祥太・小野 潔・遠藤 和男
Ⅰ-129　鋼部材の局部座屈強度に関する基準耐荷力曲線の一検討／土木研究所［正］赤松 伸祐・金田 崇男・村越 潤
Ⅰ-130　初期たわみの偏心を考慮した周辺単純支持板の座屈耐荷力／熊本大学［学］岡部 翔平・垣内 辰雄・葛西 昭
Ⅰ-131　鋼圧縮部材の終局ひずみを求めるための基礎的検討／熊本大学［学］宮本 勇紀・葛西 昭・Lilya Susanti
Ⅰ-132　鋼製門型ラーメン橋脚隅角部の応力性状および終局強度／首都大学東京［学］若山 萌美・野上 邦栄・藤野 明義
Ⅰ-133　橋梁防護桁の設計に関する実験的・解析的検討／西日本旅客鉄道［正］北 健志・松本 健太郎

Ⅰ-3（全学教育推進機構A棟A101）／9月11日(木)

■座屈・耐荷力(柱・その他) ／8:45～10:15／平野 秀一(土木研究所)
Ⅰ-134　鋼トラス橋の格点部の耐荷力に関する解析的研究／早稲田大学［学］平山 雄大・川口 徹朗・笠野 英行
Ⅰ-135　3径間超長大吊橋の弾塑性挙動と耐荷力／首都大学東京［学］岩下 慎吾・野上 邦栄・藤岡 健祐
Ⅰ-136　実橋箱断面圧縮部材の耐荷力特性と基準耐荷力曲線／東日本高速道路［正］竹内 幸治・野上 邦榮・山下 洋平
Ⅰ-137　材料の応力ひずみ関係におけるひずみ硬化勾配の変化が板の終局圧縮強度に及ぼす影響／長岡工業高等専門学校［学］阿部 真之介・宮嵜 靖大・奈良 敬
Ⅰ-138　鋼製ラーメン橋脚はり部の耐力および変形能に関する解析的検討／大阪大学［学］浜村 圭太・小野 潔
Ⅰ-139　ボルト接合した補剛材による鋼板パネルの座屈防止効果に関する圧縮力載荷実験／大阪市立大学［学］幸田 真也・松村 政秀・小野 潔
Ⅰ-140　施工誤差を考慮した鋼管杭―H鋼柱間の接合構造に関する一考察／JR東日本［正］三次 涼太・田附 伸一・岩田 道敏

■座屈・耐荷力(板・その他) ／10:30～12:00／藤井 堅(広島大学)
Ⅰ-141　溶接組立されたステンレス鋼柱の終局圧縮強度に関する実験的研究／長岡技術科学大学［学］濱 達矢・石井 孝明・宮下 剛
Ⅰ-142　面内純圧縮負荷を受けるSUS410L およびSM400 で構成される単リブ補剛板の強度特性／長岡工業高等専門学校［学］井比 亨・宮嵜 靖大・奈良 敬
Ⅰ-143　単軸面内準静的負荷時におけるSUS304およびSUS410L製周辺単純支持板の極限圧縮強度特性／長岡工業高等専門学校［学］加藤 健太郎・宮嵜 靖大・奈良 敬
Ⅰ-144　SUS304N2およびSM490Yで構成されるハイブリッドI形断面梁の終局曲げ強度／長岡工業高等専門学校［学］和田 勇輝・宮嵜 靖大・奈良 敬
Ⅰ-145　リーン二相系ステンレス鋼の応力―ひずみ特性と構成式／明石工業高等専門学校［正］三好 崇夫
Ⅰ-146　アルミニウム合金桁の曲げ耐荷力算定式／大阪大学［学］鳥畑 一博・大倉 一郎
Ⅰ-147　せん断を受ける突起付きの細長いアルミニウム長方形板の耐荷力／大阪大学［学］前田 貴公・大倉 一郎

Ⅰ-3（全学教育推進機構A棟A101）／9月12日(金)

■ダム・タンクの耐震(1) ／8:45～10:15／平野 廣和(中央大学)
Ⅰ-148　常時微動・地震動の長期継続観測による高経年化したアーチダムの構造健全性モニタリング技術の適用―ダムの振動特性変動の検出:常時変動と地震時変動―／日本大学［正］上島 照幸・千葉 奈央・金澤 健司
Ⅰ-149　ダム独立塔型取水塔の耐震性能照査への3次元ファイバーモデルの適用検討／水資源機構［正］坂本 博紀・佐藤 信光・野中 樹夫
Ⅰ-150　ダムクレストローラゲートにおける振動測定による貯水および動水圧の検討／水資源機構［正］野中 樹夫・佐藤 信光・佐藤 茂希
Ⅰ-151　2次元矩形タンクにおけるスロッシング衝撃特性の再現性に関する研究／岐阜工業高等専門学校［正］渡邉 尚彦・田中 義照・安藤 孝弘
Ⅰ-152　傾斜側壁を有する容器内のスロッシング挙動／電力中央研究所［正］高畠 大輔・豊田 幸宏
Ⅰ-153　フィルターを設置した矩形型貯水槽模型の固有振動数と応答波形の位相の変化／愛知工業大学［学］日比野 広之・鈴木 森晶・黒田 亮
Ⅰ-154　フィルターの設置位置による矩形型貯水槽のスロッシング

波高抑制効果の検討／愛知工業大学［学］黒田 亮・鈴木 森晶・日比野 広之

■ダム・タンクの耐震(2) ／10:30～12:00／上島 照幸(日本大学)

I-155　線形解析に基づく重力式コンクリートダムの地震時損傷のみなし評価に関する考察／電力中央研究所［正］西内 達雄
I-156　鉛直ジョイントを考慮した重力式コンクリートダムの三次元動的クラック進展解析／清水建設［正］藤田 豊・木全 宏之・堀井 秀之
I-157　大規模地震時における台形CSGダムの損傷形態に関する検討／土木研究所［正］志田 孝之・金銅 将史・榎村 康史
I-158　既設ダムの削孔による放流管増設ブロックの大規模地震時挙動解析／土木研究所［正］藤田 将司・金銅 将史・志田 孝之
I-159　2011年東北地方太平洋沖地震における宮城県内受水槽・高置水槽被害と地震動特性／茨城大学［正］井上 凉介・坂井 藤一・大峯 秀一
I-160　構造形式の異なる貯水槽の地震時における振動応答特性の比較／中央大学［学］塩野谷 遼・井田 剛史・平野 廣和
I-161　地震時にステンレス製パネル式貯水槽に生ずる流体揺動／中央大学［学］小野 泰介・井田 剛史・平野 廣和
I-162　8の字形制振装置による短形貯水槽のスロッシング低減効果の検証実験／十川ゴム［正］河田 彰・井田 剛史・平野 廣和

■非破壊評価、検査技術・診断／15:00～16:30／木本 和志(岡山大学)

I-163　マルチフェーズドアレイ探触子を用いた鋼床版疲労き裂検出システムの構築／東京都市大学［正］白旗 弘実・三木 千壽
I-164　フェーズドアレイ超音波法によるビード貫通型き裂の探傷／三菱重工鉄構エンジニアリング［正］岡 俊蔵・八木 尚人・池上 克則
I-165　渦流探傷を用いた鋼橋のき裂検出効率化の検討／首都高速道路［正］栗原 友則・福島 貴仁・村野 益巳
I-166　橋梁における取付ボルトに対する超音波探傷検査の適用性／本州四国連絡高速道路［正］大谷 康史・吉本 和美
I-167　熱源を用いた鋼部材のき裂欠陥検知法の開発に関する実験および解析的研究／長崎大学［学］岡本 佳樹・松田 浩・出水 亨
I-168　産業用ビデオカメラ画像を用いた動的測定手法の基礎研究／フジエンジニアリング［正］西芝 貴光・讃岐 康博・菊地 智彦

Ⅰ-4（全学教育推進機構A棟A102）／9月10日(水)

■橋梁一般(設計)(1) ／10:30～12:00／畑山 義人(ドーコン)

I-169　筑後川橋梁詳細設計「景観性と構造性の最適解」(その1鋼アーチ橋編）／オリエンタルコンサルタンツ［正］金野 拓朗・星野 裕司・千年 康秀
I-170　筑後川橋梁詳細設計「景観性と構造性の最適解」(その2アプローチ部橋梁編）／オリエンタルコンサルタンツ［正］竜円 淳美・星野 裕司・千年 康秀
I-171　早津江川橋梁詳細設計「景観性と構造性の最適解」／長大［正］元山 寿・千年 康秀・松坂 千寛
I-172　鋼連続合成ラーメン2主鈑桁橋へのコンパクト断面設計の適用検討／東日本高速道路［正］宇山 友理・東田 典雅・西川 孝一
I-173　ヘリコプターを用いた登山道橋梁の架設計画／復建技術コンサルタント［正］吉田 雄一・中村 貴司
I-174　仙石線災害復旧工事における長大スパン高架橋の設計・施工計画／東日本旅客鉄道［正］西村 脩平・杉田 清隆
I-175　曲線部における主桁構造変化部の詳細設計／首都高速道路［正］久保田 成是・中西 禎之
I-176　曲線を有する2径間連続ポータルラーメン橋の設計／西日本高速道路［正］高橋 章・橋 豊・大柳 英之

■橋梁一般(設計)(2) ／12:45～14:15／加藤 雅彦(長大)

I-177　頭付きスタッドを用いた鋼―コンクリート接合部の耐力評価に関する実験的研究／土木研究所［正］遠藤 繁人・和田 圭仙・七澤 利明
I-178　コンパクト断面設計を用いた連続合成桁の終局限界状態の解析的研究／早稲田大学［学］辻 良祐・小原 慎也・依田 照彦
I-179　長大吊橋複合主塔の橋軸方向面内の終局強度特性／首都大学東京［学］関 裕太・野上 邦栄
I-180　サグ比の異なる4径間超長大吊橋の耐荷力特性／首都大学東京［学］藤岡 健祐・野上 邦栄・池田 虎彦
I-181　多径間連続斜張橋の主塔剛性改善をねらったケーブルシステムの提案／阪神高速道路［正］杉山 裕樹・金治 英貞・渡邉 裕規
I-182　各種基礎地盤の変状が長大斜張橋の断面力に及ぼす影響／早稲田大学［学］大橋 亮介・HOANG VU・清宮 理
I-183　橋桁に作用する津波波力評価手法／IHI［正］山内 邦博・幸左 賢二

■橋梁一般(設計)(3) ／14:30～16:00／本間 淳史(東日本高速道路)

I-184　ケーブル併用制震すべりシステムを適用した既設吊橋の非線形時刻歴応答解析における解析時間短縮による応答への影響／西日本高速道路エンジニアリング九州［正］坂田 裕彦・松田 哲夫・松田 泰治
I-185　ケーブル併用制震すべりシステムを適用した既設吊橋の地震時応答に及ぼすデバイスの効果／オイレス工業［正］宇野 裕惠・松田 泰治・今村 壮宏
I-186　ケーブル併用制震すべりシステムを適用した既設吊橋におけるケーブルの履歴特性が地震時挙動に及ぼす影響／神鋼鋼線工業［正］榊 一平・松田 泰治・今村 壮宏
I-187　ケーブル併用制震すべりシステムを適用した既設吊橋の地震時リダンダンシーの評価／ドーユー大地［正］松田 宏・松田 泰治・今村 壮宏
I-188　40年間供用された吊橋床組縦桁の疲労対策―補修施工―／ワイ・シー・イー［正］永田 淳・壁谷 聡浩・坂田 裕彦
I-189　40年供用後の吊橋主ケーブルの実橋送気試験／西日本高速道路エンジニアリング九州［正］松田 哲夫・坂田 裕彦・出雲 真仁
I-190　40年供用後の吊橋主ケーブルの送気シミュレーション解析／神戸製鋼所［正］橋田 芳朗・峰地 慎一・高岸 洋一

Ⅰ-4（全学教育推進機構A棟A102）／9月11日(木)

■橋梁一般(設計)(4) ／8:45～10:15／平山 博(大日本コンサルタント)

I-191　道路橋における地震と積雪による複合被害発生確率の検討／中央大学［学］佐竹 基治・佐藤 尚次
I-192　ポータルラーメン橋の橋台背面への流入水の浸透解析／JIPテクノサイエンス［正］竹原 和夫・岩崎 信正・津田 佳明
I-193　鋼橋の表面色の違いによる日射温度影響について／前橋工科大学［正］谷口 望・稲島 拓生
I-194　鋼床版有機繊維補強コンクリート舗装の追跡調査結果／首都高速道路技術センター［正］小林 明史・仲野 孝洋・佐藤 歩
I-195　一体成型構造を採用した鋼製フィンガージョイントの性能評価／川金コアテック［正］高井 博之・村尾 和弘・高橋 徹

■橋梁一般(施工) ／10:30～12:00／古田 富保(横河ブリッジ)

I-196　道路橋における作用断面力の統計的性質に関するシミュレーション／国土技術政策総合研究所 ［正］横井 芳輝・玉越 隆史・白戸 真大
I-197　道路橋の支間長に応じた活荷重効果の信頼性評価／国土技術政策総合研究所［正］川見 周平・玉越 隆史・白戸 真大
I-198　鋼合成桁における主桁作用と床版作用の安全性評価に関する研究／国土技術政策総合研究所［正］山崎 健次郎・玉越 隆史・白戸 真大
I-199　曲線鋼鈑桁橋の外ケーブル補強に関する検討～大阪中央環状線 新明治橋第四橋～／高田機工［正］山田 貴男・西幡 巨千昭・岩田 博文
I-200　横構を兼用した足場パネルの耐荷力実験／横河工事［正］山浦 明洋・笹嶋 純司・白水 晃生
I-201　応急組立橋の架設の迅速化に関する検討／パシフィックコンサルタンツ［正］大坂 祐造・山尾 昭・遊佐 謙太郎
I-202　ブラスト処理の施工条件が鋼材の表面粗さに及ぼす影響に関する基礎的研究／九州大学［正］藤井 基史・貝沼 重信

Ⅰ-4（全学教育推進機構A棟A102）／9月12日(金)

■地中構造物の耐震(1) ／8:45～10:15／大竹 省吾(オリエンタルコンサルタンツ)

I-203　地中スラストブロックの地震時の挙動による継手構造管路への影響評価／摂南大学［学］川口 雄大・片桐 信・北野 哲司
I-204　地中構造物に対するDEMを用いた自然災害リスク箇所の特定／名古屋大学［正］北野 哲司・田代 喬・野中 俊宏
I-205　正負交番載荷実験によるアーチカルバートの地震時限界性能に関する検討／土木研究所［正］藤原 慎八・篠原 聖二・石田 雅博

Ⅰ-206　地層処分施設の耐震性評価における静的地震力の設定方法に関する検討(その2) ／原子力発電環境整備機構［F］末広 俊夫・山本 陽一・窪田 茂
Ⅰ-207　三次元動的解析による大規模地下浄水場の地震時応答の検討／弘前大学［F］有賀 義明・三浦 千穂・安部 広樹
Ⅰ-208　地下街の地震時応答に及ぼす入力地震動の加振方向の影響／弘前大学［学］樽井 紀和・八木橋 怜・有賀 義明
Ⅰ-209　3次元解析による地中構造物の限界変位に関する検討／東北電力［正］伊達 政直・菊地 慶太・浅井 隆一
Ⅰ-210　3次元解析による地中構造物の変位照査手法の検討／東北電力［正］堀見 慎吾・伊達 政直・永井 秀樹

■地中構造物の耐震(2) ／10:30～12:00／濱野 雅裕(エイト日本技術開発)
Ⅰ-211　腐食を考慮する事による通信用地下管路の耐震性能低下に関する検討／NTTアクセスサービスシステム研究所［正］伊藤 陽・田中 宏司・榊 克実
Ⅰ-212　強震時の地盤大変位入力に対する地中パイプラインの応答特性／熊本高等専門学校［正］渕田 邦彦・清田 直子
Ⅰ-213　鉄道地下構造物(RCボックスカルバート)における耐震設計の試計算と一考察／東日本旅客鉄道［正］内藤 圭祐・清水 満・齋藤 貴
Ⅰ-214　開削トンネルの耐震設計における応答変位法の適用性に関する一考察／鉄道総合技術研究所［正］川西 智浩・井澤 淳・室野 剛隆
Ⅰ-215　地下鉄複断面トンネルの耐震性能に関する考察／東京大学［学］西垣 祐弥・前川 宏一・大石 敬司
Ⅰ-216　継続時間が長い地震動による開削トンネルの横断方向に対する耐震性能検討／首都高速道路［正］長田 光正・久木留 貴裕・大竹 省吾
Ⅰ-217　地盤物性の空間的ばらつきが地中構造物の地震時応答に与える影響の検討(平均Vsによる変化) ／大成建設［正］畑 明仁・坂下 克之・志波 由紀夫
Ⅰ-218　地盤物性の空間的ばらつきが地中構造物の地震時応答に与える影響の検討(相関距離による変化) ／大成建設［正］坂下 克之・畑 明仁・志波 由紀夫

■基礎の耐震／15:00～16:30／石井 晃(鹿島建設)
Ⅰ-219　シートパイルで補強された杭基礎の液状化抵抗特性に関する遠心模型実験／大林組［正］樋口 俊一・喜多 直之・西岡 英俊
Ⅰ-220　斜杭基礎高架橋における列車走行安全性の向上に関する検討／鉄道総合技術研究所［正］本山 紘希・酒井 大央・室野 剛隆
Ⅰ-221　斜杭基礎の動的制振効果を考慮した鉄道高架橋の耐震照査例／復建エンジニヤリング［正］秋山 慎一郎・本山 紘希・西岡 英俊
Ⅰ-222　杭頭絶縁基礎の地震時挙動(その1：地震観測による検討) ／清水建設［F］木全 宏之・西村 晋一・河田 雅也
Ⅰ-223　杭頭絶縁基礎の地震時挙動(その2：遠心模型振動実験のシミュレーション解析) ／清水建設［正］坂井 康伸・木全 宏之・福武 毅芳
Ⅰ-224　既設杭基礎のシートパイル補強工法の液状化時補強効果に関する解析的検討～液状化指数の感度検証～／鉄道総合技術研究所［正］松浦 光佑・西岡 英俊・上田 恭平

Ⅰ-5（全学教育推進機構A棟A104）／9月10日(水)

■橋梁一般(測定) ／10:30～12:00／中村 聖三(長崎大学)
Ⅰ-225　縦トラスを有する箱桁橋の鋼床板の実橋載荷応力測定／大阪市立大学［学］高井 俊和・儀賀 大己・山口 隆司
Ⅰ-226　国内最大級の支間長を有する鋼ポータルラーメン橋の実橋載荷試験／西日本高速道路［正］岩元 和彦・前原 直樹・山野 修
Ⅰ-227　三径間連続鋼鈑桁橋の静載荷実験に関する数値シミュレーション／室蘭工業大学［学］成田 彩華・小室 雅人・栗橋 祐介
Ⅰ-228　高速道路におけるBWIMを利用した活荷重特性の把握／西日本高速道路エンジニアリング関西［正］河田 直樹・東野 忠雄・緒方 辰男
Ⅰ-229　PC橋における活荷重測定の試行／西日本高速道路エンジニアリング関西［正］高崎 裕子・河田 直樹・濱 博和
Ⅰ-230　ゴム式ベッドプレートによる鉄桁のバタツキに関する研究／西日本旅客鉄道［正］佐藤 篤
Ⅰ-231　作30年式上路鈑桁のまくらぎ固定度が上フランジの面外曲げ挙動に与える影響／JR西日本［正］清 敏宏・豊田 隼也・紙田 茂

■耐風・風工学(1) ／12:45～14:15／白土 博通(京都大学)
Ⅰ-232　鋼ニールセンアーチ人道橋の振動特性の同定とより簡易な振動測定手法の検討／東京理科大学［学］木村 公亮・八幡 太一・木村 吉郎
Ⅰ-233　桁構造に着目した合理化構造吊橋に関する研究／横浜国立大学［学］岡崎 洋子・勝地 弘
Ⅰ-234　超長大斜張吊橋の構造・耐風特性の解析／横浜国立大学［学］藤井 美久・山田 均・勝地 弘
Ⅰ-235　風速の実測データを用いた海上3径間鋼箱桁橋のガスト応答解析の検討／東京理科大学［学］山崎 一真・伊藤 麻耶・木村 吉郎
Ⅰ-236　相模川橋の耐風安定性検討について―簡易風洞試験―／三菱重工鉄構エンジニアリング［正］北川 淳一・小野 聖久・清田 洋
Ⅰ-237　相模川橋の耐風安定性検討について―全橋模型試験―／中日本高速道路［正］小野 聖久・清田 洋・北川 淳一
Ⅰ-238　新天門橋架設時の耐風安定性に関する検討／横河ブリッジホールディングス［正］川東 龍則・原田 修一・木村 健史
Ⅰ-239　大型パネルで覆われたI桁橋の耐風特性／川田テクノロジーズ［正］畠中 真一・甲木 里沙・越後 滋

■耐風・風工学(2) ／14:30～16:00／松宮 央登(電力中央研究所)
Ⅰ-240　淡路花博における来場者数の気象要因に関する事後分析／法政大学［正］北川 徹哉
Ⅰ-241　塩分を含むミストを利用した橋梁の飛来塩分付着量予測法の検討／日本大学［正］長谷部 寛・榊原 佑基・山谷 一生
Ⅰ-242　橋梁表面に付着する部位別塩分量の推定(その1) ―付着塩分量推定手法の検討―／京都大学［学］秦 聡一朗・野口 恭平・金城 佑紀
Ⅰ-243　橋梁表面に付着する部位別塩分量の推定(その2) ―付着量の長期予測に向けて―／京都大学［学］野口 恭平・秦 聡一朗・金城 佑紀
Ⅰ-244　CFDにおける防風ネットの圧力損失係数決定法と風速分布再現に関する研究／徳島大学［学］寺本 真太郎・野田 稔・長尾 文明
Ⅰ-245　LESによるIOWA型トルネードシミュレータの再現／徳島大学［学］森 一樹・野田 稔・長尾 文明
Ⅰ-246　数値流体解析を利用した複雑地形上の乱流場の特性の解明／東京大学［学］田中 貴大・石原 孟

Ⅰ-5（全学教育推進機構A棟A104）／9月11日(木)

■耐風・風工学(3) ／8:45～10:15／勝地 弘(横浜国立大学)
Ⅰ-247　縮尺の異なる箱桁断面の渦励振応答におけるレイノルズ数依存性の検討／横浜国立大学［学］福澤 樹・勝地 弘・山田 均
Ⅰ-248　断面比B／D=1.18のトラス橋斜材の空力弾性振動／九州工業大学［学］玉井 佑典・松田 一俊・加藤 九州男
Ⅰ-249　矩形断面に作用する自励空気力の抽出法及び空間相関に関する研究／京都大学［学］谷口 優佑・木原 大樹・太古 一貴
Ⅰ-250　正方形柱に作用する変動空気力の開口による抑制手法／関東学院大学［正］中藤 誠二
Ⅰ-251　風速予測を取り入れた車両横転警戒情報システムの考案／京都大学［学］和田 光平・立花 嵩・白土 博通
Ⅰ-252　一様流中の静止斜円柱模型後流側の流れの特性／東京理科大学［学］原尾 勇輝・笹川 一磨・木村 吉郎
Ⅰ-253　並列ケーブルの空力振動応答特性と非定常空気力に関する研究／京都大学［学］荒木 伸哉・小杉 翼・有間 将司
Ⅰ-254　周波数解析による円柱周辺の可視化画像の解析法に関する検討／徳島大学［学］大西 慎也・野田 稔・松川 将大

■耐風・風工学(4) ／10:30～12:00／村上 琢哉(JFEスチール)
Ⅰ-255　実風車ブレードの簡易な振動測定手法の精度向上の検討／東京理科大学［学］河合 康太・新井 那亜・幽谷 栄二郎
Ⅰ-256　ピッチ制御とロータ重心偏差を考慮した洋上風力発電設備の荷重評価／東京大学［正］山口 敦・石原 孟
Ⅰ-257　風力発電タワー振動長期計測に基づく基礎疲労照査のための作用の推定／法政大学［学］米津 薫・藤山 知加子・子田 康弘
Ⅰ-258　FEMを用いた実風車タワーおよび基礎の応答再現解析／法政大学［正］藤山 知加子・米津 薫・子田 康弘
Ⅰ-259　風車の荷重特性とタワー接合部の非線形性を考慮した太鼓山風車タワー疲労破断原因の解明／東京大学［学］山崎 慈生・石原 孟

Ⅰ-5（全学教育推進機構A棟A104）／9月12日(金)

■衝撃（解析）／8:45～10:15／栗橋 祐介（室蘭工業大学）

Ⅰ-260　緩衝金具を有する落石防護網の静的解析手法に関する研究／長岡技術科学大学［学］山本 順也・鍋島 渉・岩崎 英治
Ⅰ-261　ソイルセメントを用いた三層緩衝構造の耐衝撃挙動に関する弾塑性応答解析／室蘭工業大学［学］平田 健朗・小室 雅人・牛渡 裕二
Ⅰ-262　急速一軸引張試験による短繊維補強セメント系複合材料の動的引張特性に関する実験的研究／防衛大学校［学］柴田 大希・上野 裕稔・別府 万寿博
Ⅰ-263　SPH法を用いた鉄筋コンクリートの付着破壊に関する基礎的検討／九州大学［学］中村 裕希・園田 佳巨
Ⅰ-264　桁衝突を許容した耐震補強のコストパフォーマンスに関する一考察／阿南工業高等専門学校［正］森山 卓郎・濱本 朋久・山尾 敏孝
Ⅰ-265　ブレーカーによるコンクリートのはつりに関する衝撃解析／砂子組［正］平島 博樹・近藤 里史・佐藤 昌志
Ⅰ-266　人力ブレーカーはつりに関する計測と評価／砂子組［正］近藤 里史・平島 博樹・広上 伸二
Ⅰ-267　従来型ポケット式落石防護網の三次元衝撃応答解析／室蘭工業大学［正］小室 雅人・西 弘明・山口 悟

■衝撃（実験）(1)／10:30～12:00／森山 卓郎（阿南工業高等専門学校）

Ⅰ-268　敷砂または砕石を緩衝材として用いた実規模RC製ロックシェッドの重錘落下衝撃実験／室蘭工業大学［学］佐伯 侑亮・今野 久志・栗橋 祐介
Ⅰ-269　落石緩衝材としての敷砂と砕石の緩衝特性に関する大型重錘落下衝撃載荷実験／土木研究所寒地土木研究所［正］山口 悟・木幡 行宏・小室 雅人
Ⅰ-270　落石防護網の実規模静的載荷実験／土木研究所寒地土木研究所［正］西 弘明・加藤 俊二・今野 久志
Ⅰ-271　落石防護網の実規模衝撃載荷実験／土木研究所寒地土木研究所［正］今野 久志・加藤 俊二・西 弘明
Ⅰ-272　落石防護擁壁用緩衝システムのジオグリッド位置が緩衝効果に与える影響の検討／構研エンジニアリング［正］保木 和弘・小室 雅人・牛渡 祐二
Ⅰ-273　ソイルセメントにウレタン被覆した緩衝システムの重錘落下衝撃実験／構研エンジニアリング［正］鈴木 健太郎・栗橋 祐介・川瀬 良司
Ⅰ-274　ソイルセメントを用いた緩衝システムの実規模実験／構研エンジニアリング［正］牛渡 裕二・内藤 直人・小室 雅人
Ⅰ-275　ソイルセメントを用いた落石防護擁壁用緩衝システムの性能規定に向けた実験的検討／構研エンジニアリング［正］菅原 慶太・牛渡 裕二・栗橋 祐介

■衝撃（実験）(2)／15:00～16:30／山口 悟（土木研究所 寒地土木研究所）

Ⅰ-276　竜巻飛来物に対する防護ネットの限界吸収エネルギー算定手法の提案／電力中央研究所［正］南波 宏介・白井 孝治
Ⅰ-277　砂防堰堤における礫材透水効果による衝撃水圧の基礎実験／防衛大学校［学］立石 龍平・堀口 俊行・香月 智
Ⅰ-278　高速衝突を受けるPVA繊維補強セメント系複合材料板の局部破壊抑制効果に関する検討／防衛大学校［学］上野 裕稔・別府 万寿博・小川 敦久
Ⅰ-279　拘束条件に着目した落橋防止構造用緩衝ゴムの衝撃力低減効果に関する実験的考察／九州大学［学］宇野 まり子・玉井 宏樹・園田 佳巨
Ⅰ-280　初期損傷を有するRC 梁のAFRP シート曲げ補強による耐衝撃性向上効果／室蘭工業大学［正］栗橋 祐介・今野 久志・三上 浩
Ⅰ-281　AFRP シート曲げ補強 RC 梁の耐衝撃挙動に及ぼすシート目付量の影響／釧路工業高等専門学校［F］岸 徳光・栗橋 祐介・今野 久志
Ⅰ-282　ポリウレア樹脂で表面被覆したRC構造物の衝撃力に対する形状保持効果／清水建設［正］高梨 和光・井出 一直・藤掛 一典
Ⅰ-283　ポリウレア樹脂で表面被覆したRC壁の衝撃挙動と樹脂被覆による安全性向上効果／清水建設［F］奥石 正己・高梨 和光・西村 淳

Ⅰ-6（全学教育推進機構A棟A201）／9月10日(水)

■橋梁の耐震(1)／8:45～10:15／玉井 真一（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）

Ⅰ-284　損傷した円形鋼製橋脚のコンクリート充填修復後の耐震性能評価／愛知工業大学［学］嶋口 儀之・鈴木 森晶・中村 訓大
Ⅰ-285　円形RC 橋脚の耐震性における寸法効果に関する実験的検討／岐阜大学［学］杉森 克成・木下 幸治・内田 裕市
Ⅰ-286　中空断面RC橋脚の断面条件が地震時破壊特性と変形能に及ぼす影響／土木研究所［正］篠原 聖二・末崎 将司・堺 淳一
Ⅰ-287　せん断スパン比に着目したコンクリート充填角形鋼管柱の力学的性状／JR東日本［正］平野 雄大・吉田 一・黒田 智也
Ⅰ-288　内巻きスパイラルRC柱を有する鉄道高架橋の動的非線形解析による終局耐力の推定／東京大学［学］中村 渚・水谷 司
Ⅰ-289　長方形断面柱の変形性能に関する一考察／JR東日本［正］門 真太郎・田附 伸一・岩田 道敏
Ⅰ-290　実大CFT橋脚における耐震性能と寸法効果に関する解析的検討／横河ブリッジ［正］曽我 麻衣子・松岡 陵平・後藤 芳顯
Ⅰ-291　斜材付きπ型ラーメン橋の耐震性能の検討／ドーユー大地［正］李 首一・緒方 辰男・桑原 秀明

■橋梁の耐震(2)／10:30～12:00／池田 学（鉄道総合技術研究所）

Ⅰ-292　連続高架橋模型の2方向加振実験による円形断面鋼製橋脚の終局挙動／名古屋工業大学［正］海老澤 健正・後藤 芳顯・奥村 徹
Ⅰ-293　軸力変動下で繰り返し曲げを受ける鋼ラーメン柱の弾塑性性状に関する研究／神戸市立工業高等専門学校［学］増田 雄輔・山田 宰・酒造 敏廣
Ⅰ-294　はりがせん断崩壊する鋼二層門形ラーメンの弾塑性解析／和歌山工業高等専門学校［学］野田 拓史・上野山 拓也・山田 宰
Ⅰ-295　フィレットが円柱を有する鋼製橋脚隅角部の弾塑性挙動に及ぼす影響に関する解析的検討／岐阜大学［学］鈴木 達也・木下 幸治
Ⅰ-296　地震動を受ける無充填円形鋼製橋脚の倒壊挙動の特性／名古屋工業大学［F］後藤 芳顯・Nguyen Van Bach・水野 剛規
Ⅰ-297　径厚比パラメータが比較的大きい円形断面鋼製橋脚の変形挙動／大阪大学［学］安積 恭子・小野 潔・秋山 充良
Ⅰ-298　異なる構造パラメータを有する円形断面鋼製橋脚の修復方法の評価／愛知工業大学［学］中村 訓大・鈴木 森晶・嶋口 儀之
Ⅰ-299　小松川ジャンクション接続部における既設鋼製橋脚のアンカー部補強に関する構造検討／首都高速道路［正］石田 和久・松原 拓朗・伊原 茂

■橋梁の耐震(3)／12:45～14:15／五十嵐 晃（京都大学）

Ⅰ-300　円形断面鋼製橋脚を対象とした地震時倒壊解析の効率化に関する検討／ジェイアール東海コンサルタンツ［正］本田 真基・海老澤 健正・後藤 芳顯
Ⅰ-301　鋼トラス橋の部材破断を起点とした全体崩壊挙動の解析と崩壊判定法／岐阜工業高等専門学校［正］水野 剛規・後藤 芳顯
Ⅰ-302　ファイバーモデルを用いた鋼トラス上部工の動的解析手法（関越自動車道 片品川橋）／東日本高速道路［正］高久 英彰・鈴木 雄吾・金田 和男
Ⅰ-303　局部的な異質地盤特性の影響を考慮した大型ケーソン部での入力地震動の評価（関越自動車道 片品川橋）／日立造船［正］松下 裕明・鈴木 雄吾・金田 和男
Ⅰ-304　改定された設計地震動が鋼ローゼ橋の地震時応答特性に与える影響／大阪大学［学］石川 達也・小野 潔・馬越 一也
Ⅰ-305　離散型FEMの精度検証と石造アーチ橋の強度評価への応用／九州大学［学］野上 智隆・浅井 光輝・水田 洋司

■橋梁の耐震(4)／14:30～16:00／高橋 良和（京都大学）

Ⅰ-306　大規模鋼橋の漸増動的解析（IDA）における入力波形による評価のばらつき／阪神高速道路［正］谷口 惺・五十嵐 晃・木田 秀人
Ⅰ-307　漸増動的解析（IDA）に基づく既設鋼斜張橋の耐震性能評価／ショーボンド建設［正］木田 秀人・五十嵐 晃・杉浦 邦征
Ⅰ-308　入力エネルギーに基づく非線形応答に対応した地震動強度指標の提案／東北大学［学］笠原 康平・根本 賢斗・松崎 裕
Ⅰ-309　超連続基礎を有する高架橋の提案／鉄道総合技術研究所［正］田中 浩平・室野 剛隆
Ⅰ-310　H鋼を挿入したPC電車線柱の倒壊防止工法／鉄道総合技術研究所［正］酒井 大央・室野 剛隆・西村 隆義
Ⅰ-311　電車線柱に着目した鉄道高架橋の動的非線形解析による耐震性能評価／東京大学［正］横田 祐起・水谷 司

Ⅰ-6（全学教育推進機構A棟A201）／9月11日(木)

■橋梁の耐震(5) ／8:45～10:15／豊岡 亮洋(鉄道総合技術研究所)

Ⅰ-312 壁式橋脚における地震時水平抵抗を期待した瓦型ゴムシューの開発(その1) ／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］野上 雄太・内海 宏基・石橋 忠良

Ⅰ-313 壁式橋脚における地震時水平抵抗を期待した瓦型ゴムシューの開発(その2) ／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］内海 宏基・野上 雄太・石橋 忠良

Ⅰ-314 角型鋼管内部にスパイラル筋を配置した鋼角ストッパーの交番載荷試験／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］貴志 紀之・栗原 啓之・幸田 和明

Ⅰ-315 経年劣化ゴム支承の載荷試験による残存性能の調査／京都大学［学］濱野 真彰・五十嵐 晃・党 紀

Ⅰ-316 鉛プラグ入り積層ゴム支承の経年劣化による減衰性能低下モデル／オイレス工業［正］東出 知大・五十嵐 晃・党 紀

Ⅰ-317 鉛プラグ入り積層ゴム支承の損傷メカニズム検証／阪神高速道路［正］林 訓裕・足立 幸郎・五十嵐 晃

Ⅰ-318 連続高架橋模型の2方向加振実験によるゴム支承の挙動特性の検討／名古屋工業大学［正］奥村 徹・後藤 芳顯・小畑 誠

Ⅰ-319 ゴム支承と基礎の評価値のばらつきが橋の地震応答に及ぼす影響／土木研究所［正］末崎 将司・堺 淳一・横川 英彰

■耐震実験／10:30～12:00／党 起(埼玉大学)

Ⅰ-320 水平振動試験による斜角桁の回転変位に関する一考察／JR東日本［正］加藤 格・黒田 智也

Ⅰ-321 斜角桁の地震時回転挙動と下部工変位の関係のモデル化／西日本旅客鉄道［正］山田 孝弘・妹尾 尚宜・猿渡 隆史

Ⅰ-322 斜角桁の地震時回転挙動への下部工変位の影響に関する実験的検討／鉄道総合技術研究所［正］猿渡 隆史・西岡 英俊・山田 孝弘

Ⅰ-323 複数の構造実験部分を有するサブストラクチャハイブリッド地震応答解析のためのデスクトップ実験／北見工業大学［学］齋藤 樹里・宮森 保紀・山崎 智之

Ⅰ-324 1G場構造模型と遠心場杭基礎―地盤模型を並列したハイブリッド地震応答実験手法の開発／構造計画研究所［正］佐々木 義志・高橋 良和

Ⅰ-6（全学教育推進機構A棟A201）／9月12日(金)

■地震応答解析(1) ／8:45～10:15／矢部 正明(長大)

Ⅰ-325 車両考慮による高速鉄道高架橋の非線形地震応答解析／神戸大学［学］松本 修平・川谷 充郎・何 興文

Ⅰ-326 桁連結工を有する鋼鉄道橋の地震時応答特性評価／鉄道総合技術研究所［正］斉藤 雅充・池田 学・今田 大元

Ⅰ-327 曲線桁高架道路橋―車両連成系の線形・非線形による耐震性能評価／神戸大学［学］横山 晋矢・川谷 充郎・金 哲佑

Ⅰ-328 東北地方太平洋沖地震による強震動を受けた免震橋梁の地震時挙動に関する分析／筑波大学［学］藤川 昌也・庄司 学

Ⅰ-329 鋼トラス橋のファイバーモデルによる動的解析に用いる応力―ひずみ関係に関する検討／大阪大学［学］道谷 梓・小野 潔・馬越 一也

Ⅰ-330 改定された海溝型設計地震動を用いた長大トラス橋の地震応答解析／九州大学［学］井手 将一・梶田 幸秀・八ツ元 仁

Ⅰ-331 南海トラフ巨大地震を想定した長大斜張橋の地震応答解析／九州大学［学］小林 智宏・梶田 幸秀・八ツ元 仁

Ⅰ-332 強震時における室内機器等の転倒抑制デバイスの解析的評価／埼玉大学［学］竹村 隆一・齊藤 正人

■地震応答解析(2) ／10:30～12:00／西田 秀明(国土技術政策総合研究所)

Ⅰ-333 地震動の高振動数成分が杭基礎のキネマティック応答に及ぼす影響に関する研究／埼玉大学［学］佐藤 絵人・齊藤 正人

Ⅰ-334 杭基礎の鉛直動的ばねの簡易設定法に関する検討／日建設計シビル［正］川満 逸雄・國津 博昭・今枝 裕貴

Ⅰ-335 Dynamic Analysis of Reinforced Concrete Abutments Subjected to Ground Motion／熊本大学［学］サティオラン デシ・濱本 朋久・山尾 敏孝

Ⅰ-336 奥行方向にせん断ばねで結合した自由地盤による地盤の3次元効果の導入に関する検討／伊藤忠テクノソリューションズ［正］馬渕 倉一・室野 剛隆・田中 浩平

Ⅰ-337 2008年岩手・宮城内陸地震における荒砥沢地すべりの解析シミュレーション／法政大学［学］嶋中 貴史・酒井 久和・竹澤 麻衣

Ⅰ-338 TRANSFORMED GYRO-LUMPED PARAMETER MODEL AND ITS APPLICATION TO MULTI-STORY BUILDINGS／Commonwealth Engineers Co., Ltd.［正］Shrestha Naba・齊藤 正人

Ⅰ-339 入力波動場に基づく、さまざまな建物の相対的地震危険度評価／東京大学［正］飯田 昌弘

■地震応答解析(3) ／15:00～16:30／広瀬 剛(東日本高速道路)

Ⅰ-340 ゴム支承の引張特性を反映した解析モデルの導入によるゴム支承のコンパクト化に関する解析的研究／九州大学［学］岩本 周哲・植田 健介・崔 準ホ

Ⅰ-341 鉛直方向の弾性ゴム支承の応答に着目した標準的なRC橋梁構造物の耐震性に関する研究／山口大学［学］堀田 真人・中村 佑太朗・渡邊 学歩

Ⅰ-342 異なる断面諸元のRC橋脚に対する地震応答解析／JR東日本［正］友竹 幸治・小林 将志

Ⅰ-343 地盤種別を考慮したモノレールPC桁高架橋の非線形地震応答解析／神戸大学［学］延命 卓哉・川谷 充郎・金 哲佑

Ⅰ-344 建築と土木の複合地下構造物の地震応答計算の一考察／早稲田大学［学］石田 充朗・清宮 理

Ⅰ-345 鉄道組積造橋脚の地震時挙動に関する研究／京都大学［学］花房 陸斗・清野 純史・古川 愛子

Ⅰ-346 損傷度指標を用いた道路橋の残存耐震性能評価／大阪産業大学［正］山下 典彦・島袋 武

Ⅰ-7（全学教育推進機構A棟A202）／9月10日(水)

■地震防災(1) ／10:30～12:00／三上 卓(東濃地震科学研究所)

Ⅰ-347 被災事例に基づく災害シナリオ構築手法および支援ツール群の開発／国土技術政策総合研究所［正］日下部 毅明・木村 祐二

Ⅰ-348 スペースシンタックス理論に基づく広域防災拠点設置手法の検討／千葉大学［学］羽深 裕希・丸山 喜久

Ⅰ-349 自動車運転時の津波避難支援に関する基礎実験／千葉大学［学］榊 想太郎・丸山 喜久

Ⅰ-350 津波避難初期過程におけるコミュニティのシミュレーションモデルの構築／京都大学［学］土肥 裕史・奥村 与志弘・清野 純史

Ⅰ-351 避難場所の収容人数を考慮した津波災害時の群衆避難行動に関する一検討／関東学院大学［学］佐藤 良太・岸 祐介・北原 武嗣

Ⅰ-352 地震災害時を想定した安否確認疑似体験ツールの試作／京都大学［正］小山 真紀・横枕 直人・清野 純史

■地震防災(2) ／12:45～14:15／日下部 毅明(国土技術総合研究所)

Ⅰ-353 津波火災の主原因はプロパンガスである／［F］伯野 元彦

Ⅰ-354 東日本大震災ヒアリング調査に基づく高齢者が津波犠牲となった要因分析／東濃地震科学研究所［正］三上 卓

Ⅰ-355 釧路市低平地における避難条件の違いが及ぼす津波避難可能範囲の検討／北見工業大学［学］清水 俊明・内海 晃太・宮森 保紀

Ⅰ-356 非常時情報下における介護保険施設での避難誘導戦略／香川大学［F］野田 茂・岡崎 真友子

Ⅰ-357 歴史遺産都市鎌倉への高規格海岸道路と広域避難所兼観光用駐車場を埋設した山裾閉口型津波防災松林丘陵の提案／遥感環境モニター［正］金子 大二郎

Ⅰ-358 地域防災力の向上における大学生の力を活かすための考え方／福岡大学［正］渡辺 浩・千田 知弘・清田 大成

Ⅰ-359 徳島大学における防災リーダー養成の取り組み／徳島大学［正］鳥庭 康代・中野 晋・梅岡 秀博

■地震防災(3) ／14:30～16:00／能島 暢呂(岐阜大学)

Ⅰ-360 最大加速度と最大速度を用いた構造物被害の簡易評価法の有効性の確認／ジェイアール総研エンジニアリング［正］日野 篤志・坂井 公俊・室野 剛隆

Ⅰ-361 地震動による建物被害を予測するための破壊力指標の検討／東京都水道局［正］岡田 佳久・小川 好

Ⅰ-362 東京都地域危険度調査データに基づく建物倒壊危険量の簡易推定／千葉大学［学］岩瀬 早綾・山崎 文雄

Ⅰ-363 道路機能への地震による影響評価のための曝露交通量の利用／千葉大学［学］上原 康平・丸山 喜久

Ⅰ-364 東京湾北部地震による鉄道輸送力への影響予測／千葉大学［学］佐々木 優美・丸山 喜久

Ⅰ-365 砕石置換による電柱の液状化対策効果の解析的検証／東洋大学［学］鈴木 理也・鈴木 崇伸・下窪 邦裕

Ⅰ-366 振動台を用いた実大石灯篭の耐震補強効果に関する実験的検証／金沢大学［正］村田 晶・宮島 昌克・清水 諒

Ⅰ-7（全学教育推進機構A棟A202）／9月11日(木)

■地震防災(4) ／8:45～10:15／庄司 学(筑波大学)

Ⅰ-367　航空レーザ測量を用いた地震被害予測のための高架橋データベース構築に関する検討／中央開発［正］西岡 佑介・坂井 公俊・本山 紘希
Ⅰ-368　橋に影響を及ぼす地震動が観測された周辺の道路橋の被害分析／土木研究所構造物メンテナンス研究センター［正］稲積 一訓・星隈 順一
Ⅰ-369　3次元動的解析による斜橋に添架された通信管路被害の分析／東洋大学［学］熊田 光伸・鈴木 崇伸
Ⅰ-370　津波入射波の形状が橋梁上部構造への作用津波力に及ぼす影響に関する水路模型実験／高速道路総合技術研究所［正］広瀬 泰之・青木 圭一・鈴木 俊光
Ⅰ-371　水面勾配が緩やかな孤立波による橋梁上部構造への作用津波力評価に関する数値解析／三菱重工業［正］四條 利久磨・青木 圭一・広瀬 泰之
Ⅰ-372　通信用管橋の取替補修技術の耐震性評価について／NTTアクセスサービスシステム研究所［正］田中 宏司・杉山 俊幸・瀬田 亮
Ⅰ-373　既存ストックの有効活用を目指した通信用鋼管ネジ継手の特性把握について／NTTアクセスサービスシステム研究所［正］若竹 雅人・田中 宏司・榊 克実

■地震防災(5) ／10:30～12:00／丸山 喜久(千葉大学)

Ⅰ-374　予測震度または観測震度を与件とする震度継続時間予測式の提案／岐阜大学［正］能島 暢呂
Ⅰ-375　供給系ライフラインの地震時機能評価モデルを用いた市区町村別簡易評価法／岐阜大学［正］加藤 宏紀・能島 暢呂
Ⅰ-376　2011年東北地方太平洋沖地震による下水道汚水管被害を踏まえた被害率曲線の高精度化／筑波大学［学］寺嶋 黎・庄司 学・永田 茂
Ⅰ-377　下水道管路施設の地震リスクアセスメントに関する研究／兵庫県［正］常井 友也
Ⅰ-378　2011年東北地方太平洋沖地震により被災した国道橋梁のフラジリティー特性／日本大学［正］中村 晋
Ⅰ-379　対象路線に沿った地盤および高架橋の地震動増幅の空間変動／鉄道総合技術研究所［正］岩田 直泰・津野 靖士
Ⅰ-380　正断層、逆断層変形を受ける砂地盤中の杭基礎の変形挙動／東京工業大学［学］宮野 展宏・竹村 次朗

Ⅰ-7（全学教育推進機構A棟A202）／9月12日(金)

■地盤液状化(1) ／8:45～10:15／梶田 幸秀(九州大学)

Ⅰ-381　2011年東北地方太平洋沖地震と1987年千葉県東方沖地震の液状化被害の比較／千代田コンサルタント［正］橋本 隆雄
Ⅰ-382　初期せん断が液状化強度や変形特性に与える影響／東京電機大学［学］北村 友依・脇中 康太・安田 進
Ⅰ-383　石炭灰で構成される鉄道盛土の液状化とその影響評価／鉄道総合技術研究所［正］佐藤 武斗・星 智和・篠崎 有司
Ⅰ-384　薄鋼矢板を用いた戸建住宅の液状化被害軽減工法に関する実験的研究―1／4模型振動実験―／住友林業［正］金子 雅文・安田 進・平出 務
Ⅰ-385　東京湾沿岸埋立地における鉛直アレー記録の分析(その1 地震記録と分析方法) ／土木研究所［正］谷本 俊輔・川口 剛・佐々木 哲也
Ⅰ-386　東京湾沿岸埋立地における鉛直アレー記録の分析(その2 本震・余震による液状化発生深度) ／土木研究所［正］川口 剛・谷本 俊輔・佐々木 哲也

■地盤液状化(2) ／10:30～12:00／福武 毅芳(清水建設)

Ⅰ-387　鹿島地域の液状化噴砂と上下水道管路被害との空間的関係／神戸大学［学］加藤 蒼二・鍬田 泰子
Ⅰ-388　液状化により甚大な被害を受けた埋設管路網・敷設下の工学的基盤に作用した地震動の特徴／筑波大学［正］庄司 学・築地 拓哉
Ⅰ-389　繰返し弾塑性構成式を用いた浦安市域の地盤の液状化解析／京都大学［学］松岡 浩志・木元 小百合・岡 二三生
Ⅰ-390　液状化地盤における有効応力解析を用いた盛土耐震補強の設計／東日本旅客鉄道［正］山内 真也・中村 宏・米川 裕幸
Ⅰ-391　入力地震動の違いによる液状化地盤上の橋台の応答変位に関する一考察／九州大学［学］柿永 恭佑・梶田 幸秀・宇野 州彦
Ⅰ-392　2011東北地方太平洋沖地震による霞ヶ浦周辺堤防の液状化沈下解析／愛媛大学［学］藤原 憲・岡村 未対・陣内 尚子

■耐震設計法／15:00～16:30／岡田 太賀雄(土木研究所)

Ⅰ-393　活荷重を受けるPC 桁の破壊可能性を目標安全水準としたRC 橋脚の耐震信頼性設計／早稲田大学［学］神長 悠樹・野上 雄介・秋山 充良
Ⅰ-394　想定以上の地震動に対するRC橋脚の耐震裕度よる耐震性能評価／関西大学［学］木野村 宏昭・山田 駿也・堂垣 正博
Ⅰ-395　マルチハザード(地震と津波)を受ける橋梁の信頼性評価に関する基礎的研究／早稲田大学［学］小川 直也・高熊 秀・秋山 充良
Ⅰ-396　南海トラフ地震により漂流した船舶の衝突がRC橋脚に与える影響について／阪神高速道路［正］八ツ元 仁・鈴木 威・田崎 賢治
Ⅰ-397　鋼多柱式ラーメン構造の耐震性能検証法に関する研究／オリエンタルコンサルタンツ［正］梅林 福太郎・大森 貴行・神田 恭太郎
Ⅰ-398　軟弱地盤におけるパイルベント構造物の動的相互作用に関する検討／鉄道総合技術研究所［正］宇佐美 敦浩・室野 剛隆
Ⅰ-399　単調載荷を受ける構造システムの弾性・弾完全塑性ばねの最大応答変形量とひずみエネルギー分担率のコントロール手法に関する一考察／埼玉大学［正］齊藤 正人

Ⅰ-8（全学教育推進機構A棟A214）／9月10日(水)

■盛土の耐震／10:30～12:00／小島 謙一(鉄道総合技術研究所)

Ⅰ-400　盛土や地盤の低強度での無被害例／元前橋工科大学［F］那須 誠
Ⅰ-401　JR東日本における首都直下地震対策と盛土の耐震補強／東日本旅客鉄道［正］川嵜 淳・土屋 尚登・橘内 真太郎
Ⅰ-402　長スパンGRS一体橋梁の温度伸縮が地震時応答に与える影響の解析的検討／鉄道総合技術研究所［正］佐々木 徹也・西岡 英俊・山東 徹生
Ⅰ-403　鋼矢板、鋼管杭連続壁で補強された堤防の耐津波性能の検証／技研製作所［正］中山 知大・古市 秀雄・原 忠
Ⅰ-404　既設盛土の地震時変位計算時の設定地盤定数に関する一考察／東急建設［正］冨田 佑一・小阪 拓哉
Ⅰ-405　砕石竪排水工施工後の高速道路盛土の微動特性の変化／芝浦工業大学［学］岩瀬 貴弘・紺野 克昭・鈴木 雄吾
Ⅰ-406　高盛土の耐震性能向上に関する一試算／エイト日本技術開発［正］片根 弘人・金 聲漢・佐々木 秀典
Ⅰ-407　振動台模型実験による改良型ジオセル補強盛土の耐震性の比較／東京大学［学］米良 有玄・清田 隆・HAN Xinye

■地盤震動(観測)(1) ／12:45～14:15／山田 雅行(ニュージェック)

Ⅰ-408　地震時の地殻変動ひずみと構造物被害との関係(3.11地震を中心として) ／東北工業大学［F］神山 眞・小出 英夫・沢田 康次
Ⅰ-409　常時微動観測に基づく小浜平野の地下構造の推定(その1) ／福井大学［正］小嶋 啓介・伊藤 良樹
Ⅰ-410　短周期微動データを用いた地震波干渉法の表層構造調査への適用性／鉄道総合技術研究所［正］津野 靖士・岩田 直泰・宮腰 寛之
Ⅰ-411　福井県内の谷埋め盛土造成地における常時微動特性について／福井大学 ［学］桐山 大志・小嶋 啓介
Ⅰ-412　福井平野のPS-P時間の評価／舞鶴工業高等専門学校［正］西川 隼人・安井 譲・小嶋 啓介
Ⅰ-413　PS-P時間を付帯条件とした福井平野の深部地盤構造の照査・検討の試み／早稲田大学［正］安井 譲・西川 隼人・小嶋 啓介

■地盤震動(観測)(2) ／14:30～16:00／津野 靖士(鉄道総合技術研究所)

Ⅰ-414　那覇市北部地域の微動観測結果／ニュージェック［正］山田 雅行・伊藤 佳洋・森田 真弘
Ⅰ-415　超高密度地震観測記録に基づいたコヒーレンスに含まれる地点間特性と入力特性の同定の試み／京都大学［学］木村 紗也佳・後藤 浩之・盛川 仁
Ⅰ-416　比較的地震基盤の浅い地域における地震動の増幅特性に関する基礎的検討／日本大学［学］掘 勇斗・中村 晋
Ⅰ-417　兵庫県内の地震観測点の震動特性分析と淡路島地震での検証／神戸大学［学］伊佐 政晃・鍬田 泰子
Ⅰ-418　NIOM解析法によるアースダムの動的物性値の検討／埼玉大学［学］小田 優介・茂木 秀則・曽田 英揮
Ⅰ-419　P波震動波形からS波最大動の波形を即時予測する方法の提案／愛知工業大学［正］倉橋 奨・入倉 孝次郎

Ⅰ-8（全学教育推進機構A棟A214）／9月11日(木)

■地盤震動(解析) ／8:45～10:15／野津 厚(港湾空港技術研究所)
Ⅰ-420 強震記録を用いた地盤の動的変形特性推定法／東電設計［正］栗田 哲史・佐藤 博・足立 倫海
Ⅰ-421 地震時における道路盛土構造物の滑動量の簡易評価手法に関する研究／京都大学［学］真辺 寛人・古川 愛子・清野 純史
Ⅰ-422 2層系地盤伝達関数による級数展開を用いた地盤増幅特性の重ね合わせ表現／京都大学［正］後藤 浩之
Ⅰ-423 1地点の伝達関数とボーリングデータを併用した不整形地盤抽出の可能性／鉄道総合技術研究所［正］坂井 公俊・室野 剛隆・澤田 純男
Ⅰ-424 震源モデルの違いがサイト増幅特性に及ぼす影響の評価／神戸大学［学］出口 拓磨・長尾 毅
Ⅰ-425 震源モデルを変化させた京都府におけるサイト増幅特性の評価／神戸大学［学］香川 耀平・長尾 毅
Ⅰ-426 広帯域強震動予測のための浅部・深部統合地盤モデルの構築／防災科学技術研究所［正］先名 重樹・前田 宜浩・松山 尚典
Ⅰ-427 都市地震シミュレーションにおける3次元地盤振動解析のV&Vに向けて／理化学研究所計算科学研究機構［正］藤田 航平・市村 強・堀 宗朗

■強震動予測・設計地震動／10:30～12:00／後藤 浩之(京都大学)
Ⅰ-428 構造物の耐震検討の観点から見た2011年東北地方太平洋沖地震の複数の震源モデルのパフォーマンスの比較／港湾空港技術研究所［正］野津 厚
Ⅰ-429 特性化震源モデルを用いた2014年伊予灘の地震の強震動シミュレーション／飛島建設技術研究所［正］池田 隆明・釜江 克宏・小長井 一男
Ⅰ-430 2008年岩手宮城内陸地震における広帯域強震動評価／法政大学［学］野畑 拓也・酒井 久和・山崎 龍士
Ⅰ-431 大阪湾周辺における周期数秒レベルの地震動特性評価と地震動予測／岐阜大学［正］久世 益充・杉戸 真太・奥村 正樹
Ⅰ-432 グリーン関数法の波形重ね合わせ時の破壊伝播のゆらぎの影響／中央開発［正］王寺 秀介・田中 浩平・坂井 公俊
Ⅰ-433 減衰の設定方法が長周期地震動評価に与える影響／計算力学研究センター［正］董 勤喜・坂井 公俊・田中 浩平
Ⅰ-434 楕円偏極指標に着目したスペクトル適合水平2方向地震動の作成／京都大学［学］儀久 昴・五十嵐 晃

Ⅰ-8（全学教育推進機構A棟A214）／9月12日(金)

■継手(1) ／8:45～10:15／橋本 国太郎(神戸大学)
Ⅰ-435 高力ボルト継手の終局挙動における変形性能に関する研究／石川工業高等専門学校［学］大河 滉典・三ツ木 幸子・山口 隆司
Ⅰ-436 ボルトピッチおよび列数が高力ボルト摩擦接合継手のすべり後挙動に与える影響／大阪市立大学［学］森山 仁志・山口 隆司・松村 政秀
Ⅰ-437 接合面の一部に変性エポキシ樹脂塗料を塗布した摩擦接合継手のすべり試験／川田工業［正］小笠原 照夫・若林 大・木次 克彦
Ⅰ-438 千鳥配置された高力ボルト摩擦接合継手の荷重伝達機構に関する解析的研究／大阪市立大学［学］山階 清永・山口 隆司・松村 政秀
Ⅰ-439 多列高力ボルト摩擦接合継手のボルト配置がすべり挙動に与える影響に関する実験的研究／大阪市立大学［学］彭 雪・長崎 英二・山口 隆司
Ⅰ-440 高力ボルト継手の終局挙動に及ぼす板厚の研究に関する研究／石川工業高等専門学校［学］舟山 耕平・三ツ木 幸子

■継手(2) ／10:30～12:00／村越 潤(土木研究所)
Ⅰ-441 皿型高力ボルト摩擦接合継手のすべ耐力の低下要因に関する考察／大阪市立大学［学］黒野 佳秀・田畑 晶子・山口 隆司
Ⅰ-442 亜鉛・アルミ擬合金金属溶射摩擦接合面のすべり試験／宮地エンジニアリング［正］緒方 裕己・矢部 泰彦・山下 修平
Ⅰ-443 連結板摩擦面にアルミ溶射を適用した高力ボルト摩擦接合継手のすべり耐力試験／新日鐵住金［正］高木 優任・東 清三郎・冨永 知徳
Ⅰ-444 上向きに溶接したスタッドボルト摩擦接合のすべり試験／日鉄住金ボルテン［正］吉見 正頼・田畑 晶子・山口 隆司
Ⅰ-445 上向きに溶接した高強度スタッドボルトの開発／日本スタッドウェルディング［正］馬場 敏・田畑 晶子・吉見 正頼
Ⅰ-446 鋼板両側に補強部材を連結する2段締めナットの開発／首都高速道路［正］大西 孝典・溝口 孝夫・吉岡 夏樹

■継手(3) ／15:00～16:30／木ノ本 剛(首都高速道路)
Ⅰ-447 簡易熱源を用いた熱処理によるすみ肉まわし溶接部の残留応力低減に関する研究／名古屋大学［正］廣畑 幹人・伊藤 義人
Ⅰ-448 y形溶接割れ試験に基づくSBHS700を用いた溶接継手の溶接性の検討／岐阜大学［学］梶田 太一・木下 幸治
Ⅰ-449 グラインダー処理による溶接残留応力の再分配挙動に関する研究／名古屋大学［学］前田 諭志・舘石 和雄・判治 剛
Ⅰ-450 繰返し荷重下における溶接施工性に関する研究／名古屋大学［学］長谷川 吉男・判治 剛・舘石 和雄
Ⅰ-451 垂直補剛材と水平補剛材交差部の応力分布に関する研究／名古屋大学［学］足立 陸・舘石 和雄・判治 剛
Ⅰ-452 切り欠きの有無によるレ形開先突合溶接鋼部材の力学特性に及ぼす影響に関する解析的研究／名城大学［学］加藤 友哉・康 瀾・葛 漢彬
Ⅰ-453 大型I断面桁橋の併用継手の施工手順に関する一考察／横河ブリッジホールディングス［正］一宮 充・森 猛

Ⅰ-9（全学教育推進機構B棟B207）／9月10日(水)

■疲労(1) ／8:45～10:15／田井 政行(木更津工業高等専門学校)
Ⅰ-454 UITによる溶接継手の疲労強度改善効果の推定方法の検討その2／新日鐵住金［正］島貫 広志・森 猛・田中 睦人
Ⅰ-455 溶接止端から離れた位置へのピーニングによる疲労強度向上効果／京都大学［学］ロッケンバッハ 浄・石川 敏之・服部 篤史
Ⅰ-456 圧縮の過荷重がき裂を閉口したストップホールの疲労強度に与える影響／京都大学［学］松本 理佐・石川 敏之・河野 広隆
Ⅰ-457 垂直補剛材上端のデッキプレート貫通き裂に対する当て板接着補修／京都大学［正］石川 敏之・松本 理佐・河野 広隆
Ⅰ-458 垂直補剛材廻し溶接部に対するICR 処理2 年後の追跡点検と非破壊検査方法／阪神高速技術［正］塚本 成昭・岡本 亮二・青木 康素
Ⅰ-459 赤外線応力分布計測に基づくICR処理による疲労き裂補修効果の検証／神戸大学［正］阪上 隆英・石川 敏之・神田 拓郎
Ⅰ-460 低温変態溶材の新設橋への適用性に関する検討(第2報) ／新日鐵住金［正］安藤 隆一・舘石 和雄・糟谷 正
Ⅰ-461 樹脂注入による溶接継手の疲労き裂補修法に関する研究／名古屋大学［学］服部 真未子・判治 剛・舘石 和雄

■疲労(2) ／10:30～12:00／鈴木 俊光(三菱重工鉄鋼エンジニアリング)
Ⅰ-462 小型疲労試験体を用いた鋼床版ビード貫通き裂の再現／日本橋梁建設協会［正］齊藤 史朗・内田 大介・井口 進
Ⅰ-463 デッキき裂を対象とした鋼床版の疲労耐久性評価のための応力参照点の検討／日本橋梁建設協会［正］林 暢彦・川畑 篤敬・森 猛
Ⅰ-464 デッキき裂を対象とした鋼床版疲労耐久性に対する残留応力除去焼鈍の効果／法政大学［学］山本 一貴・森 猛・林 暢彦
Ⅰ-465 デッキプレートのたわみを低減する新型Uリブ鋼床版構造の提案／新日本技研［正］西田 尚人・坂野 昌弘・楠元 崇志
Ⅰ-466 Uリブ鋼床版のスタッドボルトを用いた補強方法の提案／阪神高速道路［正］田畑 晶子・青木 康素・小野 秀一
Ⅰ-467 スタッドボルトを用いてあて板したUリブ鋼床版の載荷試験／阪神高速道路［正］青木 康素・田畑 晶子・小野 秀一
Ⅰ-468 既設鋼床版のビード貫通き裂に対するSFRC 舗装による補強効果／日本建設機械施工協会［正］小野 秀一・松本 政徳・田畑 晶子
Ⅰ-469 SFRC補強した鋼床版の耐久性に対する付着切れの影響／首都高速道路技術センター［正］平山 繁幸・小西 拓洋・木ノ本 剛

■疲労(3) ／12:45～14:15／穴見 健吾(芝浦工業大学)
Ⅰ-470 腐食損傷を有する鋼床版デッキプレートの応力性状と疲労耐久性に関する解析的検討／九州大学［学］指宿 幸平・貝沼
Ⅰ-471 鋼床版デッキプレートにある架設用吊金具残し部の疲労試験／日本橋梁建設協会［正］山内 誉史・井口 進・貝沼 重信
Ⅰ-472 鋼床版縦リブと横リブスリットの溶接部の疲労強度評価法／名古屋大学［正］判治 剛・加藤 啓都・舘石 和雄
Ⅰ-473 取替え用高性能鋼床版の開発／東京都市大学［F］三木 千壽・横関 耕一・関屋 英彦
Ⅰ-474 Uリブ鋼床版縦横リブ交差部に発生する疲労き裂のFEM

および疲労試験による評価／新日鐵住金［正］横関 耕一・冨永 知徳・三木 千壽
Ⅰ-475　鋼床版縦リブ・横方向部材交差部スリット溶接部のスリット形状に関する検討／土木研究所CAESAR［正］原田 英明・村越 潤・平野 秀一
Ⅰ-476　既設鋼床版トラフリブ横リブスリット部の疲労耐久性向上に関する検討／東京鐵骨橋梁［正］小峰 翔一・森 猛・山田 浩二
Ⅰ-477　Uリブと横リブ交差部の疲労き裂に対するアングル材当て板補強効果の実橋検証／阪神高速技術［正］九鬼 智絵・塚本 成昭・岡本 亮二

■疲労(4) ／14:30～16:00／平山 繁幸(首都高速道路技術センター)
Ⅰ-478　赤外線サーモグラフィを用いた温度ギャップ検知に基づく鋼床版の亀裂検出技術～亀裂検出性に関する検討～／滋賀県立大学［正］和泉 遊以・溝上 善昭・小林 義弘
Ⅰ-479　赤外線サーモグラフィを用いた温度ギャップ検知による疲労亀裂検出／本州四国連絡高速道路［正］溝上 善昭・小林 義弘・和泉 遊以
Ⅰ-480　Numerical analysis for fatigue crack penetration of gusset welded joint using FRANC3D／九州大学［正］鄭 暎樹・貝沼 重信・内田 大介
Ⅰ-481　面外ガセット溶接継手ルート破壊の疲労強度評価法の検討／法政大学［正］谷口 哲憲・森 猛・遠藤 健太
Ⅰ-482　面外ガセット溶接継手の止端仕上げならびにルート破壊防止に関する検討／日本橋梁建設協会［正］鈴木 俊光・森 猛・射越 潤一
Ⅰ-483　面外ガセットを有する鋼桁ウェブの移動荷重による応力変動／法政大学［学］松井 喜昭・森 猛・村越 潤
Ⅰ-484　車両との連成を考慮した鋼桁橋の応力評価と疲労損傷予測／東京大学［正］蘇 迪・嶋田 優樹・長山 智則
Ⅰ-485　既設鋼I桁橋における疲労照査用活荷重応力度の推定に関する検討／土木研究所［正］田代 大樹・村越 潤

Ⅰ-9（全学教育推進機構B棟B207）／9月11日(木)

■疲労(5) ／8:45～10:15／判治 剛(名古屋大学)
Ⅰ-486　支承ソールプレート溶接部の疲労き裂対策箇所の追跡調査結果／首都高速道路［正］木ノ本 剛・友清 剛・仲野 孝洋
Ⅰ-487　鋼I桁支承部の疲労き裂と桁疲労試験／三井造船［正］内田 大介・森 猛・武下 美那
Ⅰ-488　垂直スティフナの設置による鋼I桁支承部の疲労強度改善に関する検討／法政大学［学］武下 美那・森 猛・内田 大介
Ⅰ-489　鋼製橋脚横梁内支点ダイヤフラムに発生した疲労き裂に対する補強構造の効果確認試験／首都高速道路［正］村井 啓太・齋藤 豪・小笠原 照夫
Ⅰ-490　リブ貫通溶接継手の疲労試験／横河ブリッジホールディングス［正］石井 博典・樫村 康介・杉山 裕樹
Ⅰ-491　点検作業性に配慮した鋼箱桁橋のダイアフラムを対象とした実橋載荷試験／横河ブリッジホールディングス［正］池末 和隆・石井 博典・杉山 裕樹
Ⅰ-492　三角プレートを用いた主桁―横桁取合い部に生じたき裂損傷／首都高速道路［正］大西 達也・齋藤 豪
Ⅰ-493　合成桁中間補剛材下端における疲労照査／西日本旅客鉄道［正］入川 充夫・丹羽 雄一郎

■疲労(6) ／10:30～12:00／内田 大介(三井造船)
Ⅰ-494　片持ち式フィンガージョイントの疲労耐久性について／中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋［正］山田 健太郎
Ⅰ-495　Structural Hot Spot Stress法を用いた跨座式モノレール鋼軌道桁の疲労強度評価／琉球大学［学］塚原 雄介・下里 哲弘・有住 康則
Ⅰ-496　モノレール鋼製軌道桁の疲労耐久性に関する検討／九州工業大学［正］山口 栄輝・岐部 正佳・舘石 和雄
Ⅰ-497　疲労損傷に対する補修事例のユーザー参加型データベースの構築／東京都市大学［正］横山 薫・三木 千壽・関屋 英彦
Ⅰ-498　Evaluation of low cycle fatigue strength of corner welded joints based on effective notch strain／名古屋大学［学］朴 鎭垠・判治 剛・舘石 和雄
Ⅰ-499　極低サイクル疲労領域における鋼材のき裂進展挙動／名古屋大学［学］寺尾 名央・判治 剛・舘石 和雄
Ⅰ-500　繰返し塑性変形に伴う非荷重伝達型十字溶接継手の残留応力緩和挙動および疲労き裂発生寿命に関する数値解析的検討／大阪大学［正］堤 成一郎・Fincato Riccardo・新宮原 悠太

Ⅰ-9（全学教育推進機構B棟B207）／9月12日(金)

■振動・波動／8:45～10:15／山田 真幸(東北工業大学)
Ⅰ-501　低S／Nディジタル信号からのLipschitz-Holder指数による特異的物理現象の検出―通信用アンテナの微弱電波信号の降雨による特異的変化の検知を例に―／東京大学［正］水谷 司
Ⅰ-502　レールの振動軸力測定法に関する基礎的研究／新潟大学［学］高橋 寛・阿部 和久・浦川 文寛
Ⅰ-503　円筒内外の流体を考慮したガイド波の伝搬特性／東京工業大学［学］小原 稔生・古川 陽・廣瀬 壮一
Ⅰ-504　軌道状態の違いが鉄道RC桁式高架橋の部材振動に及ぼす影響／鉄道総合技術研究所［正］渡辺 勉・曽我部 正道・徳永 宗正
Ⅰ-505　旅客階段桁における共振対策／JR東日本［正］網谷 岳夫・坂本 賢二・吉田 一
Ⅰ-506　プラント設備解体における塔押倒し時の振動レベル測定に関する報告／コスモエンジニアリング［正］近 信明・木村 透夢・友永 翔太
Ⅰ-507　海震と橋脚の破壊事例が示す強力な地震時鉛直衝撃動の存在と特徴／地球システム総合研究所［正］前原 博・櫻井 春輔・園田 恵一郎

■板・シェル／10:30～12:00／全 邦釘(愛媛大学)
Ⅰ-508　斜角桁鈍角側負曲げモーメントに及ぼす桁端回転固定条件の影響に関する一考察／日建設計シビル［正］田辺 篤史・西山 誠治
Ⅰ-509　分子動力学法による単層および多層カーボンナノチューブの断面変形挙動解析／北海道大学［学］小池 育代・草野 彩子・佐藤 太裕
Ⅰ-510　円筒シェル部材の座屈挙動に関する実験・解析的研究／長崎大学［学］緒方 宇大・松田 浩・出水 享
Ⅰ-511　局所荷重を受ける傾斜機能厚板の三次元応力解析／大分工業高等専門学校［正］名木野 晴暢・石田 風人・足立 忠晴
Ⅰ-512　幾何学的非線形性を考慮するリング要素を用いた円形板の一解法／JIPテクノサイエンス［正］中島 照浩・谷口 朋代
Ⅰ-513　一軸圧縮を受けるコンクリート円柱供試体の二次元弾性解析／足利工業大学［正］末武 義崇・松村 仁夫・黒井 登起雄

Ⅰ-10（全学教育推進機構B棟B208）／9月10日(水)

■橋梁と津波／10:30～12:00／幸左 賢二(九州工業大学)
Ⅰ-514　Experiment for tsunami vertical force on bridge girder／九州工業大学［学］付 李・幸左 賢二・佐藤 崇
Ⅰ-515　孤立波による橋梁への水平作用力の実験的検討／九州工業大学［学］田中 将登・幸左 賢二・佐藤 崇
Ⅰ-516　孤立波が作用する橋梁の鉛直作用力特性の評価／九州工業大学［学］濱井 翔太郎・幸左 賢二・佐々木 達生
Ⅰ-517　既設橋梁のスリット付きフェアリングによる耐津波効果に関する水理実験／八戸工業大学［正］長谷川 明・虻川 高宏
Ⅰ-518　気仙大橋の水理実験と流出メカニズム／長大［正］虻川 高宏・長谷川 明
Ⅰ-519　橋に影響を与える津波の作用状態とその評価方法／土木研究所［正］中尾 尚史・炭村 透・星隈 順一
Ⅰ-520　粒子法による津波が橋桁に作用する際の流体力評価とその精度検証／九州大学［学］田邊 将一・浅井 光輝・伊津野 和行

■維持管理(構造)(1) ／12:45～14:15／宮森 保紀(北見工業大学)
Ⅰ-521　都市高速道路出路橋の現地振動実験データを用いた振動モニタリング適用性検討／神戸大学［学］井上 真一・川谷 充郎・金 哲佑
Ⅰ-522　交通振動を用いた橋梁の損傷検知手法の提案／京都大学［学］別所 謙・服部 洋・岡野 雅
Ⅰ-523　車両を用いた経年劣化した橋梁構造物の損傷推定に関する実験的研究／山口大学［学］内藤 慎也・菅原 大樹・渡邊 学歩
Ⅰ-524　移動走行荷重による振動モニタリングを活用した既存橋梁の健全度評価に関する研究／山口大学［正］渡邊 学歩・友廣 郁也・内藤 慎也
Ⅰ-525　共振現象が認められた鉄道橋りょうの固有振動数に関する考察／西日本旅客鉄道［正］寺島 裕樹・近藤 政弘・坂本 寛章
Ⅰ-526　桁端の水平変位計測データを用いた橋桁のヘルスモニタリング／京橋メンテック［正］鳥山 正吾・並木 宏徳・山田 不二彦

Ⅰ-527　920MHzワイアレスシステムによる沖縄離島橋梁の遠隔モニタリング／東京工業大学［正］佐々木 栄一・峰沢 ジョージヴゥルペ・下里 哲弘
Ⅰ-528　GARCH過程の導入によるジョイント部材のモニタリングデータ分析／大阪大学［学］数実 浩佑・貝戸 清之・小林 潔司

■維持管理（構造）(2) ／14:30～16:00／鈴木 啓悟（福井大学）
Ⅰ-529　橋梁用ヘルスモニタリングシステムに用いる加速度センサの性能確認／東京都市大学［正］関屋 英彦・三木 千壽・白旗 弘美
Ⅰ-530　鋼鈑桁橋の局部損傷把握モニタリングの可能性検討／東京都市大学［正］古東 佑介・三木 千壽
Ⅰ-531　AR係数の再構築による橋梁振動ヘルスモニタリングの精度向上に関する基礎的研究／京都大学［学］北内 壮太郎・金 哲佑・杉浦 邦征
Ⅰ-532　季節ARIMAモデル推定による長期橋梁モニタリングデータからの構造状態評価法に関する研究／横浜国立大学［正］西尾 真由子・水谷 純也・勝地 弘
Ⅰ-533　モデル化の違いに着目した既存橋梁動解析モデルのベイジアンキャリブレーション／横浜国立大学［学］川口 裕士・西尾 真由子
Ⅰ-534　トラス構造における形状パターンに着目した損傷箇所推定の検討／横浜国立大学［学］石関 圭太
Ⅰ-535　応答計算および構造同定計算を利用した橋梁計測の効率化／長崎大学［学］山下 真史・西川 貴文・中村 聖三
Ⅰ-536　QCモデルにおけるカルマンフィルタを用いた内部パラメータと路面形状推定／長岡技術科学大学［正］宮下 剛・長山 智則・大島 義信

Ⅰ-10（全学教育推進機構B棟B208）／9月11日(木)

■維持管理（構造）(3) ／8:45～10:15／佐藤 雄亮（電力中央研究所）
Ⅰ-537　レインボーブリッジにおける主ケーブル送気乾燥システムの設置について／首都高速道路［正］栗林 伶二・北島 基彦
Ⅰ-538　レインボーブリッジ主ケーブル塗替え塗装／首都高速道路［正］北島 基彦・和田 新・三浦 秀俊
Ⅰ-539　MAAT-S計測法による長大吊橋主ケーブルの形状管理法の提案／復建調査設計［正］梅本 幸男・楠根 経年・河野 太
Ⅰ-540　吊橋ケーブル被覆の劣化調査と伸び性能に着目した被覆仕様の検討／本州四国連絡高速道路［正］森山 彰・大藤 時秀
Ⅰ-541　塗装鉄塔におけるせん断接合ボルトの緩み現象と再現試験結果について／東電設計［正］山崎 智之・久保田 邦裕・本郷 榮次郎
Ⅰ-542　送電用鉄塔におけるせん断接合ボルトの緩み解析について／東電設計［F］中村 秀治・山崎 智之・本郷 榮次郎
Ⅰ-543　高速カメラを活用した送電鉄塔のボルト緩み箇所特定の試み／九州大学［正］辻 徳生・中村 秀治・能勢 晃太郎
Ⅰ-544　送電用鉄塔腹材の鋼材ダンパー置換による制振効果について／東電設計［正］大野木 亮太・中村 秀治・山崎 智之

■維持管理（構造）(4) ／10:30～12:00／宮川 義範（電力中央研究所）
Ⅰ-545　部分係数を用いた既存コンクリート構造物の耐久信頼性評価手法に関する基礎的研究／早稲田大学［学］狩野 淳一・竹中 孔信・秋山 充良
Ⅰ-546　劣化過程下にあるPC桁の曲げ性能評価と維持管理／関西大学［学］藤村 将治・木野村 宏昭・堂垣 正博
Ⅰ-547　供用開始から53年経過したプレテンT桁橋の実橋載荷試験／国土交通省［正］松本 俊輔・松井 繁之・小野 和行
Ⅰ-548　横桁に損傷を受けたプレテンT桁橋の健全度評価／エイト日本技術開発［正］木村 真也・松本 俊輔・松井 繁之
Ⅰ-549　画像解析によるコンクリートのひび割れ進展計測に関する基礎的研究／茨城大学［正］車谷 麻緒・松浦 遼・根本 忍
Ⅰ-550　地震リスクを勘案したRC橋脚の耐震性能評価／関西大学［学］永草 新・高橋 和也・木野村 宏昭
Ⅰ-551　腐食損傷を受けた鋼製橋脚の耐震性能に関する研究／名古屋工業大学［学］横井 勝旭・永田 和寿・野村 直之
Ⅰ-552　大河津旧可動堰構脚橋の安全性評価／大日本コンサルタント［正］古川 侑大・宮下 剛・丸山 久一

Ⅰ-10（全学教育推進機構B棟B208）／9月12日(金)

■維持管理（構造）(5) ／8:45～10:15／永田 和寿（名古屋工業大学）
Ⅰ-553　床版と躯体橋梁部材の部分補修後の劣化曲線について／北海学園大学［学］工藤 正行・杉本 博之
Ⅰ-554　道路橋の劣化進行に伴う維持管理計画の修正がLCC・健全度に与える影響／京都大学［学］内藤 翔・平野 裕一・石川 敏之
Ⅰ-555　道内市町村の財政状況と橋梁長寿命化修繕計画に関する考察／北海学園大学［正］杉本 博之・工藤 正行
Ⅰ-556　地方自治体における橋梁長寿命化修繕計画の実施状況に関する調査／山口大学［学］山本 恵利華・麻生 稔彦・坂田 安莉波
Ⅰ-557　橋梁および舗装の点検記録の精査と橋梁劣化の定量的評価／東京大学［学］立石 晃啓・長山 智則・蘇 迪
Ⅰ-558　RFIDセンサーと無人飛行体による橋梁点検システムの開発／関西大学［学］藤川 浩史・古田 均・石橋 健
Ⅰ-559　RBMを用いた橋梁維持管理システムの高精度化に関する研究／IHIインフラシステム［正］戸田 勝哉・楊 威・倉田 幸宏
Ⅰ-560　伸縮装置遊間異常によるフィンガー先端の応力状況の解析／IHIインフラシステム［正］楊 威・戸田 勝哉・倉田 幸宏

■維持管理（構造）(6) ／10:30～12:00／倉田 幸宏（IHIインフラシステム）
Ⅰ-561　腐食鋼I桁端部におけるせん断強度回復技術に関する実験的研究／宮地エンジニアリング［正］利光 崇明・下里 哲弘・有住 康則
Ⅰ-562　九年橋橋脚への衝撃振動試験と解析に関する一考察／岩手大学［学］猪股 史貴・岩崎 正二・大西 弘志
Ⅰ-563　Iビーム橋りょう支点部の疲労き裂対策工法の構造に関する検討／JR東日本［正］青木 千里・福本 守・小林 裕介
Ⅰ-564　沓部ボルト破断に伴う中路ローゼ橋の現況計測／長崎大学［学］毛利 淳樹・中村 聖三・奥松 俊博
Ⅰ-565　密閉ゴム支承板支承のすべり面に異物が付着した際の摺動特性確認試験／日本支承協会［正］小南 雄一郎・鵜野 禎史・原田 孝志
Ⅰ-566　塩化ゴム系塗料の塗替え仕様／高速道路総合技術研究所［正］木次 克彦
Ⅰ-567　特殊金属被膜生成技術のボルト継手部塗装への適用／横河ブリッジ［正］井口 進・清川 昇悟・木村 雅昭
Ⅰ-568　腐食遅延を目的とした応急塗装の方法の研究／石川工業高等専門学校［学］森久 慶祐・三ツ木 幸子・三田村 文寛

Ⅰ-11（全学教育推進機構B棟B218）／9月10日(水)

■維持管理（腐食）(1) ／10:30～12:00／中村 一史（首都大学東京）
Ⅰ-569　茨城県新長茂橋における部分塗替え塗装と経過観察／土木研究センター［正］安波 博道・関 慎一郎・中島 和俊
Ⅰ-570　耐久性能を具体的に考慮した新規ラジアルゲート設計について／中国電力［正］河内 友一・西川 雅章・中村 秀治
Ⅰ-571　鋼トラス橋の漏水等による劣化事例／西日本高速道路［F］本荘 清司・藤原 規雄
Ⅰ-572　腐食生成物層の厚さを用いた腐食性評価手法の都市内高速道路橋への適用／応用地質［正］小川 重之・香川 紳一郎・片山 英資
Ⅰ-573　セロハンテープで採取したさび粒子の定量的評価によるさび評点判定に関する検討／三菱重工鉄構エンジニアリング［正］鍵村 俊哉・阿部 浩志・小倉 敬史
Ⅰ-574　画像解析を用いた耐候性鋼橋梁におけるさびの外観評価について／長崎大学［学］梅崎 俊樹・森田 千尋・松田 浩
Ⅰ-575　多孔質Al-Zn焼結板と保水性繊維シートを用いた高耐久性大気腐食環境センサに関する研究／三井造船［正］石原 修二・貝沼 重信・内田 大介
Ⅰ-576　腐食した鋼部材の大気犠牲陽極防食技術に関する基礎的研究―犠牲陽極材の組成が陽極材消耗量と消耗形態に及ぼす影響―／日本軽金属［正］兼子 彬・貝沼 重信・石原 修二

■維持管理（腐食）(2) ／12:45～14:15／谷口 望（前橋工科大学）
Ⅰ-577　名古屋市における浮遊塩分濃度の観測と数値解析による検討／名古屋工業大学［学］鈴木 誠也・村上 太郎・小畑 誠
Ⅰ-578　亜熱帯島嶼環境地域における鋼材腐食速度特性に関する一考察／東京ファブリック工業［正］所 宏祐・下里 哲弘・有住 康則
Ⅰ-579　飛来海塩環境で100年供用された鉄道橋における塗膜膨れと腐食深さの相関性／九州大学［学］合田 広樹・貝沼 重信・坂本 達郎
Ⅰ-580　塗装鋼部材の線・帯状塗膜欠陥から進行する腐食挙動の数値シミュレーション／九州大学［学］小林 淳二・貝沼 重信・林 秀幸
Ⅰ-581　塗膜欠陥の近接度が鋼材の腐食挙動に及ぼす影響に関する基礎的研究／九州大学［学］林 秀幸・貝沼 重信・小林 淳二
Ⅰ-582　観測と数値実験を組み合わせた橋梁内部における局部腐食環境の把握／松江工業高等専門学校［正］広瀬 望・武邊

勝道・大屋 誠
Ⅰ-583　鋼製橋脚梁のボルト継手部におけるすきま腐食に関する検討／福岡北九州高速道路公社［正］片山 英資・青野 守・貝沼 重信
Ⅰ-584　海水中環境を想定した腐食促進実験による被覆防食鋼材の劣化挙動に関する研究／名古屋大学［学］竹見 潤也・廣畑 幹人・伊藤 義人

■維持管理（腐食）(3) ／14:30～16:00／三上 修一（北見工業大学）
Ⅰ-585　耐候性鋼橋梁のさび中の主要可溶性成分と腐食状況について／松江工業高等専門学校［正］武邊 勝道・大屋 誠・広瀬 望
Ⅰ-586　耐候性鋼橋梁のさび片のクロム溶出試験／松江工業高等専門学校［学］長谷川 弘興・小畑 烈・大屋 誠
Ⅰ-587　海岸近傍におけるニッケル系高耐候性鋼製橋梁模擬構造体の腐食部位係数／JFEスチール［正］加藤 真志・藤原 良憲・徳富 恭彦
Ⅰ-588　3%ニッケル高耐候性鋼日本海沿岸地区15年目曝露試験（第7報）／新日鐵住金［正］田中 睦人・藤原 良憲・安藤 隆一
Ⅰ-589　凍結防止剤巻上げ環境におけるニッケル系高耐候性鋼適用橋梁の評価／JFEスチール［正］鹿毛 勇・藤原 良憲・徳富 恭彦
Ⅰ-590　促進腐食試験によるステンレス鋼と炭素鋼を溶接接合した厚板の腐食性状／長岡工業高等専門学校［学］小見 恒介・五十嵐 遥香・宮嵜 靖大
Ⅰ-591　炭酸ナトリウムによる耐候性鋼材の腐食制御に関する検討／セントラルコンサルタント［正］空谷 謙吾・麻生 稔彦・後藤 悟史
Ⅰ-592　賀田高架橋における耐候性鋼材の適用性に関する取組み／川田工業［正］田中 一夫・田坂 康介・溝口 勝

Ⅰ-11（全学教育推進機構B棟B218）／9月11日(木)

■維持管理（腐食）(4) ／8:45～10:15／大屋 誠（松江工業高等専門学校）
Ⅰ-593　耐候性鋼橋の腐食減耗量の継続調査について／木更津高等専門学校［正］佐藤 恒明・田井 政行・野口 成人
Ⅰ-594　10年間の追跡調査結果による耐候性橋梁のさび安定化評価手法の比較考察／阪神高速技術［正］岡本 亮二・塚本 成昭・青木 康本
Ⅰ-595　耐候性鋼材のさび厚の標準偏差とさび外観評点の関係／横河ブリッジ［正］鈴木 克弥・上田 博士・神頭 峰磯
Ⅰ-596　耐候性鋼表面の腐食評価の客観的定量化に関する研究／長岡技術科学大学［学］松本 拓也・野添 裕輔・岩崎 英治
Ⅰ-597　高腐食性環境下の無塗装耐候性鋼トラス橋における腐食損傷の要因推定(その1) ―腐食損傷の調査結果―／西日本高速道路エンジニアリング九州［正］藤岡 靖・窪 修・井手 逸夫
Ⅰ-598　高腐食性環境下の無塗装耐候性鋼トラス橋における腐食損傷の要因推定(その2) ―大気マクロ腐食環境調査―／九州大学［F］貝沼 重信・道野 正嗣・藤岡 靖
Ⅰ-599　高腐食性環境下の無塗装耐候性鋼トラス橋における腐食損傷の要因推定(その3) ―構造部位のミクロ腐食環境調査―／西日本高速道路エンジニアリング九州［正］藁科 彰・藤岡 靖・高木 真一郎
Ⅰ-600　高腐食性環境下の無塗装耐候性鋼トラス橋における腐食損傷の要因推定(その4) ―構造部位レベルの腐食性評価―／九州大学［学］道野 正嗣・貝沼 重信・藤岡 靖

■維持管理（腐食）(5) ／10:30～12:00／貝沼 重信（九州大学）
Ⅰ-601　3Dプリンターを用いた耐候性鋼材のさびサンプルの開発／日本橋梁建設協会［正］岩川 貴志・志賀 弘明・鈴木 克弥
Ⅰ-602　無塗装耐候性橋梁腐食部の補修塗装における素地調整技術／阪神高速道路［正］足立 幸郎・高井 由喜・青木 康素
Ⅰ-603　耐候性鋼材における補修塗装端部処理方法に関する検討／日鉄住金防蝕［正］今井 篤実・麻生 稔彦・空谷 謙吾
Ⅰ-604　さび安定化補助処理された耐候性鋼橋梁のさび性状と外観評価／四電技術コンサルタント［正］三浦 正純・佐藤 京・角間 恒
Ⅰ-605　さび安定化補助処理された耐候性鋼橋梁の詳細調査手法と補修仕様選定に関する調査研究(その1)耐候性鋼橋梁の詳細調査と補修仕様選定の考え方／松江工業高等専門学校［正］大屋 誠・武邊 勝道・松崎 靖彦
Ⅰ-606　び安定化補助処理された耐候性鋼橋梁の詳細調査手法と補修仕様選定に関する調査研究(その2)腐食実態と補修計画／松江工業高等専門学校［正］松崎 靖彦・大屋 誠・武邊 勝道
Ⅰ-607　さび安定化補助処理された耐候性鋼橋梁の詳細調査手法と補修仕様選定に関する調査研究(その3)さび層断面の状態分析と元素分布分析／日鉄住金防蝕［正］佐野 大樹・今井 篤実・石田 和生

Ⅰ-11（全学教育推進機構B棟B218）／9月12日(金)

■維持管理（腐食）(6) ／8:45～10:15／海田 辰将（徳山工業高等専門学校）
Ⅰ-608　腐食劣化した高力ボルトの減肉量に基づく残存軸力評価法の解析的検討／木更津工業高等専門学校［正］田井 政行・小間 貴紀・下里 哲弘
Ⅰ-609　腐食した溝形鋼および山形鋼の圧縮挙動に関する一考察／新日鐵住金［正］冨永 知徳・久積 和正・今福 健一郎
Ⅰ-610　Crevice corrosion ofgussetplate connections on steel truss bridge／Tokyo Metropolitan University［学］グェン シュアン トゥン・野上 邦栄・岸 祐介
Ⅰ-611　腐食した鋼トラス橋から切り出した格点部の残存耐荷力に関する載荷試験／土木研究所［正］本多 弘明・榎本 忠夫・村越 潤
Ⅰ-612　鋼トラス橋格点部の局部座屈に対する耐荷力評価式に関する一検討／土木研究所［正］村越 潤・田代 大樹・榎本 忠夫
Ⅰ-613　腐食劣化により撤去された鋼トラス橋斜材の腐食形状と残存耐荷力／東京都［正］高橋 翔平・野上 邦栄
Ⅰ-614　腐食した格点部を有する鋼トラス橋全体系の耐荷性能／首都大学東京［学］平山 武志・野上 邦栄・岸 祐介
Ⅰ-615　構造全体からみた鋼橋の保有強度に関する一考察／中電技術コンサルタント［正］佐竹 亮一・井上 太郎・藤井 堅

■維持管理（腐食）(7) ／10:30～12:00／白旗 弘実（東京都市大学）
Ⅰ-616　き裂形状の三次元データ可視化により情報共有された鋼橋補修工事事例／高田機工［正］永木 勇人・鷹羽 新二・二葉 悟
Ⅰ-617　レーザー超音波による鋼板接着部欠陥の検出実験／東京工業大学［学］山口 雄也・橘 肇・島田 義則
Ⅰ-618　パルス渦電流による減肉鋼板の板厚測定／名古屋大学［学］西島 悠太・北根 安雄・伊藤 義人
Ⅰ-619　海洋環境下で腐食した鋼管構造物における渦流計測法の適用性に関する研究／琉球大学［正］下里 哲弘・有住 康則・塚原 雄介
Ⅰ-620　地際腐食損傷の非接触・自動非破壊検査による平均腐食深さの推定(その1) ―5点平均によるスムージング処理―／東京鐵骨橋梁［正］細見 直史・貝沼 重信・入部 孝夫
Ⅰ-621　地際腐食損傷の非接触・自動非破壊検査による平均腐食深さの推定(その2) ―推定損傷深さの限界値と平均腐食深さの精度―／東京鐵骨橋梁［F］入部 孝夫・細見 直史・貝沼 重信
Ⅰ-622　鋼部材の地際部におけるマクロセル腐食速度評価センサの開発に関する基礎的研究／九州大学［学］土橋 洋平・貝沼 重信・木下 優
Ⅰ-623　基部が腐食した防護柵支柱に対する非破壊検査手法の構築／金沢大学［正］深田 宰史・水野 卓哉・青山 實伸

第Ⅱ部門　水理学、水文学、河川工学、水資源工学、港湾工学、海岸工学、海洋工学、環境水理など

Ⅱ-1（全学教育推進機構A棟A301）／9月10日(水)

■津波解析／10:30～12:00／川崎 浩司（ハイドロソフト技術研究所）
Ⅱ-001　SPH法による津波漂流物の衝突力評価／大成建設［正］小尾 博俊
Ⅱ-002　VOF法による3次元津波シミュレーションの広域解析への応用／環境シミュレーション［正］阪田 升・奥田 泰雄・喜々津 仁密
Ⅱ-003　3次元粒子法による歌津大橋の橋梁流失の再現解析とそのメカニズムの解明／九州大学［学］宮川 欣也・浅井 光輝・園田 佳巨

Ⅱ-004　数値流体解析ツールOpenFOAMの津波波力実験への適用性検討／大成建設［正］高畠 知行・織田 幸伸・伊藤 一教
Ⅱ-005　地殻構造の高詳細有限要素モデルの導入が津波解析にもたらす影響の考察／東京大学［学］縣 亮一郎・市村 強・平原 和朗
Ⅱ-006　一般座標系を適用した利根川での東北地方太平洋沖地震津波の再現計算／建設技術研究所［正］二階堂 竜司・青木 伸一・田村 浩敏
Ⅱ-007　粒子法による津波避難ビルに作用する流体力評価の妥当性検証／九州大学［学］合田 哲朗・浅井 光輝・園田 佳巨
Ⅱ-008　流速および圧力状態に着目したPCT形桁に対する流体力に関する一考察／鉄道総合技術研究所［正］大野 又稔・渡辺 健・河村 佳英

■津波防災／12:45～14:15／安田 誠宏（京都大学）
Ⅱ-009　わが国に来襲すると予測されている津波に対する海岸保安林による減災効果に関する一検討／日本大学［学］祖父江 一馬・有馬 勇人・後藤 浩
Ⅱ-010　津波避難リスク評価における地域メッシュの人的被害に関する研究／千代田化工建設［正］藤田 謙一・矢代 晴実
Ⅱ-011　海水浴場からの津波避難シミュレーションに及ぼす利用者の初期位置の影響／京都市役所［正］吉田 健人・川中 龍児・島田 広昭
Ⅱ-012　淡路島の漁港・港湾における南海トラフ巨大地震津波対策に関する基礎的検討／神戸市立工業高等専門学校［正］宇野 宏司・瀬崎 瑛・辻本 剛三
Ⅱ-013　津波による筏の漂流特性に関する実験的研究／名古屋大学［学］若山 史雅・水谷 法美・高林 俊郎
Ⅱ-014　大規模津波発生時の河川横断構造物によるアイスジャムに関する水理実験／寒地土木研究所［正］阿部 孝章・佐藤 好茂・吉川 泰弘
Ⅱ-015　2D3Dハイブリッド数値解析による海洋インバースダムの津波減災効果の検討／京都大学［学］菅野 悠介・米山 望

■消波工・護岸／14:30～16:00／柿木 哲哉（神戸市立工業高等専門学校）
Ⅱ-016　大水深域へ投入するブロックの着底範囲に関する実験的研究／東洋建設［正］金澤 剛・城戸 誠司・糸永 克彦
Ⅱ-017　60度以上の斜め入射波に対する消波工不連続部の安定特性に関する実験的研究／玉野総合コンサルタント［正］森川 高徳・柴田 鋼三・浅倉 弘敏
Ⅱ-018　津波に対して強靭な堤防構造に用いるプレキャストブロックの開発／前田工繊［正］辻 慎一朗・竜田 尚希・渡部 健
Ⅱ-019　上部フレアによる既設護岸改良の提案／神戸製鋼所［正］荻野 啓・竹鼻 直人・安藤 圭
Ⅱ-020　海岸線区の護岸壁変状対策について／JR東日本［正］伊藤 大輔・小島 隆広・金子 建児
Ⅱ-021　不規則波による傾斜護岸への代表打ち上げ高さに関する検討／東北工業大学［学］斎藤 裕平・高橋 敏彦

Ⅱ-1（全学教育推進機構A棟A301）／9月11日(木)

■津波・構造物(1) ／8:45～10:15／藤原 隆一（東洋建設）
Ⅱ-022　浮体式津波避難シェルターに作用する津波流体力の推定に関する研究／大阪市立大学［学］松本 弘史・重松 孝昌
Ⅱ-023　一様流中の橋桁に作用する流れ方向の流体力に関する一考察／鉄道総合技術研究所［正］河村 佳英・渡辺 健・大野 又稔
Ⅱ-024　2011年東北津波により杭基礎が破断し転倒・流出したRC構造物の被災メカニズムに関する研究／京都大学［学］佐藤 祐子・奥村 与志弘・清野 純史
Ⅱ-025　堰や水門のゲート操作による河川津波の減勢／土木研究所［正］坂野 章・箱石 憲昭・石神 孝之
Ⅱ-026　ピロティ構造物に作用する津波波力に関する一考察／大成建設［正］羽角 華奈子・本田 隆英・織田 幸伸
Ⅱ-027　津波越流時の防波堤マウンド被覆石の安定性評価におけるイスバッシュ式の適用性／不動テトラ［正］三井 順・松本 朗・半沢 稔
Ⅱ-028　高密度消波ブロックの耐津波安定性に関する実験的研究／名古屋大学［学］土井 勇人・水谷 法美

■津波・構造物(2) ／10:30～12:00／重松 孝昌（大阪市立大学）
Ⅱ-029　越流津波時の揚力による防潮堤法肩ブロックの引き剥がれ対策／農研機構農村工学研究所［正］松島 健一・毛利 栄征・桐 博英
Ⅱ-030　海岸堤防を越流した津波による裏法尻の洗掘と堤体内部の圧力変動に関する一考察／名古屋大学［正］中村 友昭・根笹 裕太・小竹 康夫
Ⅱ-031　鋼矢板2重壁の津波越流に対する堤防補強効果に関する水理実験／東北大学［正］三戸部 佑太・Adityawan Mohammad Bagus・田中 仁
Ⅱ-032　津波に対して強靱な堤防の施工確認試験／竹中土木［正］平井 卓・瀧川 明彦・大串 和紀
Ⅱ-033　津波引き波時のケーソン式護岸のグラウンドアンカーによる滑動防止対策に関する模型実験／エスイー［正］竹家 宏治・吉田 誠・三藤 正明
Ⅱ-034　様々な防潮堤形状に基づく津波減災効果の実験的検討／東京理科大学［学］南 まさし・二瓶 泰雄・柳沢 舞美
Ⅱ-035　海岸堤防の粘り強さに及ぼす貧配合セメント混合土の影響確認実験／大成建設［正］本田 隆英・織田 幸伸・伊藤 一教

Ⅱ-1（全学教育推進機構A棟A301）／9月12日(金)

■内湾環境・生態系／8:45～10:15／矢野 真一郎（九州大学）
Ⅱ-036　大阪湾における3次元モニタリングデータの同化と予測計算に及ぼす影響／大阪大学［学］岡田 輝久・入江 政安・西田 修三
Ⅱ-037　平成24年7月九州北部豪雨による出水が有明海のバロクリニック構造に与えた影響／九州大学［学］西村 圭右・Abdul Nasser・矢野 真一郎
Ⅱ-038　日本近海における海面上昇に伴う潮汐振幅の変化について／九州大学［学］田中 香・田井 明
Ⅱ-039　付着生物と水質を指標としたHSIモデルによる環境評価手法の精度向上と別海域への適用／関西大学［正］市瀬 友啓
Ⅱ-040　カワスナガニ浮遊幼生の走光性・塩分選好性による鉛直分布へ影響と回帰戦略／福岡大学［正］伊豫岡 宏樹・八坂 康平・田井 明
Ⅱ-041　オゾンを利用したアコヤガイ挿核切開部の治癒期間短縮実験／エコ・プランナー［正］草間 政寛・寺崎 寛章・福原 輝幸
Ⅱ-042　英虞湾におけるコアマモの株移植実験／大成建設［正］高山 百合子・前川 行幸・片倉 徳男
Ⅱ-043　沿岸域における生物生息場環境評価のためのテッポウエビ類の分布調査／明石工業高等専門学校［学］曽谷 亜美・渡部 守義

■漂砂・輸送／10:30～12:00／森屋 陽一（五洋建設）
Ⅱ-044　インデックスマッチング法を用いた砂層内部の可視化に関する基礎的研究／神戸市立工業高等専門学校［学］岩佐 勇毅・柿木 哲哉・辻本 剛三
Ⅱ-045　粘土を含有する干潟の地形変化と粘着力を考慮した修正限界Shields数による混合土砂の移動特性の検討に関する実験的研究／名古屋大学［学］趙 容桓・中村 友昭・鈴木 愛美
Ⅱ-046　Beach Erosion Caused By Sand Dredging at Offshore Bar ／大阪大学［正］青木 伸一・Chu Duc Thang・檜森 弦
Ⅱ-047　水俣湾の底質輸送と塩淡成層構造の関係に関する検討について／九州大学［学］川瀬 颯人・Herawaty Riogilang・矢野 真一郎
Ⅱ-048　インドネシア国ブンカリス島における泥炭海岸浸食の実態と人工水路による地下水流出増加／山口大学［学］渡部 剛・Muhammad Haidar・神野 有生
Ⅱ-049　奄美大島マングローブ河口域における土砂輸送特性についての検討／九州大学［学］大庭 卓也・川井 一輝・田井 明
Ⅱ-050　数値モデルによる平成24年7月九州北部豪雨により有明海に流出した流木の動態の再現計算／九州大学［学］北川 洋平・西村 圭右・矢野 真一郎
Ⅱ-051　GPSフロートを用いた河川の流木挙動に関する基礎的観測／東京理科大学［学］船本 優月・二瓶 泰雄

■海岸港湾構造物／15:00～16:30／中村 友昭（名古屋大学）
Ⅱ-052　低天端有脚式離岸堤の局所洗掘特性に対する2次元性と3次元性の違いに関する研究／東洋建設［正］山野 貴司・藤原 隆一
Ⅱ-053　矢板式岸壁の腐食孔からの土砂吸い出しに与えるフィルター層の影響に関する数値解析／名古屋大学［学］福田 俊・中村 友昭・水谷 法美
Ⅱ-054　プレジャーボート用ビジター桟橋の設計手法について／大林組［正］佐村 維要・高岩 千人・小林 靖治
Ⅱ-055　既設港湾構造物の維持管理のための信頼性設計法に関する考察―波力に対する外的安定への「レベル0（ゼロ）信頼性設計法」の提案―／太陽工業［正］足立 一美
Ⅱ-056　予防保全で維持管理を行う場合における海岸保全施設のLCCに関する事例解析／国土交通省［正］淺井 正・大川 衛人・横田 弘
Ⅱ-057　弁式導水パネルを利用した越流式波力発電装置に関する実験的研究／名古屋大学［F］水谷 法美・森 貴寛

Ⅱ-058　潮流発電用対象翼タービンの流体力特性に関する実験的研究／五洋建設［正］森屋 陽一・安野 浩一朗・金山 進

Ⅱ-2（全学教育推進機構A棟A302）／9月10日(水)

■大気水象／10:30～12:00／相馬 一義(山梨大学)

Ⅱ-059　パターン分類から見る愛知県における過去約30年間の大雨事例の雨域特性／名古屋工業大学［学］松本 貴昇・庄 建治朗
Ⅱ-060　都市化の進展が集中豪雨の発生・維持機構に与える影響に関する研究／法政大学［学］小山 隼平・夏井 志康・鈴木 善晴
Ⅱ-061　北海道の近年の降雨の東西傾向と洪水特性について／北開水工コンサルタント［正］長岡 宏樹・長谷川 和義・山本 太郎
Ⅱ-062　北陸地方におけるXバンドMPレーダのデータ欠測率と空間特性に関する基礎的検討／福岡大学［正］林 義晃・手計 太一・山崎 惟義
Ⅱ-063　佐波川における降雨予測誤差の分析に関する研究／山口大学［正］三石 真也・朝位 孝二・古濱 潤一
Ⅱ-064　都市気象LESモデル開発による豪雨の「種」を捉えるための基礎研究／京都大学［学］高見 和弥・山口 弘誠・中北 英一
Ⅱ-065　豪雨抑制を目的としたクラウド・シーディングの定量的評価手法に関する数値実験／法政大学［学］横山 一博・鈴木 善晴・尾中 俊之
Ⅱ-066　積雪寒冷地の気候特性を考慮した降雪条件推定式の構築／ドーコン［正］工藤 啓介・中津川 誠

■気候変動／12:45～14:15／鈴木 善晴(法政大学)

Ⅱ-067　MRI-AGCM3.2Sによる短波放射量に対する再現性評価とバイアス補正の基礎的検討／京都大学［学］奥村 卓弥・萬 和明・立川 康人
Ⅱ-068　タイにおける豪雨に伴う斜面崩壊発生確率の将来予測／東北大学［学］井上 尚達・風間 聡・小森 大輔
Ⅱ-069　梅雨期集中豪雨とその原因となる大気場の気候変動に伴う将来変化に関する研究／京都大学［学］草野 晴香・中北 英一・Kim Sunmin
Ⅱ-070　水稲の成長と河川灌漑を実装した分布型水循環モデルの構築に関する研究／京都大学［正］萬 和明・松原 拓也・立川 康人
Ⅱ-071　GCMデータを用いた年降水量の非定常頻度分析 ～新潟県を例として～／中央復建コンサルタンツ［正］草刈 智一・寒川 典昭・浜口 俊雄
Ⅱ-072　最大クラス台風のアンサンブル実験結果を用いた関西・中部地域の河川流量評価／京都大学［学］石井 大貴・立川 康人・萬 和明
Ⅱ-073　WRFを用いた平成25年台風第18号による大雨の再現と海面水温温暖化実験／神戸大学［学］能登谷 拓・小林 健一郎・奥 勇一郎

■流出・洪水／14:30～16:00／鼎 信次郎(東京工業大学)

Ⅱ-074　インドネシアKahayan川を対象とした流出予測の研究／室蘭工業大学［学］吉田 ちあき・中津川 誠・工藤 俊
Ⅱ-075　実時間システムにおけるCommonMPの適用について／河川情報センター［正］佐藤 宏明・三平 良雄・加藤 譲
Ⅱ-076　ネスティング型の流出・氾濫一体モデルによる浸水被害額の確率的評価手法の開発／京都大学［学］田中 智大・立川 康人・萬 和明
Ⅱ-077　2013年台風18号による由良川の出水状況／東京建設コンサルタント［正］川合 茂・芦田 和男
Ⅱ-078　週間アンサンブル降水予測情報を考慮したダム貯水池の治水操作支援に関する基礎的研究／京都大学［学］西岡 佑弥・野原 大督・堀 智晴
Ⅱ-079　蒸発散を組み込んだ鉛直1 次元飽和・不飽和流モデルの信楽流域試験地への適用／京都大学［学］今井 伸太郎・萬 和明・立川 康人

Ⅱ-2（全学教育推進機構A棟A302）／9月11日(木)

■水災害・防災／8:45～10:15／朝岡 良浩(東北大学)

Ⅱ-080　CommonMPによる氾濫シミュレーションの演算速度向上のための検討／国土技術政策総合研究所［正］菊森 佳幹
Ⅱ-081　豪雨の時間・空間スケールが洪水リスク評価に及ぼす影響／京都大学［学］井上 直哉・堀 智晴・野原 大督
Ⅱ-082　雨水貯留施設の実時間制御におけるXバンドレーダー降水予測情報の活用に関する研究／京都大学［学］佐藤 豪・城戸 由能・中北 英一
Ⅱ-083　集中豪雨による保育所の被災と早期再開に向けた取り組み／徳島大学［正］中野 晋・鳥庭 康代・武藤 裕則
Ⅱ-084　西宮市における津波避難訓練の再現と考察／神戸大学［学］木村 圭佑・小林 健一郎
Ⅱ-085　郡山市、須賀川市の内水災害に対する町内会の防災対応と住民意識／日本大学［正］井上 直行・長林 久夫・手塚 公裕

■都市の水災害／10:30～12:00／川越 清樹(福島大学)

Ⅱ-086　樋井川流域を対象とした都市域における内水氾濫特性の把握／福岡大学［正］浜田 晃規・渡辺 亮一・伊豫岡 宏樹
Ⅱ-087　スマート雨水タンクの開発について／福岡工業大学［正］森山 聡之・和泉 信生・森下 功啓
Ⅱ-088　平成23年9月20日春日井市内水災害の被害状況の整理と浸水解析の試み／中部大学［学］久野 智弘・島田 嘉樹・武田 誠
Ⅱ-089　芝浦下水道処理区を対象とした東京都心部の内水氾濫危険性予測／早稲田大学［学］竹 順哉・関根 正人・古木 雄
Ⅱ-090　三河島下水道処理区を対象とした東京都心部の内水氾濫危険性評価／早稲田大学［学］関根 貴広・関根 正人・井上 優香
Ⅱ-091　NILIM2.0を用いた武蔵野市における浸水低減策の検討／法政大学［学］小菅 大地・黒澤 祐太・鈴木 善晴
Ⅱ-092　津波や洪水による浸水被害を抑制するための対策法に関する研究開発／埼玉大学［学］中部 駿吾・齊藤 正人

Ⅱ-2（全学教育推進機構A棟A302）／9月12日(金)

■流域管理・計画(1) ／8:45～10:15／呉 修一(東北大学)

Ⅱ-093　信濃川における遊水地を活用した水力発電の推進施策に関する研究／山口大学［正］朝位 孝二・三石 真也・笹木 優也
Ⅱ-094　Hydroelectric Power Enhancement by Utilizing Available Water Supply Capacity of Nukui Dam／八千代エンジニヤリング［正］泉谷 隆志・三石 真也・朝位 孝二
Ⅱ-095　ダムの弾力的運用の向上による小水力発電の可能性／八千代エンジニヤリング［正］林下 直樹・中津川 誠
Ⅱ-096　気象庁GSMと貯留関数法を適用したダム流入量予測手法に関する基礎検討／電源開発［正］松原 隆之・土田 和稔・松本 知士
Ⅱ-097　平成25年台風18号出水における日吉ダムの操作／水資源機構［正］森川 一郎・新井 誠輔・竹澤 秀史
Ⅱ-098　H25.7洪水における阿武川ダム洪水調節に関する研究／山口大学［正］河元 信幸・三石 真也・朝位 孝二

■流域管理・計画(2) ／10:30～12:00／河村 明(首都大学東京)

Ⅱ-099　黒部川扇状地における地下水熱利用が地下水温に与える影響に関する基礎的検討／富山県立大学［学］北 隆平・手計 太一
Ⅱ-100　早明浦ダム流域における低水流出の貯留関数式の定数に関する考察／明星大学［正］藤村 和正・井芹 慶彦・鼎 信次郎
Ⅱ-101　広域地盤沈下における河川計画への影響検討／パシフィックコンサルタンツ［正］堀合 孝博・松田 浩一・古瀬 達馬
Ⅱ-102　道路建設にともなう地下水低下の評価／エイト日本技術開発［正］木村 隆行・高田 正治・渡辺 俊一
Ⅱ-103　ペーパーディスク型地下水流向流速計の現地適用／山口大学［学］小野 文也・山本 浩一・関根 雅彦
Ⅱ-104　岩手県大槌町の自噴井群一斉調査／大同大学［正］鷲見 哲也・中野 孝教・谷口 真人

Ⅱ-3（全学教育推進機構B棟B306）／9月10日(水)

■計測・観測／10:30～12:00／手計 太一(富山県立大学)

Ⅱ-105　開水路水面変動の検出に関する新手法の提案と桟粗度流れへの適用／神戸大学［学］大上 旭・藤田 一郎・吉村 英人
Ⅱ-106　実観測データを用いたHK曲線法による算出流量の精度検証／土木研究所ICHARM［正］本永 良樹・萬矢 敦啓・岩見 洋一
Ⅱ-107　床置き式超音波ドップラー流速計の反射強度を用いた濁度計測／シーテック［正］山本 将也・前田 浩伸
Ⅱ-108　画像流速解析における傾斜計を用いた幾何変換手法／神戸大学［学］秋田 紘征・藤田 一郎
Ⅱ-109　PIVによる水面直下の流速鉛直分布計測の試み／東京理科大学［学］服部 泰士・根岸 大介・二瓶 泰雄
Ⅱ-110　レーザーシートを用いた水位・河床位の時空間連続計測手法の開発／新潟大学［学］岡部 裕馬・星野 剛・安田 浩保
Ⅱ-111　ラジコンヘリを用いた出水時における表面流況解析／神戸大学［学］米谷 駿一・道奥 康治・魚谷 拓矢

Ⅱ-112　水面で屈折した自然光が透明なアクリル製の水底下につくる明暗模様を利用した面的波形計測／明石工業高等専門学校［学］岸 篤史・檀 和秀・中村 文則

■水質／12:45～14:15／田中 規夫（埼玉大学）

Ⅱ-113　渡良瀬川流域での有機物に関する物質循環の把握／足利工業大学［正］長尾 昌朋・上岡 充男
Ⅱ-114　一次元河川生態系モデルの開発とその適用／山口大学［正］赤松 良久・高村 紀彰・永野 博之
Ⅱ-115　堀川の水環境に関する汚れと臭いの感覚的評価／中部大学［正］武田 誠・石井 一磨・松尾 直規
Ⅱ-116　江戸城外濠における溶存酸素飽和度とCODに関する現地観測および下流河川の水質に与える影響について／中央大学［学］柿沼 太貴・津島 優樹・大平 一典
Ⅱ-117　水質およびエクセルギー効率による佐波川の河川環境評価／山口大学［学］睦田 昌平・赤松 良久・乾 隆帝
Ⅱ-118　内川西側感潮域における鉛直流速分布と水質特性／富山県立大学［学］笹川 幸寛・手計 太一
Ⅱ-119　中川運河における水質の鉛直構造に関する研究／名古屋工業大学［学］森下 真那人・冨永 晃宏
Ⅱ-120　宍道湖の水質変動と中小河川への影響／松江工業高等専門学校［学］稲田 千鶴・広瀬 望

■水生生物／14:30～16:00／傳田 正利（土木研究所）

Ⅱ-121　七ヶ宿ダムにおける外来魚の現状と新しい取り組み／復建技術コンサルタント［正］山本 和司・佐藤 高広・及川 智博
Ⅱ-122　模型実験水路と実小河川での魚の挙動比較／東洋大学［学］菊池 裕太・青木 宗之・福井 吉孝
Ⅱ-123　美利河ダム上流に設置された分水施設におけるサクラマス幼魚の降下行動／寒地土木研究所［正］林田 寿文・新居 久也・渡邉 和好
Ⅱ-124　手賀沼における魚類及び餌料環境の放射能汚染状況の実態把握／東京理科大学［学］橋田 創・小松 有由美・二瓶 泰雄
Ⅱ-125　荒川水系小畔川中流部における水生生物の生息について／東洋大学［正］青木 宗之・松木 越・菊地 裕太
Ⅱ-126　河川上流域におけるコンクリートと木材沈床工における水生昆虫群集の評価／東北大学［正］会田 俊介・風間 聡
Ⅱ-127　ヒメタニシの浮遊藻類摂餌行動観察／鹿島建設［正］林 文慶・中村 華子・高山 晴夫
Ⅱ-128　十三湖におけるヤマトシジミの生息と湖水環境の関連／東北大学［正］梅田 信・松根 駿太郎・田中 仁

Ⅱ-3（全学教育推進機構B棟B306）／9月11日(木)

■河川環境／8:45～10:15／鷲見 哲也（大同大学）

Ⅱ-129　礫床河川の粒度組成に着目した砂礫州の伏流水動態に関する研究／東京大学［正］尾花 まき子・片野坂 瑛一・知花 武佳
Ⅱ-130　揖保川における洪水前後の砂州上粒度分布の変化／神戸大学［学］寺田 康人・藤田 一郎・浅見 佳代
Ⅱ-131　鬼怒川における礫河原保全事業後の植生変遷に関する基礎的調査／宇都宮大学［学］幸村 智史・池田 裕一・飯村 耕介
Ⅱ-132　UAVを用いた河川の物理環境・植物群落変化のモニタリングの可能性／土木研究所［正］傳田 正利・田頭 直樹・中西 哲
Ⅱ-133　北陸地方の1級水系における面積―高度比曲線／富山県立大学［正］手計 太一・林 義晃
Ⅱ-134　河道横断面形状の設定と草刈りの有無が植生変化に与える影響／土木研究所［正］大石 哲也・高岡 広樹・原田 守啓
Ⅱ-135　中国地方における流域の流程区分図の作成とその活用法の検討／山口大学［学］上鶴 翔悟・赤松 良久・神谷 大介

■魚道／10:30～12:00／尾花 まき子（名古屋大学）

Ⅱ-136　宮中取水ダムにおける放流方法と魚道施設改善後のモニタリング／東日本旅客鉄道［正］澤村 里志・森山 泰明・枡本 拓
Ⅱ-137　土砂吐き上に設置するブロック式提案魚道内の流速場の実験的検討／日本大学［学］中村 裕美・安田 陽一
Ⅱ-138　全断面粗石付き魚道の流れと機能増進について／東洋大学［学］松木 越・青木 宗之・福井 吉孝
Ⅱ-139　石組み台形断面バイパス水路の流速場に対する巨礫設置の影響／日本大学［学］中嶋 和成・安田 陽一
Ⅱ-140　魚道が設置されたえん堤直下流側の流況に対する礫床の影響／日本大学［学］藤原 直・高橋 直己・安田 陽一
Ⅱ-141　魚類の移動環境からみた河道内低落差構造物に関する一考察／土木研究所［正］村岡 敬子・中西 哲・萱場 裕一

Ⅱ-3（全学教育推進機構B棟B306）／9月12日(金)

■水理・開水路／8:45～10:15／二瓶 泰雄（東京理科大学）

Ⅱ-142　準二次元非定常流計算の一つの試み（Dronkers手法との連携）／［正］馬場 洋二
Ⅱ-143　跳水内部の空気混入特性／日本大学［学］菅谷 一平・高橋 正行・大津 岩夫
Ⅱ-144　空気混入を考慮した放流水の流況予測／建設技術研究所［正］松本 良一・安藤 達也・米勢 嘉智
Ⅱ-145　運動量補正係数を考慮した基礎式による転波列の数値解析／京都大学［正］白井 秀和・細田 尚・金澤 直矢
Ⅱ-146　河道堰上げ区間の深掘れ部における流れ特性の観測調査／岐阜大学［学］野田 有佑・藤田 裕一郎・澤田 謙二
Ⅱ-147　流木を伴う橋梁部における洪水現象の数値シミュレーション／九州大学［正］木村 延明・田井 明
Ⅱ-148　転倒樹木の抵抗特性に関する実験的研究／埼玉大学［学］小内 尭・八木澤 順治・田中 規夫
Ⅱ-149　粗度の多重スケール性と非平衡粗面抵抗則を取り入れた流れの解析法／中央大学［正］内田 龍彦・福岡 捷二・Papanicolaou A. N.

■閉鎖性水域／10:30～12:00／石塚 正秀（香川大学）

Ⅱ-150　浜名湖の潮汐応答特性の変化とその影響について／金沢工業大学［正］有田 守・木山 智裕・青木 伸一
Ⅱ-151　近年の小川原湖における成層構造と水質変動／大阪大学［学］小泉 祐二・藤原 広和・沼山 天馬
Ⅱ-152　衛星画像で見る河口流出・拡散現象／東洋大学［学］小林 勇輝
Ⅱ-153　ダム貯水池の流入量・放流量評価法の高精度化に関する研究／中央大学［正］塚本 洋祐・由井 修二・福岡 捷二
Ⅱ-154　都市部の閉鎖性水域における降雨と水位変化の関係に関する研究 ～外濠を例にして～／中央大学［学］津島 優樹・柿沼 太貴・大平 一典
Ⅱ-155　コアンダ効果を利用した新たな湧昇流発生手法の有用性に関する研究／東京電機大学［学］近藤 秀紀・佐藤 大作・有田 正光
Ⅱ-156　ジェットポンプ式流動装置の撹拌混合および吸引性能の効率化に関する研究／呉工業高等専門学校［学］小谷 拓弥・黒川 岳司・西岡 恵里奈
Ⅱ-157　河岸凹部の流れ構造に及ぼす上流側水制の影響に関する研究／名古屋工業大学［学］加藤 智道・小島 直也・冨永 晃宏

Ⅱ-4（全学教育推進機構B棟B307）／9月10日(水)

■構造物の水理(1) ／10:30～12:00／長田 健吾（阿南工業高等専門学校）

Ⅱ-158　分水施設内に設置される迷入防止対策のための流水動力式ドラムスクリーンの水理機能／日本大学［学］横山 裕樹・安田 陽一・高橋 直己
Ⅱ-159　モーメント方程式を用いた1次元管路に置かれた多孔質媒体周辺の流れの解析／京都大学［学］湯澤 史也・白井 秀和・細田 尚
Ⅱ-160　潜り跳水下流部の不安定偏向流れについての実験的検討／日本大学［学］冨田 麻理子・安田 陽一
Ⅱ-161　直線矩形水路取水設備における空気吸込渦の時空間特性／近畿大学［正］竹原 幸生・久末 信幸・進藤 誠士郎
Ⅱ-162　流量変化による水位変動の抑制を目的としたゲートの開発／大成建設［正］織田 幸伸・高畠 知行
Ⅱ-163　往古川橋りょう河床洗掘対策／JR東海［正］仮屋 亮
Ⅱ-164　洪水時の大河津分水路第二床固の流況再現技術―水理模型実験と数値解析による検討／中央大学［正］竹村 吉晴・福岡 捷二
Ⅱ-165　駅舎の上家に設置された谷樋の排水機能の推定／日本大学［学］西井 俊・安田 陽一・坂本 圭司

■構造物の水理(2) ／12:45～14:15／内田 龍彦（中央大学）

Ⅱ-166　堰下流側に形成される跳水の流速特性に関する実験的検討／日本大学［学］神戸 基秀・安田 陽一
Ⅱ-167　台形断面スリット型治山えん堤における掘り込み型減勢工の水理／日本大学［学］長沢 研作・安田 陽一
Ⅱ-168　落差構造物下流側に設置する掘り込み型減勢工の水理機能／日本大学［学］青木 一繁・安田 陽一
Ⅱ-169　固定堰の部分撤去形状が堰上流部河床地形へ与える影響について／徳島大学［学］住田 英之・武藤 裕則・田村 隆雄
Ⅱ-170　水制周辺における3次元的な流れの構造に対する面的計測およびwavelet解析による検討／愛知工業大学［正］赤堀 良介

Ⅱ-171　河道の二極化が進行した河川における水制工等を用いた河岸侵食対策の効果／パシフィックコンサルタンツ［正］高野 和成・水田 圭亮・松田 和人
Ⅱ-172　遡上流れに置かれた円柱に作用する抗力特性／防衛大学校［正］大井 邦昭・多田 毅・林 建二郎
Ⅱ-173　根固めブロックによる破堤拡幅の抑制効果に関する検討／寒地土木研究所寒地河川チーム［正］飛田 大輔・柿沼 孝治・横山 洋

■構造物の水理(3) ／14:30～16:00／高橋 正行(日本大学)
Ⅱ-174　小規模模型を用いた堤体材質が越水破堤プロセスに与える影響に関する検討／徳島大学［学］有田 稔・武藤 裕則・田村 隆雄
Ⅱ-175　堤防裏のり尻部における広域洗掘防止工の一提案／東京理科大学［学］吉森 佑介・二瓶 泰雄・倉上 由貴
Ⅱ-176　太田川左岸堤体内への排水機場建設による堤防浸透水の影響予測と対策工の検討／中国地方整備局［正］水谷 沙織・山下 篤志・桝谷 有吾
Ⅱ-177　小型水路実験に基づく河川堤防の耐越流侵食性に及ぼす細粒分の影響／東京理科大学［学］森田 麻友・倉上 由貴・二瓶 泰雄
Ⅱ-178　破堤現象の不確定性を考慮可能な洪水氾濫リスク評価の試み／防衛大学校［正］多田 毅・谷口 聡洋
Ⅱ-179　GRS河川堤防の浸透特性に関する基礎的実験／東京理科大学［学］板倉 舞・倉上 由貴・二瓶 泰雄
Ⅱ-180　氾濫流による鉄道軌道流失機構に関する模型実験／横浜国立大学［学］小野田 元・遠山 祐貴・早野 公敏
Ⅱ-181　越流・浸透を伴う破堤過程に関する実験的研究／京都大学［学］北林 資也・音田 慎一郎・細田 尚

Ⅱ-4（全学教育推進機構B棟B307）／9月11日(木)

■土砂管理／8:45～10:15／溝口 敦子(名城大学)
Ⅱ-182　接触時間を用いた流砂の粒径推定に関する実験／日本大学［学］松代 大輝・小田 晃
Ⅱ-183　山地河川における河道幅の推定方法に関する提案／京都大学［正］原田 紹臣・中谷 加奈・里深 好文
Ⅱ-184　岩盤河川の河床低下対策に関する大型模型実験による検討／水工リサーチ［正］加藤 一夫・旭 一岳・米元 光明
Ⅱ-185　鉛直二重管吸引工法プロトタイプシステムによる室内排砂実験／電源開発［正］庄路 友紀子・前田 修一・前田 圭介
Ⅱ-186　潜行吸引式排砂管によるダム貯水池内における排砂実験／土木研究所［正］宮川 仁・櫻井 寿之・箱石 憲昭
Ⅱ-187　吉野川中流域における自然的・人為的インパクトによる河道変遷について／徳島大学［学］野村 一至・武藤 裕則・田村 隆雄
Ⅱ-188　揖斐川高水敷掘削後の堆積状況に関する現地調査／土木研究所［正］原田 守啓・永山 滋也・大石 哲也
Ⅱ-189　河口干潟域におけるダム撤去による土砂輸送・堆積影響の評価／東京理科大学［正］大槻 順朗・川崎 貴志・廣瀬 雄太郎

■河床移動・河川地形(1) ／10:30～12:00／市山 誠(パシフィックコンサルタンツ)
Ⅱ-190　荒川下流域における潮汐流及び航走波が底質移動に及ぼす影響／埼玉大学［正］八木澤 順治
Ⅱ-191　由良川における河口砂州の変動観測と水制工による砂州制御効果の検討／明石工業高等専門学校［学］孝子 綸図・山崎 琴音・三輪 浩
Ⅱ-192　河床変動計測装置の開発と実河川における検証／いであ［正］西林 健一郎・大吉 雄人・水永 勲
Ⅱ-193　急流河川花月川における平成24年7月洪水による河床変動に関する研究／中央大学［学］宮崎 達文・島元 尚徳・福岡 捷二
Ⅱ-194　阿賀野川河口域の大規模洪水による地形変化と流れ場の解析／中央大学［学］立山 政樹・内田 龍彦・福岡 捷二
Ⅱ-195　流水型ダムと自然河道における土砂の連続性に関する基礎的検討／土木研究所［正］宮脇 千晴・宮川 仁・箱石 憲昭
Ⅱ-196　平成25年10月台風26号により伊豆大島で発生した土石流災害の検討／京都大学［正］中谷 加奈・水山 高久・里深 好文
Ⅱ-197　斐伊川放水路の洪水流分派機構と河床波の発達・減衰過程に関する研究／中央大学［F］福岡 捷二・大吉 雄人・岡田 裕之介

Ⅱ-4（全学教育推進機構B棟B307）／9月12日(金)

■河床移動・河川地形(2) ／8:45～10:15／竹林 洋史(京都大学)
Ⅱ-198　二粒径で構成された混合砂河床上の抵抗特性と流砂量に関する実験的研究／名城大学［正］溝口 敦子
Ⅱ-199　骨格が大礫により構成された河床の動的平衡状態／早稲田大学［学］平松 裕基・関根 正人・劒持 尚樹
Ⅱ-200　粘土河床の浸食に及ぼす砂礫の移動量の影響／早稲田大学［学］野本 高視・関根 正人・高野 大貴
Ⅱ-201　混合砂礫床における粗礫の移動限界に及ぼす細砂含有の効果／立命館大学［学］樋口 涼士・三輪 浩・廣田 陽平
Ⅱ-202　水制による河口砂州の動態制御に関する移動床実験／明石高専［学］越智 尊晴・村上 秀香・孝子 綸図
Ⅱ-203　振幅の大きな蛇行河道下流の直線河道における流況と河床形態に関する基礎的研究／宇都宮大学［学］江口 陽祐・池田 裕一・飯村 耕介
Ⅱ-204　複断面河道から船底形河道へと改修された区間における洪水時の河道の安定性／中央大学［学］笹木 拓真・宮原 幸嗣・福岡 捷二
Ⅱ-205　転波列サージのスリット通過における波高変化に関する基礎的検討／名城大学［学］仙波 学・新井 宗之

■河床移動・河川地形(3) ／10:30～12:00／安田 浩保(新潟大学)
Ⅱ-206　水中における斜面崩落数値実験による粒子群の鉛直分級機構の研究／中央大学［学］田所 弾・福田 朝生・福岡 捷二
Ⅱ-207　砂防えん堤を越流する土石流特性に関する実験／日本大学［学］山口 貴之・小田 晃
Ⅱ-208　石礫河川の土砂移動機構を研究するための数値移動床水路の要件／中央大学［正］福田 朝生・福岡 捷二
Ⅱ-209　河岸のオーバーハングと間欠的崩落を考慮した河岸浸食モデル／北海道大学［正］木村 一郎・Patsinghasanee Supapap・清水 康行
Ⅱ-210　粒度分布幅の広い河床材料の河床変動モデルの開発／土木研究所［正］石神 孝之・宮川 仁・坂野 章
Ⅱ-211　水理条件統一下における川幅水深比が中規模河床形態にもたらす影響／新潟大学［学］五十嵐 拓実・安田 浩保
Ⅱ-212　雪粒子の粒径が煙型雪崩の流動に対して及ぼす影響／長岡工業高等専門学校［正］衛藤 俊彦・高橋 将人・菊地 卓郎
Ⅱ-213　傾斜水路上の浅水流波動方程式における初期条件・境界条件の影響に関する一検討／名城大学［正］新井 宗之

第Ⅲ部門　土質力学、基礎工学、岩盤工学、土木地質、地盤環境工学など

Ⅲ-1（基礎工学部講義棟B201）／9月10日(水)

■地盤の動的挙動(1) ／8:45～10:15／飛田 哲男(京都大学)
Ⅲ-001　E―ディフェンスにおける加振・計測の長時間化と地盤系実験のポテンシャル／防災科学技術研究所［正］河又 洋介・田端 憲太郎・梶原 浩一
Ⅲ-002　1g場振動台模型実験装置を用いた杭基礎による戸建住宅の液状化時沈下抑制効果／茨城大学［学］野口 武彦・村上 哲・小峯 秀雄
Ⅲ-003　土留擁壁を持つ盛土の耐震性能確認試験／JR東日本［正］高山 真揮・池本 宏文・高崎 秀明
Ⅲ-004　部分補強による盛土の耐震性能向上に関する基礎的研究／香川高等専門学校［学］山内 彩加・小竹 望・松原 三郎
Ⅲ-005　プレキャストアーチカルバート盛土における縦断方向の地震時挙動に関する遠心模型実験／京都大学［学］宮崎 祐輔・澤村 康夫・岸田 潔
Ⅲ-006　2ヒンジプレキャストアーチカルバート強震応答実験に対する数値解析／京都大学［正］澤村 康生・並川 卓矢・岸田 潔
Ⅲ-007　地盤の透水性が液状化時の堤体変形挙動に及ぼす影響／農研機構 農村工学研究所［正］林田 洋一・増川 晋・田頭 秀和
Ⅲ-008　豪雨を受ける補強土壁の地震時挙動に関する実験的研究／豊田工業高等専門学校［学］桂川 隼斗・伊藤 慶・小林 睦

■地盤の動的挙動(2) ／10:30～12:00／河又 洋介(防災科学技術研究所)

Ⅲ-009 東日本大震災の長継続地震動を考慮したFL値法による液状化判定／東京電機大学［正］石川 敬祐・安田 進
Ⅲ-010 格子状改良による宅地の液状化対策でのせん断応力の扱い／東京電機大学［F］安田 進・安達 健司
Ⅲ-011 地震時液状化対策としての地下水位低下工法の課題と克服(第6報)／茨城大学［F］安原 一哉
Ⅲ-012 地下水低下工法を適用した遠心模型実験のシミュレーション解析(その1 2次元静的残留変形解析)／大成建設［正］広重 敬嗣・原 祐介・小林 真貴子
Ⅲ-013 地下水位低下工法を適用した遠心模型実験のシミュレーション解析(その2 3次元静的残留変形解析)／大成建設［正］小林 真貴子・広重 敬嗣・原 祐介
Ⅲ-014 地下水位低下工法を適用した遠心模型実験のシミュレーション解析(その3 2次元動的有効応力解析)／大成建設［正］原 祐介・広重 敬嗣・小林 真貴子
Ⅲ-015 格子状改良・排水工法による液状化対策効果について(その1)―遠心模型実験による効果の確認―／西松建設［正］佐藤 透・今村 眞一郎・佐藤 靖彦
Ⅲ-016 格子状改良・排水工法による液状化対策効果について(その2)―遠心模型実験の再現解析―／西松建設［正］土屋 光弘・平野 孝行・今村 眞一郎

■地盤の動的挙動(3) ／12:45～14:15／石川 敬祐(東京電機大学)

Ⅲ-017 均質化法を用いた不均質地盤の地震応答解析に関する基礎的検討／鉄道総合技術研究所［正］上田 恭平・室野 剛隆
Ⅲ-018 下負荷面モデルを用いた不飽和化液状化対策の有効応力解析／大林組［正］伊藤 浩二・江尻 譲嗣
Ⅲ-019 盛土の地震時残留変位に及ぼす地震動の影響について／西日本高速道路エンジニアリング関西［正］三好 忠和・常田 賢一
Ⅲ-020 鉱さい堆積場の液状化被害の有効応力動的解析によるシミュレーション／大成建設［正］立石 章
Ⅲ-021 動的問題におけるマクロエレメント法の近似精度の検証／名古屋大学［正］野中 俊宏・山田 正太郎・野田 利弘
Ⅲ-022 鋼矢板と蛇篭による防波堤補強工法の耐震性に関する解析的検討／名古屋大学［学］服部 達哉・山田 正太郎・野田 利弘
Ⅲ-023 隣接家屋の影響を受ける戸建て住宅の液状化被害メカニズムの解明／名古屋大学［学］大庭 拓也・野田 利弘・中井 健太郎

■地盤の動的挙動(4) ／14:30～16:00／宇野 浩樹(大成建設)

Ⅲ-024 不整形な境界から発生した表面波が液状化被害に与える影響／名古屋大学［正］中井 健太郎・野田 利弘・村瀬 恒太郎
Ⅲ-025 深部粘性土の状態の違いが河川堤防の地震時挙動に及ぼす影響／名古屋大学［学］尾崎 奨・加藤 健太・中井 健太郎
Ⅲ-026 巨大地震時における名古屋港ポートアイランドの地盤変状に関する数値解析／名古屋大学［正］酒井 崇之・野田 利弘・中野 正樹
Ⅲ-027 浮力の影響を考慮した仮想バネを用いた液状化解析／土木研究所［正］脇中 康太・石原 雅規・佐々木 哲也
Ⅲ-028 勾配の異なる切土補強土擁壁の地震時安定性に関する振動実験／鉄道・運輸機構［正］高野 裕輔・青木 一二三・工藤 敦弘
Ⅲ-029 切土補強土擁壁の地震時残留変位量に関するNewmark法の適用性に関する検討／鉄道総合技術研究所［正］工藤 敦弘・高野 裕輔・植木 茂夫
Ⅲ-030 切土補強土擁壁の安定性・地震時残留変形量に関する信頼性解析／鉄道総合技術研究所［正］渡辺 健治・高野 裕輔・陶山 雄介

Ⅲ-1（基礎工学部講義棟B201）／9月11日(木)

■土の動的性質／8:45～10:15／原田 健二(不動テトラ)

Ⅲ-031 液状化強度曲線の類型化と経験式の提案(その2) ／応用地質［正］三上 武子・吉田 望・原田 健二
Ⅲ-032 粒度分布の異なる砂礫の液状化特性及び液状化後の変形性／基礎地盤コンサルタンツ［正］畑山 諒人・原 忠・李 圭太
Ⅲ-033 千葉県香取市佐原河川敷に分布する沖積砂質土の液状化特性／応用地質［正］利藤 房男・規矩 大義・信本 実
Ⅲ-034 砂の粒度特性と安息角の関係／防衛大学校［正］正垣 孝晴・吉津 考浩
Ⅲ-035 X線CTスキャナーによる地質コアの非破壊計測例／産業技術総合研究所［正］中島 善人
Ⅲ-036 スウェーデン式サウンディング試験を用いた液状化可能土層の識別／応用地質［正］澤田 俊一
Ⅲ-037 中空ねじりせん断試験装置を用いた砂の異方性に関する実験／名古屋大学［正］岡田 麻希・山田 正太郎・中野 正樹
Ⅲ-038 一面せん断試験機による砂質土の有効応力低下過程のせん断挙動特性／舞鶴工業高等専門学校［正］加登 文学・北島 君則

■粘土の変形強度／10:30～12:00／末政 直晃(東京都市大学)

Ⅲ-039 鉛直管により水中投入された土砂の性状変化と対策工の検討／東洋建設［正］鶴ヶ崎 和博・金澤 剛・宮本 順司
Ⅲ-040 島尻層群泥岩の微生物風化に関する研究：一軸圧縮強さと風化期間の関連性／琉球大学［学］松嵜 史明・広瀬 孝三郎・松原 仁
Ⅲ-041 千葉県浦安市沖積粘土層の繰返し変形特性／地域地盤環境研究所［正］春日井 麻里・本郷 隆夫・山田 卓
Ⅲ-042 庄内川堤防基礎地盤粘性土のサンプリングと変形・強度特性／名城大学［学］大野 雄貴・小高 猛司・崔 瑛
Ⅲ-043 粘性土におけるMud crack生成パターンに関する実験的検討／琉球大学［学］広瀬 孝三郎・松原 仁
Ⅲ-044 千葉県浦安市沖積粘土層の土質特性と液性限界の経時変化の測定例(第2報) ／大阪市立大学［学］新井 瞬・大島 昭彦・久保田 耕司
Ⅲ-045 千葉県浦安市沖積粘土の鋭敏性と塩化物含有量の関係／大阪市立大学［正］大島 昭彦・新井 瞬・久保田 耕司

Ⅲ-1（基礎工学部講義棟B201）／9月12日(金)

■杭基礎(一般) ／8:45～10:15／宇野 州彦(五洋建設)

Ⅲ-046 増し杭基礎の3次元弾塑性有限要素解析／阪神高速道路［正］堀岡 良則・小坂 崇
Ⅲ-047 増し杭された群杭基礎の荷重分担機構に関する数値解析的検討／京都大学［学］寺本 俊太郎・木村 亮
Ⅲ-048 ひずみくさびモデルによる単杭の水平載荷挙動の評価／群馬大学［学］芦澤 拓八・奈良 祥孝・蔡 飛
Ⅲ-049 鋼管矢板の中詰めの影響を考慮した井筒の立体骨組解析／清水建設［正］古宇田 剛史・新美 勝之・内海 崇晴
Ⅲ-050 柱状体基礎の地盤抵抗モデルに関する研究／土木研究所［正］河野 哲也・遠藤 繁人・七澤 利明
Ⅲ-051 シートパイル補強工法の既設道路橋基礎への適用に関する検討／北武コンサルタント［正］斉藤 聡彦・神田 政幸・西岡 英俊
Ⅲ-052 矢板式岸壁の控え組杭の弾塑性解析による耐震性検討／鋼管杭・鋼矢板技術協会［正］乙志 和孝・辻本 和仁・塩崎 禎郎
Ⅲ-053 泥炭性軟弱地盤における斜杭基礎の耐震性能に関する実験的検討(その3:応答比)／寒地土木研究所［正］冨澤 幸一・福島 宏文・三浦 清一

■杭基礎(鉛直) ／10:30～12:00／福島 宏文(土木研究所)

Ⅲ-054 杭の鉛直載荷試験結果を踏まえた長尺鋼管杭の設計／ドーユー大地［正］難波 正幸・中谷 隆生・後藤 雄一
Ⅲ-055 同一フーチング内で杭長が大きく変化する橋梁基礎杭の設計／ドーユー大地［正］長瀬 竜也・中谷 隆生・後藤 雄一
Ⅲ-056 中間支持層上の複合基礎の荷重分担 その1：遠心実験／大林組［正］天満 知生・永井 秀樹・堤内 隆広
Ⅲ-057 中間支持層上の複合基礎の荷重分担 その2：数値解析／大林組［正］永禮 大・永井 秀樹・鈴木 直子
Ⅲ-058 回転圧入コンクリート充填工法による鋼管杭の鉛直載荷試験／鹿島建設［正］山崎 大介・小林 寛・田島 祐介
Ⅲ-059 スカート・サクション基礎の引抜き抵抗に関する基礎的検討／大林組［正］粕谷 悠紀・山田 祐樹・高橋 真一
Ⅲ-060 岩を支持層とする杭先端の極限支持力度の評価／土木研究所［正］田辺 晶規・河野 哲也・七澤 利明

■杭基礎(新工法) ／15:00～16:30／濱田 吉貞(西日本旅客鉄道)

Ⅲ-061 太陽電池アレイ用基礎T-Root工法の開発(その1：載荷試験結果の概要) ／大成建設［正］酒見 卓也・中西 誉・岸田 恒明
Ⅲ-062 太陽電池アレイ用基礎T-Root工法の開発(その2：設計法の提案) ／大成建設［正］中西 誉・山本 平・大塚 久哲
Ⅲ-063 地盤改良体を用いた効果的な場所打ち杭孔壁防護工法に関する研究(その1：低強度改良体を用いた遠心模型実験) ／大林組［正］渡邉 康司・相澤 寿樹・和田 旭弘
Ⅲ-064 地盤改良体を用いた効果的な場所打ち杭孔壁防護工法に関する研究(その2：地盤改良体形状に関する遠心模型実験) ／東日本旅客鉄道［正］和田 旭弘・渡邉 康司・渡邊 康夫
Ⅲ-065 端板鉄筋方式によるPHC杭の杭頭結合部のモデル化について／複合技術研究所［正］鈴木 聡・西岡 英俊・田所 敏弥

Ⅲ-066　電柱倒壊対策における重心低下工法の適用性／芝浦工業大学［学］嶋田 慎司・岡本 敏郎・原部 将至
Ⅲ-067　先端プレロード場所打ち杭の注入材の改良と注入量の評価／東日本旅客鉄道［正］大塚 隆人・川中島 寛幸・吉原 正博

Ⅲ-2（基礎工学部講義棟B202）／9月10日(水)

■土質安定処理・地盤改良(1) ／10:30～12:00／中澤 博志(復建調査設計)

Ⅲ-068　締固めによる改良地盤におけるCPTによる指標Icについての考察／不動テトラ［正］原田 健二・野津 光夫・新川 直利
Ⅲ-069　可塑状ゲル圧入工法における締固め効果の土圧係数K0による解析的評価／強化土エンジニヤリング［正］赤木 知之・佐々木 隆光・小山 忠雄
Ⅲ-070　地盤改良向け鉄鋼スラグ材「スマートコンパクションR」の適用性検討／JFEスチール［正］恩田 邦彦・本田 秀樹・林 正宏
Ⅲ-071　締固め工法における現場強度確認の簡易評価手法の検討／四国地方整備局高松港湾空港技術調査事務所［正］竹田 晃・冨本 正・谷定 大輔
Ⅲ-072　機械攪拌と真空吸水を併用した砂の締固めに関する基礎実験／五洋建設［正］新舎 博・海野 寿康・仙頭 紀明
Ⅲ-073　砕石パイルに関する模型載荷実験／東京都市大学［学］松野 遼太郎・末政 直晃・堀田 誠
Ⅲ-074　竹チップ・竹フレークを用いた砂の液状化抑制効果の検討／福岡大学［学］古賀 新太郎・佐藤 研一・藤川 拓朗

■土質安定処理・地盤改良(2) ／12:45～14:15／永尾 浩一(佐藤工業)

Ⅲ-075　間隙水の移動性を考慮した不飽和固結土の電気比抵抗モデル／茨城大学［学］阿部 聡・小峯 秀雄・村上 哲
Ⅲ-076　不飽和化地盤におけるサウンディング調査による飽和度確認法の検討／復建調査設計［正］中澤 博志・永尾 浩一
Ⅲ-077　高速道路盛土基礎地盤への空気注入不飽和化工法の適用性検討(その1)概要／西日本高速道路［正］紙田 直充・内田 純二・山根 信幸
Ⅲ-078　高速道路盛土基礎地盤への空気注入不飽和化工法適用性検討(その2)地盤調査と予備実験計画／オリエンタル白石［正］藤井 直・小林 真貴子・居場 博之
Ⅲ-079　高速道路盛土基礎地盤への空気注入不飽和化工法適用性検討(その3) ―ダブルパッカー式注入管による注入実験―／不動テトラ［正］矢部 浩史・大石 雅彦・居場 博之
Ⅲ-080　高速道路盛土基礎地盤への空気注入不飽和化工法適用性検討(その4) ―打込み式注入管による注入実験―／大成建設［正］藤原 斉郁・御手洗 義夫・矢部 浩史
Ⅲ-081　数値解析を用いたシリカ溶脱メカニズムと長期耐久性能の評価／早稲田大学［学］森 拓之・赤木 寛一・仲田 泰大

■土質安定処理・地盤改良(3) ／14:30～16:00／新坂 孝志(三信建設工業)

Ⅲ-082　溶液型恒久グラウトにより浸透固結された礫質砂の力学・変形特性／日本基礎技術［正］岡田 和成・内田 義博・佐々木 隆光
Ⅲ-083　シリカ微粒子の土粒子間注入に関する研究／東京都市大学［学］上村 健太郎・末政 直晃・佐々木 隆光
Ⅲ-084　逸走防止型極超微粒子セメントの材料特性／日鉄住金セメント［正］青 由起雄・金沢 智彦・土谷 光輝
Ⅲ-085　シェル型浸透固化処理工法の適用性に関する実験的研究／五洋建設［正］秋本 哲平・林 健太郎
Ⅲ-086　高強度活性複合シリカグラウトの開発／強化土エンジニヤリング［正］角田 百合花・小山 忠雄・佐々木 隆光
Ⅲ-087　薬液改良体に注入速度と浸透距離が及ぼす影響の把握／東京都市大学［学］吉野 広汰・末政 直晃・佐々木 隆光
Ⅲ-088　養生条件が薬液改良体の長期安定性に及ぼす影響／強化土エンジニヤリング［正］佐々木 隆光・末政 直晃・島田 俊介
Ⅲ-089　注入時のP～Q関係による改良効果確認結果の考察／大阪防水建設社［正］本橋 俊之・山本 彰・稲川 雄宣

Ⅲ-2（基礎工学部講義棟B202）／9月11日(木)

■土質安定処理・地盤改良(4) ／8:45～10:15／日置 和昭(大阪工業大学)

Ⅲ-090　円形立坑におけるリング状地盤改良／五洋建設［正］土居 勇登
Ⅲ-091　変位低減型深層混合処理工法の現場実験と攪拌混合効率に関する一考察／清水建設［正］遠西 幸男・上村 一義・大古利 勝己
Ⅲ-092　セメント系固化材を用いた改良体の長期安定性に関する研究―材齢5年結果報告―／セメント協会［正］野田 潤一・森川 嘉之・清田 正人
Ⅲ-093　狭小地向け機械式攪拌工法による格子状地盤改良の原位置施工実験／竹中土木［正］野口 達也・小西 一生・内田 明彦
Ⅲ-094　CDM改良体打ち継ぎ目地部の強度特性に関する検討／CDM研究会［正］上野 一彦・浅沼 丈夫・徳永 幸彦
Ⅲ-095　特殊添加剤を用いたセメントスラリーの流動性試験結果／東亜建設工業［正］田口 博文・伊勢 寿一・細見 尚史
Ⅲ-096　特殊添加剤を用いたセメント混合処理土の強度特性／WILLコンサルタント［正］細見 尚史・伊勢 寿一・田口 博文
Ⅲ-097　セメント改良土の凍結融解作用による強度低下の把握／八戸工業大学［学］小山 直輝・橋詰 豊・金子 賢治

■土質安定処理・地盤改良(5) ／10:30～12:00／田地 陽一(清水建設)

Ⅲ-098　砕・転圧盛土工法における初期固化時の強度不均一性が砕・転圧土強度に及ぼす影響／フジタ［F］福島 伸二・北島 明・谷 茂
Ⅲ-099　砕・転圧盛土工法における砕・転圧土の強度と遮水性に及ぼす転圧仕様の影響／フジタ［正］北島 明・福島 伸二・谷 茂
Ⅲ-100　乾湿繰り返し養生によるセメント改良土の炭酸化促進とその影響／群馬大学［学］西村 直哉・半井 健一郎・庄司 慎
Ⅲ-101　礫質埋立地盤の止水を目的とした原位置撹拌による地盤改良試験施工―（その1)室内配合試験編―／新関西国際空港［正］狭間 智一・江村 剛・加藤 公司
Ⅲ-102　礫質埋立地盤の止水を目的とした原位置撹拌による地盤改良試験施工―（その2)試験施工編 施工性及び造成した改良体のコア採取状況と一軸圧縮強さ―／加藤建設［正］大竹 リョウヘイ・南野 能克・江村 剛
Ⅲ-103　礫質埋立地盤の止水を目的とした原位置撹拌による地盤改良試験施工―（その3)試験施工編 改良体の透水試験―／加藤建設［正］野田 昌道・中谷 行男・江村 剛
Ⅲ-104　実物大供試体を用いた橋台背面盛土注入試験／西日本旅客鉄道［正］泉並 良二・高馬 太一・荒平 義生
Ⅲ-105　深層混合改良土の遮水性能に関する一考察／大阪工業大学［学］服部 健太・日置 和昭・橋本 篤

Ⅲ-2（基礎工学部講義棟B202）／9月12日(金)

■土質安定処理・地盤改良(6) ／8:45～10:15／平野 孝行(西松建設)

Ⅲ-106　海水環境下におけるセメント・石灰混合処理土の劣化の進行に関する検討／山口大学［正］原 弘行・松田 博・末次 大輔
Ⅲ-107　フライアッシュを活用した気泡モルタル系流動化処理土による管路埋戻し工事／大成建設［正］白井 遼太郎・石井 裕泰・高久 雅喜
Ⅲ-108　解砕処理後の利用を考えた初期固化焼却主灰の強度特性／福岡大学［学］宮田 省吾・佐藤 研一・藤川 拓朗
Ⅲ-109　高圧脱水処理したスラグ石灰混合浚渫土の配合強度特性／九州大学［学］竹下 知希・笠間 清伸・春日井 康夫
Ⅲ-110　予め石灰系固化材を添加させた脱水処理土の強度発現に及ぼす湿潤放置の影響／石川工業高等専門学校［学］西出 和那・重松 宏明・井口 宗士
Ⅲ-111　エトリンガイトの析出に着目した石灰安定処理土のせん断特性／石川工業高等専門学校［正］重松 宏明・竹田 健成
Ⅲ-112　PS灰を主体とした土質改良材による泥土の改良／九州産業大学［学］松丸 沙織・林 泰弘・江渕 昇
Ⅲ-113　カルシア改質材の粒径がカルシア改質土の強度特性に及ぼす影響／東亜建設工業［正］田中 洋輔・御手洗 義夫・永留 健

■土質安定処理・地盤改良(7) ／10:30～12:00／竹内 秀克(不動テトラ)

Ⅲ-114　水平排水材にPBD材を使用したVD設計法における実地盤への適応について／戸田建設㈱［正］山下 修平・佐藤 毅・野村 忠明
Ⅲ-115　泥炭地盤における排水方法の異なる真空圧密工法の施工事例／ダイヤコンサルタント［正］高坂 敏明・林 宏親・川井田 実
Ⅲ-116　微生物を利用した泥炭の固化実験／寒地土木研究所［正］佐藤 厚子・川崎 了・畠 俊郎
Ⅲ-117　短繊維混合処理土の繊維混入率・長さと力学特性(その1)／西松建設［正］平野 孝行・吉田 直人・土橋 聖賢
Ⅲ-118　短繊維混合処理土の繊維混入率・長さと力学特性(その2)／伊藤忠建機［正］藤井 二三夫・吉田 直人・土橋 聖賢
Ⅲ-119　耐久グラウト「シリカファーム」が生物に与える影響について／前田建設工業［正］川西 敦士・安井 利彰

Ⅲ-120　石炭灰の減溶化方法に関する実験的研究／五洋建設［正］熊谷 隆宏・秋本 哲平・安藤 有司
Ⅲ-121　石炭灰混合材料の乾湿繰返し特性に及ぼす養生日数と溶媒の影響／福岡大学［正］藤川 拓朗・佐藤 研一・古賀 千佳嗣

■特殊工／15:00～16:30／鍋島 康之（明石工業高等専門学校）
Ⅲ-122　第二渥美海丘から採取された粘性土の強度特性／日本大学［学］高橋 俊博・浅見 匡俊・三田地 利之
Ⅲ-123　第二渥美海丘から採取された海底堆積土試料の繰返し一面せん断特性／日本大学［学］浅見 匡俊・高橋 俊博・三田地 利之
Ⅲ-124　メタンハイドレート生産時の地層変形に及ぼす断層の影響に関する有限要素法解析／清水建設［F］荻迫 栄治・西尾 伸也・傳田 篤
Ⅲ-125　CO_2エマルジョン注入時の海底地盤の化学―熱―力学変形解析／京都大学［正］木元 小百合・進藤 拓人
Ⅲ-126　未凍結土の弾性係数のひずみ依存性を考慮した凍結凍上解析／北海道大学［学］神谷 遼多・蟹江 俊仁・鄭 好
Ⅲ-127　サーマルプローブ法による砂質凍土の熱伝導率の測定／苫小牧工業高等専門学校［学］青木 亮介・所 哲也・石川 達也
Ⅲ-128　凍土の変形係数推定に用いる真ひずみ率の温度依存性／精研［正］大石 雅人・隅谷 大作・上田 保司
Ⅲ-129　STUDY ON DEFORMATION BEHAVIOR OF INCLINED SEABED DURING METHANE HYDRATE PRODUCTION／長崎大学［正］李 博・楊 陽・東 幸宏

Ⅲ-3（基礎工学部講義棟B203）／9月10日(水)

■試験法・調査法／8:45～10:15／三上 武子（応用地質）
Ⅲ-130　神戸空港浚渫・沖積粘土層のサンプリング・サウンディング試験結果／大阪市立大学［学］峯 翔太郎・大島 昭彦・岡田 広久
Ⅲ-131　高荷重SDS試験機の試作／ジャパンホームシールド［正］菅野 安男・前田 裕介・末政 直晃
Ⅲ-132　RI-CPTによるRobertsonの土質分類の検証／ソイルアンドロックエンジニアリング［正］後藤 政昭・吉村 貢・重富 正幸
Ⅲ-133　電気式コーン貫入試験を用いた泥炭地盤の透水係数の推定法／土木研究所 寒地土木研究所［正］林 宏親・山梨 高裕・橋本 聖
Ⅲ-134　プラスチックを多く含む廃棄物埋立地盤の土粒子の密度試験／九州大学［正］川井 晴至・島岡 隆行・坂口 伸也
Ⅲ-135　産業廃棄物処分地での表面波探査の適用による廃棄物層の検出について／香川大学［正］山中 稔・長谷川 修一
Ⅲ-136　非抵抗法による電気探査を用いた空洞調査／ニア・エンジニアリング［正］今野 路行・中嶋 健治・伊藤 健
Ⅲ-137　S波孔間弾性波トモグラフィによる空洞探査への適用性検証試験／鹿島建設［正］栗原 啓丞・山本 拓治・小渕 考晃

■透水・浸透（1）／10:30～12:00／石原 雅規（土木研究所）
Ⅲ-138　熊本平野沿岸部の地下水変動と潮位変動／大成ジオテック［正］福田 光治・林 豊
Ⅲ-139　散水時の盛土内水位に与える亀裂の影響／鉄道総合技術研究所［正］川尻 峻三・布川 修・太田 直之
Ⅲ-140　津波越流時における盛土の浸潤特性に関する実験的研究／大阪大学［学］嶋川 純平・常田 賢一・秦 吉弥
Ⅲ-141　難透水性覆土の透水係数に与える透水試験方法の影響／安藤・間［正］千々松 正和・木村 誠・矢込 吉則
Ⅲ-142　土質の違いに着目した堤体内浸潤及び間隙空気挙動／名古屋工業大学［学］齊藤 啓・前田 健一・今瀬 達也
Ⅲ-143　地下水流動解析のV&Vのための一つの方法論について／清水建設［正］白石 知成
Ⅲ-144　集中豪雨時における浸透側溝の道路排水処理能力の評価／寒地土木研究所［正］安達 隆征・山梨 高裕・佐藤 厚子

■透水・浸透（2）／12:45～14:15／仙頭 紀明（日本大学）
Ⅲ-145　樋門等河川構造物周辺堤防の空洞・緩み等に係る詳細点検結果の整理／土木研究所［正］石原 雅規・平林 学・吉田 直人
Ⅲ-146　土の粒径分布特性と透水性の関係に関する一考察／茨城大学［学］岸 裕和・阿部 聡・佐藤 恭兵
Ⅲ-147　センタードレーン工による水位低下の影響範囲に関する考察／土木研究所 寒地土木研究所［正］山木 正彦・山梨 高裕・橋本 聖
Ⅲ-148　メタンハイドレート生産障害対策のための細粒分目詰まり形成メカニズムの検討／鹿島建設［正］田島 大輔・藤田 雄一・露木 健一郎
Ⅲ-149　不飽和浸透模型実験の空気～水～土骨格連成有限変形シミュレーション／名古屋大学［学］吉川 高広・野田 利弘・小高 猛司
Ⅲ-150　樋門周辺の空洞とゆるみ領域の生成・発達に関する三次元模型実験／名城大学［正］崔 瑛・小高 猛司・李 圭太

■透水・浸透（3）／14:30～16:00／杉井 俊夫（中部大学）
Ⅲ-151　かご工により対策した火山灰質砂質土造成盛土の地下水位変動／日本大学［正］仙頭 紀明・川崎 丞
Ⅲ-152　低レベル放射性廃棄物処分施設における難透水性覆土の透水性評価の一考察／日本原燃［正］工藤 淳・庭瀬 一仁・千々松 正和
Ⅲ-153　琉球石灰岩中の塩水挙動に関する空隙スケールモデルでの数値解析／大成建設［正］増岡 健太郎・山本 肇
Ⅲ-154　FDR-V法によるベントナイト混合土の密度測定に関するキャリブレーション／岡山大学［正］小松 満・千々松 正和
Ⅲ-155　堆積岩の原位置水分量測定に与える地下水塩分濃度の影響／岡山大学［学］佃 明恵・小松 満・岸 敦康
Ⅲ-156　凍結試験から細粒土の透水性のメカニズムを考える／摂南大学［正］伊藤 譲

Ⅲ-3（基礎工学部講義棟B203）／9月11日(木)

■透水・浸透（4）／8:45～10:15／小松 満（岡山大学）
Ⅲ-157　地すべり抑制を目的とした排水機能を有した小径杭の透水特性に関する模型実験／京都大学［学］灰藤 晋輔・寺本 俊太郎・木村 亮
Ⅲ-158　サクション型ソイルポンプの基礎的研究／中部大学［学］梅基 哲矢・杉井 俊夫・伴 幸樹
Ⅲ-159　京都府南山城地域における大容量揚水井の老朽化に関する研究／関西大学［学］山本 卓也・楠見 晴重・大西 有三
Ⅲ-160　ボーリング孔内の圧力損失を考慮した地下水流動解析手法の開発／大成建設［正］平塚 裕介・熊本 創・山本 肇
Ⅲ-161　堤防開削時に現地採取した乱れの少ない河川堤防砂の三軸試験／名城大学［学］小林 芳樹・小高 猛司・崔 瑛
Ⅲ-162　浸透破壊時の土中間隙の変化と動水勾配／中部大学［正］杉井 俊夫・山田 公夫・浅野 憲雄
Ⅲ-163　浸透量低減効果のある細粒材の流れ込み試験／水資源機構［正］曽田 英揮・佐藤 信光・太田垣 晃一郎

■数値解析／10:30～12:00／野田 利弘（名古屋大学）
Ⅲ-164　異常浸透場における砂質土地盤の極限支持力解析／長岡技術科学大学［学］保科 隆・大塚 悟・磯部 公一
Ⅲ-165　浸透流解析による道路盛土での排水パイプの効果に関する検討／大阪大学［学］北口 峻輝・常田 賢一・林 訓裕
Ⅲ-166　HSMAC法およびGIMP法を用いた流体―固体連成解析手法に関する基礎的研究／京都大学［学］松尾 大介・肥後 陽介・音田 慎一郎
Ⅲ-167　超並列コンピュータ上における地質媒体中の多成分・多相流体解析の計算性能―二酸化炭素地中貯留を対象とした事例―／大成建設［正］山本 肇・中島 研吾
Ⅲ-168　可塑性充填材による実大空洞充填実験を対象とした数値シミュレーション～粘性特性をパラメーターにした数値実験～／大成建設［正］石井 裕泰・北詰 昌樹
Ⅲ-169　NMM-DDAによるアンコール遺跡バイヨン寺院と地盤の安定解析／京都大学［学］橋本 涼太
Ⅲ-170　大深度立坑の掘削に伴う岩盤の力学的影響について／福島工業高等専門学校［正］林 久資

Ⅲ-3（基礎工学部講義棟B203）／9月12日(金)

■不飽和土／8:45～10:15／河井 克之（神戸大学）
Ⅲ-171　フィールド実験による覆土を有する傾斜キャピラリーバリアの限界長の評価／神戸市立工業高等専門学校［正］小林 薫・松元 和伸・森井 俊広
Ⅲ-172　キャピラリーバリアシステムを導入した盛土式廃棄物貯蔵施設の遮水機能／新潟大学［正］森井 俊広・松元 和伸・小林 薫
Ⅲ-173　層境界面に不陸を有するキャピラリーバリアの限界長に関する基礎実験／飛島建設［正］松元 和伸・小林 薫・中房 悟
Ⅲ-174　不飽和土の水分保持特性と透水性のヒステリシスに着目した実験的研究／京都大学［学］南野 佑貴・三村 衛・矢野 隆夫
Ⅲ-175　背圧の大きさが異なる密詰め砂供試体の力学挙動の違いに関する数値シミュレーション／名古屋大学［F］野田 利弘・吉川 高広

Ⅲ-176　K0圧密された飽和粘性土の定体積条件での不飽和化に伴う応力挙動／鳥取大学［学］落合 祐介・中村 公一
Ⅲ-177　不飽和砂質土の非排気―非排水せん断試験およびそのシミュレーション／京都大学［学］石川 椋・木元 小百合・森本 恭弘
Ⅲ-178　既設盛土の保水性と補強対策について／高速道路総合技術研究所［正］安部 哲生・小林 一・三嶋 信雄

■地下空洞と地下構造物／10:30～12:00／譽田 孝宏（地域地盤環境研究所）

Ⅲ-179　ボアホールブレイクアウトの連続観測による初期地圧評価／大林組［正］名雪 利典・大西 耕造・伊藤 高敏
Ⅲ-180　節付き立坑の盤ぶくれ抵抗に関する重力場揚圧試験／大林組［正］光森 章・喜多 直之・渡邉 康司
Ⅲ-181　節つき立坑の盤ぶくれ抵抗に関する遠心模型実験／大林組［正］喜多 直之・光森 章・渡邉 康司
Ⅲ-182　波方基地プロパン貯槽における気密試験／大成建設［正］下茂 道人・島屋 進・板垣 賢
Ⅲ-183　波方基地プロパン貯槽気密試験における貯槽内温度の挙動評価／大成建設［正］板垣 賢・大黒 雅之・下茂 道人
Ⅲ-184　波方基地プロパン貯槽気密試験における溶存気体量の計測方法と気密性評価／大成建設［正］岡嶋 和義・工藤 直矢・平塚 祐介
Ⅲ-185　波方基地プロパン貯槽気密試験における水封機能評価／大成建設［正］堀田 渉・下茂 道人・文村 賢一
Ⅲ-186　3Dスキャナによる岩盤内LPG 貯槽容積計測法とその貯槽気密試験への適用／大成建設［正］一枝 俊豪・岡嶋 和義・堀田 渉

■現場計測／15:00～16:30／酒匂 一成（鹿児島大学）

Ⅲ-187　融雪水による盛土内水位変動の影響／土木研究所［正］加藤 俊二・佐々木 哲也・梶取 真一
Ⅲ-188　電気比抵抗コーンによる河川堤防地盤の電気比抵抗特製の検証／ソイルアンドロックエンジニアリング［正］吉村 貢・三村 衛・岩崎 好規
Ⅲ-189　統合型貫入試験による木津川河川堤防土質モデル構築に関する基礎的研究／京都大学［学］宮下 隆太郎・三村 衛・吉村 貢
Ⅲ-190　光ファイバで地盤材料に生じる変状をセンシングする際の合理的挿入型装置の開発／神戸大学［学］折原 竜太・芥川 真一・西尾 彰宣
Ⅲ-191　光ファイバで地盤材料に生じる変状をセンシングする際に用いる光ファイバの連結・分岐方法の検討／神戸大学［学］深田 哲平・芥川 真一・西尾 彰宣
Ⅲ-192　光ファイバを用いた地盤内部の状態把握に関する基礎的研究／神戸大学［学］西尾 彰宣・芥川 真一・松本 優平
Ⅲ-193　傾斜計による擁壁の変状計測の試み／鳥取大学［正］中村 公一・島内 哲哉・小野 和行
Ⅲ-194　自己組織化マップを利用した複合物理探査による切土斜面の定量的評価法に関する研究／関西大学［学］増満 岳也・楠見 晴重・大西 有三

Ⅲ-4（基礎工学部講義棟A304）／9月10日（水）

■トンネル（調査・評価法）／10:30～12:00／木村 定雄（金沢工業大学）

Ⅲ-195　発破震源によるS波取得の検証実験について／フジタ［正］村山 秀幸・丹羽 廣海・小室 仁弘
Ⅲ-196　ひび割れ指数（TCI）を用いた効率的な打音点検箇所の抽出方法に関する一考察／西日本高速道路 エンジニアリング関西［正］藤巴 太郎・寺田 光太郎・西田 久雄
Ⅲ-197　長期計測結果に基づいたトンネル覆工におけるひび割れの挙動に関する考察／土木研究所［正］笹田 俊之・砂金 伸治・石村 利明
Ⅲ-198　開削トンネルの曲げひび割れの検討における一考察／鉄道総合技術研究所［正］柳川 一心・牛田 貴士・仲山 貴司
Ⅲ-199　山岳トンネルの情報化施工における地山評価の現状と課題／深田地質研究所［F］亀村 勝美
Ⅲ-200　超長尺先進ボーリングを用いた穿孔振動探査法による切羽前方探査／大成建設［正］山上 順民・今井 博・加藤 宏征
Ⅲ-201　トンネル切羽前方の地山評価に用いる天端傾斜計の現場運用結果／大成建設［正］谷 卓也・青木 智幸・工藤 直矢
Ⅲ-202　SPH法を用いたトンネル切羽の崩壊挙動解析／ケー・エフ・シー［正］松尾 勉・孫 夢霞・平岡 伸隆

■トンネル（地山特性）／12:45～14:15／小泉 直人（佐藤工業）

Ⅲ-203　泥岩を掘削対象とするトンネルの変状に関わる割れ目密集部の力学的性質／鉄道総合技術研究所［正］川越 健・嶋本 敬介・石田 良二
Ⅲ-204　熱水変質作用を受けた岩石の劣化に伴う超音波伝播速度の経時変化／フジタ［正］丹羽 廣海・村山 秀幸・岡崎 健治
Ⅲ-205　蛇紋岩区間におけるクリープ挙動分析と覆工コンクリートの健全性の評価／鹿島建設［正］井関 隆文・掛田 浩司・山岸 隆史
Ⅲ-206　トンネル坑内の温熱環境予測手法の開発と検証／清水建設［正］本多 眞・鈴木 圭一・松本 高之
Ⅲ-207　トンネルインバート設置区間の供用後における盤膨れと地質／大林組［正］下村 哲雄・天野 淨行・高橋 孝二
Ⅲ-208　不整形構造を有する地盤でのトンネルの地震時挙動／首都大学東京［学］山口 智也・土門 剛・西村 和夫
Ⅲ-209　香港の地下鉄工事におけるクリープを考慮した凍結工法の設計事例／西松建設［正］齋藤 禎二郎・清水 達郎・森 保史
Ⅲ-210　熱水変質作用を受けた岩石コアにおける物理強度特性の変化に関する検討／土木研究所寒地土木研究所［正］岡崎 健治・大日向 昭彦・伊東 佳彦

■トンネル（設計・力学的挙動）／14:30～16:00／日下 敦（土木研究所）

Ⅲ-211　維持管理データを反映した鉄道開削トンネルの性能設計に関する一考察／鉄道総合技術研究所［正］牛田 貴士・柳川 一心・仲山 貴司
Ⅲ-212　鉄道開削トンネルの性能照査型設計法による試計算と一考察／中央復建コンサルタンツ［正］坂田 智基・室谷 耕輔・仲山 貴司
Ⅲ-213　トンネル支保設計手法における2次元解析と3次元解析の比較検討／大成建設［正］市田 雄行・廣末 龍文・小原 伸高
Ⅲ-214　堆積岩のクリープとひずみ軟化を評価する数理モデルによるトンネル掘削解析／大林組［正］中岡 健一・畑 浩二・蒋 宇静
Ⅲ-215　トンネル掘削による地すべり斜面の変位挙動のメカニズムの考察（その2）／山口大学［学］藤本 崇人・清水 則一・中島 伸一郎
Ⅲ-216　盛土施工過程における3ヒンジプレキャストアーチカルバートの変形挙動／京都大学［学］石原 央之・澤村 康生・岸田 潔
Ⅲ-217　中詰コンクリートの強度特性を考慮した複合構造インバートの三次元数値解析／首都大学東京［学］鈴木 一輝・土門 剛・北村 元
Ⅲ-218　インバートを有する山岳トンネル覆工の数値解析モデルに関する一考察／土木研究所［正］河田 皓介・日下 敦・砂金 伸治

Ⅲ-4（基礎工学部講義棟A304）／9月11日（木）

■トンネル（解析）／8:45～10:15／岩波 基（長岡工業高等専門学校）

Ⅲ-219　支保剛性の材齢変化を考慮した山岳トンネル支保工の力学的挙動に関する一考察／土木研究所［正］淡路 動太・砂金 伸治・日下 敦
Ⅲ-220　軸力と曲げモーメントが作用するトンネル覆工の耐荷力に関する数値解析的検討／土木研究所［正］日下 敦・砂金 伸治・河田 皓介
Ⅲ-221　3ヒンジアーチカルバートの地震時挙動解析／首都大学東京［学］波多野 陽香・土門 剛・西村 和夫
Ⅲ-222　傾斜基礎地盤上の盛土内におけるPCa可とうボックスカルバートの動的挙動解析／災害科学研究所［正］林 健二・松井 保・早川 清
Ⅲ-223　斜面中のトンネル坑口部の地震時挙動に与える地層構成の影響に関する検討／鉄道総合技術研究所［正］野城 一栄・井澤 淳・平田 亮
Ⅲ-224　斜面中のトンネル坑口部の地震時挙動に及ぼす地盤改良効果に関する検討／鉄道総合技術研究所［正］井澤 淳・野城 一栄・陶山 雄介
Ⅲ-225　地震時挙動における静的解析法の妥当性の検討／首都大学東京［学］須藤 拓馬・土門 剛・西村 和夫
Ⅲ-226　既設トンネルにおける免震対策工法の数値解析／首都大学東京［学］澤田 洋介・西村 和夫・土門 剛

■トンネル（施工法（1））／10:30～12:00／鈴木 雅行（安藤・間）

Ⅲ-227　軌道変位抑制に関する函体推進模型実験（その1）／千葉工業大学［学］田中 翔太郎・小宮 一仁・中村 智哉
Ⅲ-228　軌道変位抑制に関する函体推進模型実験（その2）／鉄道総合技術研究所［正］中村 智哉・岡野 法之・野中 信一
Ⅲ-229　曲面切羽施工の適用性について／大成建設［正］池田 哲也・柴山 周平・廣末 龍文
Ⅲ-230　地山補強におけるディンプル鋼管の付着耐力評価／新日鐵住金［正］妙中 真治・石濱 吉郎・寺田 好男
Ⅲ-231　変状トンネルに対するFRPグリッドの補強効果と適用条件について／長崎大学［F］蒋 宇静・東 幸宏・石田 耕生

Ⅲ-232　コンクリート強度増加による開削トンネルRC覆工の薄肉化に関する基礎的研究／長岡技術科学大学［学］吉崎 健司・野城 一栄・平田 亮
Ⅲ-233　塑性圧変形を受けるトンネルの対策と効果に関する一考察／JR西日本［正］塩谷 敦・鈴木 秀門・米山 義広
Ⅲ-234　高吸水性ポリマーを添加した地盤掘削用安定液の基本性状／早稲田大学［学］岩崎 光紀・赤木 寛一・浅野 均

Ⅲ-4（基礎工学部講義棟A304）／9月12日(金)

■トンネル(施工法(2)) ／8:45～10:15／蒋 宇静(長崎大学)

Ⅲ-235　中流動コンクリートの長距離圧送によるトンネル覆工コンクリートの施工／大成建設［正］浅井 伸弘・森谷 直樹・梁 俊
Ⅲ-236　広幅断面バケット式掘削機の実施工への適用／鉄建建設［正］泉 宏和・岩瀬 隆・尾関 聡司
Ⅲ-237　米国における湖中取水立抗と取水トンネルの湖底結合施工（LAKE TAP）／大林組［正］三野 秀作・赤井 知司
Ⅲ-238　府道直下のトンネル施工について／佐藤工業［正］中谷 幸一・草信 元春
Ⅲ-239　双設トンネルの掘削工法に関する一考察／大成建設［正］西谷 友幸・岡嶋 和義・廣末 龍文
Ⅲ-240　大断面・曲線施工の泥土圧式シールド掘進時における施工時荷重の影響／阪神高速道路［正］西原 知彦・玉田 康一・長屋 淳一
Ⅲ-241　損傷制御型鋼製セグメントの設計／阪神高速道路［正］新名 勉・志村 敦・玉田 康一
Ⅲ-242　SENSの時系列三次元逐次解析手法の開発／長岡技術科学大学［学］黒橋 群・阿部 広明・玉井 達毅

■岩の工学的性質／10:30～12:00／鏡原 聖史(ダイヤコンサルタント)

Ⅲ-243　携帯用帯磁率計による岩石材料の風化変質度の判定について／大成建設［正］藤原 靖・山上 順民・新井 博之
Ⅲ-244　岩塊崩落危険度評価手法確立のための実岩塊形状を再現したモデルによる解析的検討／鉄道総合技術研究所［正］箕浦 慎太郎・上半 文昭
Ⅲ-245　凝灰岩のSHS型三軸せん断試験と強度回復現象のモデル化に関する一考察／京都大学［学］大野 正登・菊本 統・安原 英明
Ⅲ-246　色調還元試験による大谷石の色調変化の原因究明／宇都宮大学［正］清木 隆文・折笠 智紀・多田 海成
Ⅲ-247　亜炭の風化強度特性に関する研究／中部大学［学］上野 剛・杉井 俊夫・浅野 憲雄
Ⅲ-248　3次元ばね解析法における減衰項に関する研究／鳥取大学［学］三橋 大地・文村 賢一・河野 勝宣
Ⅲ-249　凍結融解による岩石の物性変化／土木研究所寒地土木研究所［正］日下部 祐基・伊東 佳彦
Ⅲ-250　速度・状態依存摩擦則を用いたモルタル不連続面のSlide-Hold-Slide型一面せん断試験結果の一考察／京都大学［学］津田 直弥・安原 英明・矢野 隆夫

Ⅲ-5（基礎工学部講義棟B301）／9月10日(水)

■斜面(1) ／8:45～10:15／渡邉 諭(鉄道総合技術研究所)

Ⅲ-251　東日本大震災において被災した盛土造成地の滑動崩落による被害要因に関する一考察／パシフィックコンサルタンツ［正］上野 誠・本橋 あずさ・門田 浩一
Ⅲ-252　東日本大震災において被災した盛土造成地の締固め度と安定度の関係性について／パシフィックコンサルタンツ［正］本橋 あずさ・門田 浩一・吉田 桂治
Ⅲ-253　東日本大震災において被災した盛土造成地の限界水平震度及び設計水平震度についての考察／パシフィックコンサルタンツ［正］門田 浩一・植田 誠司・本橋 あずさ
Ⅲ-254　東北地方太平洋沖地震にて被災した鉄道盛土の相関項目分析／東日本旅客鉄道［正］鬼頭 和也・中村 貴志・金田 淳
Ⅲ-255　鉄道盛土を対象とした地震被災箇所・未被災箇所の再現解析による比較／JR東日本［正］中村 貴志・藤原 寅士良・金田 淳
Ⅲ-256　粘性土から構成される既設ため池の耐震照査に関する一試算／エイト日本技術開発［正］金 聲漢・風見 健太郎
Ⅲ-257　指定円弧と任意円弧による地震時すべり変形量と入力地震動の最大加速度の影響／土木研究所［正］藤川 祥・佐藤 弘行・榎村 康史

■斜面(2) ／10:30～12:00／獅子目 修一(鉄道総合技術研究所)

Ⅲ-258　傾斜地盤上の盛土における排水パイプの施工仕様について／鉄道総合技術研究所［正］浅野 嘉文・渡邉 諭・西田 幹嗣
Ⅲ-259　ESネット工法ののり面補強効果に関する模型試験／ライト工業［正］九田 敬行・石川 芳治・荒木 豪
Ⅲ-260　実物大載荷試験によるESネット工法の機能確認と施工事例／ライト工業［正］歳藤 修一・川添 英生・仲岡 重治
Ⅲ-261　繰返し注入を用いた地山補強土工法「ロータスアンカー工法」の開発／ライト工業［正］高橋 徳・中島 進・岡本 正広
Ⅲ-262　繰返し注入による地山補強土工法「ロータスアンカー工法」の鉄道盛土への適用性について／ライト工業［正］別府 正顕・中島 進・田村 幸彦
Ⅲ-263　排水機能を有する回転鋼管杭の排水性能に関する一考察／鉄道総合技術研究所［正］渡邉 諭・太田 直之・西田 幹嗣
Ⅲ-264　斜面上に設置された落石防止用杭基礎の耐衝撃性に関する数値解析／東京都市大学［学］成田 恵祐・伊藤 和也・吉川 直孝
Ⅲ-265　法面からの墜落災害防止のための親綱固定方法に関する研究／東京都市大学［学］岡庭 翔一・末政 直晃・伊藤 和也

■斜面(3) ／12:45～14:15／伊藤 和也(労働安全衛生総合研究所)

Ⅲ-266　有機繊維補強モルタル吹付ののり面への適用性の検討―実物大試験―／日特建設［正］窪塚 大輔・宇次原 雅之・高柳 剛
Ⅲ-267　斜面材料の違いが落石運動に与える影響に関する実験的研究／鳥取大学［学］北迫 勝也・河野 勝宣・西村 強
Ⅲ-268　自然斜面上の転石に対する不安定性評価手法の検証／西日本旅客鉄道［F］小栗 太一・紙田 茂・深田 隆弘
Ⅲ-269　繰返し載荷を受けた火山灰質盛土の耐波性能に関する模型実験／室蘭工業大学［学］古舘 聖斗・川村 志麻・三浦 清一
Ⅲ-270　現地調査・室内実験による自然斜面表層崩壊の簡易予測手法―限界崩壊土層厚の提案 その2／ダイヤコンサルタント［正］鏡原 聖史・臼井 亮太・文岩 秀貴
Ⅲ-271　転動、流動した岩塊、土砂のリスク評価に向けた検討(1) ―岩塊、土砂の転動、流動衝撃試験の概要―／鉄道総合技術研究所［正］獅子目 修一・阿部 慶太・渡辺 健治
Ⅲ-272　転動、流動した岩塊、土砂のリスク評価に向けた検討(2) ―岩塊、土砂の転動、流動衝撃試験の再現解析に関する検討―／鉄道総合技術研究所［正］阿部 慶太・中島 進・渡辺 健治
Ⅲ-273　転動、流動した岩塊、土砂のリスク評価に向けた検討(3) ―岩隗転動実験に対する個別要素法による再現シミュレーション―／東電設計［正］中瀬 仁・阿部 慶太・中村 英孝

■斜面(4) ／14:30～16:00／桐山 貴俊(清水建設)

Ⅲ-274　浸透流解析と剛塑性有限要素法を組み合わせた地盤構造物の解析手法について／早稲田大学［学］安藤 悠・赤木 寛一・小西 真治
Ⅲ-275　高精度DEMを利用した天子山地の地形解析による地すべりの影響範囲予測の研究／ジェイアール東海コンサルタンツ［正］徳永 浩之・小嶋 智・岩本 直也
Ⅲ-276　遠心場振動実験による斜面崩壊のMPS法を用いた再現解析／東京都市大学［正］吉田 郁政
Ⅲ-277　有限要素法に基づくNewmark法によるすべり量の算定に関する研究／ユニック［正］西村 聡・前原 達也・中村 英孝
Ⅲ-278　斜面表層崩壊の土砂到達予測における粒状体個別要素法解析の適用／地層科学研究所［正］中川 光雄・池田 泰之・山 真典
Ⅲ-279　気液二相流連成モデルを用いた集中豪雨時の斜面の安定性に関する解析的検討／長崎大学［学］石田 純平・蒋 宇静・大嶺 聖
Ⅲ-280　地盤の風化を考慮した斜面の安定性評価に関する基礎的研究／長崎大学［正］尾方 裕介・杉本 知史・蒋 宇静
Ⅲ-281　墳丘の雨水浸透挙動の解析的評価に基づく降雨時の墳丘斜面の安定性検討／京都大学［学］澤田 茉伊・三村 衛・吉村 貢

Ⅲ-5（基礎工学部講義棟B301）／9月11日(木)

■斜面(5) ／8:45～10:15／齋藤 秀樹(応用地質)

Ⅲ-282　道央自動車道 有珠山山麓切土のり面の初期変状発見から地すべり対策の報告／東日本高速道路［正］小山 良生
Ⅲ-283　高速道路における切土のり面災害復旧対策の分析／高速道路総合技術研究所［正］田久 勉・藤岡 一頼・安藤 伸
Ⅲ-284　中国地方における高速道路斜面災害の形態分析／西日本高速道路エンジニアリング中国［正］佐々木 啓之・下野 宗彦・中田 幸男

Ⅲ-285　和泉層群切土のり面の変状要因について／西日本高速道路［正］内田 純二・江川 元幾・紙田 直充
Ⅲ-286　高速道路に影響を及ぼす渓流評価について／西日本高速道路エンジニアリング中国［正］柳迫 新吾・下野 宗彦・仲子 大樹
Ⅲ-287　平成25年8月島根県西部豪雨による江津市の土石流災害／松江工業高等専門学校［正］河原 荘一郎
Ⅲ-288　中山間地集落を対象とした表層崩壊ハザードマップ作成についての検討／豊橋技術科学大学［正］河邑 眞・辻子 裕二・辻野 和彦
Ⅲ-289　マレー半島における斜面災害履歴図を利用した広域ハザードマップの作成／茨城大学［学］西ヶ谷 友美・村上 哲・小峯 秀雄

■斜面(6)　／10:30～12:00／河邑 眞(豊橋技術科学大学)
Ⅲ-290　大規模地震による宅地造成斜面の崩壊実績に基づく建築禁止距離に関する新たな提案／大阪大学［学］駒井 尚子・秦 吉弥・常田 賢一
Ⅲ-291　同時多発型・斜面崩壊危険箇所評価支援を目的とした教師データ活用方法の一提案／東京理科大学［学］関根 亮・小島 尚人・吉田 智也
Ⅲ-292　上越線に存在する巨大岩塊の対策に向けたモニタリングおよび調査・解析結果について／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］清水 保・鴨志田 祥子・内田 雅人
Ⅲ-293　急傾斜斜面に対するGPS変位計測システムの適用事例／山口大学［学］古山 陽太・清水 則一・中島 伸一郎
Ⅲ-294　超小型模型ヘリによる斜面崩壊箇所プロファイリングの適用に関する一考察／アジア航測［正］近藤 健一・内田 修・五百蔵 弘
Ⅲ-295　高速道路切土法面の予防保全管理への空中電磁法(HEM)の適用性の検証／西日本高速道路エンジニアリング関西［正］上出 定幸・殿垣内 正人・小西 貴士
Ⅲ-296　レーザードップラー振動計による不安定岩塊模型の振動計測実験―形状の異なる石膏模型を用いた基礎的実験―／応用地質［正］斎藤 秀樹・上半 文昭・箕浦 慎太郎
Ⅲ-297　岩塊安定性の定量評価／JR東海［正］井奈波 周一

Ⅲ-5（基礎工学部講義棟B301）／9月12日(金)

■洗掘・侵食／8:45～10:15／ハザリカ ヘマンタ(九州大学)
Ⅲ-298　ジオシンセティック補強土防潮堤の小型模型による長時間越流実験／東京大学［学］青柳 悠大・川邉 翔平・菊池 喜昭
Ⅲ-299　長時間の津波越流による支持地盤の侵食が補強盛土の耐越流抵抗性に与える影響／鉄道総合技術研究所［正］藤井 公博・青柳 悠大・野中 隆博
Ⅲ-300　三軸圧縮試験装置による内部侵食時の供試体変形と浸透流速の評価／東京大学［正］佐藤 真理・桑野 玲子
Ⅲ-301　内部浸食に起因する埋設管周りのゆるみ形成機構に及ぼす粒度形状の影響／名古屋工業大学［学］近藤 明彦・前田 健一・新井 拓弥
Ⅲ-302　栗平地区河道閉塞に対する暗渠排水管による越流防止対策／大成建設［正］青木 浩章・大塚 康之
Ⅲ-303　盛土のり面の排水合流部における溢水対策について／高速道路総合技術研究所［正］永田 政司・藤岡 一頼・篠田 雅男
Ⅲ-304　鋼矢板とカゴ枠を用いた河川堤防の耐震補強に関する二次元有効応力解析／地震工学研究所［正］細尾 敦・飯田 毅・宇高 竹和

■維持・補修／10:30～12:00／佐藤 毅(東洋建設)
Ⅲ-305　健全なアンカー法面におけるアンカー荷重と温度との関係／三重大学［正］酒井 俊典・川嶋 直人
Ⅲ-306　既設グラウンドアンカー構造の確認方法に関する検討／西日本高速道路［正］藤原 優・竹本 将・殿垣内 正人
Ⅲ-307　RPDによる連続打撃動的貫入試験のアンカー削孔管理への適用／興和［正］中野 義仁・小林 雄三・近藤 史祥
Ⅲ-308　高速道路盛土の長期安定評価のための強度定数について／ドーユー大地［正］松方 健治・浜崎 智洋・松川 耕治
Ⅲ-309　補強土壁の維持管理手法構築に向けた実大模型実験(その1)／土木研究所地質・地盤研究グループ施工技術チーム［正］藤田 智弘・久保 哲也・宮武 裕昭
Ⅲ-310　補強土壁の維持管理手法構築に向けた実大模型実験(その2)／土木研究所［正］久保 哲也・藤田 智弘・青池 邦夫
Ⅲ-311　受圧板を用いた地山補強土工の振動台模型実験／香川高等専門学校［学］角野 充・濱口 竜一・小竹 望
Ⅲ-312　再生ポリプロピレン樹脂を用いた地山補強土工法における受圧板変形状態／日本基礎技術［正］沓澤 武・奥野 倫太郎・長田 貴絵

■リサイクル／15:00～16:30／笠間 清伸(九州大学)
Ⅲ-313　災害廃棄物処理業務(気仙沼処理区)における津波堆積物由来の再生資材の土質特性／大成建設［正］宇野 浩樹・石井 裕泰・太田 綾子
Ⅲ-314　災害廃棄物処理業務(気仙沼処理区)における津波堆積物の重金属溶出抑制に関する検討／大成建設［正］太田 綾子・宇野 浩樹・根岸 昌範
Ⅲ-315　災害廃棄物再生資材を用いた港湾埋立の報告／鹿島建設［正］小川 浩司・佐々木 源・佐山 雅史
Ⅲ-316　再生石膏を併用した建設発生汚泥の凝集沈殿フロックの力学性状／早稲田大学［学］井上 雄貴・赤木 寛一・檜垣 隼也
Ⅲ-317　再生半水石膏を用いた改良土の再泥化特性／福岡大学［学］松尾 典映・佐藤 研一・藤川 拓朗
Ⅲ-318　廃石膏ボード由来再生石膏の熱的挙動について／大分工業高等専門学校［正］佐野 博昭・利光 凌・山田 幹雄
Ⅲ-319　機械脱水処理土を盛り立てた地盤の特性／日建設計シビル［正］片桐 雅明・池田 秀文・河野 正文
Ⅲ-320　粒状固化処理した焼却灰の締固め特性に及ぼす含水比調整方法の影響／九州産業大学［正］松尾 雄治・林 泰弘・中道 和徳

Ⅲ-6（基礎工学部講義棟B303）／9月10日(水)

■路床・路盤・補強土他／8:45～10:15／藤川 拓朗(福岡大学)
Ⅲ-321　路盤・路床の含水飽和度が舗装の変形特性に及ぼす影響／山口大学［学］川口 雄輔・中島 伸一郎・清水 則一
Ⅲ-322　極限釣り合い法を用いた鉄道バラスト軌道の道床横抵抗力の推定／横浜国立大学［正］市川 拓真・早野 公敏・中村 貴久
Ⅲ-323　ニューマチックケーソン内での洪積砂地盤上の土被り圧を段階的に変化させた平板載荷試験／首都高速道路［正］加藤 瑞穂・春日 清志・小宅 知行
Ⅲ-324　交通載荷作用時における路盤の応力状態と残留変形特性／防衛大学校［正］平川 大貴・宮田 喜壽
Ⅲ-325　面状補強材を混入した粘性土の力学特性に及ぼす補強材形状の影響／日本大学［学］長谷川 圭介・峯岸 邦夫・山中 光一
Ⅲ-326　廃棄物の引張特性と引張強度の評価に関する実験的検討／九州大学［学］宮本 慎太郎・安福 規之・石藏 良平
Ⅲ-327　更生管の変形拘束外水圧バックリング式における隙間k0の感度分析／大阪市立大学［正］東田 淳・井上 裕司・吉村 洋

■補強土／10:30～12:00／平川 大貴(防衛大学校)
Ⅲ-328　受圧板が地山補強土の補強材間隔に与える影響の評価／鉄道総合技術研究所［正］高柳 剛・小井戸 菜海・高橋 章浩
Ⅲ-329　添加材を混合した連続繊維補強土のせん断強度増強効果と現場への適用性／日特建設［正］石垣 幸整・三上 登・大嶺 聖
Ⅲ-330　動的遠心模型実験に基づいた補強土壁の入力加速度―残留変位関係の推定／土木研究所［正］荒木 裕行・石原 雅規・梶取 真一
Ⅲ-331　積雪寒冷地で施工されたアンカー式補強土壁の引抜き試験／土木研究所寒地土木研究所［正］橋本 聖・山梨 高裕・林 宏親
Ⅲ-332　パイルスラブ式盛土の設計手法について／鉄道総合技術研究所［正］野中 隆博・小島 謙一・高野 裕輔
Ⅲ-333　浸透流を受けるアンカー式補強土壁の地震時挙動に関する遠心模型実験／豊田工業高等専門学校［学］伊藤 慶・桂川 隼人・小林 睦
Ⅲ-334　円筒金網とチェーンを用いた補強土壁の浸水時挙動解析／京都大学［学］關 健宏・肥後 陽介・三村 衛
Ⅲ-335　チェーン補強材端末に取り付けられたL字型支圧板の引抜き特性に関する研究／京都大学［学］仲井 春日・北村 明洋・澤村 康生

■土留め／12:45～14:15／小林 薫(神戸市立工業高等専門学校)
Ⅲ-336　仮設―本設兼用合成地下壁の開発その1（押し抜き試験による一体性評価）／JFEスチール［正］岡 由剛・恩田 邦彦・東野 光男
Ⅲ-337　仮設―本設兼用合成地下壁の開発その2（合成壁の梁曲げ試験）／ジェコス［正］岩崎 伸一・一ノ瀬 満郎・前田 知就
Ⅲ-338　レベル2地震動における自立式PCaコンクリート矢板護岸の地震応答解析／ジオスター［正］斉藤 光海・中谷 郁夫・横尾 彰彦
Ⅲ-339　斜め自立土留めの壁面摩擦の影響に関する遠心力模型実験／大林組［正］前田 知就・高橋 真一・杉江 茂彦

Ⅲ-340　崩壊防止ネットと地山補強材を併用した石積み壁の大型振動台実験に関する検証解析／鉄道総合技術研究所［正］窪田 勇輝・中島 進・佐々木 徹也
Ⅲ-341　崩壊防止ネットと地山補強材で耐震補強された石積み壁の非線形梁ばね解析／鉄道総合技術研究所［正］中島 進・加藤 久也・窪田 勇輝
Ⅲ-342　崩壊防止ネットと地山補強材を併用した石積み壁の耐震補強方法に関する静的載荷試験／JR東日本［正］池本 宏文・藤原 寅士良・鬼頭 和也

■締固め／14:30～16:00／前田 幸男（佐藤工業）
Ⅲ-343　盛土における締固め特性について（その1）～全体総括～／土木研究所［正］森 芳徳・宮武 裕昭・藤田 智弘
Ⅲ-344　盛土施工における締固め特性について（その2）～大型無振動締固め機械による締固め特性～／安藤・間［正］永井 裕之・茂木 正晴・橋本 毅
Ⅲ-345　盛土施工における締固め特性について（その3）～大型振動締固め機械と加速度応答法の適用性～／前田建設工業［正］松尾 健二・茂木 正晴・橋本 毅
Ⅲ-346　盛土施工における締固め特性について（その4）～施工機械の違いによる適用性～／大林組［正］古屋 弘・茂木 正晴・橋本 毅
Ⅲ-347　盛土施工における締固め特性について（その5）―小型締固め機械の締固め特性―／西松建設［F］佐藤 靖彦・茂木 正晴・橋本 毅
Ⅲ-348　盛土施工における締固め特性について（その6）～締固めによる地盤反力係数K30の特性～／西松建設［正］岩谷 隆文・佐藤 靖彦・茂木 正晴
Ⅲ-349　盛土施工における締固め特性について（その7）―小型締固め機械に搭載した加速度応答システムの適用検討―／土木研究所［正］橋本 毅・茂木 正晴・藤野 健一

Ⅲ-6（基礎工学部講義棟B303）／9月11日（木）

■リスクマネージメント／8:45～10:15／中嶋 勇（農村工学研究所）
Ⅲ-350　アースダム下流域における地震時リスク評価／岡山大学［正］西村 伸一・珠玖 隆行・柴田 俊文
Ⅲ-351　江戸川区における液状化発生危険度マップの作成／芝浦工業大学［学］小嶋 孝輔・近藤 若菜・岡本 敏郎
Ⅲ-352　液状化ハザードマップ作成を目的とした表層地盤モデルの開発／日本大学［正］小田 憲一・小野 幹
Ⅲ-353　精密地形情報を活用した豪雨時の盛土のり面被災リスク評価手法の開発／西日本旅客鉄道［正］高橋 康将・瀧浪 秀元・小野田 敏
Ⅲ-354　遮水シートの信頼性劣化予測に基づくライフサイクルコスト評価／明石工業高等専門学校［学］眞鍋 磨弥・稲積 真哉・佐野 博昭
Ⅲ-355　集水井を利用した地すべり対策工事の技術移転とその成果について―ホンジュラス共和国首都圏地すべり対策工事例―／安藤ハザマ［正］宇津木 慎司・石坂 隆・鈴木 吉春

■圧縮・圧密／10:30～12:00／梅崎 健夫（信州大学）
Ⅲ-356　有機質土の間に砂層が挟在する地盤での真空圧密工法の圧密効果の確認／八千代エンジニヤリング［正］牧 岳志・加藤 真司・岩田 賢
Ⅲ-357　腐植土地盤での盛土事例の解析と真空圧密併用効果の検証（その1）／大林組［正］鈴木 和明・杉江 茂彦
Ⅲ-358　腐植土地盤での盛土事例の解析と真空圧密併用効果の検証（その2）／大林組［正］杉江 茂彦・鈴木 和明
Ⅲ-359　圧密沈下に起因する樋門函体底面の空洞形成に関する遠心模型実験／土木研究所［正］吉田 直人・平林 学・石原 雅規
Ⅲ-360　沈下観測データに基づいた双曲線法から盛土荷重変化にも対応する予測法の提案／オリエンタルコンサルタンツ［正］川崎 始・邱 金営・砂田 尚彦
Ⅲ-361　固結効果に着目したスラグ石灰混合浚渫土の圧密特性／九州大学［正］笠間 清伸・善 功企・八尋 裕一
Ⅲ-362　耕地化された泥炭地の長期沈下挙動に関する一考察／土木研究所寒地土木研究所［正］小野寺 康浩・横濱 充宏・大久保 天
Ⅲ-363　熱伝導を利用した含水比測定法の検討／東京都市大学［学］石垣 拓也・末政 直晃

Ⅲ-6（基礎工学部講義棟B303）／9月12日（金）

■地盤の応力と変形／8:45～10:15／山田 孝弘（西日本旅客鉄道）
Ⅲ-364　廃砂たい積場の覆土設置による沈下の評価／神戸大学［学］佐々木 陽亮・飯塚 敦・河井 克之
Ⅲ-365　降雨による盛土の進行性崩壊に対する浸透―変形連成解析手法の適用／鉄道総合技術研究所［正］松丸 貴樹・川尻 峻三・渦岡 良介
Ⅲ-366　砂の純引張強度を直接測定する動的試験法の開発のための数値解析的検討／京都大学［正］松倉 敏寛・後藤 浩之・澤田 純男
Ⅲ-367　実物大模型盛土に打設した排水パイプの浸透流解析モデルの検証／鉄道総合技術研究所［正］西田 幹嗣・渡邉 諭・川尻 峻三
Ⅲ-368　経験地震による無被災実績を考慮した盛土のモデル化および改良O型Newmark法による残留変形量の評価／大阪大学［学］魚谷 真基
Ⅲ-369　高盛土のレベル2地震動に対する変位・変形量の抑制に関する設計と施工／西日本高速道路［正］川村 祐次・小林 立樹
Ⅲ-370　遠心載荷模型実験による逆断層強制大変位を受ける地盤の変形と地盤特性の関係／防災技術社会システム研究センター［正］橋詰 豊・小山 直輝・金子 賢治
Ⅲ-371　横ずれ断層に伴うフラワー構造を伴うリーデルせん断帯生成の数値シミュレーション／名古屋大学［正］川合 裕太・野田 利弘・山田 正太郎

■土壌地下水汚染／10:30～12:00／稲積 真哉（明石工業高等専門学校）
Ⅲ-372　原位置微生物機能を活用した有害金属の固定化方法の検討（その1）ウレアーゼ活性試験／竹中工務店［正］奥田 信康・田邉 康太・畠 俊郎
Ⅲ-373　原位置微生物機能を利用した有害金属の固定化方法の検討（その2）砒素の固定化／竹中土木［正］田邉 康太・奥田 信康・畠 俊郎
Ⅲ-374　自然由来のヒ素含有土を用いた簡易溶出試験法確立のための基礎的検討／大成建設［正］海野 円・根岸 昌範・太田 綾子
Ⅲ-375　排泥土に含まれる自然由来重金属を評価するための分級方法の検討／大成建設［正］赤塚 真依子・川又 睦・片倉 徳男
Ⅲ-376　ノンコアボーリングを用いた地山の重金属類事前予測法／西松建設［正］山崎 将義・佐藤 透・山下 雅之
Ⅲ-377　海水を利用したセメント改良土からのふっ素、ほう素溶出量調査／大林組［正］三浦 俊彦・新村 亮
Ⅲ-378　地下水面下における物質の移行状況に関する土槽実験／土木研究所［正］稲垣 由紀子・佐々木 哲也・阿南 修司
Ⅲ-379　鉄粉と磁気分離による砒素抽出・土壌浄化技術／鹿島建設［正］佐藤 毅・伊藤 圭二郎・川端 淳一

第Ⅳ部門　土木計画、地域都市計画、国土計画、交通計画、交通工学、鉄道工学、景観・デザイン、土木史、測量など

Ⅳ-1（全学教育推進機構C棟C401）／9月10日（水）

■防災計画（1）／8:45～10:15／荒谷 太郎（海上技術安全研究所）
Ⅳ-001　東日本大震災における津波避難実態に基づく避難困難者の把握～宮崎市津波浸水想定区域を対象として～／九州大学［学］新川 登志朗・加知 範康・塚原 健一
Ⅳ-002　東日本大震災における津波避難の社会心理学的考察／東京都市大学［学］三枝 大祐・皆川 勝・中村 遼太
Ⅳ-003　東北地方太平洋沖地震津波浸水域および浸水域近傍に存在する寺院の津波防災に関する調査／日本大学［正］後藤 浩・石野 和男・玉井 信行
Ⅳ-004　東北地方太平洋沖地震の前後における買い物環境の変化／岩手大学［正］平井 寛・南 正昭
Ⅳ-005　震災時における民間企業の役割と共助意識／大分工業高等専門学校［正］亀野 辰三・平岡 透・今山 清
Ⅳ-006　東日本大震災後の産業再生における実情と課題／東北工業大学［正］菅原 玲・今西 肇
Ⅳ-007　四国地方における災害に強いまちづくりの方策体系／エイト日本技術開発［正］嶋田 圭佑・松澤 秀泰・矢野 峰

■防災計画(2) ／10:30～12:00／神谷 大介(琉球大学)

Ⅳ-008　ゲリラ豪雨時のtwitterによる発信情報の特性分析／金沢大学［正］藤生 慎・石川 秀矢・高田 和幸
Ⅳ-009　東北地方太平洋沖地震が岩手・宮城の沿岸幹線道路網へ及ぼした影響の分析／東北工業大学［正］村井 貞規
Ⅳ-010　津波発生時の自動車避難に伴う危険性の評価―太平洋沿岸市町村を対象として―／岩手大学［学］佐藤 史弥・南 正昭・平井 寛
Ⅳ-011　大規模水災害対策のための広域ワークショップ開催運営の一考察―香川県土器川での事例から―／いであ［正］山本 智和・磯打 千雅子・岩原 廣彦
Ⅳ-012　防災や災害対応に関する演習／訓練の企画運営に必要な環境の検討―消防団を対象とした水害の避難に関する演習を事例として―／人と防災未来センター［正］近藤 伸也・小山 真紀・古橋 勝也
Ⅳ-013　燕市防災リーダー養成講座を通じた地域防災力の向上／エコロジーサイエンス［正］樋口 勲・渡邉 徳昭・澤田 雅浩
Ⅳ-014　住民参加型地区減災計画の支援に関する取り組みとその考察―沖縄県国頭村与那を対象として―／琉球大学［学］中山 貴喜・神谷 大介・山中 亮
Ⅳ-015　震災時の移動手段を考える教材の開発／東北工業大学［学］菅原 啓治・中井 周作・菊池 輝

■測量・リモートセンシング／12:45～14:15／岩下 圭之(日本大学)

Ⅳ-016　細部測量およびGISによる下水道台帳図の3Dベクタデータ作成および3D表現／中央工学校［正］久保寺 貴彦・那須 充・姫野 賢治
Ⅳ-017　LANDSAT-8衛星データによる米国ワシントン州の大規模地滑り災害調査(速報)について／広島工業大学［正］菅 雄三・小西 智久
Ⅳ-018　ALOS／AVNIR-2による相馬市・南相馬市における津波浸水域の判読／日本大学［正］青山 定敬・齋藤 修大・工藤 勝輝
Ⅳ-019　時系列衛星画像比較のための並行処理について／RESTEC［正］杉村 俊郎
Ⅳ-020　高分解能衛星画像による都市内植生の分類手法の比較検討／日本大学［学］高岩 直彰・羽柴 秀樹
Ⅳ-021　高分解能衛星リモートセンシングによる都市空間の影領域の時系列変化の調査／日本大学［正］羽柴 秀樹
Ⅳ-022　衛星データによる汚濁水塊の排水取引プログラムのモニタリング―米国事例を対象に―／日本大学［正］内田 裕貴・岩下 圭之・工藤 勝輝
Ⅳ-023　地盤構造と土地価格算定について／秋元技術コンサルタンツ［正］阿部 和正・今西 肇

■高齢者・身障者交通／14:30～16:00／橋本 成仁(岡山大学)

Ⅳ-024　個人属性と地域特性が買い物困難度に及ぼす影響に関する研究／熊本大学［学］川口 充洋・伊勢 昇・大隈 ゆき
Ⅳ-025　買い物弱者の買い物行動様式選択頻度に関する研究／和歌山工業高等専門学校［学］大隈 ゆき・伊勢 昇・中村 祥之
Ⅳ-026　高齢ドライバーを対象とした安全教育プログラム(案)の実施と評価／西日本高速道路エンジニアリング関西［正］北原 聡子・中井 由可子
Ⅳ-027　高齢者の運転免許返納に対する意識と要因に関する基礎的研究／呉工業高等専門学校［正］山岡 俊一・野田 宏治・荻野 弘
Ⅳ-028　老研式活動能力指標を用いた公共交通利用と財政支出に関する基礎的研究／北見工業大学［学］山越 一輝・高橋 清
Ⅳ-029　雫石あねっこバスの経年評価～運転免許保有利用者の動向～／岩手県立大学［F］元田 良孝・宇佐美 誠史・上路 幸奈
Ⅳ-030　視覚障碍者向け音声ナビガイドラインの精細化／大阪市立大学［学］小谷 智也・内田 敬・高橋 咲衣

Ⅳ-1（全学教育推進機構C棟C401）／9月11日(木)

■景観調査・分析／8:45～10:15／松田 泰明(土木研究所 寒地土木研究所)

Ⅳ-031　福島県いわき市沿岸部の地区別にみた「復興事業計画」の成立要因に関する研究―（その1）市内全24地区の「復興事業計画」の現状―／日本大学［正］岡田 智秀・横内 憲久・大塚 宏樹
Ⅳ-032　福島県いわき市沿岸部の地区別にみた「復興事業計画」の成立要因に関する研究―（その2）事業推進のための工夫点と課題点について―／日本大学［学］大塚 宏樹・横内 憲久・岡田 智秀
Ⅳ-033　岐阜県恵那市大井町における生活領域と認知点に関する考察―土々ヶ根・岡瀬沢地区に着目して―／日本大学［学］井出 純一・横内 憲久・岡田 智秀
Ⅳ-034　空間情報技術を活用した近世高松の景観復元／大阪工業大学［学］高橋 良尚・吉川 眞・田中 一成
Ⅳ-035　景観現象の時空間分析／復建調査設計［正］大野 陽一・吉川 眞・田中 一成
Ⅳ-036　都市における隙間空間の視覚的分析手法／中央コンサルタンツ［正］中山 雅淑・田中 一成・吉川 眞
Ⅳ-037　夜間景観の光環境と距離感／大阪工業大学［学］堤 博紀・田中 一成・吉川 眞

■景観デザイン／10:30～12:00／大波 修二(オリエンタルコンサルタンツ)

Ⅳ-038　サルギナトーベル橋における構造特性の照査／日本大学［学］千葉 深広・関 文夫
Ⅳ-039　筑後川橋梁詳細設計 土木遺産(デ・レイケ導流堤)に配慮した橋脚(橋梁)のデザイン／オリエンタルコンサルタンツ［正］大森 貴行・清時 義雄・鎌手 路雄
Ⅳ-040　三宝ジャンクション・片持ち横梁を有する円柱橋脚の景観デザイン／阪神高速道路［正］茂呂 拓実・齋藤 公生・木暮 雄一
Ⅳ-041　多角形断面を採用した橋脚の景観デザイン／鹿島建設［正］木暮 雄一・松本 卓士・伊藤 康輔
Ⅳ-042　東京駅八重洲広場整備計画―環境に配慮した緑化計画―／JR東日本［正］堀田 大貴・鈴木 裕隆・山田 徹
Ⅳ-043　ソーシャルメディアを活用した中心市街地の緑環境と景観分析／大阪工業大学［学］村野 大智・吉川 眞・田中 一成
Ⅳ-044　正規化植生指標とアンケート調査による屋上緑化資材の感性工学的な評価／日本大学［学］齋藤 修大・朝香 智仁・工藤 勝輝

Ⅳ-1（全学教育推進機構C棟C401）／9月12日(金)

■交通事故(1) ／8:45～10:15／鈴木 弘司(名古屋工業大学)

Ⅳ-045　重回帰モデルを用いた都市内高速道路における追突事故発生時の影響要因に関する考察／京都大学［学］仙田 昂之・宇野 伸宏・山崎 浩気
Ⅳ-046　渋滞関連事故の発生状況判定ツール開発について／西日本高速道路エンジニアリング関西［正］澤田 英郎・奥野 裕司
Ⅳ-047　高精度GPSを活用した横断歩行者回避時の走行挙動に関する研究／日本大学［学］今村 一紀・石坂 哲宏・佐田 達典
Ⅳ-048　プローブデータ収集時の車両挙動に関する研究／国土技術政策総合研究所［正］尾崎 悠太・矢田 淳一・藪 雅行
Ⅳ-049　MMSの点群データを用いた可視領域定量化による交差点の見通し評価に関する研究／朝日航洋［正］舩戸 智也・佐田 達典・石坂 哲宏
Ⅳ-050　知識ベースを用いた交通安全対策立案システム／関西大学［学］木村 俊之・秋山 孝正・井ノ口 弘昭
Ⅳ-051　自転車事故の実態と課題／東京都市大学［学］須田 侑馬
Ⅳ-052　生活道路の事故削減に向けた行動類型・時間帯・年代別の事故発生状況の分析／国土技術政策総合研究所［正］鬼塚 大輔・大橋 幸子・木村 泰

■交通事故(2) ／10:30～12:00／吉田 長裕(大阪市立大学)

Ⅳ-053　交通安全対策立案の支援に向けた対策工種別の効果分析／日本工営［正］神谷 翔・尾崎 悠太・武本 東
Ⅳ-054　信号切り替わりに着目した情報提供時の運転挙動分析／京都大学［学］中山 達貴・中村 俊之・宇野 伸宏
Ⅳ-055　横断歩道部への路面標示シート設置効果に関する基礎的分析／名古屋工業大学［正］鈴木 弘司・丹下 寛人・伊藤 聡
Ⅳ-056　交通事故データを用いた自転車対歩行者事故の経年変化と道路種別による特徴の分析／国土技術政策総合研究所［正］大橋 幸子・木村 泰・鬼塚 大輔
Ⅳ-057　北海道における野生動物の飛び出しによる潜在的危険地点の抽出と分析―国道44号を対象として―／日本大学［正］伊東 英幸・福田 敦
Ⅳ-058　冬期道路の吹雪危険度評価技術に関する研究(2) ―吹雪時における視程障害要因と運転危険度に関する調査事例―／土木研究所寒地土木研究所［正］武知 洋太・松澤 勝・金子 学
Ⅳ-059　冬期の路面状況における大型車両対応規格のランブルストリップス評価試験／土木研究所 寒地土木研究所［正］高田 哲哉・平澤 匡介・石田 樹

■土木史／15:00～16:30／大沢 昌玄(日本大学)

Ⅳ-060　空石積み護岸の力学的挙動に関する研究／日本大学［学］竹田 知樹・関 文夫・松井 均
Ⅳ-061　戦災復興における瓦礫処理の実態に関する研究／首都高メンテナンス東東京［正］太刀川 宏志・大沢 昌玄・岸井 隆幸

Ⅳ-062　大阪の近代化変遷～梅田と旧淀川に着目して～／ニュージェック［正］西本 貴洋・吉川 眞・田中 一成
Ⅳ-063　神田上水の幹線ルートにおける流量と流れ／神戸大学［正］神吉 和夫
Ⅳ-064　日本統治下の台湾における台南水道建設及び浜野弥四郎氏に関する考察／正修科技大学［正］柯 武徳・小竹 望
Ⅳ-065　高速道路の環境対策史／日特建設［F］中村 眞

Ⅳ-2（全学教育推進機構C棟C402）／9月10日(水)

■公共交通／8:45～10:15／桑野 将司(鳥取大学)

Ⅳ-066　ディマンドバス導入における利用者意識の事前・事後分析／北見工業大学［学］佐々木 智英・高橋 清・黒瀬 智史
Ⅳ-067　兵庫県東播磨地域における住民視点のバス交通のあり方と交通情報の提供に関する研究／京都大学［学］増本 裕幸・石内 鉄平
Ⅳ-068　都市内公共交通の終夜運行に関する論点整理／運輸調査局［正］板谷 和也
Ⅳ-069　サービス水準の変化によるコミュニティバス利用者の需要分析～愛知県日進市をケーススタディとして～／名城大学［学］伊藤 真章・松本 幸正
Ⅳ-070　鉄道・バスの一体配分による公共交通需要予測／芝浦工業大学［学］富田 椋・遠藤 玲
Ⅳ-071　バスコンボイ成立可能性に関する研究／横浜国立大学［学］熊谷 直之・中村 文彦・田中 伸治
Ⅳ-072　線区全体を対象とした駅勢圏法による新駅の需要予測／東日本旅客鉄道［正］野添 孝敬・吉住 弥華
Ⅳ-073　奈良線第Ⅱ期複線化事業／JR西日本［正］牟田原 清孝・石井 基・黒川 浩嗣

■交通サービス評価／10:30～12:00／室井 寿明(運輸政策研究機構)

Ⅳ-074　路線バスにおける起終点直通方式と幹線・支線方式の比較評価に関する研究／横浜国立大学［学］神谷 直孝・中村 文彦・田中 伸治
Ⅳ-075　羽田空港リムジンバスを対象とした旅行時間信頼性価値の推計／芝浦工業大学［学］小山 真弘・荻原 貴之・岩倉 成志
Ⅳ-076　災害時における鉄道の運行状況に基づくOD間の接続性評価／日本大学［学］佐野 在人・金子 雄一郎・横山 茂樹
Ⅳ-077　都市鉄道におけるホームドア設置が列車遅延に及ぼす影響:数理モデルによる分析／東京工業大学［学］菊池 恵和・福田 大輔
Ⅳ-078　移動閉そく導入による都市鉄道の遅延減少効果のシミュレーション分析／芝浦工業大学［学］川村 孝太朗・神田 大輔・岩倉 成志
Ⅳ-079　首都圏の新駅設置による影響に関する一考察／JR東日本［正］横田 昇吾・山崎 淳・山本 塁
Ⅳ-080　途上国におけるLRTの輸送力に関する研究―Case study in Manila―／横浜国立大学［学］土屋 広太郎・中村 文彦・田中 伸治

■交通情報提供・交通手段分担／12:45～14:15／中山 晶一朗(金沢大学)

Ⅳ-081　大雪・豪雪時を想定した道路交通の管理運用―福井地域の事例―／福井大学［正］川本 義海・福原 輝幸
Ⅳ-082　降雨災害に対する幹線道路の事前通行規制に関する考察／東京大学［学］溝口 肇・家田 仁・大原 美保
Ⅳ-083　ドライビングシミュレータを用いた情報提供の違いによるCO_2排出量の削減効果／名城大学［学］彭 冠露・松本 幸正
Ⅳ-084　マルチエージェントシステムを用いた都市交通シミュレーションの構築／名城大学［学］魯 旭海・松本 幸正
Ⅳ-085　交通機関選択に対する異質性を考慮した分担配分統合モデルの構築／京都大学［学］冨永 真裕・嶋本 寛・宇野 伸宏
Ⅳ-086　世帯内コミュニケーションに着目した交通手段利用特性に関する研究／京都大学［学］清水 明彦・中村 俊之・Schmocker Jan-Dirk
Ⅳ-087　RBFネットワークを用いたコミュニティサイクル利用状況の短期予測／室蘭工業大学［学］岡田 和洋・松田 真宣・浅田 拓海

■交通調査／14:30～16:00／倉内 慎也(愛媛大学)

Ⅳ-088　スマホアプリを利用した交通行動調査の今後の方向性／国土技術政策総合研究所［正］松島 敏和・橋本 浩良・山崎 恭彦
Ⅳ-089　スマホ・アプリを用いたモビリティ・マネジメント手法の開発とその将来性の検討／熊本大学［学］佐藤 貴大・円山 琢也
Ⅳ-090　ICカードデータを用いた公共交通利用来街者の滞在時間へ与える影響要因に関する基礎分析／長岡技術科学大学［正］西内 裕晶・塩見 康博・轟 朝幸
Ⅳ-091　三陸地域復興におけるモバイル空間統計の活用可能性／東京工業大学［学］二川 健吾・岩倉 成志
Ⅳ-092　プローブデータと渋滞統計データの融合による東日本大震災時の都区部の渋滞データの構築／芝浦工業大学［学］清田 裕太郎・月舘 権二・岩倉 成志
Ⅳ-093　鉄道運行停止時間とtweet数の関連性に関する分析／東京電機大学［正］高田 和幸・藤生 慎・高浪 裕三
Ⅳ-094　GPSデータを用いたモーダルミックスの有効性検証に関する研究／オリエンタルコンサルタンツ［正］志田山 智弘・鈴木 美咲・北山 勝巳
Ⅳ-095　暴風雪時における道路利用者・地域住民の情報取得状況・ニーズについて／ドーコン［正］高橋 歩夢・萩原 亨・佐野 修

Ⅳ-2（全学教育推進機構C棟C402）／9月11日(木)

■歩行者・自転車／8:45～10:15／鳩山 紀一郎(東京大学)

Ⅳ-096　地下公共空間における歩行者の滞留行動／大阪工業大学［学］松尾 佳津史・田中 一成・吉川 眞
Ⅳ-097　歩行意識とライフスタイルの関係に関する分析／協和設計［正］日下部 貴洋・塚口 博司
Ⅳ-098　東南アジア都市における水辺空間の歩行者利用実態と改善指針に関する研究―ハノイを事例として―／横浜国立大学［学］李 永守・中村 文彦・田中 伸治
Ⅳ-099　国道476号(六間通り)における自転車利用者・歩行者の通行実態／福井工業大学［正］吉村 朋矩・和田 章仁
Ⅳ-100　Web自転車マップの分析と評価／岩手県立大学［学］米田 縁・元田 良孝・宇佐美 誠史
Ⅳ-101　利用者属性に着目した自転車の経路選択要因に関する分析／名古屋工業大学［学］堀 将誌・鈴木 弘司
Ⅳ-102　自転車歩行者道における歩行者・自転車の錯綜現象のシミュレーション分析／立命館大学［正］小川 圭一・柴野 裕貴
Ⅳ-103　自動二輪車専用レーンの幅員の違いが自動二輪車の走行挙動に与える影響の分析／日本大学［学］小川 達也・石坂 哲宏・佐田 達典

■駐輪場・駐車場／10:30～12:00／鈴木 美緒(東京工業大学)

Ⅳ-104　停車帯での不規則路上駐停車行動に関する調査研究／北海学園大学［正］堂柿 栄輔・梶田 佳孝
Ⅳ-105　百貨店来店者を対象とした駐車場マップの作成とその効果／東北工業大学［学］成田 真也・中井 周作・菊池 輝
Ⅳ-106　駅周辺における駐輪場と駐車場の利用実態を踏まえた相互連携に関する基礎的研究／日本大学［正］大沢 昌玄・高宮 悠輝
Ⅳ-107　高速道路休憩施設駐車場における混雑予測モデルの構築／京都大学［学］藤井 篤史・宇野 伸宏・中村 俊之
Ⅳ-108　搬入を目的とした路上駐車行動の時間帯整理に関する研究／横浜国立大学［学］今井 雅貴・中村 文彦・田中 伸治
Ⅳ-109　駐輪場EPDMゴムマットの開発／丸五ゴム工業［正］藤原 泰明・高田 知典・中野 将之

Ⅳ-2（全学教育推進機構C棟C402）／9月12日(金)

■コミュニティ・地域計画／8:45～10:15／鈴木 春菜(山口大学)

Ⅳ-110　鉄道のエピソードが地域愛着と向社会的行動に及ぼす影響に関する研究／西日本旅客鉄道［正］冨田 佳孝・松村 暢彦
Ⅳ-111　河川と人々との関係を近づける河川空間の有効活用／オリエンタルコンサルタンツ［正］佐藤 俊介
Ⅳ-112　コミュニティ形成の場に人を集まるためのプロセスモデルによるまちづくり提案／関西大学［学］小濱 諒・北詰 恵一
Ⅳ-113　土浦スポーツ健康倶楽部が行う地域活動によるソーシャル・キャピタルの醸成に関する研究／早稲田大学［学］米津 荘彦・中川 義英
Ⅳ-114　家庭内における電力節約行動と地区コミュニティとの関係分析／関西大学［学］仲田 俊亮・北詰 恵一
Ⅳ-115　市民―行政情報ギャップ解消のための営造物TSの実現可能性に関する研究／大阪市立大学［学］三木 晶太・内田 敬
Ⅳ-116　業務地区を対象としたスマートモビリティの導入効果の検討／関西大学［正］井ノ口 弘昭・秋山 孝正
Ⅳ-117　栃木県におけるガソリン難民の推計に関する研究／足利工業大学［正］藤島 博英・江部 孝文・簗瀬 範彦

■観光・地域計画／10:30～12:00／田中 一成（大阪工業大学）
Ⅳ-118　空間情報技術を活用した地域観光分析～神戸・北野界隈での試み～／大阪工業大学［学］仲谷 恭平・吉川 眞・田中 一成
Ⅳ-119　マイクロブログを活用した観光地における情報抽出方法に関する研究―埼玉県川越市を対象として―／法政大学［学］外村 剛久・宮下 清栄
Ⅳ-120　観光地・国立公園の来訪者の特性把握に向けた試行的調査の結果―福島県の裏磐梯を対象として―／福島大学［正］川崎 興太
Ⅳ-121　観光地の街路条件による歩行特性の比較考察―宮島と高野山を事例として―／鳴門教育大学［学］西山 丈吉・高村 浩史・伊藤 雅
Ⅳ-122　徒歩圏アクセシビリティの連続空間における評価／芝浦工業大学［学］田中 寛朗・遠藤 玲
Ⅳ-123　小さな地域拠点としての道の駅の現状と効果／東京都市大学［学］河合 旭
Ⅳ-124　災害事例からみた「道の駅」の防災機能のニーズと課題、効果的な向上策について／土木研究所［正］松田 泰明・高田 尚人・新井 健
Ⅳ-125　自動車依存地域・公共交通利便地域における施設配置の特性に関する分析／名城大学［学］八幡 一憲・松本 幸正

■国土計画・土木計画／15:00～16:30／谷口 栄一（京都大学）
Ⅳ-126　融雪水の影響を考慮した警戒雨量値の検討／鉄道総合技術研究所［正］伊藤 賀章・川尻 峻三・太田 直之
Ⅳ-127　東京都低平地における水害時の危険予測と区域の分類／中央大学［学］高梨 太郎・佐藤 尚次
Ⅳ-128　大規模水害時の避難行動に関する現状と課題―荒川下流域を対象として―／オリエンタルコンサルタンツ［正］木村 美瑛子・鴨川 美紀・中尾 毅
Ⅳ-129　Estimation of Earthquake-induced Water Supply Interruption Losses／パシフィックコンサルタンツ［正］蔡 媛宇・清野 純史・MAHDI Faraji
Ⅳ-130　氾濫流解析結果を活用した大河川氾濫時の避難関連情報の提案／埼玉大学［正］古里 栄一・田中 規夫
Ⅳ-131　AISデータを用いたクルーズ船の船型動向に関する分析／セントラルコンサルタント［正］伊東 弘人・緒方 一成・西川 泰樹
Ⅳ-132　部材交換構造を前提とした橋梁群のLCCによる実現可能性評価／大阪市立大学［学］内海 正浩・内田 敬
Ⅳ-133　実数型Simplex法の解き方の単純化（効率化）に関する研究／高知工業高等専門学校［正］竹内 光生・古味 良・庄野 真

Ⅳ-3（全学教育推進機構C棟C409）／9月12日（金）

■事故・法令／15:00～16:30／白川 龍生（北見工業大学）
Ⅳ-134　「馬子の正直」中江藤樹が教えた道徳。JR北海道の脱法・非人間社員、JR西日本・尼崎マンションに激突・106人死亡。法令遵守、仁義礼智信。／井上達明建築事務所［正］井上 達明
Ⅳ-135　交通事故訴訟の工学鑑定における問題と改善案／ウィンディーネット［正］榊原 大樹・平松 登志樹

第Ⅴ部門　土木材料、舗装工学、コンクリート工学、コンクリート構造、木材工学など

Ⅴ-1（全学教育推進機構C棟C105）／9月10日（水）

■プレキャスト・二次製品／8:45～10:15／伊達 重之（東海大学）
Ⅴ-001　UFC製防風柵の構造性能に関する検討／大林組［正］佐々木 一成・野村 敏雄・中村 貴志
Ⅴ-002　鋼リブとコンクリート版を組合せた埋設型枠の単体曲げ実験／横河住金ブリッジ［正］松尾 卓弥・上條 崇・中谷 郁夫
Ⅴ-003　鋼材とPCaコンクリート板を組合せた埋殺し型枠の曲げ載荷実験／ジオスター［正］横尾 彰彦・中谷 郁夫・斉藤 光海
Ⅴ-004　コンクリートに埋込まれたつなぎ鋼材の引抜き強度試験／ジオスター［正］中谷 郁夫・横尾 彰彦・上條 崇
Ⅴ-005　RC部材からSRC部材へ移行する混合構造の接続部に関する基礎実験／ジオスター［正］奥山 厚志・中谷 郁夫・横尾 彰彦
Ⅴ-006　C-S-H系早強剤を用いたコンクリートにおける蒸気養生温度の影響／BASFジャパン［正］大野 誠彦・馬場 勇介・小泉 信一
Ⅴ-007　C-S-H系早強剤の高炉セメントを使用したコンクリートへの効果／BASFジャパン［正］佐藤 勝太・大野 誠彦・本田 亮
Ⅴ-008　C-S-H系早強剤の早強ポルトランドセメントを使用したコンクリートへの効果／BASFジャパン［正］井元 晴丈・小山 広光・大野 誠彦

■プレストレストコンクリート／10:30～12:00／細野 宏已（三井住友建設）
Ⅴ-009　PRC部材の時間依存挙動に対する部材内の相対湿度分布の影響評価／名古屋大学［学］渡邊 理智・中村 光・三浦 泰人
Ⅴ-010　グラウト未充填部におけるPC鋼材が腐食したPCはりの耐荷特性／京都大学［学］中森 翔大・宮川 豊章・山本 貴士
Ⅴ-011　プレストレスト構造を用いたプレキャストアーチカルバートの構造性能に関する実験的研究／ヤマックス［正］松本 康資・山口 浩平・松田 学
Ⅴ-012　プレストレスト構造を用いたプレキャストアーチカルバートの変形特性／九州大学［学］周 艾欣・山口 浩平・日野 伸一
Ⅴ-013　塗装PC鋼より線仕様のプレテンションPC桁の付着性能に関する研究／技建［正］宮野 伸介・大城 武・富山 潤
Ⅴ-014　外ケーブルに用いる「亜鉛めっきマルチケーブル」の適用について／西日本高速道路［正］福田 雅人・岩島 保・細居 清剛
Ⅴ-015　LPG地上式タンク向けPC鋼棒の低温性能確認試験／清水建設［正］小谷 龍矢・伊藤 健二・吉田 雄介
Ⅴ-016　鉛直PCテンドンにPC鋼棒を採用した“新型DUALPC防液堤”の開発／大成建設［正］小林 祐樹・梅本 正樹・溝口 敬義

■数値解析・破壊力学／12:45～14:15／山本 佳士（名古屋大学）
Ⅴ-017　ASR作用を受けた一軸拘束供試体の固液二相物理化学モデルによる膨張解析／東京大学［正］高橋 佑弥・柴田 洸希・前川 宏一
Ⅴ-018　高靭性セメント・高強度鉄筋を用いた橋脚の解析的検討／九州工業大学［学］溝上 瑛亮・幸左 賢二・佐藤 崇
Ⅴ-019　モデル化の違いによるフレキシブルRC橋脚の水平抵抗特性の再現性に関する検討／九州大学［学］伊藤 耀・大塚 久哲・高 文君
Ⅴ-020　エネルギー消費を考慮したコンクリートの圧縮疲労構成則の開発／関西大学［学］鶴岡 憲人・上田 尚史・鶴田 浩章
Ⅴ-021　含水コンクリートの強度及び初期弾性のひずみ速度効果発現メカニズムの検討／法政大学［学］鍛治 哲理・藤山 知加子
Ⅴ-022　環境温度と含水状態がコンクリートの耐疲労性に及ぼす影響に関する実験的検討／日本大学［学］皆川 翔平・子田 康弘・岩城 一郎
Ⅴ-023　欠陥を有する圧縮石膏板のひび割れ発生・進展の可視化／長崎大学［学］博多屋 智志・松田 浩
Ⅴ-024　かぶりコンクリートのひび割れ性状に及ぼす鉄筋の腐食膨張量の評価／ジェイアール総研情報システム［正］大木 裕久・鬼頭 直希・渡辺 健

■耐火性／14:30～16:00／新 大軌（東京工業大学）
Ⅴ-025　ボスポラス海峡横断鉄道トンネルにて適用した耐火被覆について／大成建設［正］大塚 勇・土屋 正彦・稲積 教彦
Ⅴ-026　強度レベルと粗骨材種類が高強度コンクリートの爆裂に及ぼす影響の評価／太平洋マテリアル［正］谷辺 徹・鎌田 亮太・小澤 満津雄
Ⅴ-027　高炉スラグ微粉末3000を混和したコンクリートの耐火性／東京工業大学［正］岩波 光保・大澤 友宏・藤原 了
Ⅴ-028　ポリプロピレン短繊維を用いた断面修復材の耐火性／大林組［正］屋代 勉・香川 敦・川西 貴士
Ⅴ-029　各種耐火工を用いたコンクリートの火害後の物質侵入抵抗性／群馬大学［学］塚越 俊・小澤 満津雄
Ⅴ-030　高温環境下におけるコンクリートの耐爆裂性に及ぼすPP繊維及び耐火被覆材の影響／太平洋マテリアル［正］鎌田 亮太・坂本 摂・谷辺 徹
Ⅴ-031　高温履歴を受けたコンクリートの物質侵入抵抗性に関する研究／太平洋マテリアル［正］坂本 摂・鎌田 亮太・谷辺 徹

V-1（全学教育推進機構C棟C105）／9月11日(木)

■評価・試験方法・品質管理・検査／8:45～10:15／大城 壮司(西日本高速道路)

V-032 コンクリート構造物の導電率測定による躯体内の強度発現の推定法に関する基礎的研究／飛島建設［正］槙島 修・寺澤 正人・川里 麻莉子
V-033 打球探査法を用いた覆工コンクリートの脱型時強度推定／鹿島建設［正］尾口 佳丈・坂井 吾郎・佐藤 崇洋
V-034 コンクリートの圧縮強度と圧力測定フィルムデータとの関連性／足利工業大学［正］松村 仁夫・黒井 登起雄
V-035 目視調査結果の分析に基づく施工要因がコンクリートの表層品質に及ぼす影響に関する一考察／鹿島建設［正］小林 聖・坂田 昇・渡邉 賢三
V-036 レーザ距離計を用いた表面被覆水路の摩耗測定手法／農研機構農村工学研究所［正］浅野 勇・渡嘉敷 勝・森 充広
V-037 ふるいの簡易検査における目開きの計測方法が測定精度に及ぼす影響／全国生コンクリート工業組合連合会［正］入江 一次・辻本 一志・山之内 康一郎
V-038 光ファイバによるPCグラウト充填確認の適用性／錢高組［正］角田 晋相・白石 雅嗣・岡本 剛士
V-039 コンクリート単位水量の連続測定による品質管理向上について／奥村組［正］大野 桂太郎・森田 修二・吉川 雅美

■新材料・新工法(構造) ／10:30～12:00／新藤 竹文(大成建設)

V-040 板橋・熊野町ジャンクション間拡幅改良における合成構造フーチングの設計／大林組［正］仲田 宇史・伊原 茂・中野 博文
V-041 板橋・熊野町ジャンクション間拡幅改良における合成構造フーチングの橋軸方向載荷実験／大林組［正］天野 寿宣・伊原 茂・中野 博文
V-042 板橋・熊野町ジャンクション間拡幅改良における合成構造フーチングの橋軸直角方向載荷実験／首都高速道路［正］伊原 茂・中野 博文・内海 和仁
V-043 貼付け型養生材の保温効果に関する実験的検討／清水建設［正］PHAN HUU DUY QUOC・田中 博一・杉野 拓之
V-044 UFCとCFRPロッドの複合構造における耐荷力性能および耐疲労性の評価／日本大学［学］高木 智子・阿部 忠・河野 克哉
V-045 壁状構造物の温度応力低減を目的とした凝結遅延モルタルの敷設条件に関する検討／九州大学［学］村田 慶彦・佐野 忍・玉井 宏樹
V-046 内巻き帯鉄筋を配置したRC柱の高軸力下における交番載荷試験／JR東日本［正］阿部 久乃・田附 伸一・岩田 道敏
V-047 GFRPと超高強度繊維補強コンクリートを用いた合成桁の開発／埼玉大学［学］遠藤 爵・睦好 宏史・金谷 祐良

V-1（全学教育推進機構C棟C105）／9月12日(金)

■新材料・新工法(材料) (1) ／8:45～10:15／吉武 勇(山口大学)

V-048 繊維補強ジオポリマー短まくらぎの実用化に向けた基礎試験／安部日鋼工業［正］東原 実・大木 信洋・上原 元樹
V-049 ジオポリマー硬化体の配合と諸性質／鉄道総合技術研究所［正］上原 元樹・南 浩輔・松林 卓
V-050 引抜き試験による各種鉄筋とジオポリマーコンクリートとの付着強度／前田建設工業［正］南 浩輔・松林 卓・梶田 秀幸
V-051 ジオポリマーコンクリートを用いた鉄筋コンクリートはりの曲げ挙動／前田建設工業［正］松林 卓・南 浩輔・梶田 秀幸
V-052 開口部に設置した高強度繊維補強コンクリートパネルのひび割れ抑制効果／東急建設［正］笠倉 亮太・前原 聡・鈴木 将充
V-053 下水汚泥焼却灰を添加した耐硫酸コンクリートの充填工法(断面修復工法)への適用／宇部興産［正］浅上 修・藤野 由隆・新藤 竹文
V-054 下水汚泥焼却灰を添加した耐硫酸コンクリートの断面修復工法の耐硫酸性に関する研究／大成建設［正］上野 恭宏・荻野 正貴・藤野 由隆
V-055 ポーラスコンクリートの利用による「植生共存型システム」の提案／立命館大学［学］石田 拓也・市丸 園子・岡本 享久

■新材料・新工法(材料) (2) ／10:30～12:00／福留 和人(石川工業高等専門学校)

V-056 Super-CFRPロッドの性質に関する基礎的研究／福山コンサルタント［正］渡邉 弘史・野上 和彦・越路 正人
V-057 炭素粉末を添加したモルタルの電磁波遮蔽性に関する実験的検討／摂南大学［学］藤原 正佑・高井 伸一郎・熊野 知司
V-058 保水性を向上させた炭素繊維モルタルの電気的特性／香川高等専門学校［学］福上 大貴・水越 睦視・太良尾 浩生
V-059 熱可塑性樹脂シート養生によるコンクリートの表面改質／東京大学［正］石田 哲也・坂田 昇・渡邉 賢三
V-060 熱可塑性樹脂シートを用いた養生が乾燥収縮と水分逸散量に与える影響／鹿島建設［正］池松 健治・温品 達也・坂井 吾郎
V-061 長期間の水分逸散抑制養生による表層品質向上効果／鹿島建設［正］温品 達也・木村 彩永佳・坂田 昇
V-062 熱可塑性樹脂シートによるブリーディング抑制効果／鹿島技術研究所［正］木村 彩永佳・温品 達也・渡邉 賢三
V-063 熱可塑性樹脂シートを用いた実規模供試体による養生効果の評価／鹿島建設［正］村田 和也・温品 達也・木村 彩永佳

■新材料・新工法(材料) (3) ／15:00～16:30／伊代田 岳史(芝浦工業大学)

V-064 熱可塑性樹脂シートの存置期間が物質透過性に与える影響／積水成型工業［正］渋谷 能成・村田 和也・温品 達也
V-065 締固め方法や熱可塑性樹脂シートの貼付方法が表面気泡に与える影響／鹿島建設［正］海老 剛行・温品 達也・渡邉 賢三
V-066 熱可塑性樹脂シートの有無が表面気泡に与える影響に関する一考察／鹿島建設［正］石井 明俊・温品 達也・村田 和也
V-067 トンネル覆工における熱可塑性樹脂シートを用いた表面気泡低減効果／鹿島建設［正］平田 周作・村田 和也・坂井 吾郎
V-068 熱可塑性樹脂シートによる表面品質向上手法の実構造物への適用／鹿島建設［正］渡邉 賢三・村田 和也・坂田 昇
V-069 ゼオライトを混入したコンクリートの硬化性状に関する一考察／五洋建設［F］内藤 英晴・酒井 貴洋・保木本 智史
V-070 機能性骨材を用いたコンクリートの強度と耐久性の評価／金沢工業大学［学］石井 一騎・庄司 慎
V-071 CaO・2Al2O3微粉末を混入したコンクリートの各種環境での適用性に関する実験的検討／鹿児島大学［学］坂井 公輔・武若 耕司・山口 明伸

V-2（全学教育推進機構C棟C106）／9月10日(水)

■非破壊試験法(1) ／8:45～10:15／渡邉 健(徳島大学)

V-072 鉄筋の局所腐食やコンクリートの浮きが存在する場合の分極抵抗測定電流の分布状況／日鉄住金テクノロジー［正］金田 尚志・松岡 和巳
V-073 電気式水分計を用いたフレッシュコンクリート硬化過程のモニタリング手法の研究／日本建設機械施工協会［F］谷倉 泉・榎園 正義
V-074 鉄筋コンクリートのかぶり厚さが水分計指示値に及ぼす影響／日本建設機械施工協会［正］榎園 正義・谷倉 泉
V-075 電極の設置条件の違いがモルタルを対象とした二電極法の計測結果に与える影響／大阪大学［学］楊 昭明・内田 慎哉・鎌田 敏郎
V-076 電磁波を用いた塩化物イオン量推定のためのコンクリート内部の陰イオンによる電磁波減衰理論に関する研究／法政大学［正］野嶋 潤一郎・内田 真未・新井 淳一
V-077 中性子ラジオグラフィ画像を用いた含有水量測定に及ぼす影響要因／茨城大学［正］沼尾 達弥・舟川 勲・木村 亨
V-078 中性子ラジオグラフィを用いたセメント硬化体中の含有水量の同定手法について／茨城大学［学］久保 美春・沼尾 達弥・舟川 勲
V-079 中性子ラジオグラフィを用いた水分測定に関する画像処理方法の提案／JR東日本［正］松島 由布子・沼尾 達弥・舟川 勲

■非破壊試験法(2) ／10:30～12:00／谷口 秀明(三井住友建設)

V-080 故意に不良部を作製した実物大モデルのコンクリート表層品質について／飛島建設［正］笠井 和弘・石井 吉久・橋本 勝
V-081 透気試験を用いたけい酸塩系表面含浸材の施工確認に関する基礎的検討／鹿児島大学［学］畑野 貴洋・武若 耕司・山口 明伸
V-082 機械インピーダンス法によるコンクリート圧縮強度推定の誤差について／日東建設［正］久保 元樹・久保 元・境 友昭
V-083 叩き点検に用いる点検ハンマーから得られる特性について／佐藤工業［正］北川 真也・歌川 紀之・杉本 恒美
V-084 漏洩磁束法の簡易着磁手法を用いた鉄筋破断のスクリーニングに関する研究／京都大学［学］寺澤 広基・鈴木 辰彦・廣瀬 誠

V-085　コンクリート自体の磁性が漏洩磁束法による鉄筋破断の診断指標に与える影響／京都大学［学］永瀬 繁幸・寺澤 広基・廣瀬 誠
V-086　電磁パルス法に基づく接着系あと施工アンカー固着部の非破壊評価手法に関する実験的検討／立命館大学［学］木村 貴圭・内田 慎哉・宮田 弘和
V-087　電磁パルス法に基づく接着系あと施工アンカー固着部の非破壊評価手法に関する解析的検討／大阪大学［学］劉 軒・内田 慎哉・鎌田 敏郎

■非破壊試験法(3) ／12:45～14:15／渡邉 健(徳島大学)
V-088　弾性波速度トモグラフィ法による損傷検出精度向上のための要素分割に関する検討／首都大学東京［学］菊池 亮・大野 健太郎・桃木 昌平
V-089　弾性波トモグラフィ法における走査線密度に応じた要素分割に関する検討／飛島建設技術研究所［正］桃木 昌平・菊池 亮・大野 健太郎
V-090　3次元衝撃応答解析に基づくRC床版内部の水平ひび割れ評価のための可視化手法／大阪大学［学］石田 卓也・内田 慎哉・鎌田 敏郎
V-091　周波数応答解析による内部欠陥の探査手法の検討その1／東洋計測リサーチ［正］山下 健太郎・池端 宏太・境 友昭
V-092　周波数応答解析による内部欠陥の探査手法の検討その2／プラグレス［正］村田 浩一・池端 宏太・山下 健太郎
V-093　衝撃弾性波法によるコンクリート部材厚さの推定手法への相互相関関数の適用／立命館大学［学］小川 悠・内田 慎哉・川崎 佑磨
V-094　多点測定による相互相関関数を利用した周波数解析方法の検討／リック［正］岩野 聡史・實藤 大夫・坂本 良憲
V-095　音響伝達関数を用いた衝撃弾性波法によるPCグラウト充填状況の非破壊評価手法の検討／大阪大学［正］服部 晋一・鎌田 敏郎・内田 慎哉

■非破壊試験法(4) ／14:30～16:00／松山 公年(日本工営)
V-096　超音波伝搬特性を考慮した開口合成法の改良と鋼板裏面の画像化／東京工業大学［学］パドウングスリボウオーンウオラウイット
V-097　AE法による塩害劣化したRC部材の鉄筋定着評価に関する研究／立命館大学［学］権納 拓央・川崎 佑磨・伊津野 和行
V-098　バックルプレート床版の輪荷重走行におけるAEモニタリングの適用性／首都大学東京［学］古川 歩・大野 健太郎・宇治 公隆
V-099　輪荷重走行を受けるバックルプレート床版の弾性波速度トモグラフィ法による損傷評価／首都大学東京［正］大野 健太郎・古川 歩・宇治 公隆
V-100　AE法に基づくコンクリートの爆裂発生過程における応力変動に伴う破壊形態の評価／立命館大学［学］田中 靖大・川崎 佑磨・内田 慎哉
V-101　赤外線を用いたコンクリート中の鉄筋腐食状況の把握に関する基礎的研究／法政大学［学］内田 真未・野嶋 潤一郎・溝渕 利明
V-102　熱赤外サーモグラフィ装置を用いた構造物の劣化検出に関する基礎実験／千葉大学［学］上田 英臣・山崎 文雄
V-103　同時生起行列を用いた赤外線サーモグラフィ法自動診断支援システムの基礎的研究／西日本高速道路エンジニアリング四国［正］橋爪 謙治・橋本 和明・全 邦釘

V-2（全学教育推進機構C棟C106）／9月11日(木)

■構造設計(1) ／8:45～10:15／村田 裕志(大成建設)
V-104　木製クロスウェブ構造歩道橋の設計と製作に関する研究／日本大学［学］前田 滝作・関 文夫
V-105　桁高が高い波形鋼板ウェブ箱桁橋のせん断耐力に対する検討／西日本高速道路［正］橋 豊・高橋 章・内堀 裕之
V-106　JIS規格PCまくらぎの入線可能輸重についての検討／鉄道総合技術研究所［正］後藤 恵一・渡辺 勉・曽我部 正道
V-107　バランスド扁平アーチ構造の滝見橋(1)計画と設計／日本大学［正］関 文夫・佐藤 和幸・伊東 靖
V-108　バランスド扁平アーチ構造の滝見橋(2)構造特性／日本大学［学］山田 眞弘・関 文夫
V-109　バランスド扁平アーチ構造の滝見橋(3)施工／ドーピー建設工業［正］立神 久雄・山崎 路明・坂野 耕輔
V-110　バランスド扁平アーチ構造の滝見橋(4)計測管理／三井住友建設［正］五味 傑・長谷川 剛・山田 眞弘
V-111　バランスド扁平アーチ構造の滝見橋(5)振動実験／日本大学［学］橋本 哲弥・仲村 成貴・関 文夫

■構造設計(2)・曲げ／10:30～12:00／小林 薫(東日本旅客鉄道)
V-112　PC 構造を用いたGRS 一体橋梁の長大スパン化に関する常時解析検討／鉄道総合技術研究所［正］古屋 卓稔・下津達也・田所 敏弥
V-113　鉄道交差部における道路用ボックスカルバートの構造計画について／阪急設計コンサルタント［正］五貫 慎・山口武志・松本 尚衛
V-114　西船場JCT改築事業にみる既設ASR橋脚のFEM補強解析検討／阪神高速道路［正］中村 良平・堀岡 良則・小林 寛
V-115　大口径基礎杭を有するRCラーメン高架橋の設計に関する一考察／阪急設計コンサルタント［正］松本 尚衛・山口武志
V-116　レシプロ型コンプレッサー基礎の防振設計における杭載荷試験の適用事例／千代田化工建設［正］岸 直哉・田中 洋平・米倉 誠司
V-117　T形断面を有するRC梁のフランジ内鉄筋引張力負担に関する実験・解析(その2) ／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］岡田 典高・松里 大樹
V-118　T形断面を有するRC梁のフランジ内鉄筋引張力負担に関する実験･解析(その1)／東日本旅客鉄道［正］松里 大樹･大郷 貴之・図司 英明
V-119　かぶりにステンレス鉄筋を埋設したRCはりの曲げひび割れ幅について／大成建設［正］村田 裕志・福浦 尚之

V-2（全学教育推進機構C棟C106）／9月12日(金)

■補修補強(構造)(1) ／8:45～10:15／上原子 晶久(弘前大学)
V-120　ストランドシート補強RCはりの曲げ耐力／北海学園大学［正］高橋 義裕・小林 朗・荒添 正棋
V-121　鋼板および繊維シート補強したRCはりの損傷評価／東北大学［正］内藤 英樹・上田 博之・安部 誠司
V-122　鋼鈑および繊維シート補強したRCはりの鉄筋腐食と耐荷特性／東北大学［学］安部 誠司・上田 博之・内藤 英樹
V-123　建設後50年経過した壁高欄の健全度評価／首都高速道路技術センター［正］青木 聡・増井 隆・蒲 和也
V-124　細径ステンレス鉄筋を用いたパネルとPCストランド併用によるRCはりに対するせん断補強効果／東京工業大学［学］立石 和也・篠田 佳男・大嶋 義隆
V-125　CFRP格子筋を配置したRC床版の下面増厚補強における耐疲労性の評価／日本大学［学］永井 幸太・阿部 忠・小森 篤也
V-126　PCM吹付け工法によるCFRPグリッドを用いたRCはりのせん断補強効果および補強界面の付着特性／九州大学［学］郭 瑞・山口 浩平・日野 伸一

■補修補強(構造)(2) ／10:30～12:00／斉藤 成彦(山梨大学)
V-127　高温時におけるポリウレア樹脂層を有する炭素繊維シート補強工法の付着特性(1) ―実験的検討―／新日鉄住金マテリアルズ［正］荒添 正棋・小林 朗・山野辺 慎一
V-128　高温時におけるポリウレア樹脂層を有する炭素繊維シート補強工法の付着特性(2) ―解析的検討―／鹿島建設［正］新井 崇裕・山野辺 慎一・荒添 正棋
V-129　下面増厚工法における定着アンカーの補強効果／北海道大学［学］江口 直也・古内 仁・林 承燦
V-130　ラーメン高架橋柱の曲げ補強方法に関する実験的研究／JR東日本［正］内田 有吏子・阿部 紗希子
V-131　空港エプロン舗装の勾配修正工事における塗布システムの開発と施工／鹿島道路［正］伊藤 清志・阿部 裕幸・福田慎治
V-132　CFRP格子筋と吹付けモルタルを用いた補強における界面のせん断付着挙動／首都大学東京［学］張 軍雷・宇治 公隆・大野 健太郎
V-133　エポキシ樹脂によるPC・BFRPロッドの接着継手の定着強さについて／名城大学［学］森 祐樹・岩下 健太郎・八木洋介
V-134　補修剤に含有する亜硝酸イオンの溶脱に関する研究／北見工業大学［学］野田 亮佑・井上 真澄・須藤 裕司

■連続繊維補強コンクリート(構造) ／15:00～16:30／服部 尚道(東急建設)
V-135　AFRPシート緊張接着曲げ補強 RC 梁のシート剥離性状に及ぼすせん断スパン比の影響／ショーボンド建設［正］小崎 大樹・栗橋 祐介・三上 浩
V-136　AFRP板水中接着曲げ補強した RC 梁の曲げ耐荷性能に及ぼすせん断キー配置間隔の影響／日本シビックコンサルタント［正］河本 幸子・栗橋 祐介・三上 浩
V-137　AFRP 帯で水中せん断補強した RC 梁の耐荷性能向上効果／室蘭工業大学［学］杉本 成司・栗橋 祐介・三上 浩

V-138　BOND BEHAVIOR BETWEEN CFRP PLATE AND CONCRETE UNDER MIXED-MODE／筑波大学［学］カク スイ・ZHANG WEI・KANAKUBO TOSHIYUKI
V-139　複合剥離モードにおけるCFRPプレートの疲労付着性状に関する実験的検討／筑波大学［学］管 祥瑋・張 偉・金久保 利之
V-140　2層積層使用された炭素繊維グリッドの力学的挙動について／福山大学［正］宮内 克之・下枝 博之・小林 朗
V-141　炭素繊維および接着剤を適用したコンクリートブラケット構造の基礎的特性と力学的挙動／京都大学［学］岡野 暢弥・山下 亮・高谷 哲
V-142　メッシュシート状ならびにロープ状の連続ポリエチレン繊維で補強したRC はりのせん断性能／太平洋セメント［正］河野 克哉・川口 哲生・奥山 幸成

V-3（全学教育推進機構C棟C201）／9月10日(水)

■維持管理(1) ／8:45～10:15／古賀 裕久(土木研究所)
V-143　可視画像を用いたひび割れ調査法における画像撮影時の条件の実験的検証／保全工学研究所［正］中山 聡子・渡部 正・江畑 美和
V-144　導電塗料の塗布ライン数がRC高架橋中間スラブの変状検知精度に及ぼす影響／鉄道総合技術研究所［正］仁平 達也・松岡 弘大・曽我部 正道
V-145　軍艦島護岸コンクリートの詳細調査／東洋建設［正］審良 善和・佐野 清史・内藤 英晴
V-146　保護性さび生成促進処理を施した耐候性鋼橋における腐食環境調査／長崎大学［学］原田 宗育・中村 聖三・西川 貴文
V-147　拡張現実技術を用いた橋梁目視点検の効率化／東京大学［学］鎌田 知久・勝木 太・中川 雅史
V-148　PC箱桁橋を模擬した供試体によるグラウトホース伝い水の検証試験／西日本高速道路［正］横山 和昭・本荘 清司・徳光 卓
V-149　AE源位置標定と画像解析の応用による鋼矢板-コンクリート複合材の曲げ載荷挙動の同定／新潟大学［正］鈴木 哲也
V-150　トンネル路盤沈下を有する桁構造化スラブ軌道の維持管理について／東日本旅客鉄道［正］清田 玲央・伊東 久雄

■維持管理(2) ／10:30～12:00／花井 拓(本州四国連絡高速道路)
V-151　トンネル覆工のコンクリート片はく落に対する簡易仮補修工法の開発／西日本高速道路エンジニアリング九州［正］谷口 徹也・中村 裕一
V-152　強制加振試験に基づくコンクリート水路の健全性診断／東北大学［学］五十嵐 亜季・土屋 祐貴・内藤 英樹
V-153　河川コンクリート構造物の変状に関する調査／土木研究所［正］古賀 裕久・渡辺 博志・内藤 勲
V-154　既設PC道路橋のPC鋼線の遅れ破壊メカニズムに関する考察／神戸大学［正］美濃 智広・森川 英典・河村 睦
V-155　促進試験による鉄筋コンクリート構造物の中性化進行予測法構築に向けた一考察／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］山下 修史・小林 薫・平林 雅也
V-156　電流密度が異なる再アルカリ化工法の付着特性に関する検討／西日本旅客鉄道［正］近藤 拓也・野村 倫一・宮口 克一
V-157　厳しい塩害環境下にある海中橋脚の初期塩分調査／土木研究所［正］青柳 聖・木村 嘉富・本間 英貴
V-158　同一年代に架設された実橋梁群の劣化状況に関する基礎的検討／鹿児島大学［学］佐藤 健志・山口 明伸・武若 耕司

■維持管理(3)・劣化予測(1) ／12:45～14:15／秋山 充良(早稲田大学)
V-159　下水道コンクリート管渠の劣化予測における最適モデルの提案／大阪大学［正］田中 伸幸・貝戸 清之・鎌田 敏郎
V-160　RC部材の点検結果を用いた塩害劣化進行予測の更新手法に関する基礎研究／大阪大学［学］平野 正大・内田 慎哉・鎌田 敏郎
V-161　通信用マンホールにおけるコンクリート中の鉄筋腐食の進行について／NTTアクセスサービスシステム研究所［正］勝木 康博・川端 一嘉・森 治郎
V-162　表層透気係数と耐久性指標の関係性に関する基礎的研究／東京理科大学［学］西村 和朗・加藤 祐彬・加藤 佳孝
V-163　複合防食工法における亜鉛線の効果に対するモニタリング手法の検討／金沢工業大学［学］藤田 竜輔・宮里 心一・有馬 直秀
V-164　通信用マンホールにおけるコンクリート劣化時の鉄筋腐食状態について／NTTアクセスサービスシステム研究所［正］足利 翔・川端 一嘉・森 治郎
V-165　地下鉄箱型トンネルにおける中性化進行予測／東京地下鉄［正］川上 幸一・武藤 義彦・大泉 政彦

■劣化予測(2) ／14:30～16:00／加藤 絵万(港湾空港技術研究所)
V-166　急速膨張性および遅延膨張性骨材を用いたコンクリートにおけるASR膨張挙動の予測／太平洋コンサルタント［正］小川 彰一・山田 一夫・大迫 政治
V-167　多段階ワイブル劣化ハザードモデルのベイズ推定／大阪大学［学］坂口 創・水谷 大二郎・小濱 健吾
V-168　AE法を用いたコンクリートの損傷パラメータ推定に関する実験的研究／新潟大学［学］山岸 俊太朗・鈴木 哲也
V-169　既設構造物腐食モニタリングのためのドリル孔挿入小型センサの開発／東京工業大学［学］篠原 桂介・岩波 光保・千々和 伸浩
V-170　準微視的スケールでのモルタルの物理・化学的性質に及ぼす硫酸濃度の影響／北海道大学［学］渡部 孝彦・佐藤 靖彦
V-171　コンクリートの初期養生及び材齢が電気泳動試験に及ぼす影響／愛媛大学［正］河合 慶有・氏家 勲・國方 翔太
V-172　劣化予測パラメータの空間変動性を考慮した鉄筋コンクリート構造物のライフサイクル信頼性解析に関する基礎的研究／早稲田大学［学］宮本 祥平・萩野 統也・秋山 充良
V-173　コンクリートの時間依存挙動に与える結合材種類の影響／東京大学［学］大野 直也・石田 哲也・米田 大樹

V-3（全学教育推進機構C棟C201）／9月11日(木)

■付着・定着・継手(1) ／8:45～10:15／瀧口 将志(九鉄工業)
V-174　鋼棒とセメント系固化体の付着力強化に関する検討／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］桐生 郷史・石橋 忠良・古山 章一
V-175　凍結融解作用を受けたコンクリート中の鉄筋の付着構成則に関する考察／北海道大学［学］金澤 健・佐藤 靖彦・三河 智将
V-176　コンクリートに貼付したCFRPシートの付着強度試験と付着挙動のモデル化／九州大学［学］高 文君・大塚 久哲・梶田 幸秀
V-177　腐食鉄筋を用いた押抜き試験による付着特性の評価／山口大学［学］浅田 誉志大・小川 淳史・和多田 康男
V-178　内面にずれ止めを有する鋼管におけるコンクリートの付着耐力評価／新日鐵住金［正］日下 裕貴・池田 学・西岡 英俊
V-179　あと施工アンカーの設計・施工・維持管理／阪神高速道路［正］甲元 克明・足立 幸郎・吉原 聡
V-180　接着系あと施工アンカーの静的引抜試験／JR東日本鉄道［正］井口 重信・水野 光一郎・門 真太郎
V-181　接着系あと施工アンカーの疲労耐性評価試験／JR東日本［正］水野 光一朗・井口 重信・門 真太郎

■付着・定着・継手(2) ／10:30～12:00／渡部 太一郎(東日本旅客鉄道)
V-182　定着体を設けた杭・柱接合部の交番載荷試験による破壊形態の検討／東日本旅客鉄道［正］森本 慎二・小林 寿子・井口 重信
V-183　定着体を用いた杭・柱接合部の耐力評価／東日本旅客鉄道［正］石田 卓也・森本 慎二・小林 寿子
V-184　繊維シート材料を用いた接合部の補強に関する検討／電気化学工業［正］高橋 順・藤間 誠司・上田 多門
V-185　フルプレキャスト部材に用いるモルタルスリーブ継手の疲労強度／大林組［正］北出 啓一郎・伊藤 勝通・後藤 隆臣
V-186　モルタル充填式継手と集約されたせん断補強鉄筋を有するRCはりのせん断性状／東京工業大学［学］安田 瑛紀・松本 浩嗣・二羽 淳一郎
V-187　締付金具を用いた鉄筋継手を有するRCはり部材の静的曲げ耐荷性能／IHI［正］山口 隆一・齊藤 史朗・楊 威
V-188　締付金具を用いた鉄筋継手を有するRCはりの諸特性／IHIインフラシステム［正］倉田 幸宏・山口 隆一・楊 威

V-3（全学教育推進機構C棟C201）／9月12日(金)

■混和材(1) ／8:45～10:15／佐川 康貴(九州大学)
V-189　実環境に約2年間曝露した低炭素型のコンクリートの塩分浸透／大成建設［正］荻野 正貴・大脇 英司・白根 勇二
V-190　低炭素型のコンクリートの熱膨張係数および断熱温度上昇特性に関する検討／前田建設工業［正］白根 勇二・荻野 正貴・中村 英佑
V-191　高炉スラグを多量に使用した環境配慮コンクリートの夏期施工／大成建設［正］大脇 英司・宮原 茂禎・荻野 正貴
V-192　暑中における環境配慮コンクリートの性状／大成建設［正］岡本 礼子・宮原 茂禎・荻野 正貴
V-193　冬期における環境配慮コンクリートの試験施工／大成建設［正］宮原 茂禎・岡本 礼子・荻野 正貴

V-194　温度ひび割れ抑制効果の高い低発熱型高炉セメントの考案／芝浦工業大学［学］亀山 敬宏・田邉 大樹・伊代田 岳史
V-195　高炉スラグ高含有セメントの強度・発熱特性および中性化について／日鉄住金高炉セメント［正］大塚 勇介・平本 真也・植木 康知
V-196　高炉スラグ微粉末とシリカフュームを用いた高強度コンクリートの強度・収縮特性について／室蘭工業大学［学］横川 慶介・菅田 紀之

■混和材(2) ／10:30～12:00／白根 勇二(前田建設工業)
V-197　分級フライアッシュ混和コンクリートの長期にわたる強度発現に及ぼす初期養生条件の影響／金沢大学［学］猪股 亮太・山戸 博晃・田中 勇
V-198　フライアッシュのポゾラン反応における養生温度の影響／日本大学［学］神越 俊基・佐藤 正己・小泉 公志郎
V-199　初期強度改善を目的とした早強ポルトランドセメントベースのフライアッシュコンクリートにおける養生と強度発現特性／電源開発［正］石川 嘉崇・今岡 知武・鷲尾 朝昭
V-200　暴露試験と促進中性化試験から得られたフライアッシュコンクリートの中性化深さと塩化物イオン濃度分布について／電源開発［正］今岡 知武・石川 嘉崇・鷲尾 朝昭
V-201　遮塩効果を持ったコンクリート配合に関する実験的研究／東日本旅客鉄道［正］今井 俊一郎・小林 寿子・井口 重信
V-202　海水を練り混ぜ水に用いたフライアッシュ高置換コンクリートに関する研究／石川工業高等専門学校［学］前 暸弘・福留 和人・中出 将太
V-203　フライアッシュを多量に用いた藻場造成用ポーラスコンクリートの製造に関する研究／石川工業高等専門学校［学］中出 将太・福留 和人・前 暸弘
V-204　フライアッシュを事前に混合したコンクリート用細骨材の貯蔵時の固着に関する研究／京都大学［学］植島 慎介・河野 広隆・服部 篤史

■混和材(3)・ライフサイクル／15:00～16:30／大脇 英司(大成建設)
V-205　メタカオリン含有人工ポゾランを混和したモルタルのアルカリシリカ反応による膨張挙動に関する研究／九州大学［学］田中 暁大・佐川 康貴・山下 祐司
V-206　改良されたメタカオリン含有人工ポゾランの反応性に関する基礎的研究／鹿児島大学［学］畠中 優成・武若 耕司・山口 明伸
V-207　メタカオリン含有人工ポゾランと普通セメントおよび各種混和材料を混合した三成分系セメントペーストの強度特性／東京理科大学［正］江口 康平・武若 耕司・山口 明伸
V-208　膨張材を用いたセメント硬化体の緻密性評価に関する基礎的研究／宮崎大学［正］李 春鶴・田中 佳宏・辻 幸和
V-209　再生骨材モルタルの初期強度に影響を与える混和材のフィラー効果及びポゾラン反応に関する検討／徳島大学［学］永野 哲平・橋本 親典・渡辺 健
V-210　製造方法の違いが一般廃棄物溶融スラグに及ぼす影響―コンクリート用混和材やジオポリマーとして利用する場合の一考察―／茨城大学［正］木村 亨・沼尾 達弥・紀 貴
V-211　高炉セメントを使用した舗装用コンクリートのCO_2排出量／トクヤマ［正］新見 龍男・中村 明則・加藤 弘義
V-212　廃棄物の資源化を示す環境指標に関する考察／広島大学［F］河合 研至・田中 敏嗣・平尾 宙

V-4（全学教育推進機構C棟C202）／9月10日(水)

■補修補強(材料)(1) ／8:45～10:15／山口 明伸(鹿児島大学)
V-213　鉄筋腐食の進行抑制を目的とした既設コンクリート部材への表面含浸材塗布後6年間の追跡調査／寒地土木研究所［正］遠藤 裕丈・島多 昭典
V-214　海洋環境で塗布後13年が経過したシラン系表面含浸材の性能と再塗布による遮塩性の改善効果／東亜建設工業［正］花岡 大伸・網野 貴彦・宮里 心一
V-215　シラン系表面含浸材の凍害を受けたコンクリートの遮塩効果に関する検討／法政大学［学］高徳 類・大川 裕・溝渕 利明
V-216　ASR劣化コンクリートに塗布したシラン系表面含浸材の水分逸散性能／神戸大学［学］川島 洋平・中島 朗博・森川 英典
V-217　けい酸塩系表面含浸材の種類判定および再反応試験に及ぼす乾燥温度の影響／金沢工業大学［正］大嶋 俊一・西野 英哉・高島 達行
V-218　コンクリートのひび割れ部に対するけい酸塩系表面含浸材の改質効果の比較／金沢大学［学］室谷 卓実・五十嵐 心一
V-219　けい酸塩系表面含浸材の塗布時期の違いによる耐塩害性の評価／富士化学［正］黒岩 大地・宮里 心一・高島 達行
V-220　水酸化カルシウム量がけい酸塩系表面含浸材の改質効果に与える影響／東京理科大学［学］菊地原 潤一・染谷 望・加藤 佳孝

■補修補強(材料)(2) ／10:30～12:00／林 大介(鹿島建設)
V-221　シラン系表面含浸材の塗布量と含浸深さが耐スケーリング性におよぼす影響の検討／大同塗料［正］仲本 善彦・水谷 真也・須戸 琢哉
V-222　劣化した構造物への表面含浸材の塗布が耐久性に与える効果の検証／芝浦工業大学［学］原沢 蓉子・石川 巧・伊代田 岳史
V-223　けい酸塩系塗布後に塩分が浸透した供試体へのシラン系塗布の影響／関西大学［学］島川 和之・鶴田 浩章・上田 尚史
V-224　表面改質剤を施したコンクリートの屋外環境での性能評価／宮崎大学［学］福山 純平・李 春鶴・郭 度連
V-225　環境が異なる地域に1年間暴露した断面修復材の付着強度／土木研究所［正］渡邊 健治・片平 博・渡辺 博志
V-226　高炉スラグ加工砂を用いた断面修復材のマクロセル腐食形成機構の解明に関する研究／二瀬窯業［正］藤元 美恵子・下川 裕士・宮里 心一
V-227　各種犠牲陽極材の防食効果の検討／東京地下鉄［正］諸橋 由治・葛目 和宏・小椋 紀彦
V-228　表面被覆材の付着性能を低下させる要因の検討／土木研究所［正］宮田 敦士・佐々木 厳・西崎 到

■補修補強(材料)(3) ／12:45～14:15／片平 博(土木研究所 つくば中央研究所)
V-229　速硬性混和材を用いた速硬性コンクリートの相性に関する一考察／太平洋マテリアル［正］郭 度連・高橋 洋朗・李 春鶴
V-230　ポリマーセメントモルタルの打重ねに関する検討／太平洋マテリアル［正］杉野 雄亮・佐竹 紳也・大久保 藤和
V-231　断面修復におけるプライマー機構作用に関する検討／太平洋マテリアル［正］山中 俊幸・浜中 昭徳・長井 義徳
V-232　セメント系断面修復材のための初期養生剤の検討／太平洋マテリアル［正］浜中 昭徳・山中 俊幸・長井 義徳
V-233　施工時のポリマーセメントモルタルの品質に関する検討／前田工繊［正］大久保 誠・辻 総一朗・中井 裕司
V-234　超高性能繊維補強コンクリートの材料・構造特性に関する基礎的研究／長崎大学［学］長島 和輝・松田 浩
V-235　補修・補強用吹付けモルタルのひび割れ制御に関する実験的検討／東急建設［正］鈴木 将充・前原 聡・早川 健司
V-236　塩分吸着断面修復材と亜硝酸リチウムを併用した補修材料の強度と耐久性／金沢工業大学［学］岩井 雅紀・宮里 心一・宮口 克一

■補修補強(材料)(4) ／14:30～16:00／網野 貴彦(東亜建設工業)
V-237　表面被覆工を施したコンクリート構造物の表面被覆材の膨れの要因に関する一考察／土木研究所［正］熊谷 慎祐・佐々木 厳・西崎 到
V-238　表面被覆材のピンホールや剥がれが塩化物イオン透過量に及ぼす影響／土木研究所［正］櫻庭 浩樹・熊谷 慎祐・宮田 敦士
V-239　ASR劣化フーチングに対する大規模な補強と効果検証／金沢大学［学］津田 誠・笹谷 輝彦・鳥居 和之
V-240　大口径および太径アンカー筋に対するセメント系あと施工アンカーの付着強度特性／住友大阪セメント［正］安藤 重裕・山田 宏・兼吉 孝征
V-241　超速硬セメント系注入式あと施工アンカーの付着クリープ特性／住友大阪セメント［正］山田 宏・安藤 重裕・兼吉 孝征
V-242　高性能・高耐久無機系あと埋め材の開発／デイ・シイ［正］高橋 清美・青木 圭一・上平 謙二
V-243　紫外線硬化型FRPシートに用いる湿潤対応型プライマーの検討／竹中土木［正］高橋 心平・四宮 みゆき・今田 篤也
V-244　CFRPと亜鉛メッキ鋼材の接着耐久性について／東レ建設［正］服部 明生・山本 展久・松井 孝洋

V-4（全学教育推進機構C棟C202）／9月11日(木)

■短繊維補強コンクリート(材料)(1) ／8:45～10:15／川口 哲生(太平洋セメント)
V-245　超高強度繊維補強コンクリートの打重ねの一体性確保に関する基礎的研究／鹿島建設［正］青山 達彦・柳井 修司・渡邊 有寿
V-246　レディーミクストコンクリート工場における超高強度繊維補強コンクリートの安定・連続製造／宇部興産［正］玉滝 浩司・吉田 浩一郎・石関 嘉一

V-247　超高強度繊維補強コンクリートの表面仕上げ時期の判断方法／宇部興産［正］藤野 由隆・玉滝 浩司・吉田 浩一郎
V-248　常温硬化型超高強度繊維補強コンクリートの強度発現性について／宇部興産［正］桐山 宏和・玉滝 浩司・吉田 浩一郎
V-249　短繊維の配向性を考慮したメゾスケール解析手法による繊維補強コンクリートの曲げ挙動解析／清水建設［正］小倉 大季・滝本 和志・国枝 稔
V-250　超高強度繊維補強コンクリート中の繊維の配向に関する研究／岐阜大学［学］平岩 修人・周 波・Ha Duy Nhi
V-251　廃瓦を用いた超高強度繊維補強コンクリートの自己収縮特性／岐阜大学［学］周 波・永井 祐・内田 裕市
V-252　凍結融解作用を受けた超高強度繊維補強コンクリートの引張特性に関する考察／北海道大学［学］上松瀬 慈・横田 弘・橋本 勝文

■短繊維補強コンクリート（材料）(2) ／10:30～12:00／小倉 大季（清水建設）
V-253　場所打ちによる超高強度連続繊維補強コンクリート製道路橋の施工／鹿島建設［正］川崎 文義・林 英輝・蓮野 武志
V-254　ポリプロピレン系合成短繊維を混入したコンクリートの乾燥収縮・圧縮クリープ特性／東急建設［正］前原 聡・笠倉 亮太・早川 健司
V-255　ひび割れを有する超高強度ひずみ硬化型モルタルの海洋環境下における鋼材防食性能について／東亜建設工業［正］水田 潤・国枝 稔・岩波 光保
V-256　集束PBO繊維を用いた超高強度繊維補強コンクリートはりのせん断破壊性状／太平洋セメント［正］川口 哲生・河野 克哉・奥山 幸成
V-257　有機繊維を用いた超高強度繊維補強コンクリート部材の曲げ耐疲労性／日本大学［正］水口 和彦・阿部 忠・川口 哲生
V-258　高強度繊維補強コンクリートのひび割れ後の引張疲労特性／立命館大学［学］志村 彩
V-259　鋼繊維分布のX線撮影とSFRCはりの曲げ耐力に関する実験的研究／早稲田大学［学］岡本 健弘・Sopokhem Lim・秋山 充良
V-260　超高強度材料を用いた薄型RC床版に関する検討／エスイー［正］野澤 忠明・前田 宏樹・濱口 祥輝

V-4（全学教育推進機構C棟C202）／9月12日(金)

■構造物調査・診断(1) ／8:45～10:15／松田 芳範（東日本旅客鉄道）
V-261　塗布方法の違いが導電塗料の検知ひび割れ幅の精度に及ぼす影響／鉄道総合技術研究所［正］田中 寿志・仁平 達也・曽我部 正道
V-262　PC橋梁の維持管理におけるグラウト充填性調査の活用について／西日本高速道路［正］山本 泰造・大城 壮司
V-263　著しく変状の生じたコンクリート製壁高欄の劣化調査例／土木研究所［正］水田 真紀・野々村 佳哲・太田 哲司
V-264　鉄道高架橋スラブにおける中性化深さの空間分布特性／鉄道総合技術研究所［正］松岡 弘大・曽我部 正道・仁平 達也
V-265　骨材の位置や分布を考慮したコンクリートの内部応力の推定に関する解析的検討／神戸大学［学］中村 駿哉・三木 朋広
V-266　経年90年程度の大河津分水旧可動堰コンクリートコア材料試験／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］二見 豪・小林 薫・平林 雅也
V-267　PC鋼棒を埋設する固定定着部の拡径形状および試験体寸法の検討／山口大学［学］原田 雅也・三本 竜彦・吉武 勇
V-268　コンクリート部材内にPC 鋼棒をあと施工定着する構造の実験的検討／極東興和［正］三本 竜彦・中森 武郎・原田 雅也

■構造物調査・診断(2) ／10:30～12:00／野村 倫一（西日本旅客鉄道）
V-269　重力式係船岸における空洞の発生状況に関する分析／国土技術政策総合研究所［正］佐藤 徹・堂坂 康二・加藤 絵万
V-270　鉄筋で拘束された膨張コンクリートの解析によるひずみ挙動の検討／富山県立大学［学］佐橋 宗明・伊藤 始・野口 聖矢
V-271　床版連結化したポステンU型PC桁の温度影響計測／首都高速道路技術センター［正］吉沢 勝・水井 啓和
V-272　高速移動型3Dレーダ探査車による水の作用を受けて劣化した道路橋RC床版の損傷調査／日本大学［正］岩城 一郎・垂水 稔・子田 康弘
V-273　漏洩磁束法によるPC鋼材破断確認実験／高速道路総合技術研究所［正］横山 貴士・宮永 憲一・廣瀬 誠
V-274　漏洩磁束法によるPCポストテンション桁橋におけるPC鋼材破断調査の実用化／四国総合研究所［正］廣瀬 誠・青木 圭一・先本 勉
V-275　アルカリシリカ反応による無筋コンクリート橋脚の変状とRC巻き立てによる抑制効果／東日本旅客鉄道［正］山田 章史・松田 芳範
V-276　遠望計測によるひび割れ幅の算定に関する研究／長崎大学［学］蔵本 駿介・松田 浩・出水 亨

■構造物調査・診断(3) ／15:00～16:30／松﨑 裕（東北大学）
V-277　コンクリート粉末採取方法の違いが塩化物イオン濃度に与える影響／東北学院大学［学］高橋 尚己・武田 三弘・佐藤 陽介
V-278　東山動植物園コンクリート製恐竜像の安全性に関する基礎的研究／名古屋大学［学］阪本 早弥奈・中村 光・三浦 泰人
V-279　緊張材に炭素繊維を用いたプレキャストPC床版の健全性調査／港湾PC構造物研究会［正］村井 伸康・中山 良直・網野 貴彦
V-280　48年供用されたRC床版の載荷試験報告／首都高速道路技術センター［正］蒲 和也・増井 隆
V-281　供用から44年経過したPC桁の載荷試験報告／首都高速道路［正］増井 隆・蒲 和也
V-282　円孔周辺の応力集中係数を用いたプレストレス力の推定に関する基礎的研究／神戸大学［学］三木 大地・三木 朋広
V-283　経年10数年のコンクリート鉄道高架橋の中性化調査における一考察／東日本旅客鉄道［正］松田 芳範・井口 重信・築嶋 大輔

V-5（全学教育推進機構C棟C203）／9月10日(水)

■せん断・ねじり(1) ／8:45～10:15／高橋 良輔（山梨大学）
V-284　廃瓦骨材で内部養生したRCはりのせん断強度について／広島大学［学］マチャリア マーティン ムワンギ・小川 由布子・山口 克己
V-285　収縮の進行および破壊エネルギーがRCはりのせん断強度に及ぼす影響／広島大学［学］川井 菜緒・笹田 航平・半井 健一郎
V-286　RCはりの斜め引張破壊の分岐誘導解析に及ぼすひび割れ構成モデルの影響／清水建設［正］長谷川 俊昭
V-287　せん断補強鉄筋を有するRCはりのせん断破壊メカニズムの評価に関する実験的研究／関西大学［学］児玉 圭・上田 尚史・鶴田 浩章
V-288　ディープビームにおけるせん断補強効果のメカニズムに関する解析的研究／名古屋大学［学］岩本 拓也・中村 光・山本 佳人
V-289　柱部材のねじりの非線形性に関する解析的検討／北武コンサルタント［正］阿部 淳一・田所 敏弥
V-290　実RCアーチ橋に対するねじりと曲げの相関曲線を考慮した地震応答解析／九州大学［学］服部 匡洋・大塚 久哲・脇坂 英男
V-291　FEAによる三室中空断面RC部材のねじりと曲げの相関曲線の提案／九州大学［学］新田 直也・大塚 久哲・梶田 幸秀

■せん断・ねじり(2) ／10:30～12:00／岩波 光保（東京工業大学）
V-292　繊維補強発泡ウレタン部材を二段配置補強したコンクリート梁のせん断耐力に関する研究／京都大学［学］眞武 俊輔・大島 義信・河野 広隆
V-293　高引張強度領域を有するRC梁のせん断破壊性状に関する基礎的検討／JR東日本［F］小林 薫・佐々木 尚美
V-294　軸力とねじりの複合断面力を受ける鉄筋コンクリート部材の耐力／立命館大学［学］近藤 克紀・柳田 龍平・岡本 享久
V-295　修正圧縮場理論によるRC梁の動的せん断耐力の評価／防衛大学校［学］ソムラート アモンテップ・藤掛 一典
V-296　鉄筋定着部補強を考慮したUFCパネル接着によるせん断補強効果の検討／神戸大学［学］河野 史弥・王 健・森川 英典
V-297　ねじふし鉄筋を用いた梁部材のせん断耐力に関する実験的研究／東日本旅客鉄道［正］山下 洋平・大郷 貴之・松本 浩一
V-298　地下構造物のせん断耐力の評価に関する一考察／北武コンサルタント［正］竹内 侑揮・坂口 淳一・土屋 智史

■副産物利用・再生材料／12:45～14:15／小川 由布子（広島大学）
V-299　高炉徐冷スラグ粗骨材の品質改善に関する研究／岡山大学［学］白川 輝・藤井 隆史・高橋 克則
V-300　緻密高炉スラグ粗骨材のコンクリートへの適用性評価／JFEスチール［正］王 ぱい・中西 克佳・田 恵太
V-301　高炉スラグ稿含有セメントを用いた土木用コンクリートの検討／鹿島建設［正］橋本 学・坂田 昇・坂井 吾郎
V-302　空隙率が多孔質型鉄鋼スラグ水和固化体の圧縮強度および

鉄溶出速度に及ぼす影響／宮崎大学［学］下野 聖也・尾上 幸造・鈴木 祥広
V-303　フライアッシュ系ジオポリマーの強度特性に対する高炉スラグの影響／九州工業大学［正］合田 寛基・原田 耕司・日比野 誠
V-304　フライアッシュの添加が再生骨材コンクリートの曲げ強度特性に与える影響／富山県立大学［学］窪田 一沙・伊藤 始・鈴木 祥太
V-305　採取時期および混練機が異なるFAサンドを用いたコンクリートの基礎性状／金沢工業大学［学］吉谷 拓磨・宮里 心一
V-306　原位置に打設する石炭灰硬化体の若材齢における溶出抑制効果／安藤ハザマ［正］坂本 守・榎原 彩野・真石 恒一

■エコ・緑化コンクリート／14:30～16:00／尾上 幸造（宮崎大学）
V-307　爆砕竹繊維混入コンクリートの強度特性の評価／明石工業高等専門学校［学］松本 翼・上田 隆之・武田 宇浦
V-308　竹繊維混入ポーラスコンクリートの物理的特性／明石工業高等専門学校［学］五藤 圭・松本 翼・武田 宇浦
V-309　ポーラスコンクリートを基材とした水質浄化材によるリン低減効果に関する研究／立命館大学［学］中 新弥・内田 慎哉・岡本 享久
V-310　牡蠣殻ポーラスコンクリートの保水性および曲げ強度に及ぼす2層構造化の影響／呉工業高等専門学校［学］水尻 大輔・堀口 至・折本 雅信
V-311　ポーラスコンクリートのX線CT画像への粒子分離計測に関する基礎研究／ホクコン［正］岡田 裕平・麓 隆行
V-312　歩道舗装ブロック表面のミクロな凹凸と再帰反射性の関係／首都大学東京［学］市川 直樹・上野 敦・宇治 公隆
V-313　歩道ブロックの表面形状による再帰反射率への影響／首都大学東京［学］佐藤 凜奈・上野 敦・宇治 公隆
V-314　廃石こうとマグネシウム塩を有効活用した環境配慮型歩道用透水性舗装材の開発に関する実験的検討／鹿児島大学［学］松永 凌馬・山口 明伸・武若 耕司

V-5（全学教育推進機構C棟C203）／9月11日(木)

■リサイクル(1) ／8:45～10:15／鶴田 浩章（関西大学）
V-315　震災コンクリート殻のプレキャスト製品への利用に関する研究／復建技術コンサルタント［正］開米 浩久・北辻 政文
V-316　コンクリート殻のリサイクルを目的とした簡易な表面塩分除去方法の提案／土木研究所寒地土木研究所［正］島多 昭典・三原 慎弘・田畑 浩太郎
V-317　コンクリートがれきを用いたセメント固化体の災害廃棄物処理工事への適用／大成建設［正］堀口 賢一・山本 哲・萩原 純一
V-318　がれき残渣を細骨材として用いたモルタルの圧縮強度／東北大学［正］山口 潤・皆川 浩・宮本 慎太郎
V-319　家屋解体廃瓦を用いた透水性舗装の温熱特性／名古屋工業大学［学］黒木 善生・上原 匠・西尾 秀登
V-320　粉末状の越前廃瓦がモルタル強度に及ぼす影響／福井県丹南土木事務所［正］久保 光・青山 宏昭・市村 幸彦
V-321　廃瓦と塩分の併用によるコンクリートの初期強度増進と収縮低減／広島大学［学］山中 翔太・半井 健一郎
V-322　廃瓦粗骨材を用いたフライアッシュコンクリートが受ける蒸気養生後の乾燥の影響／広島大学［学］村岸 祐輔・土居 直樹・小川 由布子

■リサイクル(2) ／10:30～12:00／上野 敦（首都大学東京）
V-323　PETボトル繊維を混入した場合のセメントペースト強度特性／東洋大学［正］須長 誠・吉野山 翔太・黒崎 彰
V-324　リサイクル石膏を混入したモルタルの強度改善および乾燥収縮／名古屋工業大学［学］加納 侑岳・上原 匠・菱田 大樹
V-325　籾殻灰を混入したRCはり部材の破壊挙動／名古屋工業大学［正］梶原 教裕・上原 匠・河合 良紀
V-326　細骨材の一部に置換した下水汚泥焼却灰の種類によるコンクリートの凝結性状への影響／関西大学［学］竹本 裕樹・tsuruta hiroaki・ueda naoshi
V-327　建設汚泥固化物を細骨材の一部に置換したコンクリートの性状／高知工業高等専門学校［学］福冨 隼人・甲把 浩基・横井 克則
V-328　リサイクル材料を多量に使用した地盤改良材の強度特性に基づくセメント系固化材混入比率による増進率に関する実験的研究／徳島大学［学］田中 美里
V-329　圧縮成形によるコンクリートの再生および体積変化の制御に関する研究／東京大学生産技術研究所［正］酒井 雄也・岸 利治

V-5（全学教育推進機構C棟C203）／9月12日(金)

■クリープ・収縮／8:45～10:15／下村 匠（長岡技術科学大学）
V-330　粗骨材特性に基づくコンクリートの乾燥収縮率の推定方法に関する検討／フジタ技術センター［正］藤倉 裕介
V-331　養生中の温度履歴がコンクリートの乾燥収縮ひずみに及ぼす影響／岡山大学［学］大石 幸紀・沖花 智之・藤井 隆史
V-332　高炉セメントを用いたコンクリートの圧縮クリープ特性に関する検討／鉄道総合技術研究所［正］元濱 浩人・渡辺 健・鬼頭 直希
V-333　異なる養生温度条件下における高炉セメントコンクリートの乾燥収縮ひずみ特性／大成建設［正］臼井 達哉・宮原 茂禎・丸屋 剛
V-334　膨張コンクリートの拘束膨張収縮ひずみの長期性状／太平洋マテリアル［正］長塩 靖祐・竹下 永造・佐竹 紳也
V-335　屋外暴露した遠心成形コンクリートの乾燥収縮特性に関する検討／富山県立大学［学］鈴木 祥太・伊藤 始・工藤 尚孝
V-336　膨張材を混和したコンクリートにおける耐久性評価手法の一提案／太平洋マテリアル［正］竹下 永造・長塩 靖祐
V-337　若材齢時における材齢による自己収縮ひずみの定式化に関する一考察／法政大学［正］新井 淳一・仙場 亮太・溝渕 利明

■温度応力／10:30～12:00／前田 欣昌（東急建設）
V-338　膨張コンクリートによる温度ひび割れ低減効果の簡易評価／太平洋セメント［正］三谷 裕二・石井 祐輔・谷村 充
V-339　水和熱抑制剤を適用したコンクリート構造物の温度予測解析手法の精度向上に関する検討／飛島建設［正］川里 麻莉子・槙島 修・寺澤 正人
V-340　温度ひび割れ照査に用いる水和熱抑制剤の断熱温度上昇式の推定について／安藤・間［正］川中 政美・高田 良章・村上 祐治
V-341　分岐したパイプレイアウトに対するパイプクーリング解析手法の構築／名城大学［学］池村 穣・石川 靖晃
V-342　循環式の鉛直パイプクーリングによるコンクリートの温度ひび割れ対策／奥村組［正］安田 幸司・森田 修二・小河 篤史
V-343　温度ひび割れの制御を目的としたパイプクーリングの実施と効果検証／大成建設［正］原 佑友・牛場 茂友・村上 公一
V-344　ヒートパイプを利用したパイプクーリング工法の開発／鉄建建設［正］伊吹 真一・柳 博文・松岡 茂
V-345　ヒートパイプを利用したパイプクーリングによる温度ひび割れ抑制効果の検証／鉄建建設［正］柳 博文・船本 恵一・前田 智宏

■ひび割れ／15:00～16:30／小澤 満津雄（群馬大学）
V-346　乾燥収縮による表面ひび割れ発生程度と透気試験結果の関係に関する検討／飛島建設［正］寺澤 正人・槙島 修・川里 麻莉子
V-347　実構造物の計測結果を用いた温度応力解析の精度向上方法とその評価／鹿島建設［正］関 健吾・横関 康祐・細田 暁
V-348　凝結遅延モルタルにおける凝結時間のばらつきと温度依存性に関する検討／鹿島建設［正］佐野 忍・小林 聖・園田 佳巨
V-349　短繊維補強コンクリートの部分施工による壁状構造物のひび割れ抑制効果／前田建設工業［正］笹倉 伸晃・白根 勇二・伊藤 始
V-350　トンネル覆工コンクリートの保水養生テープの貼り付け時期変更による効果確認／住友スリーエム［正］森本 仁志・福田 泰水・池澤 貴典
V-351　自己治癒補修材料を用いた地下鉄トンネルの漏水補修工法・材料の検討／東京地下鉄［正］村上 哲哉・大泉 政彦・諸橋 由治
V-352　ひび割れが発生するコンクリート中のセメントの異常反応及びひび割れを抑制する方法／西日本高速道路［正］鈴木 廣治・丸 章夫
V-353　連続繊維配置位置によるRC部材のひび割れ抑制に関する基礎的研究／宮崎大学［正］安井 賢太郎・日高 康太・李 春鶴

V-6（全学教育推進機構C棟C205）／9月10日(水)

■フレッシュコンクリート／8:45～10:15／浦野 真次（清水建設）
V-354　マイクロナノバブル混合水を用いたコンクリートの流動性への影響／鶴見コンクリート［正］丸山 貴吉・高橋 直也・鈴木 翔太

V-355　各種配管及び圧送条件における振動加速度計を用いたコンクリートの圧送性評価／福岡大学［学］平川 恭奨・橋本 紳一郎・江本 幸雄
V-356　棒状バイブレータによる振動伝播の推定手法の検討～ 加速度分布式の誘導 ～／前田建設工業［正］平田 昌史・白根 勇二・笹倉 伸晃
V-357　棒状バイブレータによる振動伝播の推定手法の検討～実験結果との比較～／前田建設工業［正］中島 良光・平田 昌史・白根 勇二
V-358　コンクリートの施工性に及ぼす細骨材率の影響／太平洋セメント［正］大野 拓也・兵頭 彦次・三谷 裕二
V-359　フライアッシュを用いたコンクリートのブリーディング抑制対策に関する実験的研究／JR東日本［正］中村 瑞穂・今井 俊一郎・小林 聖
V-360　細骨材が型枠界面のブリーディング挙動に及ぼす影響に関する実験的研究／東京理科大学［正］三田 勝也・加藤 佳孝
V-361　水分逸散抑制・保温養生用シートMTPの養生効果／東宏［正］小林 雅彦・庄野 昭・森島 敏之

■高流動コンクリート／10:30～12:00／杉橋 直行（清水建設）
V-362　合成構造フーチングへの中流動コンクリートの適用検討／大林組［正］谷田部 勝博・伊原 茂・中野 博文
V-363　ブリーディング低減成分を含有した増粘剤一液型高性能AE減水剤を使用した中流動覆工コンクリートの基本特性／BASFジャパン［正］作榮 二郎・小山 広光・坂井 吾郎
V-364　連行空気泡による自己充填コンクリートの実用性向上／高知工科大学［学］亀島 健太・大内 雅博
V-365　高性能AE減水剤（増粘剤一液タイプ）を用いた低粘性高流動コンクリートの実規模試験／BASFジャパン［正］本田 亮・松川 欣司・阿合 延明
V-366　高流動コンクリートを構成するペーストの粘性に及ぼす諸要因に関する基礎的検討／長崎大学［学］貞松 大地・佐々木 謙二・原田 哲夫
V-367　増粘剤一液型SPを用いた中流動コンクリートの乾燥収縮特性と表面性状評価／関西大学［学］平井 孝明・鶴田 浩章・上田 尚史
V-368　海水・海砂を用いた自己充填型コンクリートの水中コンクリートへの適用性に関する検討／五洋建設［正］酒井 貴洋・澤田 巧・田中 亮一
V-369　地中連続壁コンクリートの長距離流動実験／大成建設［正］高橋 克昌・渡辺 典男・臼井 達哉

■締め固め・特殊コンクリート／12:45～14:15／熊野 知司（摂南大学）
V-370　締固め性能を向上させた細径バイブレータの開発／清水建設［正］宮田 佳和・根本 浩史・前田 敏也
V-371　締固め要因が表面気泡に与える影響に関する一考察／鹿島建設［F］坂田 昇・村田 和也・WATANABE KENZO
V-372　コンクリートの締固め特性に及ぼす鉄筋配置の影響／首都大学東京［学］古川 凌輔・宇治 公隆・上野 敦
V-373　超凝結遅延剤を添加した吹付けコンクリートの基礎物性／東急建設［正］伊藤 正憲・鵜沢 勝英・前原 聡
V-374　超速硬セメントを用いた繊維補強ポリマーセメントコンクリートの基礎的研究／豊田工業高等専門学校［正］河野 伊知郎・須田 裕哉・久我 比呂氏
V-375　大容量LNG貯槽のPC防液堤を対象としたスリップフォーム工法用コンクリートの仕様と品質管理／大林組［正］近松 竜一・桜井 邦昭・大西 俊輔
V-376　ダム造成アバットメントのスロットジョイントへの膨張コンクリート適用／大林組［正］小俣 光弘・小平 春男・新村 亮
V-377　海水・海砂を用いた中流動コンクリートの諸特性／東洋建設［正］竹中 寛・山路 徹・清宮 理

■製造・施工／14:30～16:00／近松 竜一（大林組）
V-378　自己充填型高強度高耐久コンクリートの長距離圧送に伴う品質変動に関する一考察／清水建設［正］西岡 真帆・山田 雄太・田村 吉広
V-379　重量骨材を用いたプレキャストコンクリートの製造方法に関する一考察／日本ヒューム［正］井川 秀樹・横室 隆・橘高 義典
V-380　鋼・コンクリート合成床版への真空脱水工法の適用に向けた事前検証実験および実施工への適用結果／横河ブリッジ［正］高嶋 豊・光田 浩・畑中 重光
V-381　断続的な水分供給がコンクリート表層部の細孔構造の緻密化に及ぼす影響／首都大学東京［学］佐々木 優衣・朱 小燕・宇治 公隆
V-382　繊維材吹付け湿潤養生手法の天井面への施工性と養生効果について／東亜建設工業［正］田中 亮一・松久保 博敬・羽渕 貴士
V-383　遮光性養生マットを使用したコンクリート表層の密実性に関する研究／早川ゴム［正］大友 鉄平・藤井 弘三・塩永 亮介
V-384　遮光性養生マットがコンクリート表層の温度・湿度および品質に及ぼす影響／IHI［正］塩永 亮介・今村 紅音・戸田 勝哉
V-385　橋脚基部のひび割れ抑制対策として使用したコンクリートの検証報告／鹿島建設［正］藤代 勝・林 大介・温品 達也

V-6（全学教育推進機構C棟C205）／9月11日(木)

■混和剤／8:45～10:15／大内 雅博（高知工科大学）
V-386　C-S-H系早強剤のブリーディング抑制メカニズムに関する検討／BASFジャパン［正］馬場 勇介・井元 晴丈・小山 広光
V-387　C-S-H系早強剤および新規高性能減水剤を用いたコンクリートの強度増進効果／BASFジャパン［正］小泉 信一・馬場 勇介・佐藤 勝太
V-388　亜鉛化合物と銅化合物がモルタルの凝結に及ぼす影響／岡山大学［学］上中 一真・斉藤 忠・藤井 隆史
V-389　亜硝酸塩系硬化促進剤と各種混和剤を用いたコンクリートの低温環境下における諸特性／北見工業大学［正］井上 真澄・野田 亮佑・須藤 裕司
V-390　凍害劣化を抑制する化学混和剤の諸特性その1 抑制メカニズムとコンクリート試験結果／フローリック［正］西 祐宜・松沢 友弘・名和 豊春
V-391　凍害劣化を抑制する化学混和剤の諸特性その2 モルタル試験による凍結融解時の体積変化／フローリック［正］松沢 友弘・西 祐宜・名和 豊春
V-392　高温環境下に適した水中不分離性混和剤に関する実験的検討／鹿島建設［正］石橋 靖亨・渡邊 有寿・柳井 修司
V-393　亜硝酸リチウムとシラン系含浸材が鋼材の分極特性に与える影響／京都大学［学］金光 俊徳・宮川 豊章・山本 貴士

■木材利用／10:30～12:00／村野 昭人（東洋大学）
V-394　丸太打設液状化対策工法における炭素収支原単位／飛島建設［正］沼田 淳紀・筒井 雅行・三輪 滋
V-395　既設戸建住宅の液状化対策における丸太の打設方法に関する実験的検討／福井工業高等専門学校［正］吉田 雅穂・五十島 康平・村田 拓海
V-396　新たなカラマツ製遮音板の開発／長野県林業総合センター［正］柴田 直明・山内 仁人・山本 洋敬
V-397　木材のフナクイムシ食害のピロディンを用いた評価／港湾空港技術研究所［正］山田 昌郎・森 満範
V-398　製材所と木質バイオマス熱電併給システムからなる事業モデルの経済性／安藤ハザマ［正］池田 穣・石井 真人
V-399　CLTを用いた短支間木橋の開発(2) ／秋田県立大学［正］中村 昇
V-400　角材と鋼材を用いた組立・解体が容易な木橋／秋田県立大学［正］佐々木 貴信・後藤 文彦・安部 隆一
V-401　「鶴の舞橋」の橋脚に関する現地調査／函館工業高等専門学校［正］平沢 秀之・長尾 賢汰・佐々木 貴信
V-402　FEM解析による土木分野に適した木材のせん断破壊標準試験法に関する基礎的研究／金沢工業大学［学］篠原 己観郎・本田 秀行・千田 知弘
V-403　近代木橋に対する耐用年数の要因分析と推定／金沢工業大学［F］本田 秀行

V-6（全学教育推進機構C棟C205）／9月12日(金)

■耐震補強（1） ／8:45～10:15／坂井 公俊（鉄道総合技術研究所）
V-404　I型断面フレキシブルRC橋脚模型のせん断補強に関する実験的考察／九州大学［正］山崎 智彦・大塚 久哲・梶田 幸秀
V-405　水硬性樹脂と連続繊維シートを用いて補強したRC柱の変形性能に関する実験的研究／東急建設［正］黒岩 俊之・笠倉 亮太・中田 裕喜
V-406　薄肉鋼板および繊維シートを用いた耐震補強の鉄道鉄筋コンクリート構造物への適用／鉄道総合技術研究所［正］鬼頭 直希・中田 裕喜・山川 洋
V-407　ハンチを有する樋門函体を対象としたCFRPグリッドのせん断補強効果に関する検討／SNC［正］宮野 暢紘・原田 樹菜・山口 浩平
V-408　応答変位制御ワイヤによる高架橋上PC電化柱の地震時応答に関する基礎的研究／東日本旅客鉄道［正］鷹野 秀明・小林 薫
V-409　狭隘箇所におけるコンクリート柱（電車線用）の耐震補強工

法／東日本旅客鉄道［F］築嶋 大輔・佐々木 崇人・草野 英明
V-410　コンクリート柱(電車線用)耐震補強工法の実物大試験／東日本旅客鉄道［正］佐々木 崇人・築嶋 大輔・草野 英明

■耐震補強(2) ／10:30～12:00／田所 敏弥(鉄道総合技術研究所)
V-411　大都市圏の既設鉄道RC高架橋の耐震補強に関する一検討／阪急設計コンサルタント［正］山口 武志・松橋 宏治
V-412　鋼板巻立て補強を行ったせん断スパン比が小さいRC柱の交番載荷試験／東日本旅客鉄道［正］醍醐 宏治・水野 光一朗・小林 将志
V-413　鋼板巻き補強された鉄筋コンクリート橋脚のアンカーによる拘束効果に関する検討／鉄道総合技術研究所［正］中田 裕喜・鬼頭 直希・岡本 大
V-414　RC巻立て耐震補強におけるSD490軸方向鉄筋のフーチングへの定着特性／土木研究所［正］榎本 武雄・篠原 聖二・星隈 順一
V-415　部材側面に鋼板を固定するための鋼材を変化させたRC梁部材に対する曲げ載荷試験／JR東日本［正］伊東 典紀・醍醐 宏治・小林 将志
V-416　曲面状分割鋼板を用いた壁式橋脚の耐震補強工法(その1 せん断実験) ／大林組［正］田中 浩一・武田 篤史・中田 裕喜
V-417　曲面状分割鋼板を用いた壁式橋脚の耐震補強工法(その2 曲げ補強実験) ／大林組［正］武田 篤史・田中 浩一・岡本 大

■耐震／15:00～16:30／佐藤 靖彦(北海道大学)
V-418　主鉄筋の節高さを変化させたRC柱の正負交番載荷実験による耐力劣化改善効果に関する研究／西日本高速道路［正］後藤 源太・高橋 良和・澤田 純男
V-419　ハンチ筋が開削トンネル側壁の部材性能に及ぼす影響／鉄道総合技術研究所［正］藤岡 慶祐・中田 裕喜・田所 敏弥
V-420　画像分析及び数値解析による気仙大橋の津波被害分析／九州工業大学［学］神宮司 博志・幸左 賢二・佐々木 達生
V-421　Evaluation on the Rotation Occurred on a Skew Bridge during the Wenchuan Earthquake／九州工業大学［学］高恒・幸左 賢二・張 建東
V-422　Seismic Evaluation on a RC Rigid-Frame Arch Bridge Considering Extreme Axial Load／九州工業大学［学］施鐘淇・幸左 賢二・張 建東
V-423　せん断破壊型のRC柱部材に対する正負交番載荷試験／東日本旅客鉄道［正］丸山 哲郎・小林 将志・醍醐 宏治
V-424　RC部材の軸方向鉄筋低サイクル疲労破断評価(鉄筋座屈のファイバーモデル解析) ／九鉄工業［正］瀧口 将志・池永 貴史・大塚 久哲
V-425　高強度鉄筋と高靭性セメント材料を組み合わせた橋脚柱の変形性能評価／九州工業大学［学］篠崎 正治・幸左 賢二・佐藤 崇

V-7（全学教育推進機構C棟C206）／9月10日(水)

■塩害(1) ／8:45～10:15／宮里 心一(金沢工業大学)
V-426　凍結防止剤の塩害を想定した温度環境における塩分浸透実験／苫小牧工業高等専門学校［正］渡辺 暁央・橋本 庄一朗
V-427　現場モニタリング結果に基づく実構造物の凍結防止剤の影響度推定に関する検討／金沢大学［学］矢野 峻規・井端 志帆・久保 善司
V-428　塩害に起因するコンクリート中の鉄筋腐食における温度促進に関する検討／金沢大学［学］小笠原 啓人・久保 善司
V-429　複合劣化を受けた海洋構造物の塩化物イオン量と細孔径分布との関係／法政大学［学］長谷川　佑・高徳 類・野嶋 潤一郎
V-430　ひび割れを有するコンクリートの塩分浸透範囲と拡散係数評価式へのその適用／日本大学［学］小野 亮・齊藤 準平・下邊 悟
V-431　27年間干満帯に暴露した海水練りコンクリートの電気抵抗率に基づく塩化物イオン拡散係数の評価／東北大学［学］杉本 記哉・皆川 浩・宮本 慎太郎
V-432　塩化物の移動駆動力の違いがセメント硬化体中の塩化物浸透性に与える影響／東京理科大学［学］直町 聡子・堀 圭悟・加藤 佳孝
V-433　塩分による蒸気圧降下がコンクリートの乾湿挙動に及ぼす影響の検討／長岡技術科学大学［学］原田 健二・下村 匠

■塩害(2) ／10:30～12:00／皆川 浩(東北大学)
V-434　薄型の吸着材を利用した塩分捕集の可能性に関する検討／弘前大学［正］上原子 晶久・石川 雄大
V-435　鉄筋とコンクリート間の界面改良による腐食速度の低減／金沢工業大学［学］畑中 達郎・宮里 心一
V-436　塩害により腐食したPC 鋼線の力学的特性の検討／土木研究所［正］廣江 亜紀子・松沢 政和・本間 英貴
V-437　断面修復部周囲の鉄筋の分極特性がマクロセル腐食に与える影響／京都大学［学］井関 宏崇・吉田 隆浩・高谷 哲
V-438　塩害環境下の橋梁下部工予防保全対策後の追跡調査結果／ネクスコ・エンジニアリング新潟［正］野上 克宏・浅江 大介・打矢 道人
V-439　塩害環境下におけるエポキシ樹脂塗装鉄筋を用いた鉄筋コンクリートの防食に関する研究／琉球大学［正］富山 潤・大城 武・大貫 隆弘
V-440　塩害環境下における亜鉛アルミニウム合金めっき検査路の耐食性／東日本高速道路［正］北浦 美涼・東田 典雅・市川 翔太
V-441　塩害環境下におけるコンクリート構造物の耐震性能評価／香川大学［学］山下 泰輔・松島 学・宮本 慎宏

■鋼材腐食(1) ／12:45～14:15／田中 博一(清水建設)
V-442　腐食生成物の生成環境を考慮した腐食ひび割れ幅と腐食量の関係／京都大学［学］西澤 彩・高谷 哲・中村 士郎
V-443　様々な環境下における鉄筋の腐食生成物の初期弾性係数・ポアソン比の推定／京都大学［学］藤澤 真海・安 琳・高谷 哲
V-444　PCグラウト再注入後のマクロセル腐食に関する一考察／ピーエス三菱［正］鴨谷 知繁・青山 敏幸・森川 英典
V-445　PCグラウト再注入による鋼材腐食／高速道路総合技術研究所［正］青木 圭一・宮永 憲一・横山 貴士
V-446　模擬鉄筋コンクリートのかぶりが電気化学測定結果に与える影響の検討／東京理科大学［学］染谷 望・加藤 佳孝
V-447　防せい剤を用いたコンクリートの海洋環境下における防食性の評価／大林組［正］片野 啓三郎・竹田 宣典・与那嶺 一秀
V-448　新しい分極曲線測定法によるコンクリート中鋼材の腐食速度測定／日本防蝕工業［正］竹子 賢士郎・山本 悟・高谷 哲
V-449　迅速な分極曲線測定法による水溶液中マクロセルの腐食電流測定／日本防蝕工業［正］山本 悟・竹子 賢士郎・高谷 哲

■鋼材腐食(2) ／14:30～16:00／高谷 哲(京都大学)
V-450　長期供用したLNGタンク基礎鋼管杭の経年劣化による減肉量調査／大阪ガス［正］新村 知也・西崎 丈能・大西 俊輔
V-451　鋼橋上フランジ上面に適用されたガラスフレーク塗装の塗膜劣化状態の追跡調査／東海旅客鉄道［正］三條 剛嗣・庄司 朋宏・坂本 達朗
V-452　局部的な腐食再現実験を用いた鉄筋の力学性状に関する基礎的研究／名古屋大学［学］水野 敦大・Di Qiao・中村 光
V-453　腐食を模擬した切削鉄筋の座屈性状／筑波大学［正］金久保 利之・武田 惇志・八十島 章
V-454　腐食したフェライト系ステンレ鋼板の終局圧縮 強度 評価法／大阪大学［学］宮本 沙織・奈良 敬
V-455　炭酸化コンクリートへのステンレス鉄筋の適用性評価／金沢工業大学［学］中島 朋子・宮里 シンイチ・横関 康祐
V-456　ポリマーセメントモルタルによる鋼・コンクリート複合構造の一体性に関する検討／日本車輌製造［正］神頭 峰磯・佐竹 紳也・大久保 藤和
V-457　ポリマーセメントによる鋼・コンクリート複合構造の接着性能に関する検討／太平洋マテリアル［正］佐竹 紳也・大久保 藤和・杉野 雄亮

V-7（全学教育推進機構C棟C206）／9月11日(木)

■防食／8:45～10:15／山本 悟(日本防蝕工業)
V-458　鋼道路橋塗装の性能評価方法に関する検討／土木研究所［正］冨山 禎仁・西崎 到
V-459　ロングライフ塗装用鋼板(エコビュー)による10年暴露試験評価結果／神戸製鋼所［正］湯瀬 文雄・松下 政弘・高橋 章
V-460　海洋環境下におけるグラウンドアンカーの耐久性試験／エスイー［正］早川 道洋・清宮 理・岩波 光保
V-461　陽極ユニット設置型のコンクリート電気防食システムの検討／ナカボーテック［正］大谷 俊介・篠田 吉央・堀越 直樹
V-462　塩害劣化した鉄筋コンクリート供試体における電気防食効果の検討／西日本旅客鉄道［正］吉田 隆浩・大谷 俊介・小林 浩之
V-463　溶射型流電陽極方式電気防食工法の劣化因子浸透抑制効果に関する実験的検討／住友大阪セメント［正］山本 誠・山口 明伸・武若 耕司
V-464　犠牲陽極方式の電気防食に用いる陽極被覆材が防食性能に

及ぼす影響／九州大学［学］薬師寺 輝・山本 大介・濱田 秀則
V-465 施工5年目を迎えた外部電源陽極方式の防食効果追跡調査／JR西日本［正］進藤 義勝・吉田 隆浩・小城 守

■耐久性一般／10:30～12:00／渡邉 健（徳島大学）
V-466 脱型後の養生種類および期間がコンクリートの表層品質に及ぼす影響／オリエンタル白石［正］東 洋輔・福島 万貴
V-467 養生期間がフライアッシュコンクリートの中性化に与える影響／北海道電力［正］安藤 睦・齋藤 敏樹
V-468 フライアッシュコンクリートの中性化におけるk値に関する一考察／北電総合設計［正］齋藤 敏樹・安藤 睦
V-469 海水遡上河川に5年間暴露した高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの耐久性／土木研究所寒地土木研究所［正］吉田 行・渡邊 尚宏・島多 昭典
V-470 ASR劣化したPC桁供試体の緊張力および変形挙動の評価／九州工業大学［学］上園 祐太・幸左 賢二・上原 伸郎
V-471 曲げ戻ししたエポキシ樹脂塗装鉄筋の耐食性試験／オリエンタル白石［正］原 健悟・脇坂 英男・森下 博昭
V-472 中空微小球を使用したコンクリートの凍結融解抵抗性／電気化学工業［正］栖原 健太郎・本間 一也・五十嵐 数馬
V-473 プレキャスト部材の耐凍害性に関する考察／鹿島建設［正］林 大介・橋本 学・坂田 昇

V-7（全学教育推進機構C棟C206）／9月12日（金）

■アルカリシリカ反応（1）／8:45～10:15／久保 善司（金沢大学）
V-474 珪酸ナトリウム系補修材料によるアルカリシリカ反応の促進作用の検証／金沢大学［学］麻田 正弘・鳥居 和之
V-475 FAサンドを使用したコンクリートのASR抑制効果の検証／金沢大学［学］中島 隆甫・吉田 匠吾・坂本 守
V-476 ASR対策としての表面保護工の性能確認試験／本州四国連絡高速道路［正］花井 拓・荻原 勝也
V-477 ASR の亜硝酸リチウム圧入による補修がはり部材の耐荷性能に与える影響に関する実験的検討／ジェイアール東海コンサルタンツ［正］大畑 卓也・福嶋 孝啓・高木 雄介
V-478 常願寺川及び九頭竜川産河川砂利の反応性と分級フライアッシュによるASR抑制効果／金沢大学［学］久司 成利・山戸 博晃・中島 隆甫
V-479 ASR劣化の生じるコンクリートの持続応力下の圧縮変形特性／京都大学［学］新田 裕樹
V-480 多様な環境下におけるプロピオン酸カルシウムのASR抑制効果に関する研究／愛知工業大学［正］岩月 栄治
V-481 アルカリ骨材反応の抑制効果の評価方法と膨張予測の新しい考え方／国立環境研究所［正］山田 一夫・大迫 政浩・川端 雄一郎

■アルカリシリカ反応（2）／10:30～12:00／山田 一夫（国立環境研究所）
V-482 コンクリートプリズムを用いたASR加速試験における反応促進環境に関する一考察／九州大学［正］佐川 康貴・山田 一夫・小川 彰一
V-483 化学的・物理的現象を考慮したメゾスケール解析によるASR膨張挙動解析／関西大学［正］上田 尚史・鶴田 浩章
V-484 ASR劣化したプレテンションPC桁橋の劣化調査とモニタリング調査／琉球大学［学］松浦 葵・富山 潤・迫田 泰治
V-485 富山県内における花崗岩質岩石のアルカリシリカ反応／野村昌弘の研究所［正］野村 昌弘・広野 真一・大代 武志
V-486 床版内部コンクリートを模したASR劣化供試体による力学特性の検討／金沢大学［学］市原 鴻・久保 善司・子田 康弘
V-487 EVALUATION OF DAMAGE CONDITIONS IN ASR-AFFECTED STRUCTURES／九州工業大学［学］鄭 玉龍・幸左 賢二・上原 伸郎
V-488 EVALUATION FOR EXTERNAL AND INTERNAL DAMAGES INDUCED BY ASR／九州工業大学［学］WANG Jingmin・幸左 賢二・上原 伸郎
V-489 アルカリシリカ反応抑制剤を用いた膨張抑制効果に関する検討／法政大学［学］仙場 亮太・伊藤 泰彦・大川 裕

■凍害／15:00～16:30／阿波 稔（八戸工業大学）
V-490 マルコフ連鎖モデルを用いたコンクリート構造物の凍害の進行性評価／土木研究所 寒地土木研究所［正］川村 浩二・遠藤 裕丈・葛西 隆廣
V-491 凍結融解散布下における空気量およびフライアッシュがコンクリートの耐凍害性に及ぼす影響／首都高技術［正］佐久間 正明・子田 康弘・岩城 一郎
V-492 凍害と塩害の複合劣化がひび割れ注入工法の修復効果に及ぼす影響／土木研究所寒地土木研究所［正］内藤 勲・島多 昭典・三原 慎弘
V-493 セメントペーストの凍害に及ぼす水分条件の影響／北海道大学［学］井上 啓樹・志村 和紀・杉山 隆文
V-494 コンクリート表面含浸材（シラン系）の凍結融解試験結果報告／東日本高速道路［正］齊藤 進・丸山 正・谷藤 義弘
V-495 高炉スラグ細骨材を用いたコンクリートの凍結融解抵抗性に関する研究／岡山大学［学］森 雅聡・JARIYATHITIPONG Paweena・藤井 隆史
V-496 各種粗骨材を用いた舗装コンクリートの凍結融解抵抗性に関する研究／太平洋セメント［正］石田 征男・梶尾 聡・森濱 和正
V-497 凍害を受けた海洋コンクリートの塩分浸透に関する研究／苫小牧工業高等専門学校［学］木村 直生・廣川 一巳・渡辺 暁央

V-8（全学教育推進機構C棟C207）／9月10日（水）

■アスファルト系舗装（1）／8:45～10:15／城本 政一（大成ロテック）
V-498 アスファルト混合物の材料定数に関する基本的検討／NIPPO［正］岩間 将彦・尾本 志展・保坂 龍太
V-499 アスファルト混合物のほぐれ易さに着目した作業性評価試験方法に関する一検討／前田道路［正］清水 泰成・江向 俊文・小林 真之
V-500 アスファルト混合物の空隙率が圧裂強度および圧裂強度比に及ぼす影響／港湾空港技術研究所［正］河村 直哉・森川 嘉之
V-501 水密性を向上させた新たな表層用アスファルト舗装の検討／ネクスコ・エンジニアリング北海道［正］河村 祐・坂上 弘至・坂田 史典
V-502 加圧熱水を用いたアスファルト混合物の耐水性及び剥離抵抗性に関する評価・判定について／日本大学［学］宮坂 大裕・秋葉 正一・加納 陽輔
V-503 混合温度を低減することによるアスファルトの劣化抑制効果の一検討／東亜道路工業［正］設楽 直柔・平戸 利明・村山 雅人
V-504 アスファルト舗装の深さ方向におけるアスファルトの劣化に関する一考察／東亜道路工業［正］小林 真依・村山 雅人・平戸 利明
V-505 繰返しねじりせん断試験に基づくアスファルト量の違いおよび熱劣化作用がアスファルト混合物の耐久性に及ぼす影響について／神戸大学［学］谷 俊平・篠田 隆作・久利 良夫

■アスファルト系舗装（2）／10:30～12:00／中原 大磯（日本道路）
V-506 高機能舗装Ⅰ型混合物の温度管理に関する一考察／NIPPO［正］鐘ヶ江 隆人・阿部 徳男・塚本 周一
V-507 熱可塑性樹脂を使用したアスファルト改質材の開発／大有建設［正］安藤 友宏・今井 宏樹・後藤 浩二
V-508 施工性改善型改質アスファルトの冬期施工における効果の検証／昭和シェル石油［正］野口 健太郎・瀬尾 彰・川村 暢宏
V-509 供用劣化評価のための加圧劣化（PAV）試験の圧力条件とアスファルト性状／土木研究所［正］佐々木 厳・西崎 到
V-510 アスファルト舗装の赤外線放射温度計を用いる温度管理／中日本高速道路［正］阿部 徳男・山本 将・佐藤 博亮
V-511 表面排水型マスチック混合物の密度と骨材飛散特性の関係／福田道路［正］藤井 政人・清水 忠昭・佐藤 慶彦
V-512 ひび割れ抑制用薄層舗装SMA（5）の研究／長岡技術科学大学［学］中村 友樹・清水 忠昭
V-513 コンクリート床版基層混合物へのSMA適用に関する検討／阪神高速道路［正］篠田 隆作・小坂 崇

■舗装一般（1）／12:45～14:15／木村 清和（群馬工業高等専門学校）
V-514 生活道路調査における標本抽出手法の導入に関する検討／国際航業［正］伊藤 克広・高木 久・金子 雄一郎
V-515 舗装とタイヤの種類の違いが接地圧分布に及ぼす影響の分析／中央大学［学］近藤 圭介・前川 亮太・姫野 賢治
V-516 車道用ポーラスコンクリート舗装の試験施工および路面性能に関する検討／太平洋セメント［正］嶌田 聖史・石田 征男・岸良 竜
V-517 早期強度発現性を有するコンクリートの舗装用途への適用性／太平洋セメント［正］松本 健一・石田 征男・郭 度連
V-518 景観舗装における色相差を用いた玉砂利の選定手法の検討／日本道路［正］川上 聖・美馬 孝之・中原 大磯
V-519 中温化剤を用いた施工ジョイント部の付着性向上に関する検討／日本道路［正］立花 徳啓・遠藤 桂

V-520　熱水すりもみ法によるアスファルト舗装発生材の分別再材料化技術の検討／日本大学［学］野中 伸二郎・小花 将義・秋葉 正一
V-521　ダイヤモンドグラインディング工法によるトンネル内コンクリート舗装の路面摩擦改善に関する試験施工報告／土木研究所 寒地土木研究所［正］井谷 雅司・磯田 卓也・丸山 記美雄

■舗装一般(2)／14:30～16:00／石田 樹(土木研究所 寒地土木研究所)
V-522　震災時の簡易かつ迅速な段差修正に適した資材に関する検討／土木研究所［正］新田 弘之・西崎 到
V-523　路面性状調査データに基づくベトナム舗装マネジメントのための統計分析／大阪大学［学］早矢仕 廉太郎・青木 一也・貝戸 清之
V-524　道路ラフネス簡易診断システムのラオス国国道調査への適用と考察／長崎大学［学］三井 好古・西川 貴文
V-525　JICA道路事業における典型的舗装破損と対応策／国際協力機構［正］田中 顕士郎・古木 守靖・水野 聡士
V-526　海外道路舗装の技術課題と解決の方向／国際建設技術協会［F］古木 守靖・田中 顕士郎・水野 聡士
V-527　お客様サービス向上を目指した交通開放温度の検証／中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋［正］竹内 弘幸・山本 将・山中 利彦
V-528　四国横断自動車道 徳島～鳴門間 舗装計画について／西日本高速道路［正］藤田 尚・松原 雄二
V-529　鋼床版橋における舗装現況調査について／西日本高速道路エンジニアリング四国［正］高橋 秀典・藤原 琢也・石坂 健一

V-8（全学教育推進機構C棟C207）／9月11日(木)

■物性(1)／8:45～10:15／浅本 晋吾(埼玉大学)
V-530　暴露ブロックによるコンクリート温度の測定／土木研究所［正］片平 博・渡辺 博志
V-531　低水結合材比モルタルの圧縮強度増進性状に関する一考察／大成建設［正］木ノ村 幸士・石田 哲也
V-532　モルタルの吸水過程における水分移動に関する基礎的研究／東京理科大学［学］千葉 俊也・加藤 佳孝
V-533　モルタル硬化体の吸水・乾燥性状と水銀圧入法で測定される空隙量の関係に関する検討／名古屋工業大学［正］吉田 亮・佐藤 雄貴・落合 昂雄
V-534　高水圧下におけるコンクリートの破壊挙動に関する実験的考察／東京工業大学［学］堀 尚・中村 麻美・千々和 伸浩
V-535　CSGの引張破壊特性に関する検討(その3)／土木研究所［正］太田 兵庫・金銅 将史・小堀 俊秀
V-536　異なる鉛直打継目を有するコンクリートの超音波伝播速度および直接引張強度について／安藤・間［正］榎原 彩野・村上 祐治・木村 聡
V-537　コンクリートの破壊エネルギー試験における破壊進行領域と破壊エネルギーの関係に関する検討／首都大学東京［学］長岡 貴紀・大野 健太郎・宇治 公隆

■物性(2)・セメント化学／10:30～12:00／橋本 勝文(北海道大学)
V-538　普通エコセメントを用いた超硬練りコンクリートの耐凍害性の向上に関する研究／首都大学東京［学］飯塚 亮太・上野 敦・宇治 公隆
V-539　ケイ酸質系混和材を添加したコンクリートの劣化抑制に関する基礎的実験／日本大学［学］清水 太一郎・伊藤 義也・山口 晋
V-540　尿素を用いたコンクリートおよびモルタルの諸性状／阿南工業高等専門学校［正］堀井 克章・酒井 圭祐・脇山 春菜
V-541　給熱養生後のモルタルの強度および静弾性係数に対する極初期の組織形成の影響／首都大学東京［学］村田 哲・上野 敦・大野 健太郎
V-542　若材齢におけるセメントの水和反応の進行と電気抵抗率の対応／金沢大学［学］岡倉 洋平・五十嵐 心一
V-543　拡張BET理論を用いたセメントペーストの水蒸気吸着性状の評価手法の提案／東北大学［正］五十嵐 豪・丸山 一平
V-544　硫酸イオンおよび塩化物イオンの複合作用によるセメント水和物の変質挙動／東北大学［学］関 雄太・宮本 慎太郎・皆川 浩
V-545　X線回折外部標準法によるセメント系材料の結晶相と非晶質の定量分析／日鉄住金セメント［正］佐川 孝広・名和 豊春

V-8（全学教育推進機構C棟C207）／9月12日(金)

■構造評価(舗装)(1)／8:45～10:15／川名 太(東京農業大学)
V-546　舗装の振動評価に関する一考察／土木研究所［正］藤原 栄吾・寺田 剛・久保 和幸
V-547　道路下に空洞を有した場合に車輌が通行した際の影響／日本工営［正］太田 敬一
V-548　Ta不足箇所における大粒径Asシックリフト工法と路上路盤再生工法の適応性の検討(その1)／中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋［正］水野 卓哉・森山 守・西澤 辰男
V-549　Ta不足箇所における大粒径Asシックリフト工法と路上路盤再生工法の適応性の検討(その2)／石川工業高等専門学校［学］石田 健悟・水野 卓哉・西澤 辰男
V-550　セメント安定処理ラテライト路盤の経年劣化／オリエンタルコンサルタンツ［F］今野 啓悟・神村 英明・田中 顕士郎
V-551　高速道路のコンポジット舗装追跡調査における考察／西日本高速道路［正］浜梶 方希・風戸 崇之・澤井 良兼
V-552　力学的経験的舗装設計法(多層弾性理論)による照査の有用性／エイト日本技術開発［正］水野 聡士・古木 守靖・田中 顕士郎
V-553　点検データのシステム的欠損と相互作用を考慮した舗装構造の複合的劣化予測／大阪大学［学］北浦 直樹・宮崎 文平・小濱 健吾

■構造評価(舗装)(2)／10:30～12:00／安倍 隆二(土木研究所 寒地土木研究所)
V-554　FWD測定評価によるライフサイクルコスト低減を目指す舗装補修／中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋［正］高井 健志・木曽 茂・岩崎 洋一郎
V-555　FWD動的解析への固体・流体モデルと均質化法の適用／中央大学［学］伊藤 一希・前川 亮太・姫野 賢治
V-556　たわみのバラツキを考慮したアスファルト舗装の健全度評価法の検討／東京農業大学［学］田邊 政人・竹内 康・川名 太
V-557　衝撃載荷試験時に基盤が舗装の応答に与える影響について／東京農業大学［正］川名 太・小梁川 雅・竹内 康
V-558　線形粘弾性解析による鋼床版舗装のひずみ挙動に関する一検討／鹿島道路［正］横田 慎也・久利 良夫・狩野 正人
V-559　繰返し載荷下のアスファルト舗装各層の弾性係数の挙動／土木研究所［正］渡邉 一弘・堀内 智司・久保 和幸
V-560　小型FWDを用いた路盤・路床の剛性評価に関する基礎的研究／日本貨物鉄道［正］遠藤 康敬・上浦 正樹・松井 邦人
V-561　東京国際空港国際線エプロンコンクリート舗装における荷重載荷試験／大成建設［正］伊藤 友一・天野 喜勝・神谷 誠

■新技術(舗装)／15:00～16:30／寺田 剛(土木研究所 つくば中央研究所)
V-562　簡易測定装置によるバネ上振動加速度RMSと路面段差の関係／NIPPO［正］白井 悠・井原 務・吉田 満
V-563　スマートフォンを用いた舗装路面評価に関する研究／東京農業大学［正］山崎 元也・野口 智史・加藤 人士
V-564　路面ひび割れに関する複数画像の一致性の客観的評価／中央大学［学］須藤 大仁・前川 亮太・姫野 賢治
V-565　GISおよびMPMを利用したファジィ理論に基づく路面評価手法の提案／北見工業大学［学］藤田 旬・富山 和也・川村 彰
V-566　走行車両内から撮影した前方路面画像を用いた舗装ひび割れ診断方法の開発／室蘭工業大学［正］浅田 拓海・亀山 修一
V-567　アスファルト舗装の局部隆起の調査・補修事例について／西日本高速道路［正］加藤 寛之・三村 健二・木虎 久人
V-568　光切断法を用いた路面形状の測定／西日本高速道路エンジニアリング四国［正］青木 勝哉・橋本 和明・明石 行雄
V-569　基層以下の混合物損傷が原因で発生するポットホール対策の一考察／西日本高速道路エンジニアリング四国［正］野並 健斗・橋本 和明・明石 行雄

V-9（全学教育推進機構C棟C208）／9月10日(水)

■寒冷地舗装／8:45～10:15／渡邉 一弘(土木研究所)
V-570　NaCl水溶液散布によるアスファルト混合物の内部温度変化／苫小牧工業高等専門学校［学］藤本 凌太・近藤 崇・高橋 正一
V-571　北海道の高速道路における舗装嵩上げ工の凍上低減効果／ネクスコ・エンジニアリング北海道［正］沼田 透・山内 智・竹村 真那斗

V-572　粗面型ゴム粒子入り凍結抑制舗装の凍結抑制性能の検証／大林道路［正］上地 俊孝・東本 崇・鈴木 徹
V-573　高い凍結抑制効果を有する物理系凍結抑制舗装の開発／大成ロテック［正］青木 政樹・東本 崇・寺田 剛
V-574　凍結路面対策としての粗面系舗装の効果に関する実道調査／土木研究所寒地土木研究所［正］田中 俊輔・安倍 隆二・徳永 ロベルト
V-575　凍結防止剤散布後の密粒度舗装と粗面系舗装のすべり特性比較／土木研究所寒地土木研究所［正］藤本 明宏・山本 悠介・田中 俊輔
V-576　電磁波レーダによる空港舗装体内部の劣化診断技術に関する一検討／土木研究所 寒地土木研究所［正］安倍 隆二・熊谷 政行
V-577　北海道における舗装損傷の発生条件に関する調査検討／土木研究所寒地土木研究所［正］丸山 記美雄・安倍 隆二

■セメント系舗装／10:30～12:00／東本 崇（大林道路）
V-578　タイヤ走行によるコンクリート舗装路面の微細形状の変化／高速道路総合技術研究所［正］中村 和博・松本 大二郎
V-579　舗装用ポーラスコンクリートの施工性確保を目的とした実験的研究／太平洋セメント［正］高橋 英孝・石田 征男・岸良 竜
V-580　早期交通開放型コンクリート舗装の強度特性／太平洋セメント［正］梶尾 聡・岸良 竜・石田 征男
V-581　早期交通開放型コンクリート舗装の試験施工による版内温度および収縮特性に関する一検討／太平洋セメント［正］岸良 竜・梶尾 聡・石田 征男
V-582　各種粗骨材を用いた舗装コンクリートのすり減り抵抗性に関する検討／日本道路［正］常松 直志・森濱 和正・勝畑 敏幸
V-583　コンクリート舗装の圧縮強度による管理・検査に関する一考察／土木研究所［正］森濱 和正・勝畑 敏幸
V-584　舗装コンクリートの曲げ試験による弾性係数に関する一検討／セメント協会［正］瀧波 勇人・森濱 和正・吉本 徹
V-585　廃瓦細骨材で内部養生した舗装用コンクリートの曲げ強度実験／セメント協会［正］中村 弘典・吉本 徹・亀田 昭一

■維持・修繕（舗装）（1）／12:45～14:15／森石 一志（大林道路）
V-586　高速道路におけるアスファルト舗装の「解体新書」プロジェクト―主な知見―／東日本高速道路［正］高橋 茂樹・舘岡 豊・吉野 公朗
V-587　山陽自動車道における厚層舗装の試み／西日本高速道路［正］米夫 哲之・下村 弘通・天雲 宏樹
V-588　高機能舗装Ⅰ型の予防保全型維持・修繕工法の開発―浸透型補修材散布・注入工―／西日本高速道路［正］大原 基憲・本松 資朗・上坂 憲一
V-589　グースアスファルトを用いたPC桁埋設ジョイントの損傷原因の推定／阪神高速道路［正］岡本 信也・井口 祐樹・木下 孝樹
V-590　高たわみ性砕石マスチック混合物を用いた埋設ジョイントの改良／大成ロテック［正］二木 隆・岡本 信也・井口 祐樹
V-591　東京国際空港国際線エプロンPFI事業における舗装沈下計測結果／大成建設［正］天野 喜勝・大塚 徳之・土方 遍
V-592　ウレタン発泡圧を利用した空港エプロンNC舗装の勾配修正工法の試験施工／大成建設［正］神谷 誠・伊藤 友一・大塚 徳之
V-593　空港エプロン舗装の勾配修正工事における将来沈下量を考慮した嵩上げ量の設計と施工管理／大成ロテック［正］岡田 圭亮・天野 喜勝・神谷 誠

■維持・修繕（舗装）（2）／14:30～16:00／高橋 茂樹（東日本高速道路）
V-594　アスファルト乳剤を用いたシート工法の適用性に関する検討／NIPPO［正］渡邉 真一・石垣 勉・弘中 淳市
V-595　止水性コールドジョイントの実用化／三井住建道路［正］酒井 宏和・佐藤 吉広・新井 邦彦
V-596　料金所コンクリート舗装の損傷実態と劣化評価について／西日本高速道路［正］渡邉 芳弘・出雲 真仁・今井 栄蔵
V-597　生活道路のアスファルト舗装を対象とした簡易な路面補修工法に関する検討／大成ロテック［正］紺野 路登・田中 純・水野 孝浩
V-598　縦ひび割れにおける舗装の耐久性評価試験の検討／世紀東急工業［正］源藤 勉・小柴 朋広・廣藤 典弘
V-599　橋面上基層アスファルト混合物の室内劣化再現方法に関する検討／鹿島道路［正］神下 竜三・鎌田 修・篠田 隆作
V-600　X線CTを用いたポーラスアスファルトへの補修材充填状況の評価方法に関する基礎研究／近畿大学［正］麓 隆行・足立 明良・大原 基憲
V-601　常温施工型軽量舗装材に適用可能な材料種類の検討／前田道路［正］新井田 良一・谷口 博・新田 弘之

V-9（全学教育推進機構C棟C208）／9月11日（木）

■骨材／8:45～10:15／迫井 裕樹（八戸工業大学）
V-602　フライアッシュを事前混合した細骨材の品質に及ぼす長期保管の影響／石川工業高等専門学校［学］宮本 翼・福留 和人・三竹 秀和
V-603　長期保管がフライアッシュを事前混合した細骨材を用いたコンクリートに及ぼす影響／石川工業高等専門学校［学］三竹 秀和・福留 和人・宮本 翼
V-604　廃瓦粗骨材を混入したフライアッシュコンクリートの内部相対湿度に関する実験的検討／広島大学［正］小川 由布子・村岸 祐輔・半井 健一郎
V-605　スラグ骨材を使用した水中不分離性重量コンクリートの基本性能／東洋大学［学］宮根 正和・福手 勤・小西 優貴
V-606　コンクリート中の粗骨材とモルタルのひずみ挙動に関する検討／摂南大学［学］檜田 篤志・熊野 知司・藤原 正佑
V-607　銅スラグ細骨材を用いた重量コンクリートの圧送性に関する検討／三菱マテリアル［正］黒岩 義仁・美坂 剛・橋本 親典
V-608　高炉スラグ細骨材を使用したコンクリートの性能改善に関する研究／日本大学［学］熊野 文也・吉澤 千秋・佐藤 正己
V-609　砕石粉を用いた吹付けコンクリートの検討と実工事への適用／鹿島建設［正］柳井 修司・藤原 英・竹市 篤史

■疲労・衝撃／10:30～12:00／渡辺 健（鉄道総合技術研究所）
V-610　鉄筋腐食が進行するRCはりの疲労特性に関する実験的検討／港湾空港技術研究所［正］岡崎 慎一郎・加藤 絵万・川端 雄一郎
V-611　ASRにより劣化した道路橋RC床版の耐疲労性評価／日本大学［学］前島 拓・子田 康弘・岩城 一郎
V-612　疲労と凍害の複合劣化を受けたコンクリートの圧縮強度と超音波伝播速度を用いた劣化度評価に関する基礎的検討／土木研究所寒地土木研究所［正］林田 宏・佐藤 靖彦
V-613　コンクリートの圧縮強度がRC床版の耐疲労性に及ぼす影響に関する研究／日本大学［学］佐藤 浩弥・阿部 忠・澤野 利章
V-614　劣化範囲が異なるスラブ軌道てん充層の補修効果／鉄道総合技術研究所［正］高橋 貴蔵・長沼 光・薮中 嘉彦
V-615　高速列車走行時におけるRC単純梁の疲労に関する基礎的研究／法政大学［学］山口 大地・藤山 知加子
V-616　衝撃荷重を受けるRC版の動的応答に関する数値解析的検討／法政大学［学］荻山 陽太朗・鍛治 哲理・藤山 知加子
V-617　丸鋼を用いた鉄筋コンクリート床版の有限要素法による疲労解析の適用性／北武コンサルタント［正］坂口 淳一・土屋 智史・渡辺 忠朋

V-9（全学教育推進機構C棟C208）／9月12日（金）

■路面評価（1）／8:45～10:15／田中 俊輔（土木研究所）
V-618　目視による簡易な舗装点検評価に関する一検討／土木研究所寒地土木研究所［正］星 卓見・谷口 聡・丸山 記美雄
V-619　運転者の心理負荷に基づく路面の平坦性評価に関する基礎的研究／北見工業大学［学］岩本 惇志・富山 和也・川村 彰
V-620　カスタムウェーブレットフィルタによる路面プロファイルの平滑化について／北見工業大学［正］富山 和也・川村 彰
V-621　Using a Compact Mobile Profiler and ArcGIS to Measure and Compare Seasonal Road Conditions／北見工業大学［学］ヌルアヒマティジャン アブリズ・KAWAMURA AKIRA・TOMIYAMA KAZUYA
V-622　IRI（10）を活用した路面管理手法の検討／西日本高速道路［正］天雲 宏樹・下谷 幸一・米夫 哲之
V-623　運転手に加わる力による路面評価の検討―高速道路の例／アクト・ファクトリー［F］山本 武夫・天雲 宏樹・鈴木 正範
V-624　平たん性と乗り心地の相関性に関する検討／土木研究所［正］寺田 剛・久保 和幸
V-625　ドライビングシミュレータ及び脳波を用いた舗装評価／中央大学［学］伊東 希典・多田 周平・前川 亮太

■路面評価（2）／10:30～12:00／富山 和也（北見工業大学）
V-626　大型車両によるタイヤ／路面転がり抵抗と舗装の路面性状に関する検討／土木研究所道路技術研究グループ［正］平川 一成・寺田 剛・川上 篤史
V-627　簡易型測定車による路面段差評価法の効率化に関する検討／鹿島道路［正］岩永 真和・岡部 俊幸・渡邉 一弘
V-628　一般車両に搭載したわだち掘れ評価システムの開発／鹿島道路［正］岡部 俊幸・岩永 真和・渡邉 一弘

V-629　舗装表面の荒れに関する調査方法の検討／オリエンタルコンサルタンツ［正］植田 知孝・森 飛翔・長岡 宏典
V-630　降雪時の福井県内国道8号線におけるサーマルマップおよびすべりマップに関する一考察／福井大学［正］齊田 光・寺崎 寛章・福原 輝幸
V-631　ユーザービリティを考慮した歩行者系舗装の新しい性能評価の試み／木更津工業高等専門学校［正］鬼塚 信弘・多田 悟士・栗本 育三郎
V-632　各種の歩行者系舗装の硬さとすべりの評価／東亜道路工業［正］野尻 大祐・多田 悟士・鬼塚 信弘
V-633　歩行者系舗装の性能の違いが人の筋活動に与える影響／木更津工業高等専門学校［学］神田 夕葵・鬼塚 信弘・栗本 育三郎

■リサイクル（舗装）／15:00～16:30／前川 亮太（中央大学）
V-634　太陽光発電所におけるリサイクルガラス造粒砂の防草効果に関する研究／竹中道路［正］國松 俊郎・矢嶋 千浩
V-635　太陽光発電所におけるリサイクルガラス造粒砂防草対策の温度測定／竹中道路［正］若林 伸介・國松 俊郎・矢嶋 千浩
V-636　セメント原料としてリサイクル可能なフライアッシュコンクリート舗装の曲げ・疲労強度／山口大学［学］上野 沙也加・牛尾 祐大・吉武 勇
V-637　再生骨材配合率とアスファルト混合物の疲労破壊抵抗性／福井県［正］三田村 文寛・藤井 弘
V-638　常温アスファルト混合物における再生骨材の有効利用に関する検討／福岡大学［正］古賀 千佳嗣・佐藤 研一・藤川 拓朗
V-639　アスファルト混合物の室内における促進劣化方法に関する検討／大成ロテック［正］加納 孝志・湯川 誠二郎・秋葉 正一
V-640　バインダの引張仕事量を用いた曲げ疲労試験における総散逸エネルギーの評価／長岡技術科学大学［学］吉田 裕・中村 健
V-641　荷重測定型伸度試験の結果を用いた圧裂係数の推定／長岡技術科学大学［正］中村 健

第Ⅵ部門　建設事業計画、設計技術、積算・契約・労務・調達、施工技術、環境影響対応技術、維持・補修・保全技術、建設マネジメントなど

Ⅵ-1（全学教育推進機構C棟C301）／9月10日(水)

■山岳トンネル(1) ／8:45～10:15／尾畑 洋(熊谷組)
Ⅵ-001　二重防音扉間を利用したトンネル発破時の低周波音低減に関する研究／大成建設［正］須藤 敏明・田中 ひかり・増田 潔
Ⅵ-002　二重防音扉間を利用したトンネル発破時の低周波音低減に関する研究その2 模型実験及び実寸実験による共鳴器型吸音体の開発／大成建設［正］田中 ひかり・増田 潔・須藤 敏明
Ⅵ-003　二重防音扉を利用したトンネル発破時の低周波音低減に関する研究その3 共鳴器型吸音体を設置した二重防音扉の遮音性能の数値計算／大成建設［正］増田 潔・山口 晃治・田中 ひかり
Ⅵ-004　二重防音扉を利用したトンネル発破時の低周波音低減に関する研究その4 現場における共鳴器型吸音体設置実験／大成建設［正］八木 直人・田中 ひかり・増田 潔
Ⅵ-005　非火薬破砕材の中硬岩への適用性と振動抑制効果について／鹿島建設［正］日野 博之・藤原 英・竹市 篤史
Ⅵ-006　高性能自在制御発破工法を用いたトンネル発破における振動速度に関する考察／西日本高速道路［正］前田 佳克・手塚 康成・小渕 孝晃
Ⅵ-007　小型加速度計を用いたトンネル掘削時における発破振動計測の試み／清水建設［F］今津 雅紀・藍檀 オメル・小川 澄
Ⅵ-008　トンネル掘削に伴う水環境保全対策について／西日本高速道路［正］山下 学・前本 政志

■山岳トンネル(2) ／10:30～12:00／島根 米三郎(鉄建建設)
Ⅵ-009　トンネル切羽付近の空気質改善を目的とした新換気システムの提案／大成建設［正］文村 賢一・樋渡 潔・国分 茂夫
Ⅵ-010　発破現場対応「トラベルクリーンカーテン」(トンネル坑内の粉じん低減工法)の開発と適用／大林組［正］荒川 晃士・山下 信一・小林 誠
Ⅵ-011　エアカーテンを用いたトンネル新換気システムによる高濃度掘削粉じん対策／清水建設［正］前田 全規・真下 義章・田中 誠
Ⅵ-012　ハイブリッド急結剤による吹付けコンクリート施工時の粉じん環境改善／西日本高速道路［正］田中 満・渕先 弘一・大屋 博史
Ⅵ-013　爆薬の遠隔装填システムを適用した山岳トンネル発破工法の装薬作業の効率化／熊谷組［正］青木 宏一・堂藤 和雄・野々村 嘉映
Ⅵ-014　小土被り花崗岩を貫く安永川トンネルのTBMのカッタ摩耗実績／鹿島建設［正］越川 俊幸・岩野 圭太・落河 崇征
Ⅵ-015　岩盤の亀裂状態(RQD)を考慮した300kW 級縦軸型掘削機の性能／岩田地崎建設［正］須藤 敦史・鈴木 康雄
Ⅵ-016　硬岩地山における長距離小断面山岳トンネル工事の施工実績―高圧ガス導管 姫路・岡山ラインにおける小断面非開削工事(その4) ―／鹿島建設［正］本山 豊・仙波 尚史・宮川 公一

■山岳トンネル(3) ／12:45～14:15／谷 卓也(大成建設)
Ⅵ-017　切羽先行沈下計測システムの開発と適用／大林組［正］木野村 有亮・磐田 吾郎・木梨 秀雄
Ⅵ-018　ロックボルトプレートの表面塗装を利用した軸力モニタリング技術の開発／鹿島建設［正］伊達 健介・山田 謙二・齋藤 宏樹
Ⅵ-019　山岳トンネルにおける移動式坑内変位自動計測システムの開発／奥村組［正］武田 晃・安井 啓祐・小泉 圭吾
Ⅵ-020　安全の見える化技術の現場適用と検証に関する一考察／鴻池組［正］山田 浩幸・大槻 文彦・木村 圭吾
Ⅵ-021　切羽前方地山でのトンネル変形予測システム『PAS-Def』の概要と適用事例／西松建設［正］亀谷 英樹・山下 雅之・竹村 いずみ
Ⅵ-022　地すべりブロックに近接したトンネル施工における各種動態観測／東急建設［正］池野谷 尚史・伊東 将彦・遠藤 毅
Ⅵ-023　不良地山におけるトンネル施工について／大林組［正］中戸 敬明・山下 信一・鈴木 拓也
Ⅵ-024　中央構造線断層破砕帯でのトンネル坑口施工／戸田建設［F］岡村 光政・山口 恭右・村松 富士登

■山岳トンネル(4) ／14:30～16:00／森田 篤(前田建設工業)
Ⅵ-025　低強度帯水地山トンネルにおける先進ボーリング効果／清水建設［正］山本 将・井上 浩志・楠本 太
Ⅵ-026　低強度地山の上半工法トンネルの安定性／清水建設［正］寺尾 創・井上 浩志・岡山 徹
Ⅵ-027　盛土された沢部直下を小土被りで通過する道路トンネルの施工(その1) ―さがみ縦貫葉山島トンネル―／大成建設［正］小原 伸高・佐久間 博之・武井 桂樹
Ⅵ-028　盛土された沢部直下を小土被りで通過する道路トンネルの施工(その2) ―さがみ縦貫葉山島トンネル―／大成建設［正］上岡 亮一・佐久間 博之・武井 桂樹
Ⅵ-029　ウォータータイトトンネルの施工実績旭川十勝道路 富良野市 北の峰トンネル工事／鹿島建設［正］横田 泰宏・齋藤 宏樹・成田 望
Ⅵ-030　600mを超える大土被りを二重支保の切羽施工で克服／三井住友建設［正］今村 新吾・土田 優・高橋 忠国
Ⅵ-031　山岳トンネルにおける合理的な支保パターンの採用／大林組［正］堤 哲平・沢田 道彦・大西 教文
Ⅵ-032　山岳トンネル工事におけるロングブーム吹付機の開発と現場導入効果／清水建設［正］長尾 卓馬・田代 浩信・藤吉 卓也

Ⅵ-1（全学教育推進機構C棟C301）／9月11日(木)

■山岳トンネル(5) ／8:45～10:15／河野 伸征(オリエンタルコンサルタンツ)
Ⅵ-033　トンネル施工時のブレーカー振動を利用した前方探査手法の現場試験／清水建設［正］若林 成樹・西 琢郎・青野 泰久
Ⅵ-034　掘削発破振動弾性波の簡易取得法と連続的なトモグラフィ解析結果について／熊谷組［正］片山 政弘・石濱 茂崇・青木 宏一
Ⅵ-035　掘削発破を利用した坑内弾性波探査によるトンネル切羽評価方法の検討／安藤ハザマ［正］山本 浩之・中谷 匡志・浅野 雅史

VI-036　掘削発破を用いた反射法弾性波によるトンネル前方探査技術の開発と適用事例／安藤ハザマ［正］中谷 匡志・山本 浩之・浅野 雅史
VI-037　先進ボーリングと蒸気圧破砕薬を用いたトンネルトモグラフィ探査／鹿島建設［正］大畑 俊輔・村田 健司・山本 拓治
VI-038　蒸気圧破砕薬のトンネルトモグラフィ探査用起振源への応用／日本工機［正］村田 健司・大畑 俊輔・川野 誠
VI-039　低土被り部での事前地山調査と補助工法／戸田建設［正］原 敏昭・杉内 仁志・西脇 明彦

■山岳トンネル(6) ／10:30～12:00／土門 剛(首都大学東京)

VI-040　トンネル切羽用打球探査技術の現場適用性評価／鹿島建設［正］川野 健一・伊達 健介・齋藤 宏樹
VI-041　発破掘削のトンネル工事における切羽安全監視システムの適用／飛島建設［正］熊谷 幸樹・滝波 真澄・築地 功
VI-042　再帰性反射塗料ターゲットを用いたリアルタイム切羽安全監視システム／鹿島建設［正］佐藤 一成・上半 文昭・前田 佳克
VI-043　山岳トンネル切羽の風化変質判定システムの開発―切羽観察での適用例―／鹿島建設［正］戸邉 勇人・岩熊 真一・白松 久茂
VI-044　ドリルジャンボ削孔データによるトンネル切羽前方の地山等級予測技術の開発／鹿島建設［正］宮嶋 保幸・岩熊 真一・岩村 武史
VI-045　山岳トンネルにおけるノンコア削孔切羽前方探査技術の適用と検証／大林組［正］渡辺 淳・安田 肇・秋田 伸治
VI-046　高速ノンコアボーリグシステムによる前方探査技術の開発／大林組［正］磐田 吾郎・斎藤 有佐・伊藤 哲

VI-1（全学教育推進機構C棟C301）／9月12日(金)

■山岳トンネル(7) ／8:45～10:15／横尾 敦(鹿島建設)

VI-047　変状区間早期閉合トンネルの変形挙動に関する考察／清水建設［正］楠本 太・佐藤 淳・田丸 浩行
VI-048　変状区間早期閉合トンネルの力学挙動に関する考察／清水建設［正］谷村 浩輔・佐藤 淳・楠本 太
VI-049　高耐力早期閉合トンネル変形挙動に関する考察／中日本高速道路［正］兼松 健治・佐藤 淳・楠本 太
VI-050　高耐力早期閉合トンネル安定性に関する考察／中日本高速道路［正］佐藤 淳・田丸 浩行・楠本 太
VI-051　崩積土が厚く堆積したトンネル坑口部の施工について／安藤ハザマ［正］辰巳 順一・河邉 信之・三浦 智哉
VI-052　全断面早期閉合における閉合距離短縮時の留意点について／西松建設［正］鬼頭 夏樹・大谷 達彦・森本 真吾
VI-053　国道が近接した未固結地山の双設トンネル掘削／大林組［正］棚池 誠・間井 博行・秋山 幸一
VI-054　都市域山岳NATMにおける軟弱地山の施工について／清水建設［正］高橋 啓介・吉本 治憲・大金 隆宏

■山岳トンネル(8)／10:30～12:00／安井 成豊(日本建設機械施工協会)

VI-055　増粘剤系中流動コンクリートの施工実績／鹿島建設［正］東條 紀明・居川 圭太・岩下 直樹
VI-056　中流動コンクリートに用いる後添加型液体増粘剤の添加率範囲の検討／グレースケミカルズ［正］岩城 圭介・宮川 美穂・佐々木 秀一
VI-057　後添加型特殊混和剤を用いた中流動覆工コンクリートの施工実績／鹿島建設［正］佐藤 崇洋・井戸 歩・冨田 朋史
VI-058　移動式型枠バイブレータを用いた中流動覆工コンクリートの施工／大林組［正］齊藤 佑貴・谷口 信博・間井 博行
VI-059　中流動覆工コンクリートによる品質向上に関する一考察／安藤ハザマ［正］日向 哲朗・松丸 貴英・白岩 誠史
VI-060　増粘効果を有する高性能AE減水剤を使用した中流動覆工コンクリートの初期強度発現性／BASFジャパン［正］小山 広光・本田 亮・松倉 隼人
VI-061　ブリーディングを抑制した中流動覆工コンクリートの現場適用／鹿島建設［正］内田 雄士・平田 学・尾口 佳丈
VI-062　高炉スラグ細骨材の吹付けコンクリートへの適用／前田建設工業［正］森 英治・佐藤 智彦・白根 勇二

■山岳トンネル(9) ／15:00～16:30／大津 敏郎(高速道路総合技術研究所)

VI-063　覆工コンクリートの保湿・保温マットによる養生効果の検証／奥村組［正］真嶋 敏之・國友 良行・森田 康平
VI-064　アクアカーテンによる覆工コンクリートの湿潤・保温効果の確認／安藤ハザマ［正］村上 真一・辰巳 順一・稲葉 秀雄
VI-065　ツインアーチフォーム(TAF)工法の型枠養生効果についての一考察―新東名高速道路 徳定トンネル工事―／鹿島建設［正］金子 恵一・川崎 雄太・坂井 吾郎
VI-066　表面気泡の生じたトンネル覆工コンクリート側壁部における透気係数／山口大学［学］平野 正幸・前田 智之・本間 宏記
VI-067　覆工コンクリート背面の凹凸形状が温度ひび割れの発生に及ぼす影響に関する解析的検討／大林組［正］鈴木 正寛・西浦 秀明・桜井 邦明
VI-068　非鋼繊維を混入した覆工コンクリートの曲げ補強効果／西松建設［正］竹村 いずみ・椎名 貴快・西村 和夫
VI-069　吹上げ方式での覆工コンクリート打止め管理に関する考察／清水建設［正］小澤 裕介・川上 光雄・楠本 太
VI-070　引抜型管打設による覆工天端部の品質向上／鹿島建設［正］竹市 篤史・藤原 英・西岡 和則

VI-2（全学教育推進機構C棟C302）／9月10日(水)

■リニューアル(1) ／8:45～10:15／内藤 英樹(東北大学)

VI-071　RC床版の素地調整技術の高度化検討／福岡北九州高速道路公社［正］青野 守・鬼丸 三敏・篠田 隆作
VI-072　高強度プレストレストコンクリートポール継手部における防錆塗料の性能評価／九州高圧コンクリート工業［正］船本 憲治・清成 鉄也・小泉 良介
VI-073　既設PC箱桁橋における桁端部の腐食環境改善対策／ビービーエム［正］植田 健介・田中 健司・松塚 忠政
VI-074　塩害損傷を模擬した鉄筋コンクリート梁の疲労載荷試験／大日本コンサルタント［正］本田 博幸・下里 哲弘・有住 康則
VI-075　塩害環境下で30年経過した単純プレビーム合成桁橋の補修・補強設計／オリエンタルコンサルタンツ［正］田口 靖朋・九鬼 裕之
VI-076　塩害とASR 劣化が進行したラーメン式橋台の補修・補強設計／オリエンタルコンサルタンツ［正］九鬼 裕之・田口 靖朋
VI-077　ゲルバーヒンジを有する長大PC橋の連続化工事における計測について／三井住友建設［正］藤原 保久・尾堂 良一・猫本 友和
VI-078　3径間連続PCT桁橋における横締めPC鋼棒の破断原因究明及び補修検討／首都高速道路［正］井田 達郎・坂本 豊・絵鳩 武史

■リニューアル(2) ／10:30～12:00／熊坂 徹也(オリエンタルコンサルタンツ)

VI-079　梁部材を用いた床版防水材の接着力に関する一実験／土木技術コンサルタント［正］三好 章仁・高畑 智考・川村 正之
VI-080　斜角を有する橋梁のプレキャスト床版を用いた床版取替／東日本高速道路［正］林 秀和・上杉 亮・宮越 信
VI-081　覆工板を活用したコンクリート床版の部分打換工法に関する検討／富士ピー・エス［正］徳光 卓・松井 隆行・横山 和昭
VI-082　海上部の高橋脚における近赤外線分光法を用いた塩化物イオン量の推定／本州四国連絡高速道路［正］貴志 友基・簀戸 喜一・長尾 幸雄
VI-083　常温硬化型超高強度繊維補強コンクリートの水流摩耗防止部材への試験施工／大林組［正］石関 嘉一・櫛谷 洋史・浜添 光太郎
VI-084　常温硬化型超高強度繊維補強コンクリートの水流摩耗防止部材への実施工／大林組［正］相良 光利・西平 宜嗣・清水 竜也
VI-085　単一トンネルにおける覆工コンクリートの劣化予測／東京都市大学［正］丸山 収・須藤 敦史・兼清 泰明

■リニューアル(3) ／12:45～14:15／木村 泰三(全日本コンサルタント)

VI-086　CSMコーティングによるゴム支承表面亀裂の補修／川金コアテック［正］但住 俊明・鵜野 禎史・菱山 知幸
VI-087　溶融亜鉛めっき鋼材の腐食に対する最適な補修塗料の選定と評価／西日本高速道路［正］神野 真一朗・宮川 豊章・樅山 好幸
VI-088　横浜ベイブリッジ塗替塗装計画の概要について／首都高速道路［正］牧山 大祐・津野 和宏・鈴木 寛久
VI-089　塗装さび鋼板の素地調整程度と塗膜変状面積率に関する考察／鉄道総合技術研究所［正］坂本 達朗
VI-090　鋼箱桁橋主桁切欠き構造の改良検討／首都高速道路［正］成沢 光弘・中村 充・青柳 正和
VI-091　すべり機構の摺動面に関する検討／日本鋳造［正］仁平 智・原田 孝志・石山 昌幸
VI-092　低温時での1日施工が可能な鋼橋部分塗装仕様の開発／東日本旅客鉄道［正］栗林 健一・梶谷 宜弘・山本 基弘

■リニューアル(4) ／14:30～16:00／中嶋 裕和(修成建設コンサルタント)

VI-093 東海道新幹線下路トラス橋中間補剛材溶接部の変状検査その2／東海旅客鉄道［正］中越 正幸・井上 良博
VI-094 鋼鉄道橋に発生した亀裂とその対策についての一考察／東日本旅客鉄道［正］石塚 剛・八島 博昭・小芝 明弘
VI-095 RC桁連続区間のY形橋脚変状と補修／東海旅客鉄道［正］増田 勝三・七里 知文・丸伊 繁徳
VI-096 鋼鉄道橋の支承部補修および応力測定による安全性と補修効果の確認／東日本旅客鉄道［正］千明 祐也・塚原 高志・井上 英一
VI-097 礼文浜トンネルコンクリ―ト剥落箇所の維持管理について／北海道旅客鉄道［正］中西 祐介・前坂 裕太
VI-098 水路トンネルの底盤修繕／東日本旅客鉄道［正］家坂 佑希・小野 桂寿・川島 義和
VI-099 発電用水路トンネルの維持管理について／東日本旅客鉄道［正］竹内 洋介・中川 光貴

VI-2（全学教育推進機構C棟C302）／9月11日(木)

■リニューアル(5)／8:45～10:15／岡田 誠司(IHIインフラシステム)

VI-100 槽状桁(トラフガーダー)の維持管理に関する一考察／東日本旅客鉄道［正］中泉 治・岡崎 伸之介・鈴木 直人
VI-101 鉄道と交差するこ線道路橋の架替工事の課題と改善／東鉄工業［正］高橋 利幸・山口 恭平・太貫 淳司
VI-102 鋼鉄道橋における複合構造化の効果と経過観察について／相模鉄道［正］松浦 史朗・大石 隆・小杉山 祐昌
VI-103 東海道新幹線Iビーム埋込桁の健全度把握と維持管理／東海旅客鉄道［正］有馬 隆介
VI-104 蝶番構造を有するコーナー支持材を用いたRB耐震補強工法の施工／東鉄工業［正］澁江 公秀・志野 達也・及川 剛史
VI-105 鋼3径間連続V脚ラーメン箱桁橋の耐震補強設計／オリエンタルコンサルタンツ［正］古賀 秀幸・宮内 健・安倍 敦
VI-106 鉄道橋脚における乾式吹付耐震補強について／東日本旅客鉄道［正］栗田 淳・座間 澄男・花房 竜美

■リニューアル(6) ／10:30～12:00／井上 彰(オリエンタルコンサルタンツ)

VI-107 老朽水路トンネルの各種調査に基づく対策優先順位の評価／日本工営［正］小谷 拓・松田 貞則・倉橋 哲弘
VI-108 通行止めを回避した新たなトンネル変状対策技術の適用について／NEXCO東日本［正］鈴木 雄吾・岩永 茂治・松本 大輔
VI-109 充填硬化材の加圧注入圧を利用した既設トンネルの補強技術の開発～補強技術の概要～／大成建設［正］斎賀 雄・森田 泰司・高倉 克彦
VI-110 充填硬化材の加圧注入圧を利用した既設トンネルの補強技術の開発～充填材の硬化過程における残存圧力確認実験～／大成建設［正］高倉 克彦・森田 泰司・竹束 正孝
VI-111 塩害劣化した橋梁コンクリート壁高欄やトンネル側壁の新たな補修技術の開発／デイ・シイ［F］上平 謙二・鈴木 裕二・佐久間 智
VI-112 薄型パネルを用いたレンガトンネル修繕工の開発／熊谷組［正］大本 晋士郎・栗林 健一・浅田 章一
VI-113 首都高速・霞が関トンネル剥落防止対策工事の報告／首都高メンテナンス西東京［正］小島 裕介・田中 大介・小林 栄一
VI-114 長距離圧送用吹付けモルタルを用いた水力発電所導水路修繕／日特建設［正］竹谷 裕・横辻 宰・池田 淳

VI-2（全学教育推進機構C棟C302）／9月12日(金)

■リニューアル(7) ／8:45～10:15／冨山 毅(橋梁コンサルタント)

VI-115 電磁波レーダーによるアスファルト混合物舗装体の健全度評価検討／西日本高速道路エンジニアリング中国［正］濱岡 裕樹・川波 敏博
VI-116 新幹線高速速走行に伴う高架橋付帯構造物影響調査／東日本旅客鉄道［正］竹島 葉子・松沼 政明・白澤 隆浩
VI-117 高靱性セメントボードを用いた鉄道高架橋の高欄改良／大林組［正］山下 祐爾・岩本 啓貴・福井 真男
VI-118 接着系あと施工アンカーの引抜き方法の検討／サンコーテクノ［正］中野 秀紀・藤井 保也・井上 昭生
VI-119 樹脂接着系あと施工アンカーの加熱引抜きによるコンクリートへの影響検討／大林組［正］富井 孝喜・谷田部 勝博・戸邉 勉
VI-120 金属拡張機能を有する中空型あと施工アンカーに関する基礎的検討／東急建設［正］早川 健司・鳥取 誠一・山中 高
VI-121 欧米のあと施工アンカーの設計基準と製品認証制度(母材温度と付着応力度の関係)その1／日本ヒルティ［正］宮崎 剛・高橋 宗臣
VI-122 欧米のあと施工アンカーの設計基準と製品認証制度(母材温度と付着応力度の関係)その2／日本ヒルティ［正］高橋 宗臣・宮崎 剛

■リニューアル(8) ／10:30～12:00／前田 芳男(アサノ大成基礎エンジニアリング)

VI-123 凍結防止剤の飛散ロス低減に向けた散布方式の開発／福井県建設技術研究センター［正］近藤 泰光
VI-124 重要文化財横利根閘門の煉瓦洗浄方法とその適用について／村本建設［正］高井 伸一郎・中村 徹立・松田 貞則
VI-125 中下級線区におけるシェリング傷管理の見直しについて／西日本旅客鉄道［正］辰己 新太郎・高尾 賢一
VI-126 雑草管理における植物成長調整剤の効果確認試験／東日本旅客鉄道［正］浅田 章一・栗林 健一
VI-127 高速道路盛土の排水対策に伴う安定検討／西日本高速道路［正］浜崎 智洋・荒巻 真二
VI-128 排水パイプの盛土補強効果確認のための現地引抜き試験／西日本旅客鉄道［正］高馬 太一・金山 幸司・山田 孝弘
VI-129 現地引抜き試験に基づいた排水パイプの盛土補強効果に関する検討／西日本旅客鉄道［正］金山 幸司・高馬 太一・山田 孝弘
VI-130 気泡モルタルを用いた盛土の変状要因と対策工について／東日本旅客鉄道［正］松沼 政明・秋山 啓太・高橋 成典

■リニューアル(9) ／15:00～16:30／森崎 静一(オリエンタルコンサルタンツ)

VI-131 東北地方自治体の維持管理技術の向上／東北大学［正］小早川 正樹・久田 真・水城 亨
VI-132 市民によるコンクリート構造物点検の実行可能性調査／西武建設［正］二村 憲太郎・須長 真介・新井 靖典
VI-133 行動観察手法を用いた点検業務の改善:補修計画立案業務の現状調査／東京大学［正］二宮 利江・門間 正挙・石川 雄章
VI-134 災害分析に基づいた斜面対策箇所の優先順位決定手法の提案／西日本旅客鉄道［正］岩本 真由子・森 泰樹・荒巻 智
VI-135 産学官連携による市町村のインフラ維持管理の仕組みの構築／東京大学［正］鎌田 貢・石川 雄章・久田 真
VI-136 点検データ等を活用したインフラ管理指標の提案／東京大学［正］門間 正挙・石川 雄章
VI-137 タブレット端末を用いた橋梁の概略点検システムおよび間接目視器具の有効性の検討／長岡工業高等専門学校［学］佐々木 悠祐・井林 康
VI-138 道路橋基礎の洗掘災害事例及び点検に関する実態調査／土木研究所［正］加藤 隆雄・津幡 紀昭・石田 雅博

VI-3（全学教育推進機構C棟C303）／9月10日(水)

■地下構造物(1) ／8:45～10:15／小川 晃(清水建設)

VI-139 複雑な大規模地下構造物の急速施工について ～その1～／大成建設［正］八木澤 俊・田村 正明・桑本 寛之
VI-140 複雑な大規模地下構造物の急速施工について ～その2～／大成建設［正］岩井 杏子・桑本 寛之・田村 正明
VI-141 逆巻き工法における底板過密配筋の効率化施工について／大成建設［正］井上 亜寿沙・吉村 裕二・長崎 了
VI-142 逆巻工法を用いた大規模地下躯体コンクリート打設の課題と対策について／大成建設［正］守田 千里・吉村 裕二
VI-143 最終掘削時における土留め支保工の情報化施工について／大成建設［正］濱田 哲・田村 正明・林 泰正
VI-144 供用中下水施設の止水壁構築について～汚泥が堆積し高水圧作用下における止水壁構築～／大成建設［正］廻田 貴志・前田 晴雄・古池 章紀
VI-145 地下調節池工事における逆打ち工法の適用事例／大林組［正］米田 慶太・根津 和近・貫井 孝治
VI-146 本線高盛土における長大プレキャストボックスカルバートの設計と施工／大林組［正］迫間 幸昌・谷口 信博・仲下 英樹

■地下構造物(2) ／10:30～12:00／新井 泰(東京地下鉄)

VI-147 Tヘッド工法鉄筋とポリエチレンライニングを適用した連結鉄筋の開発／清水建設［正］青木 孝憲・本宮 剛志・春山 英樹
VI-148 頂版先受け工法による開削トンネルの施工(その1) ／大成建設［正］真柴 浩・寺下 雅裕・加藤 隆
VI-149 頂版先受け工法による開削トンネルの施工(その2) ～最終

充てん部に対する高流動コンクリートおよび高流動モルタルの適用～／大成建設［正］木戸 健太・寺下 雅裕・小暮 英雄

VI-150 供用中シールドトンネルの切開き施工／首都高速道路［正］小川 寛久・安井 雅士・山本 佳正

VI-151 地下機械式駐輪場の地震時挙動と解析モデルとの検証／技研製作所［正］武内 隆政・古市 秀雄・西 剛整

VI-152 80年以上供用した地下鉄トンネルのコンクリートの品質について／長岡工業高等専門学校［正］岩波 基・大石 敬司・新井 泰

VI-153 電気防食を適用した地中線洞道の劣化対策／ショーボンド建設［正］大久保 謙治・小椋 明仁・石塚 正寿

■地下構造物(3) ／12:45～14:15／古荘 伸一郎(大林組)

VI-154 金堀雨水貯留管新設工事(その2)における大口径泥水式推進工法の施工について／大成建設［正］田口 一・三浦 養一・香山 治彦

VI-155 管路解析モデルを用いた現場計測結果の数値解析による推進管挙動に関する研究／長岡技術科学大学［学］赤井 勇司・杉本 光隆・Akatwijuka Ronald

VI-156 営業線近接条件下での函体推進工法(ハーモニカ工法)施工実績／大成建設［正］大塚 信介・飯村 英之

VI-157 箱形ルーフの施工精度と軌道変状の関係性／九鉄工業［正］佐藤 俊治・河原 信義

VI-158 100m以上の大深度円形立坑の本体側壁の合理化に関する試計算／長岡工業高等専門学校［学］井上 晋太郎・Bat-Erdene Bolor・岩波 基

VI-159 100m以上の大深度円形立坑の地下連続壁への2リングモデルの適用効果に関する試計算／長岡工業高等専門学校［学］Bat-Erdene Bolor・井上 晋太郎・岩波 基

VI-160 ケーソン薄肉化技術の開発―概要と模型引抜き試験―／錢高組［正］竹中 計行・白子 将則・山岸 英昭

■地下構造物(4) ／14:30～16:00／秋好 賢治(大林組)

VI-161 周回坑道施工時の計測結果を利用した設計初期地圧の妥当性の確認／大成建設［正］矢吹 義生・工藤 元・捻金 礎人

VI-162 初期地圧の異方性を有する堆積軟岩における周回坑道の支保設計について／大成建設［正］南出 賢司・矢吹 義生・工藤 元

VI-163 瑞浪超深地層研究所深度500mにおけるグラウチング技術(その1) ―先行ボーリング調査結果に基づくグラウチング設計技術―／清水建設［正］小林 伸司・辻 正邦・佐藤 稔紀

VI-164 瑞浪超深地層研究所深度500m におけるグラウチング技術(その2) ―グラウチング実績と適用技術の有効性評価―／清水建設［正］辻 正邦・小林 伸司・佐藤 稔紀

VI-165 低アルカリ性瞬結吹付けコンクリートの坑道における吹付け試験(その1 概要) ／清水建設［正］熊坂 博夫・小菅 啓一・佐藤 稔紀

VI-166 低アルカリ性瞬結吹付けコンクリートの坑道における吹付け試験(その2 配合試験、試験練り、実機ミキサ試験練り試験結果) ／電気化学工業［正］岩崎 昌浩・小林 伸治・佐藤 稔紀

VI-167 低アルカリ性瞬結吹付けコンクリートの坑道における吹付け試験(その3 試験吹付け、支保性能確認試験) ／清水建設［正］中谷 篤史・奥山 康二・佐藤 稔紀

VI-168 低アルカリ性瞬結吹付けコンクリートの坑道における吹付け試験(その4 坑道における施工性確認試験) ／電気化学工業［正］室川 貴光・矢萩 良二・佐藤 稔紀

VI-169 堆積軟岩の断層部が大深度立坑の覆工応力へ及ぼす影響の事前評価／大成建設［正］萩原 健司・青柳 和平・稲垣 大介

VI-3（全学教育推進機構C棟C303）／9月11日(木)

■アセットマネジメント(1) ／8:45～10:15／横関 康祐(鹿島建設)

VI-170 地下鉄トンネルの検査結果に基づく健全度評価について／早稲田大学［学］鈴木 彰吾・赤木 寛一・村上 哲哉

VI-171 NPOによる橋の長寿命化促進事業支援プロジェクト活動の総括報告／シビルサポートネットワーク［F］和久 昭正・辻田 満・服部 希直

VI-172 橋梁の補修優先度評価の検討／金沢大学［正］小川 福嗣・近田 康夫・坂野 駿

VI-173 山口県管理道路における舗装路面簡易評価システムの適用事例について／山口県［正］吉武 俊章・江本 久雄・宮本 文穂

VI-174 鋼製可動堰の腐食摩耗劣化に関する研究／茨城大学［学］池田 健吾・原田 隆郎・高 峰

VI-175 ニューラルネットワークを用いた北陸地域における鋼橋RC床版の劣化予測／金沢大学［学］井上 裕介・有馬 直秀・橘 吉宏

VI-176 市町村の橋梁維持管理の実態と課題把握のための基礎的な検討／東京都市大学［学］川西 寛・丸山 收・三木 千壽

VI-177 道路トンネルの長寿命化修繕計画策定による効率的な維持管理の検討／日本工営［正］沢田 陽佑・小谷 拓

■アセットマネジメント(2) ／10:30～12:00／鈴木 春菜(山口大学)

VI-178 トンネル照明の空間照度低下リスクを考慮した照明マネジメントに関する研究／西日本高速道路［正］平川 恵士・小濱 健吾・早矢仕 廉太郎

VI-179 統計的劣化予測に基づく舗装補修施策の評価／大阪大学［正］小濱 健吾・加藤 寛之・貝戸 清之

VI-180 管理者行動の影響を考慮したインフラ維持管理計画の危険性評価／東京大学［学］大澤 遼一・本田 利器

VI-181 RC床版の総合的劣化評価手法／大阪大学［学］水谷 大二郎・貝戸 清之

VI-182 判定基準の変更を考慮した隠れマルコフ劣化モデル／大阪大学［学］山田 洋太・水谷 大二郎・平川 恵士

VI-183 小規模橋梁の効率的な維持管理手法に関する提案／パシフィックコンサルタンツ［正］田原 和久

VI-184 道路トンネルの点検結果に基づく変状実態に関する一考察／土木研究所［正］石村 利明・砂金 伸治・笹田 俊之

VI-185 赤外線熱計測による地下鉄トンネル覆工コンクリートの浮き・はく離検出／パスコ［正］日下 義政・黒須 秀明・前田 近邦

VI-3（全学教育推進機構C棟C303）／9月12日(金)

■河川・海洋(1) ／8:45～10:15／田坂 幹雄(大林組)

VI-186 島根原子力発電所 津波防波壁の設計について／中国電力［正］吉次 真一・清重 直也・大久保 佳美

VI-187 島根原子力発電所 津波防波壁(3号機北側)の施工について／五洋建設［正］田口 智・佐藤 哲也・伊野 同

VI-188 島根原子力発電所 津波防波壁(3号機東側)の施工について／大成建設［正］福永 佳裕・森井 定和・広兼 修治

VI-189 島根原子力発電所 津波防波壁(1、2号機北側)の施工について／大林組［正］若原 史宏・荒木 博・広兼 修治

VI-190 島根原子力発電所 1、2号機北側津波防波壁多重鋼管杭の耐力・挙動特性(その1) ―載荷実験計画―／中国電力［正］清重 直也・吉次 真一・大久保 佳美

VI-191 島根原子力発電所 1、2号機北側津波防波壁 多重鋼管杭の耐力・挙動特性(その2) ―載荷実験結果―／中国電力［正］大久保 佳美・吉次 真一・清重 直也

VI-192 島根原子力発電所 1、2号機北側津波防波壁 多重鋼管杭の耐力・挙動特性(その3) ―解析による多重鋼管杭の実耐力評価―／大林組［正］古荘 伸一郎・河原 和文・吉次 真一

■河川・海洋(2) ／10:30～12:00／伊藤 一教(大成建設)

VI-193 東日本大震災における津波被害を受けた護岸の復旧事例／大林組［正］三城 健一・小村 恵一・佐村 維要

VI-194 津波の引き波に対するケーソン式護岸の杭による滑動防止対策に関する模型実験／五洋建設［正］吉田 誠・竹家 宏治・清宮 理

VI-195 仙台湾南部海岸における東日本大震災復旧事業について／戸田建設［正］大原 貴之・村上 久仁伸・嶋村 和政

VI-196 円柱ドレーンを用いた盤膨れ対策工に関する模型実験／土木研究所［正］平林 学・吉田 直人・石原 雅規

VI-197 コンクリートがれきを用いたCSG海岸堤防の建設／鹿島建設［正］宮本 浩介・桶田 隆司・江角 真也

VI-198 三陸鉄道北リアス線の災害復旧工事における補強盛土一体橋梁の施工／東急建設［正］白仁田 和久・進藤 良則・高橋 源太郎

VI-199 地震動及び継続時間が防波堤基礎の耐津波補強構造に与える影響について／九州大学［学］門司 直也・Hazarika Hemanta・石蔵 良平

■河川・海洋(3) ／15:00～16:30／小竹 康夫(東洋建設)

VI-200 新しい杭頭接合構造の適用事例について／大林組［正］荒牧 洋二・大地 賢一・野田 和久

VI-201 弾性支承上のはりとした鋼管杭式桟橋の座屈解析／早稲田大学［学］若林 学・清宮 理

VI-202 常温硬化型UFC現場打設による護岸構造物リニューアルの構造計画／大林組［正］濱地 克也・武田 篤史・上原 康之

VI-203 護岸構造物のリニューアルにおける常温硬化型超高強度繊維補強コンクリートの施工／大林組［正］平田 隆祥・石関 嘉一・古賀 剛

VI-204　堰柱の仮締切ならびに安全管理システム―行徳可動堰改築工事 工事報告―／鹿島建設［正］朝倉 良介・山口 正裕・酒井 寿裕
VI-205　約55年間供用された堰堤コンクリートの塩化物イオン浸透量―行徳可動堰改築工事 工事報告―／鹿島建設［正］今村 福一・山口 正裕・朝倉 良介
VI-206　施工継目等が中性化深さに及ぼす影響―行徳可動堰改築工事 工事報告―／鹿島建設［正］支倉 満・山口 正裕・朝倉 良介

VI-4（全学教育推進機構C棟C305）／9月10日(水)

■建設マネジメント(1) ／8:45～10:15／藤田 宗久(清水建設)

VI-207　国土交通省発注工事の入札と成績の動向について／国土技術政策総合研究所［正］田嶋 崇志・森田 康夫・大平 和明
VI-208　国土交通省の調査・設計等分野における総合評価落札方式等の実施状況について／国土技術政策総合研究所［正］吉田 純土・森田 康夫・小林 肇
VI-209　日本の土木技術の国外輸出促進に向けた検討／国土技術政策総合研究所［正］曽根 真理・瀧野 幹子・久保田 小百合
VI-210　世界インフラの民営化の現状とこれからのグローバル市場展開への課題／アサノ大成基礎エンジニアリング［F］西 満幸
VI-211　海外における交通と都市開発事業推進のための課題と対策の検討と考察／国会議員［正］桜井 宏・岡田 包儀・鈴木 明人
VI-212　インドネシアにおける“Michinoeki”の展開について／国土技術政策総合研究所［正］酒井 利夫・森 望・曽根 真理
VI-213　米国におけるCM／GC契約事例 I-70トンネル拡幅工事／大林組［正］油島 栄蔵・下村 公一朗・望月 俊宏
VI-214　海外工事における施主の理不尽さに対する一考“擬制変更とmitigationについて”／前田建設工業［F］酒井 照夫・税所 陽一

■建設マネジメント(2) ／10:30～12:00／今石 尚(大成建設)

VI-215　建設事業における多様性マネジメントに関する研究(その4)／フジタ［正］宇田川 義夫・成島 誠一・濱中 誠司
VI-216　D.P.M.手法を用いた事業工期短縮の検討／パシフィックコンサルタンツ［正］木守 岳広
VI-217　新名神高速道路(大阪府域)の建設事業について／NEXCO西日本［正］兼澤 秀和・三井 邦弘・伊藤 哲男
VI-218　高速道路トンネルの総合的維持管理のための性能評価基準の検討／金沢工業大学［学］和田 明久・森山 守・鈴木 俊雄
VI-219　公共工事発注者における事故防止アクションプランの推進事例／労働安全衛生総合研究所［正］高木 元也
VI-220　シミュレーションゲームによる市民との対話を通じた公共施設再編計画／パシフィックコンサルタンツ［正］大石 健二・村上 潤一郎・下平 和彦
VI-221　女性土木技術者に焦点をあてたダイバーシティ・マネジメントに関する基礎的研究／東京工業大学［学］関本 稀美・伊代田 岳史・岩倉 成志
VI-222　心理的要因を考慮した副都心及び新都心の商業地選択指標に関する検討／東京都市大学［正］皆川 勝・植村 昌央

■CIM (1) ／12:45～14:15／辻 奈津子(大林組)

VI-223　CIMの欧米における導入状況と調査・設計段階の上流域における導入シナリオについて／国土交通省［正］森田 康夫・川俣 裕行・吉野 博之
VI-224　維持管理段階での活用を想定した水門のCIMモデル標準化に関する研究／国土技術政策総合研究所［正］藤田 玲・青山 憲明・谷口 寿俊
VI-225　見草トンネルにおけるCIMの取組みについて／大林組［正］小倉 純一・澤村 学・岩本 俊一
VI-226　施工段階におけるCIMの取組み事例／清水建設［正］鈴木 正憲・真下 義章・岡野 高之
VI-227　河川事業におけるCIM活用に関する一考察(その1) ―築堤事業への適用と期待される効果―／千曲川河川事務所［正］宮武 一郎・田村 利昌・盛 伸行
VI-228　河川事業におけるCIM活用に関する一考察(その2) ―築堤事業での試行報告と施工段階に向けた提案―／東京建設コンサルタント［正］盛 伸行・宮武 一郎・田村 利晶
VI-229　サーフェイスモデルを利用した盛土の施工管理システムの開発／大成建設［正］斎藤 博行・江田 正敏・青木 浩章
VI-230　立坑・横坑を伴う小水力発電所の建設とCIMの活用について／大林組［正］井上 浩二・川畑 雄司・福島 尚之

■CIM (2) ／14:30～16:00／山村 正人(鹿島建設)

VI-232　移動型三次元形状計測システムと三次元モデルを活用した路面覆工計画／東急建設［正］小島 文寛・池田 直広・松下 和晴
VI-233　リアルタイム3Dビュワーを用いた施工管理システムの開発／五洋建設［正］石田 仁
VI-234　ホームドア検討へのVRを用いた可視ツールの活用に関する研究／東日本旅客鉄道［正］田原 孝
VI-235　写真計測を用いた実施工における3次元配筋モデルの構築／前田建設工業［正］平澤 江梨・松林 卓・工藤 敏邦
VI-236　地下調節池構築工事の施工段階におけるCIM適用事例／大林組［正］貫井 孝治・根津 和近・杉浦 伸哉
VI-237　開削トンネルにおけるライフサイクルを考慮したCIMの試行／前田建設工業［正］工藤 敏邦・河野 浩之・工藤 新一
VI-238　3次元プロダクトモデルの施工管理への活用(その1) ―活用目的に配慮した仮設および躯体構造のモデル化手法―／大林組［正］今井 淳一郎・中野 孝二・伊奈 啓輔
VI-239　3次元プロダクトモデルの施工管理への活用(その2) ―計画作業の省力化に着目したコンクリート打設管理―／大林組［正］伊奈 啓輔・中野 孝二・今井 淳一郎
VI-240　ダムグラウト3次元管理システムの開発／大成建設［正］江田 正敏・萩原 潤・片山 三郎

VI-4（全学教育推進機構C棟C305）／9月11日(木)

■橋梁(1) ／8:45～10:15／大内 隆志(オリエンタルコンサルタンツ)

VI-241　鹿島火力発電所7号系列増設工事に伴う仮設橋梁の設計・施工の概要～6連取水路防護を主体とした仮設橋梁の設計および施工概要～／大成建設［正］川上 喜博・近藤 浩二郎・鬼束 俊一
VI-242　温度追従養生システムによるPC緊張強度管理／清水建設［正］頃安 研吾・野島 昭二・片山 雅夫
VI-243　アモルファス合金溶射工法による伸縮装置表面処理の実施／本州四国連絡高速道路［正］江口 敬一
VI-244　熱弾性効果を利用したPC鋼材中間部の緊張力推定方法に関する研究／飛島建設［正］北 倫彦・石塚 健一・津川 優司
VI-245　箱桁橋柱頭部の温度ひび割れ抑制効果に関する報告／清水建設［正］齊藤 亮介・野島 昭二・片山 雅夫
VI-246　PC定着突起部へのTヘッド工法鉄筋の適用／清水建設［正］高橋 茜・栃木 謙一・小林 秀人
VI-247　架設桁を用いた跨高速道路橋の撤去について(関越自動車道 葛袋3号橋) ／東日本高速道路［正］金田 和男・鈴木 雄吾・小池 正己

■橋梁(2) ／10:30～12:00／小林 秀人(清水建設)

VI-248　橋脚の変形を伴う張出し架設／鹿島建設［正］波田 匡司・佐溝 純一・岩島 保
VI-249　送出し工法による鉄道上空の鋼床版箱桁の架設／九鉄工業［正］境 貴洋
VI-250　東広島・呉道路馬木高架橋の架設における設計・施工事例報告／中国地方整備局出雲河川事務所［正］遠藤 寛之
VI-251　新名神高速道路芥川橋におけるバタフライウェブ構造の採用／西日本高速道路［正］香川 仁志・紙永 祐紀
VI-252　重交通条件下での老朽化した跨道橋の架替工事について／大成建設［正］高瀬 智章・後藤 幹尚・山田 誉
VI-253　港北ジャンクションの市道新横浜元石川線を跨ぐ橋桁架設の概要／首都高速道路［正］村上 裕真・鳥羽 正樹・佐藤 友明
VI-254　ひび割れを許容した鉄筋コンクリート版の安定性に関する一考察／ジェイアール東海コンサルタンツ［正］森 寛典・本城 勇介・大竹 雄

VI-4（全学教育推進機構C棟C305）／9月12日(金)

■施工計画(1) ／8:45～10:15／山本 忠久(大林組)

VI-255　既存バラストを利用した路床混合撹拌改良施工／東鉄工業［正］鈴木 茂成・陣川 博朗・岸 智久
VI-256　大都市街路交差点上の橋梁架替工事における工期短縮のための工夫／IHIインフラシステム［正］柿沼 康浩・岡崎 健一・新津 武史
VI-257　南武線稲城長沼駅付近高架化の施工について／JR東日本［正］藤武 麻衣・藤井 裕・片山 拓人
VI-258　供用中の迂回高速道路の切替工事について／大成建設［正］石川 毅・下村 一夫・小暮 英雄
VI-259　供用中の高速道路上に架設された仮橋の架け替え工事について／大成建設［正］森 益基・野上 摂理・小暮 英雄

VI-260　中央線三鷹・立川間高架化工事における国立駅配線計画について／JR東日本［正］野中 一人・香月 一仁
VI-261　橋脚下部工事における工程短縮(首都高八重洲線架替工事)／清水建設［正］岩元 佑太朗・岡崎 健一・新津 武史
VI-262　狭小幅ヤードにおける鉄道高架橋の施工上の工夫／大成建設［正］月岡 美佳・亀田 正隆

■施工計画(2) ／10:30～12:00／八朝 秀晃(熊谷組)
VI-263　鋼管矢板基礎工における施工上の留意点および今後の改善策／大鉄工業［正］平野 拓朗
VI-264　転石地盤における効率的なライナー土留の施工法／東鉄工業［正］富澤 広宣・川村 衛
VI-265　住宅密集市街地・営業線直下における道路トンネルの構築／大成建設［正］志谷 倫章・大塚 剛
VI-266　仙石線災害復旧工事における既設RC高架橋の再利用計画／JR東日本［正］佐々木 愛・杉田 清隆
VI-267　可動式ホーム柵基礎部箱抜き工法による工期短縮／東鉄工業［正］上野 雅昭・佐藤 勝俊・原田 雄介
VI-268　西名古屋火力発電所リフレッシュ工事のうちガス導管トンネル工事計画について／中部電力［正］星野 明・滝川 真太郎・見島 博
VI-269　昇降式構台によるRC煙突解体の施工実績／戸田建設［正］野村 朋之・安藤 正治・福谷 伸二郎
VI-270　新名神高速道路(仮称)宝塚サービスエリアでの高盛土における課題と対応／西日本高速道路㈱［正］岩島 保・森 英治

VI-5（全学教育推進機構C棟C306）／9月10日(水)

■各種基礎／8:45～10:15／坂梨 利男(鹿島建設)
VI-271　大崎クールジェンプロジェクト 酸素吹IGCC実証試験発電所建設工事の概要／大崎クールジェン［正］喜田 和政・新村 祐二・高田 英明
VI-272　大崎クールジェンプロジェクト 石炭ガス化設備基礎支持構造形式の検討／大崎クールジェン［正］新村 祐二・喜田 和政・高田 英明
VI-273　太陽電池アレイ用基礎の滑動抵抗試験／大成建設［正］中村 仁士・小松 洋海・中西 誉
VI-274　太陽光発電施設におけるアレイ架台の基礎形式の設計・施工事例／大林組［正］三浦 国春・玉井 礼子・井上 博幸
VI-275　ニューマチックケーソン工法による橋梁下部工の施工／大成建設［正］竹谷 純一・小粥 太郎・有江 誠剛
VI-276　場所打ち杭に用いるコンクリートのポンプ圧送試験／鉄建建設［正］西脇 敬一・鈴木 啓晋・今野 博史
VI-277　場所打ち杭の沈下抑制に適用したSENTANパイル工法の施工事例／熊谷組［正］中出 剛・小川 敦・川島 真澄
VI-278　連壁掘削機を用いた長尺鋼管矢板の施工実績／鹿島建設［正］大窪 一正・大野 純平

■ダム／10:30～12:00／江渡 正満(清水建設)
VI-279　ダムリニューアル工事における水中コンクリートの鉛直打継目／安藤ハザマ［正］天明 敏行・林 俊斉・坂本 守
VI-280　ダムリニューアル工事における水中コンクリートの水平打継目／安藤ハザマ［正］林 俊斉・天明 敏行・坂本 守
VI-281　ダム堤体コンクリート表面の状態がテストハンマーの計測結果に及ぼす影響／土木研究所［正］小堀 俊秀・金銅 将史・山口 嘉一
VI-282　プレキャストブロック置換による温度ひび割れ対策／鹿島建設［正］鈴木 聰・足立 辰夫・川元 壊二
VI-283　大水深下に構築する底部架台アンカーボルトの施工実績／鹿島建設［正］小川 雄一郎・徳井 智・菊田 一行
VI-284　超遅延剤を用いたコンクリートダムの補修実績／鹿島建設［正］小杉 禎一・伊藤 健人・橋本 学
VI-285　曳航自沈式アンカー（ジャイロアンカー)の開発／ゼニヤ海洋サービス［正］西田 秀紀・大友 英明・佐藤 明久
VI-286　堤体削孔における上流面無振動貫通工法の施工実績について／鹿島建設［正］北崎 伸二・足立 辰夫・川元 壊二
VI-287　一次元圧縮試験による盛土の沈下量予測と対策／大林組［正］小林 由幸・渡部 洋己・山田 祐樹

■測量・計測(1) ／12:45～14:15／小泉 圭吾(大阪大学)
VI-288　防災システムツールとしての小型無人飛行機(UAV)の可能性／茨城大学［正］齋藤 修・安原 一哉
VI-289　4翼ヘリコプターを用いた土木環境での空撮の適用性に関する研究／空間情報サービス［正］福田 竜也・関 文夫
VI-290　MEMS IMUと一周波GPSによる姿勢推定の精度検証／東京理科大学［学］西 宏治郎・鈴木 拓也・佐伯 昌之
VI-291　GPS無線センサネットワークを用いた変位計測実験／東京理科大学［学］中村 美貴・佐伯 昌之
VI-292　高精度静止測位における準天頂衛星の併用効果に関する研究／日本大学［正］池田 隆博・佐田 達典
VI-293　衛星電波遮蔽環境下におけるモバイルマッピングシステムの測位精度向上に関する検証実験／日本大学［学］岩上 弘明・佐田 達典・石坂 哲宏
VI-294　狭小な坑道内のアーチ部におけるベントナイト混合土吹付け量管理への3次元計測技術の適用性について／安藤ハザマ［正］黒台 昌弘・千々松 正和・石濱 裕幸
VI-295　ジオタグ・ジオハッシュを応用した維持管理GIS用Excelモジュールの開発／パシフィックコンサルタンツ［正］堀井 久義

■測量・計測(2) ／14:30～16:00／片山 政弘(熊谷組)
VI-296　画像処理技術を用いた鉄筋検測システムの開発／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］石間 計夫・川村 昌弘
VI-297　レーザ技術を用いたコンクリート仕上げ時の平坦性管理ならびに出来形記録方法／鹿島建設［正］今井 道男・藤田 雄一・藤代 勝
VI-298　画像データによる杭施工精度の検証と施工管理への活用／奥村組［正］森田 修二・井 君人・宮本 達哉
VI-299　並走シールドを想定した音波探査手法の研究／大成建設［正］松本 三千緒・西田 与志雄・栗原 庸聡
VI-300　光ファイバセンシング技術を利用した沈下計測への適用検討／NTTインフラネット［正］奥津 大・友安 孝之・金谷 義則
VI-301　光センシング技術を利用した道路の地盤変位計測について／名工建設［正］金谷 義則・鵜飼 晃成・樋口 潔
VI-302　茨城県における生活環境圏のCO_2濃度を対象とした地域環境評価システムの構想／茨城大学［学］神澤 雅典・桑原 祐史・今井 友桂子

VI-5（全学教育推進機構C棟C306）／9月11日(木)

■建設環境(1) ／8:45～10:15／佐々木 徹(大林組)
VI-303　薄層覆砂工法による放射性物質の拡散防止効果及び放射線の遮蔽効果／大成建設［正］橋本 宏治・大野 剛・片倉 徳男
VI-304　油汚染土壌浄化における石油分解菌の維持・保存資材の検討／熊谷組［正］佐々木 静郎・門倉 伸行・土路生 修三
VI-305　平等院・阿字池の底質固化処理工事／前田建設工業［正］清水 英樹・広野 雅男・宮城 宏索
VI-306　鉄筋コンクリート構造物からの電気化学的セシウム除去方法に関する基礎的検討／安藤ハザマ［正］齋藤 淳・西田 孝弘・大即 信明
VI-307　注水バイオスパージング工法を用いた複合汚染地下水の浄化／大成建設［正］松尾 寿峰・鵜飼 泰希・大石 力
VI-308　塩害水田における湛水による塩溶出の定量評価／福井大学［学］仇 啓涵・寺崎 寛章・竹崎 寛章
VI-309　橋梁下部工における底質ダイオキシン類対策について／大成建設［正］小粥 太郎・有江 誠剛

■建設環境(2) ／10:30～12:00／高畑 陽(大成建設)
VI-310　石炭灰を活用した防潮堤盛土実証試験／大林組［正］佐々木 徹・山田 祐樹・井出 一貴
VI-311　変形追随性のある土質系遮水壁施工事例／大林組［正］塩田 耕三・高橋 真一・黒岩 正夫
VI-312　落下混合方式によるカルシア改質土の埋立／新日鐵住金［正］山越 陽介・赤司 有三・菅野 浩樹
VI-313　大山ダムホタルビオトープのモニタリング結果(その4) ／熊谷組［正］門倉 伸行・土路生 修三・岡本 弾
VI-314　水槽実験によるゲンジボタル(Luciola cruciata)幼虫の底質選好性(その2) ／熊谷組［正］村上 順也・土路生 修三・佐々木 静郎
VI-315　ファイバー混入ずり分別システムの開発／清水建設［正］藤内 隆・伊原 広明・田上 明
VI-316　最終処分場建設における多重遮水層構造の構築について／大成建設［正］福田 和久・管原 稔
VI-317　スマートデバイスを使ったダム建設工事における自然環境保全対策管理と保全効果／鹿島技術研究所［正］越川 義功・高山 晴夫・真崎 達也

VI-5（全学教育推進機構C棟C306）／9月12日(金)

■計測・情報化施工／8:45～10:15／安井 啓祐(奥村組)
VI-318　トンネル内無線通信システムの実用性と今後の展望について／日本工営［正］松田 貞則・中山 宣洋・中島 健三郎
VI-319　高速道路における無線センサネットワークを活用した斜

面防災情報モニタリング技術について／西日本高速道路［正］竹本 将・藤原 優・小泉 圭吾
VI-320　無線センサネットワークを用いた傾斜センサによる災害斜面監視／西日本高速道路エンジニアリング関西［正］小西 貴士・上出 定幸・小泉 圭吾
VI-321　自立給電・自律式ネットワーク機能を備えた無線センサシステム／大成建設［正］川手 伸哉・近藤 高弘・青木 浩章
VI-322　次世代無人化施工システムの開発／大成建設［正］栗原 庸聡・宮崎 裕道・青木 浩章
VI-323　クラウドコンピューティングと携帯電話通信網を活用したコンクリート養生管理システムの開発／あおみ建設［正］吉原 到・石井 歩・榊原 雅人
VI-324　3次元配筋システムの設計・施工管理への適用について（第3報）／エーバイシー［正］山辺 直也・本多 顕治郎・西山 茂樹

■新材料・新素材／10:30～12:00／竹本 将（西日本高速道路）
VI-325　ハイブリッド型あと施工アンカー「中空アンカー」の静的挙動に関する実験的研究／中日本高速道路［正］牧田 通・栫木 正喜・鳥取 誠一
VI-326　先端支持機構により施工性を改善した接着系あと施工アンカーの開発／東日本旅客鉄道［正］平林 雅也・小林 薫・今井 清史
VI-327　先端テーパー体を有するあと施工アンカー丸鋼部の各種付着性状確認試験／サンコーテクノ［正］藤井 保也・今井 清史・飯沼 雅光
VI-328　穴あき帯状鋼板によるコンクリートのひび割れ抑制効果について／戸田建設［正］関根 一郎・浅野 均・田中 徹
VI-329　中性系可塑性充填材の施工性に関する検討／戸田建設［正］田中 徹・中山 卓人・柳谷 昌平
VI-330　道路案内標識の表面性状及び設置傾斜角の違いによる着氷特性実験／北見工業大学［正］白川 龍生・杉本 峻・村上 拓哉

VI-6（全学教育推進機構C棟C307）／9月10日(水)

■軌道の維持管理（1）／8:45～10:15／森髙 寛功（JR九州）
VI-331　軌道状態推移予測モデルを活用した長期軌道保守施策の経済性評価／鉄道総合技術研究所［正］吉田 尚史・矢坂 健太・三和 雅史
VI-332　軌道保守計画作成システムの構築に向けた取組み／西日本旅客鉄道［正］桶谷 栄一・松本 亮介・佐々木 陽
VI-333　複数台のNBS及びDGSの運用を考慮した道床交換計画モデルの構築／鉄道総合技術研究所［正］矢坂 健太・三和 雅史・吉田 尚史
VI-334　軌道検測データに基づく軌道構造改良効果の評価法及びその活用法／鉄道総合技術研究所［正］片山 雄一朗・三和 雅史・高原 崇
VI-335　振動応答を利用した簡易列車位置同定手法／東京大学［正］長山 智則・遠藤 漢・蘇 迪
VI-336　列車巡視システムの開発／西日本旅客鉄道［正］松本 亮介・田淵 剛・桶谷 栄一
VI-337　新幹線における動揺シミュレーションを活用した最適な縦曲線整備の検討／JR東日本［正］西山 晃平
VI-338　クルーズトレイン「ななつ星in九州」の動揺測定装置の開発及び維持管理／JR九州［正］河野 皓治・幸野 茂・佐古 武彦
VI-339　トラックマスター測定処理判定への移動平均法の適用／九州旅客鉄道［正］高森 賢司・佐古 武彦

■軌道の維持管理（2）／10:30～12:00／及川 祐也（鉄道総合技術研究所）
VI-340　高頻度軌道検測データにおける季節変動箇所の選択法／鉄道総合技術研究所［正］佐野 弘典・三和 雅史・河野 直也
VI-341　スラブ区間における5m弦高低狂いを用いた著大値管理手法の深度化／西日本旅客鉄道［正］北 章太郎・小林 靖典・小村 啓太
VI-342　新幹線スラブ軌道におけるあおり箇所把握方法の検討／鉄道総合技術研究所［正］山口 剛志・三和 雅史
VI-343　無道床橋りょうを含む複数の構造物介在区間の軌道管理／東海旅客鉄道［正］儀田 聡史・辻 彰啓・生田 周史
VI-344　東北新幹線の速度向上による軌道への影響について／東日本旅客鉄道［正］久保田 光彦・佐竹 宣章・瀬谷 誠
VI-345　山陽新幹線における列車動揺管理値の見直しについて／西日本旅客鉄道［正］中元 慎太郎・平山 智博
VI-346　列車挙動を考慮した構造物連続箇所の軌道整備／東海旅客鉄道［正］伊藤 俊介
VI-347　MTTを用いた効果的な曲線整正について／東日本旅客鉄道［正］斎藤 典孝・飯島 有美香・赤沼 潤一
VI-348　目標値削減に向けた10年間の取組と効果／JR東海［正］堀 映二

■軌道の維持管理（3）／12:45～14:15／宮垣 圭吾（JR東海）
VI-349　我孫子電留線の重軌条化（50N化）工事について／ユニオン建設［正］堀ノ内 謙太・草本 貴晴・新井 謙太
VI-350　全可動ロングレール区間におけるTPCまくらぎ化の検討（前編）／JR九州［正］猿木 雄三・竹井 遼
VI-351　全可動ロングレール区間におけるTPCまくらぎ化の検討（後編）／JR九州［正］竹井 遼・猿木 雄三
VI-352　下級線用PCまくらぎの改良開発／JR東日本［正］須江 政喜・河野 由美子・堀 雄一郎
VI-353　効率化と低コスト化を両立した道床・PCまくらぎ同時更換手法の確立／JR東海［正］岩澤 有佑
VI-354　牽引式レール交換機の更なる改良について／大鉄工業［正］坂本 士・筒井 俊幸・安中 武
VI-355　新幹線スラブ軌道ボルト緊解機の開発／東日本旅客鉄道［正］山口 賢太郎・佐竹 宣章・原田 彰久
VI-356　MTT作業後のホーム限界及び軌道中心間隔測定装置の自動判定機能の開発について／西日本旅客鉄道［正］今井 啓貴・今西 進也・佐藤 登志勝

■軌道の維持管理（4）／14:30～16:00／桶谷 栄一（西日本旅客鉄道）
VI-357　軌道パッドの飛び出しを抑制する鋼直5型締結装置部材の一考察／東日本旅客鉄道［正］高橋 辰弥・篠田 勝己・水野 智明
VI-358　線ばね形締結装置における各種防食塗装の暴露試験結果／JR西日本［正］中村 貴章・山根 寛史
VI-360　枠型スラブ軌道用脱線防止ガードの開発／九州旅客鉄道［正］羽田野 一成・幸野 茂
VI-361　工事桁架設用レールボンドの開発／JR東日本［正］守安 健太・佐伯 和浩・大谷 拓也
VI-362　レール折損補強器設置時における運転速度向上に関する検討／東京地下鉄［正］星子 遼・小林 実・河野 陽介
VI-363　急曲線を低速で走行する車両の輪重・横圧の継目部における変動について／JR東日本［正］吉田 尚・飯島 仁・安田 陽一

VI-6（全学教育推進機構C棟C307）／9月11日(木)

■軌道の維持管理（5）／8:45～10:15／早野 公敏（横浜国立大学）
VI-364　実物大模型によるFWDを用いた軌道支持剛性評価法の検証／鉄道総合技術研究所［正］伊藤 壱記・中村 貴久・村本 勝己
VI-365　改良型自動沈下補正補助まくらぎ（AICS-SS）の性能確認試験／鉄道総合技術研究所［正］咲村 隆人・村本 勝己・中村 貴久
VI-366　砕石流れ発生に関するメカニズムの検討／JR東海［正］平尾 博樹・曽田 祥信
VI-367　曲線区間におけるバラスト軌道の道床横抵抗力の検討／JR西日本［正］溝口 敦司・千代 誠・桃谷 尚嗣
VI-368　画像処理技術を用いた道床変状検出手法の基礎研究／東日本旅客鉄道［正］佐藤 陽・矢作 秀之
VI-369　急速施工が可能な路盤材料の基礎実験／JR東日本［正］加藤 精亮・鈴木 啓晋
VI-370　つき固め工法の効果に関する研究／JR東日本［正］高津 昌也・原田 彰久・瀬谷 誠
VI-371　鉄まくらぎ内バラスト充填の良不良判定に関する基礎的研究／日鉄住金テックスエンジ［正］辻 匡明・上浦 正樹・杉村 和也

■軌道の維持管理（6）／10:30～12:00／元好 茂（東日本旅客鉄道）
VI-372　バックホウタイタンパを用いた軌道整備方法の最適化／東海旅客鉄道［正］横井 裕紀・野村 清順
VI-373　継目矯正による軌道整備効果の一考察／東日本旅客鉄道［正］吉川 央容・篠田 勝己・飯高 真徳
VI-374　新型バラスト整理車（KVP-S）の加振機能の道床更換への活用／東海旅客鉄道［正］中淵 大輔・平永 稔・小林 幹人
VI-375　新型バラスト整理車の加振機能を活用した定修マルタイ作業の施工／東海旅客鉄道［正］佐藤 直樹・横内 典博・中村 幸一
VI-376　新型タイタンパーの評価試験／東日本旅客鉄道［正］野邉 盛道・佐々木 亨・佐竹 宣章
VI-377　MTTの構造的機構を活用した継目部上げ越し施工に関する研究／東日本旅客鉄道［正］糟谷 賢一・落合 晋一・植原 健治
VI-378　新幹線における道床交換後の徐行速度210km／hに対する

施工評価／東日本旅客鉄道［正］本山 寛・枝野 保則・片柳 聡

Ⅵ-6（全学教育推進機構C棟C307）／9月12日(金)

■軌道の維持管理(7) ／8:45～10:15／新居 準也(JR四国)

Ⅵ-379 底部腐食探傷器の開発／東日本旅客鉄道［正］篠田 勝己・益山 茂樹・國分 精二
Ⅵ-380 軌道構造による電食発生状況の一考察／東京地下鉄［正］大澤 純一郎・濱野 浩・河野 陽介
Ⅵ-381 地下鉄の漏水による電食多発区間における化学分析結果／東京地下鉄［正］小林 実・久保田 聡一・岡島 寛季
Ⅵ-382 レール防食工法の塗膜損傷軽減策の検討と室内評価試験／鉄道総合技術研究所［正］庄野 真也・片岡 宏夫・坂本 達朗
Ⅵ-383 トンネル内における防食レールの追跡調査報告／JR西日本［正］加藤 篤史・山根 寛史・田淵 剛
Ⅵ-384 シェリング発生傾向とレール削正による予防効果について／西日本旅客鉄道［正］山根 寛史・今西 進也・辰己 新太郎
Ⅵ-385 レール車輪転動試験装置を用いたピッチング損傷再現試験／JR東日本［正］小木曽 清高・元好 茂・矢作 秀之
Ⅵ-386 レールに発生する横裂の進展に関する一検討／JR東日本［正］平野 秀司・矢作 秀之
Ⅵ-387 レール探傷車側摩耗データの摩耗予測およびレール状態評価への活用／鉄道総合技術研究所［正］真木 二郎・三和 雅史・高原 崇

■軌道の維持管理(8) ／10:30～12:00／川崎 祐征(東海旅客鉄道)

Ⅵ-388 曲線半径300m未満の急曲線のロングレール化に向けた課題に関する一考察／東日本旅客鉄道［正］小松 佳弘・笠井 瞬・熊倉 孝雄
Ⅵ-389 ロングレールにおける軸力調整装置の開発／JR東日本［正］安藤 洋次郎・藤ヶ崎 太之・高橋 渉
Ⅵ-390 軸力センサーを活用したロングレール管理に関する研究／東日本旅客鉄道［正］鈴木 智紀・元好 茂・三村 大輔
Ⅵ-391 山陽新幹線における軸箱加速度・レール凹凸一元管理システムの開発／西日本旅客鉄道［正］原田 祐樹・片岡 武
Ⅵ-392 波状摩耗管理システムによるレール凹凸管理／鉄道総合技術研究所［正］清水 惇・吉田 尚史・三和 雅史
Ⅵ-393 レール波状摩耗量に関する要因分析／東京地下鉄［正］新才 浩之・寄田 亨・森田 義人
Ⅵ-394 渦電流探傷手法を活用したレール横裂傷検知の基礎試験／西日本旅客鉄道［正］今西 進也・田淵 剛・篠田 憲幸
Ⅵ-395 急曲線におけるレール削正による外軌波状摩耗の凹凸除去／鉄道総合技術研究所［正］田中 博文・清水 惇・菊地 圭介
Ⅵ-396 レール頭頂面に発生するきしみ傷の管理手法に関する研究／東日本旅客鉄道［正］松本 剛明・佐々 武彦・阿部 大輔

Ⅵ-7（全学教育推進機構C棟C308）／9月10日(水)

■軌道の維持管理(9) ／8:45～10:15／今城 正嗣(西日本旅客鉄道)

Ⅵ-397 分岐器転換特性と不転換原因の解明／東海旅客鉄道［正］後藤 康夫・原 幸一郎
Ⅵ-398 持続性と効率性を考慮した分岐器軌道整備の実施報告／東海旅客鉄道［正］小岩 祐樹・畠山 重光・種倉 健太郎
Ⅵ-399 トングレールの材質改善に関する研究／東日本旅客鉄道［正］大池 幸史・明圓 桂一・荒井 太郎
Ⅵ-400 形状改良トングレールの敷設効果／西日本旅客鉄道［正］井上 拓也・本野 貴志・柳谷 勝
Ⅵ-401 PCまくらぎ使用分岐器の弱点箇所対策／西日本旅客鉄道［正］本野 貴志
Ⅵ-402 地下鉄におけるクロッシングの損傷要因分析／東京地下鉄［正］星 幸江・武藤 義彦・新才 浩之
Ⅵ-403 分岐器割出し防止装置の開発／JR九州［正］安部 和俊・幸野 茂・甲斐 繁
Ⅵ-404 東海道新幹線新大阪駅構内における振り分け率の異なる分岐器の撤去・挿入／名工建設［正］奥村 和皓
Ⅵ-405 軌間変換装置における脱輪に対する検討／鉄道総合技術研究所［正］西本 正人・古川 敦

■軌道の維持管理(10) ／10:30～12:00／矢作 秀之(東日本旅客鉄道)

Ⅵ-406 除雪機械による効果的な除雪方法に関する研究／東日本旅客鉄道［正］金田一 高成・佐々木 純
Ⅵ-407 MCR除雪翼等の自動制御装置の開発／東日本旅客鉄道［正］佐々木 亨・原田 彰久・本田 智文
Ⅵ-408 踏切フランジウェイ融雪装置の開発と実用化／東日本旅客鉄道［正］栗原 巧・青木 宣頼・高瀬 力男
Ⅵ-409 東北新幹線北上駅構内における冬期の分岐器不転換対策／JR東日本［正］奥山 紘平・明圓 桂一・細田 強
Ⅵ-410 差込タイプの融雪器を装着するローラー床板の熱影響確認試験／JR東日本［正］明圓 桂一・神谷 祐次・高村 恵多
Ⅵ-411 奥羽本線 神宮寺・峰吉川間防雪柵新設工事について／東日本旅客鉄道［正］島田 雄輔・原田 健

■軌道の維持管理(11) ／12:45～14:15／力武 基樹(JR九州)

Ⅵ-412 関空線直結系省力化軌道の省力化効果の検証／西日本旅客鉄道［正］岡本 一真・舩野 晴祐・山根 寛史
Ⅵ-413 省力化軌道の機械化補修に伴う軌道こう上量の施工管理装置の開発／東日本旅客鉄道［正］奥村 悠樹・堀 雄一郎・熊倉 孝雄
Ⅵ-414 舗装軌道整備方法の改善―厳冬期における補修方法―／ユニオン建設［正］佐々木 大・山岸 篤史
Ⅵ-415 バラストレス化前後の軌道支持弾性に着目したバラストレス軌道／鉄道総合技術研究所［正］長沼 光・高橋 貴蔵・桃谷 尚嗣
Ⅵ-416 有田川橋りょうに敷設された各種省力化軌道のトレース報告について／西日本旅客鉄道［正］三津田 祐基・山根 寛史・田淵 剛
Ⅵ-417 軌道スラブ水平変位拘束装置の取付方法に関する検討／鉄道総合技術研究所［正］藪中 嘉彦・高橋 貴蔵・長沼 光
Ⅵ-418 合成まくらぎ分割施工の検討／西日本旅客鉄道［正］田中 淳・鈴木 正士・田中 正樹

■鉄道工事(1) ／14:30～16:00／三宅 修司(JR東海)

Ⅵ-419 BRTと鉄道の接続駅の整備について／東日本旅客鉄道［正］小倉 優大・北村 尚士
Ⅵ-420 地下鉄営業線の大規模改良(その4) ―地下函体内での既設中床直上大規模増設―／鹿島建設［正］一本松 新・村田 豊喜・山浦 克仁
Ⅵ-421 地下鉄営業線の大規模改良(その5) ―地下函体内での大規模切替工と大階段設置の同夜施工―／鹿島建設［正］福岡 龍次・村田 豊喜・山浦 克仁
Ⅵ-422 駅構内における曲線改良工事について／JR東日本［正］明見 正雄・鈴木 秀治・澁谷 聡一
Ⅵ-423 切換作業での工程遅延について／大鉄工業［正］西條 淳・足立 蓮
Ⅵ-424 大規模な線路切換工事におけるリスクマネジメントについて～品川駅改良（Ⅰ期）第3 回切換工事／東日本旅客鉄道［正］藤田 洋一・安岡 洋史・鈴木 賢次郎
Ⅵ-425 常磐快速線利根川橋梁改良に伴う上り線線路切換工事について／東日本旅客鉄道［正］佐々木 昭悟・佐藤 大輔・黒川 聡
Ⅵ-426 常磐快速線利根川橋りょう上り線線路切換工事に伴う事前線路こう上について／JR東日本［正］中島 裕晋・佐藤 大輔・渡邊 綾介

Ⅵ-7（全学教育推進機構C棟C308）／9月11日(木)

■鉄道工事(2) ／8:45～10:15／田島 新一(鹿島建設)

Ⅵ-427 JR久留里線 上総松丘・上総亀山間における鉄道盛土の災害復旧工事／東日本旅客鉄道［正］松田 康紀・前田 邦彦・宮西 正人
Ⅵ-428 田沢湖線8.9降雨の被災概況と竜川橋梁の復旧／東日本旅客鉄道［正］遠藤 大輔・滝田 正樹
Ⅵ-429 米坂線土砂災害復旧工事について／JR東日本［正］長谷川 優・斉藤 智秋・相馬 紀夫
Ⅵ-430 平成25年台風26号に伴うJR千葉支社管内土石流災害について／東日本旅客鉄道［正］松本 一人・高橋 政善・大澤 英里
Ⅵ-431 新潟・福島豪雨で被災した飯山線羽根川橋りょうの復旧／東日本旅客鉄道［正］諏訪 嵩人・五十嵐 弘記
Ⅵ-432 洗掘被害を受けた鉄道橋の復旧対策工について／九州旅客鉄道［正］上村 寿志・用正 直樹
Ⅵ-433 局地的豪雨によるリスクとその低減に向けた取組み／JR西日本［正］坂梨 瞳・高尾 賢一

■鉄道工事(3) ／10:30～12:00／小林 裕介(鉄道総合技術研究所)

Ⅵ-434 本設構造に利用するPC工事桁の列車走行時計測に基づく施工時挙動／鹿島建設［正］青木 康治・寺田 雄一郎・小倉 拓也
Ⅵ-435 鋼橋桁扛上に伴う軌道緩解範囲に関する検討／JR東海［正］福田 和彰・庄司 朋宏
Ⅵ-436 本設工事桁を用いた鋼ラーメン高架橋の振動低減効果に関する一考察／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］篠田 健次・九冨 理・土方 康裕

VI-437　鉄道ラーメン橋台におけるスラブのひび割れ抑制を考慮した施工について／JR西日本［正］宮下 純平・高須賀 伸生
VI-438　大都市圏最重要線区における桁交換／大鉄工業［正］芳川 陽一・岩田 朋也・岸 文男
VI-439　レールの破線を伴わない長大工事桁の分割撤去について／東日本旅客鉄道［正］石川 裕貴・松田 博和・栗原 仁
VI-440　鉄道―道路交差部の架道橋桁撤去／JR東日本［正］今中 涼平

VI-7（全学教育推進機構C棟C308）／9月12日(金)

■鉄道工事(4) ／8:45～10:15／天野 健次(大成建設)

VI-441　在来線直上及び新幹線高架橋直下におけるPC桁架設方法の検討について／東日本旅客鉄道［正］石田 将貴・後藤 貴士・今牧 修二
VI-442　曲線区間における鉄道橋梁(複線PRC下路桁)の横取架設のリスク対策について／東日本旅客鉄道［正］高見澤 拓哉・飯塚 信彰・岡田 尚千
VI-443　斜角を持つPRC下路桁の横取り架設について／東日本旅客鉄道［正］神宮 勝久・熊倉 秀夫・岡田 尚千
VI-444　鉄道橋梁改築工事における工事桁(カンザシ桁)架設方法の検討／大鉄工業［正］聲高 優一
VI-445　狭隘制限等の鉄道橋桁防護工の施工／シーエヌ建設［F］丹間 泰郎・杉尾 伸一・加藤 英明
VI-446　鉄道営業線上空の制約下における桁架設について／東日本旅客鉄道［正］鳥山 英数・倉田 智久
VI-447　JR橋りょう下部における超低空頭パイラーを使用した鋼矢板打設について／JR東日本［正］長谷川 真吾・高田 善・高田 慶

■鉄道工事(5) ／10:30～12:00／近藤 政弘(西日本旅客鉄道)

VI-448　刃口装置及び刃口装置を用いた推進工法における試験施工／大鉄工業［正］森生 修次・下野 満広・金子 雅
VI-449　頂板ジャッキアップによる鉄道直下のボックス躯体の施工実績／鹿島建設［正］向 弘晴・米田 保之・池澤 伸夫
VI-450　駅構内分岐器下でのHEP&JES工法による線路下横断構造物の構築について／東日本旅客鉄道［正］松木 彰吾・芳山 慧子・小島 大輔
VI-451　営業線軌道直下における擁壁背面盛土のアンカー補強について～ロータスアンカー工法～／西日本旅客鉄道［正］矢野 康平・牛田 直希・中島 卓哉
VI-452　鉄道営業線近接部におけるグラウト加圧拡孔型アンカーの本施工への適用／東日本旅客鉄道［正］岡田 真幸・渡邊 明之・小林 敏秋
VI-453　他社線に近接した狭隘箇所における薬液注入工の施工について／JR東日本［正］舘 智士・川人 麻紀夫

■鉄道工事(6) ／15:00～16:30／室谷 耕輔(中央復建コンサルタンツ)

VI-454　伏びの効率的な維持・管理計画の検討／東日本旅客鉄道［正］大澤 英里・高橋 政善・松本 一人
VI-455　変状伏び応急措置工法の開発／JR東日本［正］原田 悟・鴨志田 祥子・渋谷 弘
VI-456　新幹線におけるトンネル耐震対策工事について／JR東日本［正］本望 義昌・高橋 克紀・関口 達也
VI-457　膨張性地山を貫く鉄道トンネルにおける対策工とその効果の検証について／東日本旅客鉄道［正］沼崎 一樹・古川 武英・皆川 一四
VI-458　九州北部豪雨で被災した鉄道トンネルの復旧について／JR九州［正］野中 信一
VI-459　地下水位回復地区における地下鉄トンネル変形に関する検討～その2～／長岡工業高等専門学校［学］岩渕 崇宏・岩波 基
VI-460　粘性土地盤中のシールドセグメントの限界状態設計法における荷重係数の選定について／長岡工業高等専門学校［学］関 すみれ・岩波 基

VI-8（全学教育推進機構C棟C403）／9月10日(水)

■検査技術・診断(1) ／8:45～10:15／水田 真紀(土木研究所)

VI-461　誘導路橋梁モニタリングの供用下の運用とシステム更新／清水建設［正］稲田 裕・金子 雅廣・武井 雄三
VI-462　大型航空機荷重に対応した合成床版橋のひずみモニタリング／九州大学［学］堀 陽介・山口 浩平・日野 伸一
VI-463　鋼床版デッキ貫通亀裂の検知を目的とした渦流探傷技術高精度化の試み／東京工業大学［正］田村 洋・池田 清宏・秋月 勇人
VI-464　路線バスを用いた中小橋梁モニタリングシステムの計測条件感度と長期計測結果の検討／山口大学［学］田中 英哲・永田 雅大・江本 久雄
VI-465　鉄道鋼橋の支点部における異常検知指標の検討／JR東日本［正］和泉 大祐・栗林 健一
VI-466　地震動観測記録を用いた重力式コンクリートダムの固有振動数の分析／土木研究所［正］加嶋 武志・小堀 俊秀・金銅 将史
VI-467　非接触振動測定システムを活用した高架橋固有振動数の取得／東海旅客鉄道［正］田中 佑児・畑中 達彦・上半 文昭
VI-468　AE法によるトンネル覆工応力の評価／鹿島建設［正］森 孝之・中嶌 誠門

■検査技術・診断(2) ／10:30～12:00／羽矢 洋(ジェイアール東日本コンサルタンツ)

VI-469　T型表面SH波センサを用いたロングレール軸力測定／JR西日本［正］松丸 和貴・千代 誠・村田 頼信
VI-470　直結軌道が高架橋の変状に与える影響／東海旅客鉄道［正］蚊津見 和雅・西山 裕之
VI-471　画像処理技術を活用した軌道状態評価手法の基礎研究／JR西日本［正］安部 聡・千代 誠・中山 忠雅
VI-472　ふく進及びEJストロークの自動測定手法の開発／東海旅客鉄道［正］本村 裕基
VI-473　総点検における路面下脆弱性評価の着眼点に関する一考察／ジオ・サーチ［正］岡本 順平・澤井 崇・陰山 一
VI-474　生体脈波を用いた車両走行による橋梁通過時の乗り心地に関する考察／茨城大学［正］原田 隆郎・亀山 大輝
VI-475　アンカーボルト点検手法の開発―加速度計を用いた健全度評価法の検討―／中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京［正］菅 浩亮・川崎 廣貴・堀 隆一
VI-476　電磁パルス法を用いたあと施工アンカーボルトの非破壊検査に関する一検討／川田テクノロジーズ［正］磯 光夫・歌川 紀之・川井 重弥

■検査技術・診断(3) ／12:45～14:15／松田 敏(熊谷組)

VI-477　レーザーリモートセンシングを用いたコンクリート構造物の健全性評価技術(1)コンクリートの欠陥検出／京都大学［学］御崎 哲一・島田 義則・篠田 昌弘
VI-478　レーザーリモートセンシングを用いたコンクリート構造物の健全性評価技術(2)ケミカルアンカーボルトの接着不良検出／レーザー技術総合研究所［正］島田 義則・Kotyaev Oleg・御崎 哲一
VI-479　音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発―(1)アスファルト供試体を用いた音響探査の適用実験―／桐蔭横浜大学［学］上地 樹・杉本 恒美・赤松 亮
VI-480　音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発―(2)トーンバースト波とゲート処理を用いたS／N比の改善―／桐蔭横浜大学［正］杉本 恒美・赤松 亮・上地 樹
VI-481　音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発―(3)ボックスカルバートのはく離探査への適用―／佐藤工業技術研究所［正］歌川 紀之・片倉 景義・上地 樹
VI-482　日常点検の信頼性向上を目的としたRC床版損傷評価技術に関する基礎検討／寒地土木研究所［正］佐藤 京・角間 恒・岡田 慎哉
VI-483　打撃音の形状距離を用いた類似性評価に関する基礎的研究／西日本高速道路エンジニアリング四国［正］林 詳悟・橋本 和明・明石 行雄
VI-484　コンクリート構造物の打音法における異音検出の基礎的実験／首都高技術［正］窪田 裕一・由井 稔也・叶 嘉星

■検査技術・診断(4) ／14:30～16:00／戸田 勝哉(IHIインフラシステム)

VI-485　デジタルカメラ点検システムの開発と検証／フジエンジニアリング［正］今川 雄亮・山本 泰造・仲田 慶正
VI-486　デジタルカメラ点検システムの現場導入とその評価検証について／西日本高速道路エンジニアリング関西［正］松井 俊吾・緒方 辰男・桑原 秀明
VI-487　蛍光X線を用いた塩害撤去桁の塩分濃度分布調査／土木研究所［正］松沢 政和・木村 嘉富・本間 英貴
VI-488　水中ROVにおける濁度とコンクリート損傷等の識別精度の関係について／北九州市立大学［正］山田 百合子・小池 廣光・山本 郁夫
VI-489　流水距離によるかぶりコンクリートの雨水の浸透性評価／JR東日本［正］荻原 裕貴・岸 利治・嶋倉 ちづる
VI-490　赤外線熱計測によるトンネルコンクリートの浮き・はく離調査手法の検討／清水建設［正］久保 昌史・小西 真治・川上 幸一
VI-491　棒形スキャナを用いた骨材量推定による塩化物イオン量補正方法／西松建設［正］迫 綾子・原田 耕司・伊藤 幸広

Ⅵ-8（全学教育推進機構C棟C403）／9月11日(木)

■検査技術・診断(5) ／8:45～10:15／岡本 修一(大成建設)

Ⅵ-492 UAVを用いた920MHz帯無線機の通信測位実証実験 その(1) ／茨城工業高等専門学校［正］岡本 修・荒木 義則・高田 知典

Ⅵ-493 UAVを用いた920MHz帯無線機の通信測位実証試験 その(2) ／PHM［F］高田 知典・岡本 修・佐藤 隆秀

Ⅵ-494 振動試験による石積壁の地震時弱点個所抽出法の提案／鉄道総合技術研究所［正］江原 季映・窪田 勇輝・獅子目 修一

Ⅵ-495 東北新幹線第2北上川橋りょう上横構の変状と対策／東日本旅客鉄道［正］小野寺 吉生・八重樫 祐輝

Ⅵ-496 世界初のバタフライウェブPC箱桁橋の施工時計測と維持管理上の着目点／西日本高速道路［正］藤井 雄介

Ⅵ-497 鉄道における無塗装橋りょうの錆状況調査／JR西日本［正］池川 拓也・木村 元哉

Ⅵ-498 橋梁点検のデジタル画像を用いた耐候性鋼材の健全度評価の試み／茨城大学［学］松村 翔・原田 隆郎

■検査技術・診断(6) ／10:30～12:00／佐藤 大輔(コンステック)

Ⅵ-499 デジタルカメラ画像を用いたマンホール鉄蓋の段差計測方法／日本電信電話［正］内堀 大輔・望月 章志・川端 一嘉

Ⅵ-500 トンネル覆工に着目したひび割れ抽出のための画像処理範囲特定に関する基礎的研究／西日本高速道路エンジニアリング四国［正］粂野 佑允・橋本 和明・明石 行雄

Ⅵ-501 道床形状測定器の開発／JR東日本［正］荒木 大智・篠田 勝己・近藤 英記

Ⅵ-502 デジタル画像を用いたひび割れ幅計測システムの研究／岡山大学［学］壷阪 知広・西山 哲・矢野 隆夫

Ⅵ-503 デジタル画像診断手法を用いた簡易トンネル変状点検システム／鹿島建設［正］山本 拓治・大畑 俊輔・衣笠 貢司

Ⅵ-504 無人飛行体(UAV)を用いた仮設足場を利用しない橋梁外観点検手法の開発／長崎大学［学］草野 壱俊・松田 浩

Ⅵ-505 サンプリングモアレ法を用いた土木構造物の計測／ジェイアール西日本コンサルタンツ［正］玉井 博貴・生駒 昇・藤垣 元治

Ⅵ-8（全学教育推進機構C棟C403）／9月12日(金)

■検査技術・診断(7) ／8:45～10:15／中山 昭二(ソーキ)

Ⅵ-506 鉄道沿線に土砂災害をもたらす雨の降り方に関する考察／東日本旅客鉄道［正］大島 竜二・鈴木 博人・友利 方彦

Ⅵ-507 斜面防災カルテを活用した土工等設備の維持管理／JR西日本［正］荒平 義生・高馬 太一・渡邉 恭崇

Ⅵ-508 リスクを考慮した構造物マネジメントの体系／ビーエムシー［正］阿部 雅人・杉崎 光一・阿部 允

Ⅵ-509 JR東海在来線の分岐器保守管理の取り組み／東海旅客鉄道［正］原 幸一郎・杉森 充・倉津 次郎

Ⅵ-510 道路橋点検における非破壊検査技術の実証例(京都府) ／京都府［正］春田 健作・大島 由光・上原 敏文

Ⅵ-511 多視点画像3D構築技術の橋梁調査への適用性について／パシフィックコンサルタンツ［正］小沼 恵太郎・西村 正三

Ⅵ-512 橋梁点検の効率化を目的としたロボット点検技術の一考察／エイト日本技術開発［正］和田 映二・堀田 郁男・渡辺 豊

■設計概念・設計技術／10:30～12:00／山本 康之(清水建設)

Ⅵ-513 設計成果品の品質確保方策についての一考察／国土技術政策総合研究所［正］遠藤 健司・市村 靖光・梅原 剛

Ⅵ-514 繰り返し数の影響を考慮した耐疲労性の照査に用いる列車の編成・本数に関する検討／東日本旅客鉄道［正］坂本 賢二・黒田 智也・行澤 義弘

Ⅵ-515 JES工法の設計効率化に関する一考察／東日本旅客鉄道［正］土橋 幸彦・内藤 圭祐

Ⅵ-516 壁構造物の多層打設における温度応力挙動の計測事例／熊谷組［正］濱 慶子・中村 圭・藤田 昌宏

Ⅵ-517 計測に基づく3次元モデルの作成と活用に関する一考察／計測リサーチコンサルタント［正］渡邉 弘行・味岡 収

Ⅵ-518 場所打ちによる超高強度繊維補強コンクリートを用いた道路橋の複合非線形解析／鹿島建設［正］森田 遼・別府 教・伊藤 康輔

Ⅵ-519 緊急電源八戸5号における既設水路再利用を考慮した設計と水理課題の解析について／東北電力［正］菊地 慶太・小崎 力

Ⅵ-520 掛違い部に二枚壁橋脚を有し、住宅密集地域に計画されたPC連続 ラーメン橋の計画・設計／オリエンタルコンサルタンツ［正］上野 大介・田口 靖朋・九鬼 裕之

■施工技術(9) ／15:00～16:30／遠藤 和雄(清水建設)

Ⅵ-521 供用中バースにおける海底配管の建設工事／大成建設［正］佐野 雄季・金 浩昭・吉川 幸夫

Ⅵ-522 LNG桟橋ワーキングプラットフォームにおける上部工支保工の施工について／大成建設［正］吉村 友希・中原 幸太郎

Ⅵ-523 本線バース増強工事概要とスラグ混入コンクリートへの取り組みについて／大成建設［正］江川 省二・浦上 昇・金子 英幸

Ⅵ-524 新仙台火力発電所LNG受入桟橋における硬質岩盤等への引抜杭打設工法の開発／東北電力［正］工藤 武美・木村 雅道・外山 雅昭

Ⅵ-525 鹿島神宮大船津一之鳥居の建設～日本最大級の水上鳥居の建設～／大成建設［正］大竹 明朗・鹿島 則良・石河 亮

Ⅵ-526 漁港災害復旧工事における残置型枠工法について／丸栄コンクリート工業［正］三輪 啓司・渡邉 孝・不動 雅之

Ⅵ-527 グラブ浚渫による薄層浚渫のDEM解析／東亜建設工業［正］松田 信彦

Ⅵ-528 稼働中の下水沈殿池上における鉄骨の横曳架設／大成建設［正］荻野 雄一・松本 篤士・小野 哲典

Ⅵ-9（全学教育推進機構C棟C405）／9月10日(水)

■安全管理(1) ／8:45～10:15／田中 啓之(鹿島建設)

Ⅵ-529 建設施工における安全マネジメントに関する一考察／東洋大学［正］鈴木 信行・田畑 光司

Ⅵ-530 建設工事における安全性向上に関する研究／土木研究所［正］茂木 正晴・藤野 健一・山口 崇

Ⅵ-531 第三セクタ運営地方鉄道線を対象とした鉄道運行管理支援システムの現状と今後の展望／茨城大学［学］兼子 恭平・桑原 祐史

Ⅵ-532 幅木の高さと建わくの枠幅をパラメータとした足場の風力風洞実験／労働安全衛生総合研究所［正］高橋 弘樹・大幢 勝利・北條 哲男

Ⅵ-533 くさび取付穴を利用した足場上での安全帯使用に関する検討／労働安全衛生総合研究所［正］大幢 勝利・日野 泰道・高橋 弘樹

Ⅵ-534 蓄光材料を用いた避難・誘導器具を設置したトンネルの避難時心理状態ついて／大建産業［正］荒井 洋・須藤 敦史・吉川 進

Ⅵ-535 指向性アナウンス安全看板の開発と適用／清水建設［正］宮瀬 文裕・宇野 昌利・服部 慶太

Ⅵ-536 トラッククレーン作業範囲制御装置の開発／JR東日本［正］草地 茂・佐竹 宣章・原田 彰久

■安全管理(2)・施工技術(1) ／10:30～12:00／宮田 和(清水建設)

Ⅵ-537 法面工事現場における安全管理法に関する実態調査～富山県を対象地域としたアンケート調査～／労働安全衛生総合研究所［正］伊藤 和也・菊池 信夫・橋爪 秀夫

Ⅵ-538 地盤養生の違いがつり荷走行するドラグ・ショベルの揺動に与える影響／労働安全衛生総合研究所［正］玉手 聡・堀 智仁・石野 貴裕

Ⅵ-539 ドラグ・ショベルの斜面降下走行の遠心模型実験／労働安全衛生総合研究所［正］堀 智仁・玉手 聡

Ⅵ-540 東松島市野蒜北部丘陵地区一次整地工事における軟岩掘削に伴う破砕設備の設計について／大成建設［正］堀 隆浩・河野 利幸・高田 恵次

Ⅵ-541 東松島市野蒜北部丘陵地区一時整地工事におけるベルトコンベヤによる掘削残土の搬送について／大成建設［正］小林 珠祐・麻生 憲二郎・白土 稔

Ⅵ-542 ダム解体工事における割岩工法適用について／フジタ建設［正］野間 達也・宮地 利宗・野間 卓志

Ⅵ-543 大規模土砂崩壊箇所での砂防堰堤築造／熊谷組［正］越智 伝・渕上 幸彦・岡市 光司

■施工技術(2) ／12:45～14:15／野澤 伸一郎(東日本旅客鉄道)

Ⅵ-544 大型LNGタンクに対する杭頭半剛接合構法(F.T.Pile構法)の採用／大成建設［正］市波 克洋・岡嶋 修一・小林 祐樹

Ⅵ-545 防雪柵の杭打ち(摩擦杭)時の杭形状に関する加速度、ひずみ特性／理研興業［正］中村 真生・熊谷 一男・佐藤 昌志

Ⅵ-546 音響トモグラフィー探査を用いた鋼管矢板根入れ長の基面評価方法について／大成建設［正］谷地 宣之・植田 康宏・有働 敬天

Ⅵ-547 鋼管杭の打設管理に関する加速度計と適用課題／砂子組［正］好川 敏・男澤 真樹・田中 孝宏

Ⅵ-548 場所打ち杭における可視化技術を用いた安定液管理システム／大林組［正］荒川 真・矢部 文生・長谷川 智仁

VI-549　帯鉄筋に太径・高強度鉄筋を用いた大口径深礎の施工／鹿島建設［正］伊藤 成樹・間井 博行・中尻 智大
VI-550　長尺鋼管矢板井筒基礎への機械式継手の採用／大成建設［正］藤原 直生・高橋 博威・小竹森 浩

■施工技術(3) ／14:30～16:00／清水 正巳(大成建設)
VI-551　鉄道営業線近接における連壁基礎杭の施工と構真柱建方管理／大林組［正］小松 雄一・霞 誠司・久島 敏靖
VI-552　短時間間合いにおけるホーム基礎杭等の設計・施工について／東日本旅客鉄道［正］板倉 真理佳・佐々木 和徳
VI-553　地盤改良工法を利用した工事桁支持杭の支持力性能／JR東日本［正］西川 晃司・鈴木 啓晋
VI-554　営業線直上の仮設構台からの鋼管杭の打設／鹿島建設［正］佐原 史浩・大菅 健・木水 宏
VI-555　空頭制限下での新しい場所打ち杭施工機械の適用／東日本旅客鉄道［正］川口 大輔・和田 旭弘・中村 瑞穂
VI-556　簡易架台による小口径鋼管杭の実施工計画及び施工結果／東日本旅客鉄道［正］植村 恵里・スズキ 啓晋

VI-9（全学教育推進機構C棟C405）／9月11日(木)

■施工技術(4) ／8:45～10:15／杉橋 直行(清水建設)
VI-557　壁式橋台における鉛直パイプクーリング工法の適用／竹中土木［正］吉田 邦勝・市川 晃央・向野 泰弘
VI-558　液体窒素によるコンクリートのプレクーリング施工事例／鹿島建設［正］林 誠治・林 大介・藤代 勝
VI-559　実施工における温度ひび割れ抑制対策に関する一考察(古川地下調節池取水施設工事における施工実績報告) ／鹿島建設［正］室野井 敏之・上木 泰裕・望月 一宏
VI-560　分割練混ぜ工法(SEC工法)の橋梁上部工コンクリートへの適用／大成建設［正］熊谷 徹・塚本 英樹・岡本 修一
VI-561　函渠構造物スラブ面の品質向上の取組み／熊谷組［正］神崎 恵三・山崎 健三・吉井 孝彰
VI-562　振動や転圧による表面仕上げがコンクリート床版の品質におよぼす影響／川田建設［正］川口 千大・谷野 英一・小西 哲司
VI-563　表面締固めバイブレータによるスラブ部材の品質向上効果／鹿島建設［正］前川 陽平・関 健吾・田中 晶悟

■施工技術(5) ／10:30～12:00／坂井 吾郎(鹿島建設)
VI-564　中流動コンクリートを使用した巻厚内に障害物を含む覆工コンクリートの配合と施工／五洋建設［正］前田 智之・小笠原 哲也・鶴岡 正
VI-565　過密配筋覆工への中流動コンクリートの適用／戸田建設［正］川口 泰弘・中林 治・下谷 孝史
VI-566　セントル内の養生温度の均一化とその効果／竹中土木［正］西村 直人・市川 晃央・藤野 宏英
VI-567　保水養生粘着テープを用いたトンネル覆工コンクリートの長期養生／大成建設［正］山崎 学・打田 安宏
VI-568　立坑における充填コンクリートの施工／佐藤工業［正］根岸 秀樹・保土田 誠・岡田 拓也
VI-569　地上式LNGタンク防液堤構築へのスリップフォーム工法適用事例／大林組［正］大野 鷹久・西崎 丈能・大西 俊輔
VI-570　ダム天端狭隘部におけるコンクリート打設効率の向上／清水建設［正］長尾 貴浩・牧野 有洋・山岡 貴司
VI-571　コンクリートクラッシャーを用いた静的破砕解析と課題／砂子組［正］広上 伸二・近藤 里史・平島 博樹

VI-9（全学教育推進機構C棟C405）／9月12日(金)

■施工技術(6) ／8:45～10:15／高橋 正登(大林組)
VI-572　既設擁壁・歩行者デッキ及び埋設管等の支障物輻輳箇所におけるリバース杭の施工方法／戸田建設［正］竹田 英樹・山田 勉・高橋 啓
VI-573　鋼製台座を用いた橋桁改良工事について／東日本旅客鉄道［正］佐藤 允彦・平山 信夫
VI-574　トラス型鋼桁防音壁設置工における下弦材の上げ越し管理について／JR東日本［正］元尾 秀行・山田 孝太郎・竹市 八重子
VI-575　中径棒状補強材(自穿孔型ラディッシュアンカー)による既設鉄道盛土の耐震補強事例／鴻池組［正］村下 富雄・西平 宜嗣・松尾 裕一朗
VI-576　狭隘地における9,000t円筒形PCタンクのアルミドーム架設について／戸田建設［正］玉邑 修二・川添 義治・越智 滋雄
VI-577　PC構造の緊張時および曲げ載荷時におけるRFIDひずみセンサのひずみ挙動／太平洋セメント［正］早野 博幸・江里口 玲・石井 祐輔
VI-578　ジオセルによる構造物取付け部の段差抑制効果について／日本大学［正］山中 光一・峯岸 邦夫・石井 大悟

■施工技術(7) ／10:30～12:00／寺田 倫康(熊谷組)
VI-579　有楽町線小竹向原・千川間連絡線設置工事(向原工区)における中床版の受け替えについて／佐藤工業［正］斎藤 達也・岩橋 公男
VI-580　ウォータージェット削孔による長尺アンカー鉄筋の挿入について／佐藤工業［正］岩橋 公男・斎藤 達也
VI-581　世界初のシールドトンネル解体による駅改良／東京地下鉄［正］岡ノ谷 圭亮・永田 憲二・奥村 一正
VI-582　近隣ビルに囲まれた営業線直下での地下構造物の築造―東京メトロ銀座線渋谷駅改良土木工事―／東京地下鉄［正］沼田 敦・上田 直人・六本木 祥二
VI-583　地下鉄営業線改良工事における軌道内プレキャスト中柱の施工について／東京地下鉄［正］新井 泰・沼田 敦・中村 守男
VI-584　凍結工法による既設地下変電所への管路接続について／大成建設［正］戸田 哲哉・小松 隆晴
VI-585　非開削工法における新たな床版結合方法の施工について／JR東日本［正］川嶋 孝明・本田 諭・水澤 隆
VI-586　SFT工法における函体推進時の支圧壁変状について／九鉄工業［正］西村 猛

■施工技術(8) ／15:00～16:30／藤崎 勝利(鹿島建設)
VI-587　東京国際空港国際線エプロンPFI事業における軽量盛土(EPS)の設計及び施工／大成建設［正］大塚 徳之・天野 喜勝・土方 遍
VI-588　砂層が介在する軟弱地盤における真空圧密施工中の鋼矢板・遮水シールの遮水効果／大林組［正］川本 卓人・加藤 真司・遠藤 佳紀
VI-589　埋設支障物近傍での長距離自在ボーリングによる既設構造物直下の液状化対策／大成建設［正］吉岡 鋭二・田端 宏治・城 浩市
VI-590　回転式破砕混合工法を適用した葦地下茎混り高含水比塊状粘性土の築堤土への改良施工／日本国土開発［正］中島 典昭・香取 孝史・折敷 秀雄
VI-591　間隙水の吸引工法を利用した掘削部軟弱地盤の土質改良事例／鴻池組［正］國富 和眞・村下 富雄・上野 裕司
VI-592　東京湾低地部の下水道処理施設建設にともなう盤ぶくれ対策と復水について／アサヒテクノ［正］尾崎 哲二・宮内 辰也・久島 純
VI-593　家屋に近接した亜炭廃坑充填工事の施工／飛島建設［正］加藤 一郎・杉浦 乾郎・坂本 昭夫

VI-10（全学教育推進機構C棟C406）／9月10日(水)

■シールドトンネル(1) ／12:45～14:15／平石 富茂(熊谷組)
VI-594　シールド機で切削可能なセグメントの開発(その1) ／西松建設［正］村上 賢治・大江 郁夫・小林 正典
VI-595　シールド機で切削可能なセグメントの開発(その2) ／西松建設［F］小林 正典・大江 郁夫・村上 賢治
VI-596　アラミド繊維を混入したRCセグメント(AFRCセグメント)の単体曲げ試験／西松建設［正］大江 郁夫・村上 賢治・小林 正則
VI-597　合成セグメントの合理化に関する研究／西松建設［正］井筒 克美・小林 正典・大江 郁夫
VI-598　SUリング継手の開発・実用化／清水建設［正］小瀧 伸也・大木 智明・入田 健一郎
VI-599　免震機能を有するピン挿入型リング継手構造の開発／鹿島建設［正］鈴木 義信・尾上 聡
VI-600　シールドトンネル二次覆工における中流動コンクリートの天端への適用／鹿島建設［正］古賀 進一・尾口 佳丈・佐藤 卓哉
VI-601　シールドトンネルの二次覆工における収縮低減タイプのAE減水剤の適用効果／大林組［正］川西 貴士・上畑 善行・近松 竜一

■シールドトンネル(2) ／14:30～16:00／上田 潤(大林組)
VI-602　海底下・小土被り・軟弱地盤のシールド施工実績／鹿島建設［正］佐藤 卓哉・畦地 卓哉・吉田 英信
VI-603　大断面シールド地上発進・地上到達の施工実績／鹿島建設［正］植松 正美・吉田 英信・佐藤 卓哉
VI-604　床版同時施工シールド工法(ボックスダンプ工法) ／鹿島建設［正］柏倉 翔・吉田 英信・佐藤 卓哉
VI-605　泥土圧シールドでのトリクロロエチレン汚染地盤中の掘進実績／鹿島建設［正］伊藤 圭二郎・川端 淳一・河合 達司

VI-606　シールドトンネル工事における遊離可燃性ガスの対策工／鹿島建設［正］堤 和大・酢谷 郁雄・重田 隆弘
VI-607　鹿島火力発電所7号系列増設工事に伴う取水管用3連推進トンネルの施工～既設放水路下を横断する3連推進トンネルの設計および施工概要～／大成建設［正］近藤 浩二郎・古川園 健朗・安田 浩二
VI-608　高水圧下の連続する曲線に対応した推進管と中押装置使用の施工報告／東急建設［正］野口 浩・藤澤 和隆
VI-609　パドルシールド工法による河川横断／清水建設［正］小野塚 直紘・白井 健太郎・立花 博令
VI-610　道路盛土に近接した小土被り軟弱地盤でのシールドトンネル／鴻池組［正］樋口 昌典・中川 直彦・満田 規夫

VI-10（全学教育推進機構C棟C406）／9月11日(木)

■シールドトンネル(3) ／8:45～10:15／長屋 淳一(地域地盤環境研究所)

VI-611　三重・滋賀ラインにおける鈴鹿山脈での非開削工事について―高圧ガス導管 三重・滋賀ラインにおける小口径非開削工事(その1) ―／大阪ガス［正］村瀬 賢・河田 利樹
VI-612　岩盤対応型シールドによる破砕帯掘削時におけるトラブルとその対策―高圧ガス導管 三重・滋賀ラインにおける小口径非開削工事(その2) ―／大林組［正］河田 利樹・村瀬 賢
VI-613　広域パイプライン建設の基本計画策定について(高圧ガス導管 姫路・岡山ラインにおける小断面非開削工事(その1)) ／大阪ガス［正］満田 規夫・宮川 公一
VI-614　洪積砂礫層における長距離シールド工事の掘進実績―高圧ガス導管 姫路・岡山ラインにおける小断面非開削工事(その2) ―／鹿島建設［正］平井 孝志・仙波 尚史・宮川 公一
VI-615　岩盤内におけるシールド地中ドッキングの施工実績―高圧ガス導管 姫路・岡山ラインにおける小断面非開削工事(その3) ―／鹿島建設［正］平岡 伸哉・仙波 尚史・宮川 公一
VI-616　硬質岩盤でのシールド工事の掘進実績―高圧ガス導管 姫路・岡山ラインにおける小断面非開削工事(その5) ―／鹿島建設［正］酒井 学・仙波 尚史・満田 規夫
VI-617　岩盤層を回避した長距離シールドの掘進―高圧ガス導管 姫路・岡山ラインにおける小断面非開削工事(その6) ―／鴻池組［正］桶川 宏司・弦本 優司・満田 規夫
VI-618　小口径シールドにおける硬質岩盤掘削の施工実績／鹿島建設［正］小林 忠宏・水野 静雄
VI-619　軟岩層における三次元曲線のシールド掘進実績／鹿島建設［正］筒井 紀行・杉本 誠

■シールドトンネル(4) ／10:30～12:00／久多羅木 吉治(東亜建設工業)

VI-620　耐衝撃性を考慮した多層チップビットの開発―実験・解析編―／丸和技研［正］佐々木 誠・嘉屋 文隆・森田 泰司
VI-621　多層チップビットの開発―耐衝撃性ビットの実証実験―／大成建設［正］森田 泰司・佐々木 誠・嘉屋 文隆
VI-622　二重ビットの長距離掘削および礫層掘削における施工報告／ジャパントンネルシステムズ［正］中島 芳人・森田 泰司
VI-623　電力低減と高速施工を両立した省エネシールドの開発／大林組［正］山本 裕三・足立 邦靖・阪本 公明
VI-624　二重カッター回転構造によるシールドの掘進実験／前田建設工業［正］野本 康介・安光 立也・篠原 慶二
VI-625　小断面長距離シールドのビット摩耗に対する考察／鴻池組［正］弦本 優司・土居 武・満田 規夫
VI-626　気泡シールド工法の新起泡剤による自然消泡性と施工事例／フジタ［正］余宮 正一・大井 隆資・北島 明
VI-627　環境に優しい起泡材(TAS-foam)の開発／大成建設［正］西田 与志雄・岩下 篤・大坂 衛

VI-10（全学教育推進機構C棟C406）／9月12日(金)

■シールドトンネル(5) ／8:45～10:15／津野 究(鉄道総合技術研究所)

VI-628　液化窒素を使用した凍結工法によるシールドトンネルの切開き施工／首都高速道路［正］石田 高啓・米沢 実・栗田 学
VI-629　凍結工法により低温環境下となった既設人孔と鋼製セグメント間の間隙充填工法の検討／東急建設［正］高松 伸行・久本 洋二・小崎 敏之
VI-630　都心部での非開削工法における曲線パイプルーフの挙動再現に関する試み／長岡工業高等専門学校［学］齊藤 悠耶
VI-631　共同溝分岐立坑での上向きシールド工法の施工／大成建設［正］小森 敏生・井上 信一・井櫻 潤示
VI-632　大深度・大断面シールドにおける礫層掘進の施工報告／大成建設［正］笠井 和俊・渡辺 修・新井 昌一
VI-633　大断面泥水式シールド掘進に伴う併設トンネルへの近接影響解析と計測結果／大成建設［正］麻 泰宏・立澤 延泰・池田 健
VI-634　海外における大断面道路トンネルのシールド施工(ニュージーランドウォータービュートンネル工事) ／大林組［正］川上 季伸・玉井 昭雄・山下 健司
VI-635　横浜環状北線シールドトンネルの掘進管理／首都高速道路［正］溝口 孝夫・遠藤 啓一郎・松原 健太

■シールドトンネル(6) ／10:30～12:00／玉田 康一(鹿島建設)

VI-636　泥土圧シールドのチャンバーを模擬した塑性流動実験／安藤・間［正］粥川 幸司・新原 圭祐・名倉 浩
VI-637　泥土圧シールドのチャンバーを模擬した塑性流動数値解析／安藤・間［正］西村 毅・野間 康孝・粥川 幸司
VI-638　シールド切羽可視化システムの構築と実現場への適用(その1：切羽可視化システムの導入) ／奥村組［正］外木場 康将・木下 茂樹・中村 誠喜
VI-639　シールド切羽可視化システムの構築と実現場への適用(その2：切羽可視化システムの活用) ／奥村組［F］松田 敦夫・木下 茂樹・外木場 康将
VI-640　連続計測式テールクリアランス計の開発／奥村組［正］安竹 馨・木辻 和行・鳥淵 聖史
VI-641　大口径シールドにおける方向制御方法／清水建設［正］中谷 武彦・原 忠・前田 俊宏
VI-642　RFIDを利用したシールド相対位置探査技術の開発(その1) ／大林組［正］上田 潤・山元 寛哲・松浦 亮
VI-643　RFIDを利用したシールド相対位置探査技術の開発(その2) ／大林組［正］大前 慶恵・山元 寛哲・川津 佑太
VI-644　テールシール充填用グリス材の性能比較試験／大林組［正］伊藤 透・三浦 俊彦・山元 寛哲

VI-11（全学教育推進機構C棟C408）／9月10日(水)

■技術開発(1) ／8:45～10:15／山本 多成(大林組)

VI-645　地盤評価装置の基礎杭施工への適応事例／大成建設［正］近藤 高弘・溝口 敬義・室賀 克巳
VI-646　コンクリート骨材の粒径判別システムの開発／熊谷組［正］佐藤 英明・北川 博一・戸田 修実
VI-647　シールドトンネル真円度自動測定システムの開発と実績／鹿島建設［正］紀伊 吉隆・渡辺 真介・盛岡 義郎
VI-648　頂版変形ボックスカルバートの実証実験―ヘキサカルバート／技研［正］後藤 琢磨・鷲尾 晴実・長谷川 明
VI-649　小口径推進工法における裏込め注入方法の検討／JR東日本［正］遊座 啓史・佐々木 和徳・泉 宏和
VI-650　各種混和材料を用いたコンクリートの初期強度発現に関する実験的検討／長岡技術科学大学［学］志賀 暢・三坂 岳広・宇野 洋志城
VI-651　地盤切削機構刃口を有する函体推進工法の検討／JR東日本［正］佐藤 舞衣子・桑原 清・岩瀬 隆

■技術開発(2) ／10:30～12:00／岩波 基(長岡工業高等専門学校)

VI-652　モニタリング鉄筋による城郭石垣の計測技術の開発／安藤ハザマ［正］笠 博義・西形 達明・西村 毅
VI-653　城郭石垣の変形計測のためのモニタリング鉄筋の開発／関西大学［学］蔦野 温也・西形 達明・笠 博義
VI-654　コンクリート柱状部材の動的破断面制御技術に関するモデル実験／熊本高等専門学校［正］中村 裕一・前田 一成・松浦 弘明
VI-655　PID制御を用いたバキュームディープウェルの揚水制御技術の開発／大林組［正］山田 祐樹・森尾 義彦・山本 彰
VI-656　自走式チッピングマシン開発による高精度なチッピング作業の実現／清水建設［正］勝間田 哲郎・宇野 昌利・岩渕 真
VI-657　重機遠隔操作における3Dスキャナーの活用～3D無人化施工支援システムの開発～／清水建設［正］藤吉 卓也・竹内 啓五
VI-658　新幹線高架橋防音壁補修用移動式吊り足場の開発／東鉄工業［正］山元 猛志・西島 和男・牧田 教一

■技術開発(3)・地盤改良(1) ／12:45～14:15／宇野 洋志城(佐藤工業)

VI-659　温度変化の影響によるアップサイクルブロックの長期耐久性検討／大林組［正］高坂 理紗・加納 敏行・五十嵐 寛晶
VI-660　支持力増加工法に関する基礎実験／五洋建設［正］水谷 将・三好 俊康・原 基久
VI-661　木材チップ等を用いたトラフィカビリティ向上に関する一実験／砂子組［正］山元 康弘・近藤 里史・広上 伸二
VI-662　地盤改良工事の施工計画について／大成建設［正］清水 裕雄・小川 普史・岩崎 孝夫

VI-663　杭基礎で支えられたスラブ下部の空洞充填(その1：フライアッシュ混合充填材の配合試験)／JPハイテック［正］田保 光夫・大谷 治郎・石原 耕一
VI-664　杭基礎で支えられたスラブ下部の空洞充填(その2：隔離堤構築の打設実験)／大成建設［正］水谷 篤司・大谷 治郎・石原 耕一
VI-665　杭基礎で支えられたスラブ下部の空洞充填(その3：充填施工と事後確認)／電源開発［正］石原 耕一・大谷 治郎・横山 博文

■地盤改良(2)／14:30～16:00／中出 剛(熊谷組)

VI-666　エチオピアにおける膨張性土の対策工法に関する一提案／オリエンタルコンサルタンツ［正］沖田 斉・辰巳 正明・Hiwot Mosisa
VI-667　真空圧密工法を併用する高速道路盛土の長期沈下量に対する設計値についての一考察／ネクスコ・エンジニアリング東北［正］澤野 幸輝・菊池 慎司・加藤 真司
VI-668　傾斜する基盤上で施工する低改良率セメントコラム工法に関する一考察／土木研究所［正］近藤 益央・宮武 裕昭・宮川 智史
VI-669　AWARD-Demi工法のフィールド試験(その1：試験概要)／戸田建設［正］田中 孝・赤木 寛一・近藤 義正
VI-670　AWARD-Demi 工法のフィールド試験(その2：施工性・経済性評価)／安藤ハザマ［正］増田 浩二・赤木 寛一・上原 精治
VI-671　AWARD-Demi工法のフィールド試験(その3：品質評価)／前田建設工業［正］安井 利彰・赤木 寛一・近藤 義正
VI-672　グランドフレックスモール工法を用いた液状化対策について／大成建設［正］岡嶋 修一・荒川 広樹・市波 克洋

VI-11（全学教育推進機構C棟C408）／9月11日(木)

■地盤改良(3)・耐震・免震／8:45～10:15／喜多 直之(大林組)

VI-673　国際線地区取付誘導路の液状化対策(その1) ―静的圧入締固め工法―／大成建設［正］辻岡 伸昭・新坂 孝志・松尾 秀典
VI-674　国際線地区取付誘導路の液状化対策(その2) ―高圧噴射撹拌工法―／三信建設工業［正］新坂 孝志・辻岡 伸昭・松尾 秀典
VI-675　新仙台火力発電所排熱回収ボイラ基礎における地盤ばねの合理的設定による設計の合理化／東北電力［正］佐藤 唯・斉藤 知秀・市田 賢
VI-676　円弧拘束機構を有するRC部材の実大試験体による繰返し載荷試験／鹿島建設［正］河野 哲也・山野辺 慎一・曽我部 直樹
VI-677　円弧拘束型RC製制震装置の高架橋耐震補強への適用と製作と施工／鹿島建設［正］樋川 敦・柳澤 博・岩下 直樹
VI-678　直線形鋼矢板を用いて制約条件を克服するRC橋脚の耐震補強施工計画／東鉄工業［正］新井 清貴・中井 雅義・土田 大輔
VI-679　在来線トンネル覆工背面注入による耐震補強／東鉄工業［正］馬場 康弘

■品質管理(1)／10:30～12:00／五十嵐 寛昌(鹿島建設)

VI-680　デジタル画像処理による連続粒度解析システムの開発／大成建設［正］片山 三郎・吉田 等・江田 正敏
VI-681　東松島市野蒜北部丘陵地区一次整地工事における軟岩の急速盛土の品質管理について／大成建設［正］久常 雄大・小林 真貴子・白土 稔
VI-682　新名神高速道路の品質・安全の取り組みについて／西日本高速道路［正］宇根 孝司・兼澤 秀和
VI-683　マイクロ波によるフレッシュコンクリートの単位水量連続測定システムの開発／清水建設［正］渡辺 太一・Quoc Phan・西岡 真帆
VI-684　シールド到達開口を有する大規模・大深度ニューマチックケーソン立坑工事／大成建設［正］小松 祥子・泊 聖吾・味吉 修一
VI-685　軟弱地盤の道路上空にを跨ぐPC箱桁構築時の品質確保に向けた取組み／東急建設［正］長野 竜馬・田中 卓也・服部 尚道
VI-686　軟弱地盤上に盛土した鉄道用路盤の品質管理／東鉄工業［正］藤生 純之・米澤 歩・森田 好夫
VI-687　自動認識技術を用いた構造物管理支援ツール構築に向けた機能研究／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］佐久間 賢・石間 計夫・田原 孝

VI-11（全学教育推進機構C棟C408）／9月12日(金)

■品質管理(2)／8:45～10:15／武田 均(大成建設)

VI-688　防雪柵の小口径鋼管杭に関する摩擦特性に関する現場実験／砂子組［正］田中 孝宏・塩田 佑樹・好川 敏
VI-689　防雪柵用小口径鋼管杭の剛性評価と曲げ特性に関する一実験／砂子組［正］塩田 佑樹・田中 孝宏・近藤 里史
VI-690　覆工コンクリートの表層品質評価手法の確立と品質向上への取組み(その1) ―目視評価―／西松建設［F］佐藤 幸三・小滝 恵三・細田 暁
VI-691　覆工コンクリートの表層品質評価手法の確立と品質向上への取組み(その2) ―表面吸水試験(SWAT) ―／西松建設［F］伊藤 忠彦・林 和彦・細田 暁
VI-692　橋梁高欄に発生するひび割れ防止対策について／勝井建設［正］勝井 勇次・勝井 優・原 隆
VI-693　凍害を受けない地域におけるNon-AEコンクリートの使用に関する一考察／安藤ハザマ［正］白岩 誠史・高山 博文
VI-694　ダム用コンクリート締固め判定手法の開発／大林組［正］上高 克弘・古屋 弘・久保 貴士
VI-695　世界最大級の地下式LNGタンクの地中連続壁コンクリートの配合選定と施工時の品質試験結果／大林組［正］多田 栄一・前田 敬一郎・桜井 邦昭

■土留め(1)／10:30～12:00／中満 光広(清水建設)

VI-696　UD-HOMET工法による地中連続壁大深度施工について／大成建設［正］奥村 卓也・橋本 聡・小暮 英雄
VI-697　透し掘り連続壁工法(SATT工法)による営業線直下の路下連続壁の施工について／大成建設［正］渡辺 典男・片上 貴文・齋藤 力哉
VI-698　世界最大級LNG地下タンクの円筒土留めの設計および山留め計測結果／大林組［正］前田 敬一郎・仙名 宏・小林 且典
VI-699　TRD工法による大深度地中連続壁施工について／大成建設［正］田村 憲・高橋 俊幸・小暮 英雄
VI-700　大深度・硬質地盤におけるTRD工法の適用実績／鹿島建設［正］竹内 業史・遠藤 正隆・渡辺 幹広
VI-701　営業線シールドトンネル直上における土留め工の計画と設計―その1／大成建設［正］熊谷 翼・宮原 賢一・伊藤 健治
VI-702　営業線シールドトンネル直上における土留め工の計画と設計―その2／大成建設［正］尾関 孝人・兜 俊彦・上野 修彦

■土留め(2)／15:00～16:30／大田 佳紀(大成建設)

VI-703　グラウンドアンカーを併用した斜め土留め工法の適用事例／大林組［正］青木 峻二・前田 知就・森山 清司
VI-704　ダム湖に面する傾斜地盤における鋼管矢板円形土留の設計／大成建設［正］廣末 龍文・岡嶋 和義・小原 伸高
VI-705　河川内硬質砂礫地盤における土留め鋼矢板の適用性／大林組［正］増田 裕之・真鍋 正弘・西原 章智
VI-706　鋼矢板立坑からFRP矢板を用いた推進機直接発進の施工報告／錢高組［正］白子 将則・内田 淳美・山本 博之
VI-707　躯体の三次元効果を考慮した盛替え梁の簡素化／大林組［正］高野 金幸・高橋 正登・山下 徹
VI-708　N 値10 以上の礫混じり砂質地盤への自穿孔型ラディッシュアンカーの適用／東急建設［正］小笠原 広志・池田 澄人・梅田 博史
VI-709　自穿孔型小口径ラディッシュアンカーの改良／東急建設［正］満尾 淳・小笠原 広志・田中 卓也

第Ⅶ部門　環境計画・管理、環境システム、用排水システム、廃棄物、環境保全など

Ⅶ-1（全学教育推進機構C棟C101）／9月10日(水)

■用排水処理技術(1)／8:45～10:15／千野 裕之(大林組)

Ⅶ-001　平膜状浸漬型MBRにおいて曝気に伴う平膜モジュールの振動パターンの検討／東京都市大学［学］酒井 駿治・長岡 裕
Ⅶ-002　セラミック平膜を用いた膜分離活性汚泥法における逆洗浄工程考慮の膜間差圧上昇モデルの構築／東京都市大学［学］丸林 修・長岡 裕
Ⅶ-003　MBRにおけるMPCポリマー加工膜のファウリング抑制効果／東京都市大学［学］新井 広基・長岡 裕・中島 光康
Ⅶ-004　メンブレンモジュール表面上に設置したバッフル棒の効果―PTV法を用いた流体挙動計測による考察―／函館工業高等専門学校［正］大久保 孝樹・山本 和夫・西野 耕一
Ⅶ-005　水素および酸素を注入する地下水原位置脱窒法の数学モデルに関する研究／早稲田大学［学］内藤 克貴・葉 堅・木我 紅音
Ⅶ-006　熱帯域における酸化池の水質シミュレーションに関する研究／早稲田大学［学］佐藤 愛澄・榊原 豊
Ⅶ-007　海洋水族博物館における新規補給水低減循環システムの性能評価／長岡技術科学大学［学］古川 斐人・山口 隆司・川又 睦
Ⅶ-008　UASB-DHSシステムを用いた天然ゴム製造工程廃水の処理手法開発／長岡技術科学大学［学］渡利 高大・谷川 大輔・山口 隆司

■用排水処理技術(2)／10:30～12:00／笠原 伸介(大阪工業大学)

Ⅶ-009　海水魚飼育水槽における閉鎖循環式水処理システムの実証試験／大成建設［正］川又 睦・日下 潤・森 正人
Ⅶ-010　放線菌(2012)を用いた高濃度有機排水の連続処理実験の検討／日本大学［学］薄葉 涼・高橋 岩仁・大沢 吉範
Ⅶ-011　養豚廃水を想定した堆肥炭化物を用いたアンモニア除去／宮崎大学［正］土手 裕・関戸 知雄・上田 浩三
Ⅶ-012　下水からの栄養塩除去を目的とした嫌気・無酸素回分式リアクターの処理時間が処理性能に及ぼす影響評価／長岡技術科学大学［学］小林 智裕・幡本 将史・山口 隆司
Ⅶ-013　嫌気性グラニュール汚泥を構成する複合微生物群の網羅的群集構造解析／長岡技術科学大学［学］黒田 恭平・中原 望・幡本 将史
Ⅶ-014　嫌気的硫黄酸化反応に対する供給基質種の影響調査／長岡技術科学大学［学］チャンティ タントゥイ・大槻 洸太・黒田 恭平
Ⅶ-015　循環回数による硝化型DHSリアクターの硝化能力への影響／長岡技術科学大学［学］中野 遼太・山口 隆司・幡本 将史

■物理化学処理／12:45～14:15／井出 一貴(大林組)

Ⅶ-016　円筒型太陽熱淡水化装置による塩性化した溜め池の水質浄化試験―バングラデシュ、パイガザ地域での水環境改善活動―／福井大学［正］寺崎 寛章・Shafiul Islam・梅村 朋弘
Ⅶ-017　木質混合土の降雨による除塩効果の確認／鹿島建設［正］柳 雅之・大野 貴子・高砂 裕之
Ⅶ-018　東北塩害水田における湛水期間中の塩移動／福井大学［学］竹崎 寛之・寺崎 寛章・福原 輝幸
Ⅶ-019　管路屈折部で生じる乱れを利用したコンパクトな濁水処理装置の開発／大成建設［正］忠野 祐介・片倉 徳男・川又 睦
Ⅶ-020　竹炭によるセシウムイオンの吸着能の向上 ～pH調整及び洗浄処理の影響～／九州大学［学］内川 祐志・久場 隆広・藤田 琳太郎
Ⅶ-021　微細珪砂を用いた無薬注砂ろ過における微生物付着特性と濁質除去効果／大阪工業大学［学］東川 昇平・笠原 伸介・石川 宗孝
Ⅶ-022　電気化学的促進酸化処理法におけるテトラサイクリンの分解・無害化処理／早稲田大学［学］川田 英史・潮 俊希・榊原 豊
Ⅶ-023　膜ろ過法を用いた濁水処理システム／五洋建設［正］田中 裕一・中村 勝俊・帯田 俊司

■廃水処理・資源化／14:30～16:00／惣田 訓(大阪大学)

Ⅶ-024　メタン発酵消化液を対象とした高度処理技術開発／長岡技術科学大学［学］出嶌 京太・齋藤 安佐美・大坂 典子
Ⅶ-025　微細藻類を用いたメタン発酵残液の処理に関する基礎的検討／大阪工業大学［学］古田 大地・古崎 康哲・石川 宗孝
Ⅶ-026　2槽式UASB-DHS法による油脂含有廃水の処理性能とオゾン処理の効果／高知工業高等専門学校［学］岡崎 信二・山崎 慎一・山口 隆司
Ⅶ-027　メタン発酵消化液利用による微細藻ヘマトコッカスの培養に関する検討／大林組［正］山本 縁・千野 裕之・大島 義徳
Ⅶ-028　糖化工程を省略したエタノール発酵の効率化に関する検討／新潟県立上越総合技術高等学校［正］大森 将希・高橋 岩仁・木科 大介
Ⅶ-029　連続式リアクターによる模擬厨芥からのエタノール生産に関する研究／大阪工業大学［学］田中 量也・古崎 康哲・石川 宗孝
Ⅶ-030　熱水処理によるセルロース系バイオマスからの資源回収量向上への効果／長岡技術科学大学［学］菅生 亜美・小笠原 渉・山口 隆司

Ⅶ-1（全学教育推進機構C棟C101）／9月11日(木)

■振動／8:45～10:15／齋藤 邦夫(中央大学)

Ⅶ-031　地下鉄開削トンネルにおける列車走行時振動の測定例／鉄道総合技術研究所［正］津野 究・伊積 康彦・折原 佳帆
Ⅶ-032　地下鉄開削トンネルにおける列車振動伝播性状の解析例／早稲田大学［学］折原 佳帆・赤木 寛一・津野 究
Ⅶ-033　平地区間における列車走行時の地盤振動シミュレーションの基礎検討／鉄道総合技術研究所［正］蒲原 章裕・加藤 信二郎・横山 秀史
Ⅶ-034　高架橋基礎を用いた起振試験の再現および振動伝播特性の把握／鉄道総合技術研究所［正］加藤 信二郎・横山 秀史
Ⅶ-035　建設作業振動に対する地表面上での制御に関する解析的検討／東京工業大学［学］長沼 俊介・松本 泰尚・小林 真人
Ⅶ-036　列車の軸距および台車中心間隔の変更による地盤振動の低減効果の検討／鉄道総合技術研究所［正］新田 琢磨・加藤 信二郎・蒲原 章裕
Ⅶ-037　特殊ポリウレタン発泡体による工事振動の低減効果 その3.現場適用後の物性試験結果／飛島建設［正］小林 真人・内田 季延・永住 亮
Ⅶ-038　防振壁による地盤振動低減に関する模型実験／JR東日本［正］金田 淳・池本 宏文

■騒音／10:30～12:00／北川 敏樹(鉄道総合技術研究所)

Ⅶ-039　音楽を使った鉄道騒音の対策法に関する検討／前橋工科大学［学］若山 大知・谷口 望・田中 恒夫
Ⅶ-040　防音パネルとANC装置を併用した重機騒音の低減効果／不動テトラ［正］小林 純・山口 博久・前川 裕之
Ⅶ-041　サイドブランチ型消音器による低周波騒音の低減／前田建設工業［正］赤坂 雄司・山田 哲也・藤橋 克己
Ⅶ-042　工事騒音の広域監視システムの開発／東洋建設［正］松本 典人・山本 耕三・藤岡 淳
Ⅶ-043　騒音対策としての下部覆工の効果について／JR西日本［正］花房 厚希・相原 修司・小島 誉

Ⅶ-1（全学教育推進機構C棟C101）／9月12日(金)

■環境影響評価／8:45～10:15／小林 功(パシフィックコンサルタンツ)

Ⅶ-044　マイクロコズムシステムの全排水毒性試験(WET)への適用の基礎的検討／千葉工業大学［正］村上 和仁・小浜 暁子
Ⅶ-045　Pollution budget of Fukushima nuclear power plant accident／長崎大学［正］小川 進
Ⅶ-046　地域未利用資源を用いた底質改善法における栄養塩抑制と生態系影響解析／千葉工業大学［学］吾妻 咲季・村上 和仁・五明 美智男
Ⅶ-047　発展途上国における下水道管きょ布設工事に伴う道路渋滞による環境影響評価／国土技術政策総合研究所［正］川住 亮太・大西 宵平・松橋 学
Ⅶ-048　トンネル工事を対象とした設計条件の違いによるCO_2排出分析／日本工営［正］菅林 恵太・角湯 克典・井上 隆司
Ⅶ-049　生産活動で発生したCO_2を用いた植生栽培促進システムに関する基礎技術／茨城大学［学］今井 友桂子・神澤 雅典・桑原 祐史
Ⅶ-050　CO_2濃度変動に着目したCO_2環境評価指標の提案に向けて―茨城県を対象とした検討を通して―／茨城大学［学］石井 健太・神澤 雅典・今井 友桂子

■環境創造ビオトープ／10:30～12:00／渡邉 和好(土木研究所)

Ⅶ-052　インターバルカメラを使用した猛禽類繁殖期のモニタリング事例その2／パシフィックコンサルタンツ［正］漆原 強・池田 幸資・小林 功

Ⅶ-053　道路事業におけるキタサンショウウオの保全の取り組みについて／パシフィックコンサルタンツ［正］小林 功・山田 浩行・上月 佐葉子
Ⅶ-054　新名神(高槻～箕面間)建設における希少動物保全の取り組みについて／NEXCO西日本［正］土井 翔悟
Ⅶ-055　絶滅危惧種ルイスハンミョウの生息場創出に向けた提案／徳島大学［学］山本 龍兵・渡辺 雅子・上月 康則
Ⅶ-056　希少生物ヒメボタル生息地の保全／フジタ［正］小林 紀子・菅原 玲子・石田 敬
Ⅶ-057　サンゴ幼生の着床を目的としたモルタル製着床具の実海域性能評価実験／大成建設［正］片倉 徳男・古田 敦史
Ⅶ-058　バイオテレメトリーによるニホンザリガニ行動特性の調査研究／ドーコン［正］村上 弘樹・高松 慎吾・石塚 正仁
Ⅶ-059　高速道路盛土のり面樹林における環境影響について／西日本高速道路［正］川原田 圭介

■森林・植生／15:00～16:30／川原田 圭介(西日本高速道路)

Ⅶ-060　リモートセンシング技術による植栽台帳作成について／西日本高速道路エンジニアリング中国［正］品川 武・川西 良宜・小澤 徹三
Ⅶ-061　食品由来の生分解性法枠材による植生試験／大成建設［正］大野 剛・川又 睦・片倉 徳男
Ⅶ-062　大島空港における自然林再生の取組み／東京都港湾局［正］大和田 元・長山 英樹・小笠原 美教
Ⅶ-063　新潟地域の鉄道林の効率的な維持管理について／JR東日本［正］小野 由貴子・小林 武史・四宮 卓夫
Ⅶ-064　在来種を用いた堤防法面植栽の草刈りによる被度変化について／土木研究所寒地土木研究所［正］渡邉 和好・林田 寿文・矢部 浩樹
Ⅶ-065　朝日連峰以東岳 ～ヤシ繊維土嚢および粗朶を用いた登山道修復について～／復建技術コンサルタント［正］佐藤 高広・橋田 明良・松崎 克弥
Ⅶ-066　寒冷地域におけるヤナギ種子の河川流下特性に関する現地観測／寒地土木研究所［正］佐藤 好茂・渡邉 和好・丸山 政浩

Ⅶ-2（全学教育推進機構C棟C102）／9月10日(水)

■埋立処分場管理／8:45～10:15／和田 有朗(神戸山手大学)

Ⅶ-067　ベントナイトの膨潤力とベントナイト混合土の遮水性に関する検討／大林組［正］柴田 健司・日笠山 徹巳・田島 孝敏
Ⅶ-068　箱形鋼矢板に土質系遮水材を充填した鋼製鉛直遮水壁の遮水性能評価～その1 膨潤性遮水材を塗布した箱形鋼矢板の施工性調査～／新日鐵住金［正］永尾 直也・堤 彩人・渡部 要一
Ⅶ-069　箱形鋼矢板に土質系遮水材を充填した鋼製鉛直遮水壁の遮水性能評価～その2 高品質材料を用いた土質遮水材の品質管理～／五洋建設［正］奥田 一弘・上野 一彦・葛 拓造
Ⅶ-070　箱形鋼矢板に土質系遮水材を充填した鋼製鉛直遮水壁の遮水性能評価 ～その3 膨潤性遮水材を塗布した箱形鋼矢板の遮水性能評価～／五洋建設［正］堤 彩人・吉田 誠・山田 耕一
Ⅶ-071　有機性廃棄物の通気性改善に関する実験的検討／大成建設［正］海老原 正明・堀井 安雄・滝本 太郎
Ⅶ-072　石炭灰スラリー埋立における埋立密度に関する基礎検討／セイア 環境エンジニアリング事業課［正］野中 陽介・緒方 哲治・鍵本 広之
Ⅶ-073　廃棄物層の間隙における流動域―非流動域間の物質交換の定量化に関する基礎的研究／九州大学［学］花木 陽人・島岡 隆行・小宮 哲平

■廃棄物処理・リサイクル／10:30～12:00／水谷 聡(大阪市立大学)

Ⅶ-074　災害廃棄物の処理過程における廃棄物の重量変化についての考察／大成建設［正］大久保 英也・亀井 哲朗
Ⅶ-075　東日本大震災における放射性物質汚染土壌に関する調査研究／早稲田大学［学］冨田 淳・生井 秀浩・榊原 豊
Ⅶ-076　災害廃棄物・津波堆積物の改質・改良土の緑化利用検討／鹿島建設［正］大野 貴子・柳 雅之・間宮 尚
Ⅶ-077　カルシウム法による下水汚泥焼却灰からのリン回収繰り返し実験／大同大学［学］葉 妹燦・堀内 将人
Ⅶ-078　小型家電リサイクルの促進と地域コミュニティ形成との関連性における住民意識の考察／神戸山手大学［正］和田 有朗・中野 加都子
Ⅶ-079　小型家電ボックス回収の導入2年目以降のデータに着目した分析／首都大学東京［学］黒田 政樹・荒井 康裕・稲員 とよの
Ⅶ-080　震災がれき焼却主灰を骨材利用したセメント硬化体の材料特性／西松建設［正］椎名 貴快・平野 孝行・久田 真
Ⅶ-081　地上コイルモールド樹脂リサイクル手法の検討／鉄道総合技術研究所［正］高橋 紀之

■土壌地下水汚染(1) ／12:45～14:15／大石 雅也(大成建設)

Ⅶ-082　新規酸化剤を用いた有機汚染物質分解技術の研究／大林組［正］緒方 浩基・西田 憲司
Ⅶ-083　セメント系改良材を用いた油含有土壌の固化・不溶化処理の適用事例／西松建設［正］三浦 嘉仁・山崎 将義・浅井 靖史
Ⅶ-084　VOCs汚染多層地盤を対象とした生物処理による原位置浄化事例／大林組［正］竹崎 聡・西田 憲司・日笠山 徹巳
Ⅶ-085　油汚染土のバイオレメディエーション促進に関する室内試験／大林組［正］西川 直仁・大島 義徳・村中 博
Ⅶ-086　塩素化エチレン類の浄化に効果的な有機資材の微生物診断による評価／大成建設［正］伊藤 雅子・高畑 陽・山副 敦司
Ⅶ-087　即効性有機資材を用いる塩素化エチレン汚染地下水の原位置浄化における安全性検討／大成建設［正］高畑 陽・伊藤 雅子・松倉 智子
Ⅶ-088　生石灰による改良土からのアルカリ流出の検証／大林組［正］福武 健一・三浦 俊彦・西川 直仁

■土壌地下水汚染(2) ／14:30～16:00／緒方 浩基(大林組)

Ⅶ-089　砒素の溶出を抑制できる環境配慮型のシールド工事用起泡剤の開発(その1) ―起泡剤組成選定試験の報告―／ライオン［正］足立 とう子・野田 泰史・木村 志照
Ⅶ-090　砒素の溶出を抑制できる環境配慮型のシールド工事用起泡剤の開発(その2) ―現場施工試験の報告―／大林組［正］木村 志照・千野 裕之・足立 とう子
Ⅶ-091　放射性セシウム汚染固体廃棄物の除染にフェロシアン化物共沈法を利用した時の減容率／京都大学［正］藤川 陽子・魏 鵬飛・津野 洋
Ⅶ-092　濃尾平野南西部のG1地下水圏における無機態ヒ素､有機態ヒ素の吸着挙動／岐阜大学［学］河合 祐輔・加藤 雅彦・佐藤 健
Ⅶ-093　逐次抽出分析法によるフッ素の存在形態の検討／鹿島建設［正］河野 麻衣子・河合 達司・川端 淳一
Ⅶ-094　細粒分に対応した環境配慮型オンサイト大規模土壌洗浄法の浄化事例／大成建設［正］大石 雅也・平岡 康之・中根 友理
Ⅶ-095　薬材浸透により構築した汚染拡散防止壁に関する耐久性確認／大林組［正］西田 憲司・三浦 俊彦・日笠山 徹巳

Ⅶ-2（全学教育推進機構C棟C102）／9月11日(木)

■環境評価・環境教育／8:45～10:15／上野 賢仁(崇城大学)

Ⅶ-096　道路路面特性の違いによる自動車からの二酸化炭素排出量の測定／国土技術政策総合研究所［正］長浜 庸介・小川 智弘・角湯 克典
Ⅶ-097　建設機械実稼働状態の排出ガスにおける通常モードと省燃費モードの比較について／土木研究所［正］西山 章彦・杉谷 康弘・藤野 健一
Ⅶ-098　バイオディーゼル燃料の排出ガス特性について／土木研究所［正］杉谷 康弘・藤野 健一・上野 仁士
Ⅶ-099　地域密着型プラスチックリサイクルシステムによる温室効果ガス削減効果について／和歌山工業高等専門学校［正］鶴巻 峰夫・齊藤 聖也
Ⅶ-100　路地環境に関する住民志向の把握：テキストマイニングによる課題の抽出／佛教大学［正］水上 象吾
Ⅶ-101　ビオトープの構造要素を用いた身の回りの環境調査／千葉工業大学［学］池田 真啓・五明 美智男
Ⅶ-102　道路環境保全を通した小学校教育への取り組みについて―ニホンザリガニを活用した事例―／パシフィックコンサルタンツ［正］尾籠 健一・山田 浩行・佐々木 克典
Ⅶ-103　衛生管理型漁港と水産物トレーサビリティ／全日本漁港建設協会［正］長野 章・中村 隆・林 浩志

■熱環境・エネルギー／10:30～12:00／石内 鉄平(明石工業高等専門学校)

Ⅶ-104　通信用トンネル内空気のビル空調への活用に関する基礎的検討／NTTアクセスサービスシステム研究所［正］森 治郎・勝木 康博・矢頭 高広
Ⅶ-105　天空率に着目した地上到達紫外線量の実態把握／明石工業高等専門学校［学］高田 優・石内 鉄平・中澤 春花
Ⅶ-106　道路施設における省エネルギー化に資する技術・再生可能エネルギー技術の導入展望／国土技術政策総合研究所［正］大河内 恵子・吉永 弘志・角湯 克典
Ⅶ-107　スパイラル地中熱交換器の採熱性能に関する現場実験／清水建設［正］米山 一幸・鈴木 道哉・大江 基明

Ⅶ-108　太陽熱温水システムの伝熱特性に関する一考察／福井大学［学］赤尾 拓哉・奥田 麗・齊田 光
Ⅶ-109　河川水を利用した無散水融雪設備の路面加温効果／日揮プラントイノベーション［正］山元 謙侑・寺崎 寛章・齊田 光
Ⅶ-110　熊本市中心街区の熱環境の時空間評価に関する事例研究／崇城大学［正］上野 賢仁・志岐 裕介・土井 聡史

Ⅶ-2（全学教育推進機構C棟C102）／9月12日(金)

■水環境モニタリング／8:45～10:15／古川 隼士(大分工業高等専門学校)
Ⅶ-111　2013／14年インフルエンザシーズンにおける河川中のタミフルおよびタミフル代謝物濃度について／大阪産業大学［正］高浪 龍平・谷口 省吾・林 新太郎
Ⅶ-112　ファージディスプレイ法を利用した特定微生物検出・回収技術のハイスループット化の検討／新潟薬科大学［正］井口 晃徳・佐々木 波輝・原田 秀樹
Ⅶ-113　酵素反応を必要としない蛍光増幅技術(HCR法)を用いた環境微生物のmRNAの視覚的検出方法の開発／長岡技術科学大学［学］大宮 恭平・山口 剛士・幡本 将史
Ⅶ-114　セレンの分析における干渉効果低減方法の提案／レアックス［正］三代 雅崇・城 まゆみ・橋本 祐太
Ⅶ-115　湿性沈着の時空間変化における観測的研究／京都光華女子大学・大阪成蹊大学・大阪成蹊短大［正］千田 眞喜子・中村 望美・葛葉 泰久
Ⅶ-116　ため池底質土における元素2次元分布の特徴／岐阜大学［正］加藤 雅彦・平田 翔太郎・小川 翔平
Ⅶ-117　有明海湾奥部における懸濁性物質の長期的変動特性に関する研究／佐賀大学［学］永瀬 真豪・Vongthanasunthorn Narumol・三島 悠一郎
Ⅶ-118　海水の緩衝作用を考慮した三次元pHシミュレーションモデル／東亜建設工業［正］五十嵐 学・肴倉 宏史・水谷 聡

■水資源・上下水道管理／10:30～12:00／藤川 陽子(京都大学)
Ⅶ-119　気候変化による森林樹種分布の変化を考慮した日本域の流出量への影響評価／東京大学［正］守利 悟朗・中尾 勝洋
Ⅶ-120　貯水池に流入する濁質に含まれるマンガンの経年変化分析／首都大学東京［正］山崎 公子・横山 勝英・小泉 明
Ⅶ-121　矩形TSSにおける地表反射率が造水特性に与える影響に関する研究／広島工業大学［学］三角 彰・石井 義裕・小畠 好明
Ⅶ-122　ハイハウ海岸を対象とした海岸堤防後背地土地被覆の経年変化分析／茨城大学［正］桑原 祐史・中郡 俊文・安原 一哉
Ⅶ-123　配水管網における事故に伴う減水率の推定に関する一考察／首都大学東京［学］荻野 恵理・稲員 とよの・荒井 康裕
Ⅶ-124　途上国の水道管路更新計画における基幹管路ネットワークの選定方法に関する一考察／首都大学東京［学］阿部 翔・荒井 康裕・稲員 とよの
Ⅶ-125　雨水利用実験住宅での雨水活用による流出抑制効果の検証／福岡大学［正］渡辺 亮一・浜田 晃規・伊豫岡 宏樹

■水質浄化技術／15:00～16:30／加藤 雅彦(岐阜大学)
Ⅶ-126　ウッドチップ混入ポーラスモルタルへのセシウムの吸着挙動／群馬大学［正］森 勝伸・金澤 康平・半井 健一郎
Ⅶ-127　廃棄物浸出水硝化のリン添加による促進効果の確認／神戸大学［学］井上 晃介・道奥 康治・中村 友哉
Ⅶ-128　エストロゲン類の高効率電解処理に関する研究／早稲田大学［学］岩谷 総太・VO Cong・榊原 豊
Ⅶ-129　コールドトラップ法によるペルフルオロ化合物の電解後生成ガス中のフッ素化合物捕集の試み／京都大学［学］橋口 亜由未・藤川 陽子・米田 稔
Ⅶ-130　Microcystisの生態工学的増殖抑制技術の開発／九州大学［学］西村 幸明・郝 愛民・井芹 寧
Ⅶ-131　尼崎運河水質浄化施設での2013年の浄化能低下の要因と対策について／徳島大学［学］大熊 康平・山中 亮一・上月 康則
Ⅶ-132　リアルタイムPCR法による下水処理過程における薬剤耐性遺伝子の定量／大分工業高等専門学校［正］古川 隼士・橋本 怜奈・米加田 徹

共通セッション

CSの1会場(豊中総合学館301）／9月10日(水)

■計算力学(1) ／8:45～10:15／紅露 一寛(新潟大学)
CS11-001　高低マッハ数流れ場における3次元圧縮性流体の並列計算手法／大成建設［正］宮木 伸・牛島 省・青木 一真
CS11-002　粒子法による防波堤の浸透破壊シミュレーションに向けた基礎検討／九州大学［学］森本 敏弘・浅井 光輝・笠間 清伸
CS11-003　3次元並列VOF法に基づく大規模津波シミュレーションとその可視化／中央大学［学］不室 太希・田中 聖三・樫山 和男
CS11-004　自由落下する球の構造流体連成解析／日本大学［F］野村 卓史・本橋 拓磨
CS11-005　一般化有限要素法による自由表面流れ解析に関する研究／茨城大学［学］阿部 俊逸・車谷 麻緒・渡邉 義仁
CS11-006　熱収支を考慮した安定化有限要素法による非等温場解析／中央大学［学］堀池 慎治・樫山 和男
CS11-007　安定化有限要素法による建物倒壊を考慮した津波シミュレーション／中央大学［学］大野 友平・高橋 佑典・大川 博史

■計算力学(2) ／10:30～12:00／車谷 麻緒(茨城大学)
CS11-008　浸透流解析における流跡線描画のための後処理／清水建設［正］櫻井 英行・白石 知成・山田 貴博
CS11-009　VR技術を用いた津波疑似体験システムの構築／中央大学［学］川辺 赳史・江嶋 孝・樫山 和男
CS11-010　多相場モデルを用いた高温固体周りの自然対流の数値計算／京都大学［学］鳥生 大祐・牛島 省・青木 一真
CS11-011　安定化有限要素法を用いた自由表面流れ解析における流体力の精度検証／中央大学［学］太田 真貴子・不室 太希・樫山 和男
CS11-012　弾性波動を利用した非破壊検査における粒子フィルタ適用性の検討／東北大学［学］鵜之沢 均・加藤 準治・高瀬 慎介
CS11-013　個別要素法の微視的パラメータ同定に対する応答曲面法の適用について／清水建設［正］郷家 光男・櫻井 英行
CS11-014　個別要素法による落石シミュレーションにおける形状精度と解析精度の関係／東北大学［学］橘 一光・森口 周二・寺田 賢二郎

■計算力学(3) ／12:45～14:15／中畑 和之(愛媛大学)
CS11-015　Material Point Method を用いた三軸圧縮試験の三次元解析その1:解析条件と破壊形態／清水建設［正］桐山 貴俊・福武 毅芳
CS11-016　Material Point Methodを用いた三軸圧縮試験の三次元解析その2：破壊形態に与える各種要因／清水建設［正］福武 毅芳・桐山 貴俊
CS11-017　フェーズフィールド法によるミクロ構造トポロジー最適化の基礎的研究／東北大学［学］加茂 純宜・加藤 準治・高瀬 慎介
CS11-018　拡張下負荷面モデルを用いた繰り返し弾塑性有限要素解析のための時間域均質化法／新潟大学［学］大窪 和輝・紅露 一寛・阿部 和久
CS11-019　RC構造物の物質拡散・腐食および力学的損傷を考慮した劣化予測解析／東北大学［学］西 紳之介・寺田 賢二郎・森口 周二
CS11-020　メタヒューリスティックに基づく材料パラメータ同定手法とその性能評価／東北大学［学］太田 勇真・寺田 賢二郎・森口 周二
CS11-021　損傷モデルによる異形鉄筋周辺の3次元内部ひび割れの再現解析／茨城大学［学］根本 優輝・車谷 麻緒・岡崎 慎一郎
CS11-022　3次元非構造メッシュ修正システムの要素細分化機能の提案／中央大学［学］今西 準紀・田中 智・樫山 和男

■計算力学(4) ／14:30～16:00／森口 周二(東北大学)
CS11-023　位相差をもつ波動入射を受ける周期連続橋・地盤連成系の3次元定常応答解析／新潟大学［学］古里 駿・阿部 和久・Pher Errol Balde QUINAY
CS11-024　CQ-BEMを用いた空気超音波法の2次元及び3次元数値シミュレーション／東京工業大学［学］丸山 泰蔵・斎藤 隆泰・廣瀬 壮一

CS11-025　一般音響異方性を伝搬する超音波のボクセル有限要素解析とその高速化の検討／愛媛大学［学］小畠 一朗・中畑 和之・紙田 聖也
CS11-026　境界要素法による大規模3次元音場シミュレーション／中央大学［学］岡村 理一郎・吉川 仁・樫山 和男
CS11-027　空孔配置によるトンネル発破振動低減効果の検討／新潟大学［学］齋藤 優・若月 和人・阿部 和久
CS11-028　VR 技術に基づく道路交通騒音評価システムの適用性の向上／中央大学［学］吉町 徹・江嶋 孝・樫山 和男
CS11-029　異方性飽和多孔質弾性体の3次元波動問題に対するLaplace像空間における基本解／東京工業大学［正］古川 陽・斎藤 隆泰・廣瀬 壮一
CS11-030　鉄道軌道の水平変位に関する臨界速度の外乱鋭敏性／新潟大学［学］丸山 聖司・阿部 和久・紅露 一寛

CSの1会場(豊中総合学館301) ／9月11日(木)

■地下空間の多角的利用(1) ／8:45～10:15／武田 誠(中部大学)

CS4-001　津波氾濫時における密集市街地の地下空間浸水について／関西大学［学］浅野 統弘・森本 陽介・尾崎 平
CS4-002　高潮氾濫時における密集市街地の地下空間浸水について／関西大学［学］濱口 舜・石垣 泰輔・島田 広昭
CS4-003　社会インフラ施設の防災・減災に向けた地下水利用に関する調査(その1) ／基礎地盤コンサルタンツ［正］吉川 猛・柳 博文・中村 静也
CS4-004　社会インフラ施設の防災・減災に向けた地下水利用に関する調査(その2) ／大成建設［正］下村 雅則・池田 孝夫・柴田 晋
CS4-005　社会インフラ施設の防災・減災に向けた地下水利用に関する調査(その3) ／竹中工務店［正］稲葉 薫・平野 孝行・藤川 富夫
CS4-006　外水氾濫時における密集市街地の地下浸水について／関西大学［学］増田 達紀・石垣 泰輔・島田 広昭
CS4-007　内水氾濫時の大規模地下空間浸水時の安全避難について／関西大学［学］吉川 雅志・森本 陽介・川中 龍児

■地下空間の多角的利用(2) ／10:30～12:00／三田 武(日建設計シビル)

CS4-008　アンダーパス浸水時の自転車による避難に関する体験実験／京都大学［正］戸田 圭一・石垣 泰輔・馬場 康之
CS4-009　地下空間内の安全確保に役立つ人材育成のための調査事例／神戸学院大学［F］中山 学
CS4-010　大谷採石地下空間に対する利用者評価と環境負荷および地下位を考慮した施設利用可能性の検討／宇都宮大学［学］多田 海成・岡崎 耀子・田中 純
CS4-011　仮受け防護工事施工中の鉄道函体の挙動／東海旅客鉄道［正］齋藤 力哉・小野寺 聡・土屋 正宏
CS4-012　CO_2溶解水の中和能力算定のための岩石溶解特性／大林組［正］鈴木 健一郎・三好 悟・人見 尚
CS4-013　CO_2地中中和処理実証試験地選定のための炭酸塩鉱物分布量調査／大林組［正］奥澤 康一・鈴木 健一郎・三井田 英明
CS4-014　200℃に曝露された坑井セメント硬化体の微細構造と強度に関する基礎的研究／埼玉大学［正］浅本 晋吾・金冨 明恵

CSの1会場(豊中総合学館301) ／9月12日(金)

■土木教育一般(1) ／8:45～10:15／岡村 未対(愛媛大学)

CS1-001　積算演習の取組み ～積算から土木を学ぶ～／東京工科大学・日本工学院専門学校［正］伊藤 武志・関 博・片倉 昌充
CS1-002　技術者倫理を取り入れた授業の実践／兵庫県立篠山産業高等学校［正］岡田 和久
CS1-003　加速度計を利用したバーチャル振動実験教材の開発について／和歌山工業高等専門学校［正］辻原 治・野尻 晶友・山村 猛
CS1-004　クラウドストレージを活用した構造力学の授業・演習の実践とこれによる自学自習の促進の可能性について／大分工業高等専門学校［正］名木野 晴暢・足立 忠晴
CS1-005　学び合いによる「水理学」教育とその効果―初学者を対象として―（その2）／北海道大学［正］田中 岳
CS1-006　自律的学習を促すデザイン学習プログラム／山梨大学［正］岡村 美好
CS1-007　リモートセンシング解析と海外研修との連携実習の試行／苫小牧工業高等専門学校［正］栗山 昌樹・渡辺 暁央・小野 真嗣

■土木教育一般(2) ／10:30～12:00／岩倉 成志(芝浦工業大学)

CS1-008　製鉄所見学会と学習の関係性に関するアンケート分析／北海道大学［正］松本 高志・小室 雅人・宮森 保紀
CS1-009　防府市勝間・牟礼・西浦地域での防災教育を通じた防災意識の変化学校・家庭・地域社会と連携した防災教育プログラムの実践と評価 その2／徳山工業高等専門学校［学］後藤 晃徳・目山 直樹・伊藤 将司
CS1-010　徳山高専と山口県教育庁の連携による防災出前授業の2013年度実施報告／徳山工業高等専門学校［正］目山 直樹・原 隆・上 俊二
CS1-011　「人間関係づくり」に注目した体験型安全教育への試み／福田道路［正］北添 慎吾
CS1-012　平成25年度継続教育実施委員会活動の報告／大成建設［F］尾高 義夫・岩井 茂雄
CS1-013　男女共同参画からダイバーシティ・マネジメントへダイバーシティ推進小委員会第5期活動報告／東京工業大学［正］山田 菊子・岡村 美好
CS1-014　FE試験を受験して／山口大学［F］羽田野 袈裟義

■土木教育一般(3) ／15:00～16:30／原 隆史(岐阜大学)

CS1-015　縮尺鉄筋を用いた模型製作授業の取り組みについて／苫小牧工業高等専門学校［正］土門 寛幸・廣川 一巳・渡辺 暁央
CS1-016　プレートガーダ橋の教育ツールの研究／石川工業高等専門学校［学］深谷 基史・三ツ木 幸子
CS1-017　スチールブリッジコンペティションに見るエンジニアリングデザイン教育／名城大学［正］渡辺 孝一・松村 政秀・田中 賢太郎
CS1-018　橋梁建設による学生ボランティア活動の海外(香港)事例報告／苫小牧工業高等専門学校［正］松尾 優子
CS1-019　海上工事技術者の継続学習に関する一考察／港湾空港総合技術センター［正］島田 伊浩・數土 勉・奥村 研一
CS1-020　海外の実務者研修における受け入れ側の課題についての考察～土木史的視点の活用～／北海道開発技術センター［正］原口 征人・高西 義光・佐藤 浩

CSの2会場(豊中総合学館302) ／9月10日(水)

■放射性廃棄物の処分技術(1) ／10:30～12:00／新宮 康之(清水建設)

CS9-001　袋詰脱水処理工法による防火水槽の放射性物質を含む汚泥の除染について／ピーエス三菱［正］杉本 昌由・道端 秀治・佐伯 博之
CS9-002　目地グラウトへのセシウム浸透に関する検討／川田建設［正］北野 勇一・塩井 健太
CS9-003　木質バイオマス燃焼飛灰のセメント固化処理に関する基礎検討(その2) ／鴻池組［正］大山 将・中島 卓夫・松生 隆司
CS9-004　放射性物質の固定化・減容化同時処理技術の実証／前田建設工業［正］山本 達生・岩田 将英・野田 謙司
CS9-005　360度パノラマ測定ガンマカメラを用いた効率的な除染手法の実証／清水建設［正］新宮 康之・森 久起・君島 淳
CS9-006　「水底土砂現位置分級除染工法」の現地実証試験について／あおみ建設［正］岡島 伸行・吉原 到・榊原 雅人
CS9-007　電気泳動法を用いた放射性物質の除去に関する基礎的研究／香川大学［正］松本 直通・吉田 秀典・徳永 知津
CS9-008　除染土壌に対する連続ソーティング技術の適用性検証／前田建設工業［正］岩田 将英・山本 達生・清水 英樹

■放射性廃棄物の処分技術(2) ／12:45～14:15／田中 真弓(鹿島建設)

CS9-009　間欠通気システムによる除染に伴う植物混合廃棄物の早期安定化／大林組［正］大島 義徳・緒方 浩基・千野 裕之
CS9-010　土の粒度分布に注目した放射性物質吸着土壌の減容化に関する検討／ケイオプティコム［正］吉井 大貴・飯塚 敦・河井 克之
CS9-011　放射性物質汚染土壌の小型簡易設備による減容化技術の開発／前田建設工業［正］野田 兼司・山本 達生・岩田 将英
CS9-012　ナノ磁性除染剤を用いた飛灰洗浄技術の安全性に関する検討／大成建設［正］根岸 昌範・高畑 陽・島田 曜輔
CS9-013　アンモニウムイオン共存状態におけるベントナイト吸着特性／鹿島建設［正］田中 真弓・川端 淳一
CS9-014　2013年4月に発生した東京電力福島第一原子力発電所内地下貯水槽の遮水性能に関するダルシー則に基づくトラベルタイムの観点からの考察／早稲田大学［正］小峯 秀雄
CS9-015　砂・ベントナイト混合土における遮水性能のトラベルタイムによる評価／茨城大学［学］伊藤 紗由未・小峯 秀雄・村上 哲

■放射性廃棄物の処分技術(3) ／14:30～16:00／渡邊 保貴(電力中央研究所)

CS9-016 ベントナイト混合土における脆弱岩の適用性に関する研究(その1) ―ベントナイト混合土の締固め・透水特性について―／大成建設［正］遠藤 さち恵・森川 義人・藤原 斉郁
CS9-017 ベントナイト混合土における脆弱岩の適用性に関する研究(その2) ―ベントナイト混合土の力学特性について―／大成建設［正］森川 義人・遠藤 さち恵・藤原 斉郁
CS9-018 微小変位制御によるベントナイトの膨潤圧試験／電力中央研究所［正］渡邊 保貴・田中 幸久
CS9-019 サクション制御変形試験に基づく圧縮ベントナイトの膨潤・収縮モデル／大林組［正］山本 修一・佐藤 伸・西村 友良
CS9-020 連続式練混ぜ機械によるベントナイト混合土の練混ぜ試験／東電設計［正］田坂 嘉章・押部 甚一・千々松 正和
CS9-021 湿潤ベントナイトペレットの2段階乾燥実験／清水建設［正］中島 均・齋藤 亮
CS9-022 圧縮ベントナイトの体積変化および水分量の変化に与える温度の影響／足利工業大学［正］西村 友良・古関 潤一
CS9-023 ベントナイト・珪砂混合体の不飽和三軸試験／名城大学［学］古山 翔悟・小高 猛司・崔 瑛

CSの2会場(豊中総合学館302) ／9月11日(木)

■放射性廃棄物の処分技術(4) ／8:45～10:15／田中 幸久(電力中央研究所)

CS9-024 地下空洞型処分施設における上部埋戻し材の施工確認試験(その1) ―施工性の確認―／安藤・間［正］石濱 裕幸・田嶋 宏之・千々松 正和
CS9-025 地下空洞型処分施設における上部埋戻し材の施工確認試験(その2) ―施工後の品質の確認―／原子力環境整備促進・資金管理センター［正］山田 淳夫・秋山 吉弘・永井 裕之
CS9-026 湧水が緩衝材の施工品質に及ぼす影響とその対策／鹿島建設［正］石井 健嗣・小林 一三・笹倉 剛
CS9-027 締固めたベントナイトのガス移行試験における相似則について／電力中央研究所［F］田中 幸久
CS9-028 圧縮ベントナイト(大型供試体)のガス移行時における力学影響検討／原子力環境整備促進・資金管理センター［正］古賀 和正
CS9-029 TRU廃棄物処分におけるガス移行挙動評価シナリオ構築／大林組［正］並木 和人・河村 秀紀・古賀 和正

■放射性廃棄物の処分技術(5) ／10:30～12:00／畑 浩二(大林組)

CS9-030 品質の異なるフライアッシュを使用したモルタルの長期諸特性／清水建設［正］矢ノ倉 ひろみ・杉橋 直行・高橋 圭一
CS9-031 放射性廃棄物処分施設のコンクリートピット中鉄筋の腐食膨張率に関する研究(その2) ／日本原燃［正］浪岡 翔吾・庭瀬 一仁・工藤 淳
CS9-032 放射性廃棄物処分におけるセメント系人工バリアのCa溶脱現象の既存数値解析モデルを用いた超長期予測の検討／埼玉大学［学］嘉数 孝志・浅本 晋吾
CS9-033 炭酸塩混合ベントナイトと隣接したセメントの溶脱と炭酸カルシウムの生成／広島大学［正］半井 健一郎・柴田 真仁・坂本 浩幸
CS9-034 モンテリFE試験におけるオパリナス粘土岩内含水量モニタリング用TDRプローブの開発／NAGRA［正］榊 利博・Vogt Tobias・Mueller Herwig
CS9-035 マルチ光計測プローブの開発／レーザック［正］藤井 宏和・畑 浩二
CS9-036 ファブリペロー方式による光ファイバ式岩盤変位計の開発／大林組［正］鵜山 雅夫・畑 浩二・真田 裕幸
CS9-037 幌延深地層研究所におけるマルチ光計測プローブを用いた立坑掘削影響領域の長期モニタリング計画／大林組［正］畑 浩二・丹生屋 純夫・津坂 仁和

CSの2会場(豊中総合学館302) ／9月12日(金)

■放射性廃棄物の処分技術(6) ／8:45～10:15／藤山 哲雄(原子力発電環境整備機構)

CS9-038 緩衝材の塑性化を考慮した地下空洞型処分施設への地震影響についての検討／清水建設［正］福田 毅・新美 勝之・山田 淳夫
CS9-039 一次クリープを考慮したコンプライアンス可変型モデルのパラメータ設定方法／大林組［正］佐藤 伸・羽柴 公博
CS9-040 フィンランドのロヴィーサVLJ処分場における定期安全レビューの考察／戸田建設［正］関口 高志
CS9-041 地層処分事業の品質マネジメントに関する検討―概要調査段階における品質管理の手引書の拡充―／原子力発電環境整備機構［正］吉村 公孝・太田 久仁雄・國丸 貴紀
CS9-042 処分技術オプションの検討(1)選定に向けた評価方針／原子力発電環境整備機構［正］北川 義人・窪田 茂・藤山 哲雄
CS9-043 処分技術オプションの検討(2)スウェーデンSKBのKBS-3H MPT参画による横置き・PEM方式の適用性検討／原子力発電環境整備機構［正］藤山 哲雄・加来 謙一・北川 義人
CS9-044 段階的な意思決定を考慮した処分概念の開発―CARE概念の適用性―／大林組［F］河村 秀紀・McKinley Ian

■放射性廃棄物の処分技術(7) ／10:30～12:00／細谷 真一(ダイヤコンサルタント)

CS9-045 割れ目ネットワークモデルを用いた物質移動に関する研究(その1) ―全体概要―／日本原子力研究開発機構［正］山下 理代・尾上 博則・三枝 博光
CS9-046 割れ目ネットワークモデルを用いた物質移動に関する研究(その2) ―地質学的／水理学的パラメータ間の相関性を考慮した割れ目ネットワークモデルの構築―／鹿島建設［正］升元 一彦・渥美 博行・岩野 圭太
CS9-047 割れ目ネットワークモデルを用いた物質移動に関する研究(その3) ／鹿島建設［正］岩野 圭太・渥美 博行・中嶌 誠門
CS9-048 割れ目ネットワークモデルを用いた物質移動に関する研究(その4) ―モデル構築に必要なボーリング調査の量に関わる検討―／鹿島建設［正］渥美 博行・中嶌 誠門・岩野 圭太
CS9-049 割れ目ネットワークモデルを用いた物質移動に関する研究(その5) ―調査方法の違いによる割れ目ネットワークモデルの不確実性―／ダイヤコンサルタント［正］細谷 真一・鈴木 一成・石橋 正祐紀
CS9-050 静岡平野および駿河湾を対象とした地下水流動シミュレーション／大成建設［正］八木 啓介・井尻 裕二・丸井 敦尚
CS9-051 地下浅部の降雨浸透に関する気液二相流解析による検討／大成建設［正］小野 誠・八木 啓介・井尻 裕二

CSの3会場(豊中総合学館401) ／9月10日(水)

■インフラ構造システムのリダンダンシー／12:45～14:15／奥井 義昭(埼玉大学)

CS8-001 リダンダンシー評価時と活用時における部材耐力とシステム耐荷力に関する検討／埼玉大学［正］奥井 義昭・伊藤 潔
CS8-002 鋼道路橋の重大損傷事例と橋梁形式毎の損傷シナリオ／横河ブリッジ［正］三木 英二・日向 優裕・岩崎 英治
CS8-003 リダンダンシー解析における荷重レベルの設定／鹿島建設［正］山沢 哲也・森山 佳樹・由井 幸司
CS8-004 鋼トラス橋を対象とした連鎖崩壊型動的リダンダンシー解析／耐震解析研究所［正］馬越 一也・山沢 哲也・小室 雅人
CS8-005 鋼鈑桁橋のリダンダンシーに関する一検討／ニューブリッジ［正］加藤 修・岩崎 栄治・日向 優裕
CS8-006 桁端付近の腹板に疲労き裂を有する鋼Ｉ桁の残存耐荷性能に関する数値解析的研究／大阪工業大学［正］林 健治
CS8-007 主桁が疲労損傷した二主鋼Ｉ桁橋の耐脆性破壊性能に関する基礎的研究／三菱重工鉄構エンジニアリング［正］荒木 健二・林 健治
CS8-008 鋼アーチ橋のリダンダンシーに関する検討／横河技術情報［正］藤野 明義・岩崎 英治・三木 英二

■土木構造物の長寿命化デザインを考える／14:30～16:00／佐々木 葉(早稲田大学)

CS10-001 新設橋梁の長寿命化デザイン／エイト日本技術開発［正］長谷川 政裕・椛木 洋子
CS10-002 性能照査型維持管理法の導入に伴う北陸自動車道の活荷重実態の把握／中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋［正］石川 裕一・橘 吉宏・森山 守
CS10-003 性能照査型維持管理法と既設構造物への信頼性指標β算定の試み／中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋［正］橘 吉宏・石川 祐一・森山 守
CS10-004 道路空間の機能向上と維持管理の軽減にむけた道路付属施設の集約・削減手法の検討／土木研究所 寒地土木研究所［正］岩田 圭佑・松田 泰明・兵庫 利勇
CS10-005 産官学(高大)連携で製作・維持管理を目指す「高知のバス停」プロジェクト／高知工科大学［正］重山 陽一郎
CS10-006 棚田､段畑の石積みにおける維持管理／徳島大学［正］真田 純子
CS10-007 市民参加からみた公共空間の計画・設計と維持管理の連動性／東京工業大学［正］齋藤 潮

CSの3会場(豊中総合学館401) ／9月11日(木)

■土木分野におけるセンサ技術の利用と可能性(1) ／8:45～10:15／石間 計夫(ジェイアール東日本コンサルタンツ)

CS7-001　モーションキャプチャシステムを用いたアーチ模型の振動実験／熊本高等専門学校［正］岩坪 要・尾崎 弘治
CS7-002　列車通過時の加速度応答を利用した橋脚変位計測法／ビーエムシー［正］杉崎 光一・欅 健典・阿部 雅人
CS7-003　列車通過時の最大変位を指標とした橋脚の洗掘状態評価の検討／JR東日本［正］欅 健典・杉崎 光一
CS7-004　MEMS無線センサを活用した構造物診断システムの開発／ジェイアール東日本コンサルタンツ［正］三上 淳・羽矢 洋・石橋 忠良
CS7-005　PC桁の損傷と動特性の変化に関する研究／舞鶴工業高等専門学校［学］仮谷 充昌・玉田 和也・宮下 剛
CS7-006　地方自治体が管理する橋梁の振動計測による健全度評価と目視点検結果との比較／舞鶴工業高等専門学校［学］木村 祐太・玉田 和也・村山 重雄
CS7-007　舞夢みなと大橋の振動計測による耐震性能検証の試み／舞鶴工業高等専門学校［正］玉田 和也・井尻 秀和
CS7-008　無線加速度センサを用いた3次元振動可視化システムの歩道橋への適用実験／愛媛大学［正］高本 龍直・川原 正人・中畑 和之

■土木分野におけるセンサ技術の利用と可能性(2) ／10:30～12:00／宇野 昌利(清水建設)

CS7-009　測位センサネットワークによる防災・放射線量管理のための位置管理システムの開発／飛島建設［正］松田 浩朗・松元 和伸・川端 康夫
CS7-010　パソコン用ポインティングデバイスを使った多方向変位測定の可能性について／名古屋工業大学［F］小畑 誠・中齋 栞
CS7-011　ひずみ計測への適用に向けた高精度光変位センサの評価試験／長岡技術科学大学［学］松本 大樹・宮下 剛・藤井 徹
CS7-012　不安定岩塊の形状取得と数値解析モデル化手法の検討／鉄道総合技術研究所［正］上半 文昭・箕浦 慎太郎
CS7-013　走行型計測のための効率的な照明配置に関する基礎実験／三井住友建設［正］塩崎 正人・河村 圭・加藤 健一
CS7-014　投光器の照射角度を利用した変状サイズの計測手法に関する研究／日本大学［学］石森 章之・塩崎 正人・佐田 達典
CS7-015　プローブパーソン調査を用いた自転車走行環境改善効果の検証に関する一考察／ドーコン［正］平川 貴志・松田 真宜・山本 郁淳
CS7-016　距離画像センサを用いた車両走行速度計測のための撮影条件の検討に関する研究／日本大学［学］安藤 匠平・佐田 達典・石坂 哲宏

CSの3会場(豊中総合学館401) ／9月12日(金)

■新設および大規模改修時における橋梁計画(1) ／10:30～12:00／丹羽 信弘(中央復建コンサルタンツ)

CS5-001　「橋梁予備設計業務」の課題／エイト日本技術開発［正］椛木 洋子
CS5-002　最少斜角49° を有する橋脚を含む橋梁の構造検討／西日本高速道路［正］佐溝 純一・武 伸明・小山 雅巳
CS5-003　厳しい制約を受ける都市部歩道橋の計画・設計 ―阿倍野歩道橋―／中央復建コンサルタンツ［正］森 彩・加藤 慎吾・坪村 健二
CS5-004　朝潮運河歩行者専用橋の計画、設計／エイト日本技術開発［正］古閑 徹也・井上 英公・水野 敬介
CS5-005　維持管理性の向上を図った上路式コンクリートアーチ橋の設計／三井住友建設［正］永元 直樹・春日 昭夫・坂地 光博
CS5-006　鋼・コンクリート複合バランスドアーチ橋の計画／ドーユー大地［正］坂手 道明・本庄 正樹・吉田 直弘
CS5-007　鋼・コンクリート複合バランスドアーチ橋の耐震設計／ドーユー大地［正］吉田 直弘・本庄 正樹・松田 宏

■新設および大規模改修時における橋梁計画(2) ／15:00～16:30／佐々木 保隆(横河ブリッジ)

CS5-008　都市内における超高架橋の活用／八戸工業大学［F］塩井 幸武
CS5-009　渦流探傷試験を用いた鋼橋の疲労き裂調査の効率化に関する検討／日本工業試験所［正］Ichinose Luiza Hiroko・Ichinose Luiza Hiroko・水江 正弘
CS5-010　スリット付き横桁下フランジ貫通構造の疲労挙動／関西大学［学］吉田 直人・坂野 昌弘・小西 日出幸
CS5-011　実橋計測による支承機能評価手法の確立／川金コアテック［正］柴崎 奈穂・池田 真理子・坂野 昌弘
CS5-012　都市内高速道路の既設橋梁拡幅工事における拡幅工法の提案／中央復建コンサルタンツ［正］丹羽 信弘・森 彩・加藤 慎吾
CS5-013　良好な橋梁景観を創出するための維持管理設備等のあり方／ドーコン［正］畑山 義人・熊谷 清貴・片桐 章憲
CS5-014　道路橋更新の判断について その2／橋梁調査会［正］西川 和廣

CSの4会場(豊中総合学館402) ／9月11日(木)

■複合構造物(1) ／8:45～10:15／大久保 宣人(片山ストラテック)

CS3-001　解析を用いたPBLの耐荷性能評価に関する基礎的考察／九州大学［正］宗本 理・園田 佳巨
CS3-002　孔あき鋼板ジベルのせん断力―ずれ変位関係に粗骨材が及ぼす影響／法政大学［学］真部 洋大・藤山 知加子・塩永 亮介
CS3-003　孔あき鋼板ジベルの貫通鉄筋のダウエル効果に関する検討／宇都宮大学［学］グエン ミンハイ・NGUYEN MINH HAI・中島 章典
CS3-004　底鋼板厚がスタッド根元部の発生応力と疲労寿命に与える影響／IHIインフラシステム［正］鈴木 統・山口 隆一・植浦 歓共
CS3-005　MECHANICAL INVESTIGATION ON STUD SHEAR CONNECTOR IN STEEL FIBER REINFORCED CONCRETE（SFRC）／金沢大学［正］徐 晨・桝谷 浩・深田 宰史
CS3-006　FEM解析による頭付きスタッド押抜き試験における支持条件の影響／北武コンサルタント［正］宮本 真一・坂口 淳一・渡邊 忠朋
CS3-007　軸径25mm頭付きスタッドの押抜きせん断強度性状／神戸大学［正］大谷 恭弘・中島 章典・渡部 健太

■複合構造物(2) ／10:30～12:00／牧 剛史(埼玉大学)

CS3-008　トルク型せん断試験の供試体の大きさと付着強度に関する実験と考察／東北工業大学［正］山田 真幸・斉木 功・岩熊 哲夫
CS3-009　ずれ止めの力学特性評価における境界条件の影響に関する一考察／東北大学［正］斉木 功・瀬戸川 敦・山田 真幸
CS3-010　ずれ止めの高さが合成版のせん断耐力に与える影響／北海道大学［学］黒澤 太一・古内 仁・高橋 良輔
CS3-011　部材軸直角方向にせん断補強鋼板を配置した鋼コンクリートサンドイッチ構造の解析的検討／鉄建建設［正］安保 知紀・松岡 茂・長尾 達児
CS3-012　頭付きスタッドの挙動に着目した合成桁の基礎的研究／宇都宮大学［学］永尾 和大・中島 章典・岡崎 康幸
CS3-013　長大スパンの鉄道合成桁の温度変化による挙動評価／鉄道総合技術研究所［正］山下 健二・池田 学・由井 洋三
CS3-014　床版取換えに伴う合成桁の力学正常に関する実験的研究／宇都宮大学［学］岡崎 康幸・中島 章典・永尾 和大

CSの4会場(豊中総合学館402) ／9月12日(金)

■複合構造物(3) ／8:45～10:15／葛西 昭(熊本大学)

CS3-015　コンクリートのTS効果を考慮したプレビーム合成桁の有効剛性の検討／川田テクノシステム［正］清水 良平・小川 利之・藤林 博明
CS3-016　スパン比をパラメータとした二重合成2主I桁橋の乾燥収縮挙動／四日市市役所［正］生川 恭平・渡邊 涼・大山 理
CS3-017　高温時における合成桁の軸力と曲げの相関／川田建設［正］柳澤 則文・今川 雄亮・大山 理
CS3-018　コンクリート充填楕円鋼管部材の純曲げ挙動／神戸市立工業高等専門学校［学］山本 貴大・上中 宏二郎・吉谷 康佑
CS3-019　内角鋼管と外円鋼管からなる二重鋼管・コンクリート合成部材の圧縮実験／神戸市立工業高等専門学校［学］清水 集平・上中 宏二郎・酒造 敏廣
CS3-020　外面リブ付鋼管・コンクリート合成構造橋脚の耐震性能に及ぼす鋼管配置の影響に関する実験的研究／三井住友建設［正］篠崎 裕生・村尾 光則・三上 浩
CS3-021　道路橋示方書に基づく外面リブ付鋼管・コンクリート合成構造橋脚の耐震性能に関する考察／三井住友建設［正］村尾 光則・篠崎 裕生・三上 浩
CS3-022　支圧板方式鋼ポータルラーメン橋隅角部のFEM解析／大阪市立大学［学］池田 裕哉・山口 隆司・佐合 大

■複合構造物(4) ／10:30～12:00／溝江 慶久(川田工業)

CS3-023　複合構造鋼コンクリート界面の腐食に関する2、3の実験検討／宇都宮大学［学］坂巻 悠介・中島 章典・磯 光夫

CS3-024 コンクリート埋込部が腐食欠損したH型鋼柱の正負交番載荷実験／東北大学［学］横手 加奈・佐野 善紀・高橋 実
CS3-025 コンクリート埋込部が腐食欠損したH形鋼柱基部の局所振動特性／東北大学［学］佐野 善紀・横手 加奈・高橋 実
CS3-026 複合構造化に使用するゴムラテックスモルタルの海岸線暴露試験／太平洋マテリアル［正］大久保 藤和・谷口 望・佐竹 紳也
CS3-027 有効高を考慮してCFRP格子筋を配置した下面増厚補強法の耐疲労性に関する研究／日本大学［学］小森 篤也・阿部 忠
CS3-028 アンダーカット付きあと施工アンカーボルトの性能確認試験／駒井ハルテック［正］岑山 友紀・三輪 浩二・中本 啓介

■複合構造物(5) ／15:00～16:30／松本 高志(北海道大学)

CS3-029 圧縮ハンドレイアップ成形によるGFRP溝形材の圧縮特性に関する基礎的研究／首都大学東京［学］飯田 卓弥・中村 一史・日比 英輝
CS3-030 GFRP溝型部材の簡易圧縮試験方法の研究／北海道大学［学］谷内 湧・三ツ木 幸子
CS3-031 トラス桁形式GFRP製橋梁用検査路における格点部の接合強度と使用性に関する検討／首都大学東京［正］中村 一史・小泉 公佑・盧 忠閣
CS3-032 トラス桁形式GFRP製橋梁用検査路の実大模型による終局強度の検討／首都大学東京［学］小泉 公佑・中村 一史・若林 大
CS3-033 GFRP桁の性能照査のための要素実験／立命館大学［学］大森 政和・松村 政秀・久部 修弘
CS3-034 ハイブリッドFRP歩道橋の主桁―横桁連結構造の合理化に関する検討／東日本高速道路［正］中村 大希・中村 一史・柳沼 謙一
CS3-035 CFRP板で曲げ補強された鋼材に生じる温度応力の簡易算定式／レールテック［正］松本 健太郎・並木 宏徳・鳥山 正吾
CS3-036 CFRP板と鋼板の接着接合部の疲労強度とはく離進展挙動の評価／中日本高速道路［正］手塚 渉太・中村 一史・林 帆

CSの5会場(豊中総合学館501) ／9月10日(水)

■International session国際セッション(1) ／8:45～10:15／水谷 司(東京大学)

CS2-001 NUMERICAL INVESTIGATION OF BOTTOM PLATE SLOPE EFECTS ON AERODYNAMIC RESPONSE OF A HEXAGONAL SHAPED BRIDGE DECK／Structural Engineering Lab, Yokohama National University［学］ハクエ ナイムル・Katsuchi Hiroshi・Yamada Hitoshi
CS2-002 Effects of Cover Plate Stiffness on Ultimate Strength of Bearing-type Multi-row Bolted Connections for FRP Composite Structures／Nagoya University［学］kader mohammad abdul・北根 安雄・伊藤 義人
CS2-003 Mechanical Behaviour of Curved Composite Beams under Hogging Moment／早稲田大学［正］林 偉偉
CS2-004 IMPROVEMENT OF SHEAR CAPACITY OF WELDED I-SECTION GIRDER WITH THIN STRUCTURED WEB ／Saitama University［学］SALIHI SAMANDAR・Okui Yoshiaki・Sakurai Nobuaki
CS2-005 A MODIFIED RHEOLOGY MODEL FOR HIGH DAMPING RUBBER BEARINGS／Saitama University［学］NGUYEN DUNG ANH・Okui Yoshiaki・Dang Ji
CS2-007 SEISMIC RESPONSE ANALYSIS OF BILLION DEGREE-OF-FREEDOM FAULT-URBAN AREA MODEL ON PARALLEL MULTICORE COMPUTING ENVIRONMENT／NIIGATA UNIVERSITY［正］キナイファー エロル・市村 強・堀 宗朗

■International session国際セッション(2) ／10:30～12:00／蘇 迪(東京大学)

CS2-008 Static Methods for Redundancy Analysis of Steel Truss Bridges／長岡技術科学大学［学］HOANG TRONG KHUYEN・岩崎 英治
CS2-009 GPS STRUCTURAL HEALTH MONITORING OF LONG-SPAN CABLE STAYED BRIDGES CONSIDERING ENVIRONMENTAL EFFECTS BASED ON TIME SERIES ANALYSIS／Yokohama National University［学］レ バン ヒエン・Nishio Mayuko・Katsuchi Hiroshi
CS2-010 A NUMERICAL INVESTIGATION INTO THE IMPACT OF FLAP ON A RECTANGULAR CROSS-SECTION USING RANS APPROACH／Yokohama National University［学］トラン ダット アン・Katsuchi Hiroshi・Yamada Hitoshi
CS2-011 Fracture Critical Members of Continuous Composite Twin I-girder Bridge／Waseda University［学］Lam Heang・林 偉偉・依田 照彦
CS2-012 Performance evaluation of Gerber hinges in an existing steel truss bridge by short-term monitoring／NAGAOKA UNIVERSITY OF TECHNOLOGY［学］DUY KHANH TRAN・宮下 剛・岩崎 英治
CS2-013 EXPERIMENTAL STUDY ON AN EXISTING BRIDGE RETROFITTED BY GROUND ANCHOR／早稲田大学［学］LIANG YUFAN・清宮 理・安 同祥

■International session国際セッション(9) ／12:45～14:15／四辻 裕文(神戸大学)

CS2-051 Cause Analysis of Decision with Bounded Rationality in Disaster Recovery using Hypergame ／ University of Tokyo［学］Choi Chang Yeol・本田 利器
CS2-052 TRACKING MULTIPLE PEOPLE WITH MULTIPLE GPS DATA LOGGERS／愛知工業大学［正］山本 義幸
CS2-053 STUDY ON THE ESTIMATION OF CO2 EMISSION REDUCTION FOR LONG TIME WHEN THE URBAN AREA CHANGED: CASE STUDY IN KHON KAEN, THAILAND／日本大学［学］菊池 浩紀・福田 敦・石坂 哲宏
CS2-054 Utilizing the Backcasting Approach in Urban Development-Discussion of the Application in International Development Projects／パデコ［正］田村 康一郎・CHADNEY MICHAEL

CSの6会場(豊中総合学館講義室L3) ／9月10日(水)

■International session国際セッション(3) ／8:45～10:15／安田 誠宏(京都大学)

CS2-014 EFFECTS ON THE DESIGN OF PORT FACILITIES REGARDING THE DIFFERENCES OF NATURAL DISASTER CONDITIONS BETWEEN JAPAN AND CAMBODIA／NILIM, MLIT［正］ヘム ラムラヴ・ASAI TADASHI
CS2-015 Modeling of media usage for disaster information collection during the 2011 Thai flood／北海道大学［正］ヘンリー マイケル・川崎 昭如・瀧川 一学
CS2-016 Assessing grid size effects on inundation and groundwater using hydrological model in the Lower Mekong River basin／Tohoku university［学］チヤンタルツク ステイヒワス・Kazama So・Ekkawatpanit chaiwat
CS2-017 IMPLICATION OF LOCAL PEOPLE'S PERCEPTION OF CLIMATE CHANGE AND ITS IMPACTS FOR THE WATER RELATED DISASTER MANAGEMENT: A CASE STUDY FROM NORTHERN THAILAND ／Tohoku university［正］マナンダー スザータ・Pratoomchai Weerayuth・Ono Keisuke
CS2-018 RISK-BENEFIT ASSESSMENT FOR INTEGRATED FLOOD MANAGEMENT: SUPPORTING SUSTAINABLE LIVELIHOODS IN DEVELOPING COUNTRIES ／ICHARM［学］ジュアレズ アンドレア
CS2-019 EVALUATION OF FLOOD PRONE AREAS IN BICOL RIVER BASIN, PHILIPPINES／ICHARM ［学］バシラン エマー

■International session国際セッション(4) ／10:30～12:00／田中 茂信(京都大学)

CS2-020 Simulation of river discharge using 1k-DHM in Myanmar／Kyoto University［学］THIHA SOE・Tachikawa Yasuto・Yorozu Kazuaki
CS2-021 Climate Change Impact on the Inflow of Large Scale Reservoir by Applying a Distributed Hydrological Model／Kyoto University［学］マニー ドンパッポ・TACHIKAWA Yasuto・YOROZU Kazuaki
CS2-022 PEOPLE'S PERCEPTIONS ON CLIMATE CHANGE: CASE STUDY IN GROUNDWATER IRRIGATION PROJECT IN THAILAND／東北大学［学］プラトマチャイ ウェラユ・Kazama So・Ekkawatpanit chaiwat
CS2-023 Competition between Medaka and Mosquitofish under climate change／早稲田大学［学］王 京京
CS2-024 ASSESSMENT OF CLIMATE CHANGE IMPACT ON HYDROLOGY THROUGH ADDRESSING MODEL PARAMETER-RELATED UNCERTAINTY／ICHARM［学］マスード ムハマッド

■International session国際セッション(5) ／12:45～14:15／
小林 健一郎(神戸大学)

CS2-025 IMPACT OF SEASONAL ENVIRONMENTAL WATER REQUIREMENTS ON WATER RESOURCES ASSESSMENT IN SRI LANKA／Tohoku University［学］Samarasuriya Patabendige Chaminda・Kazama So
CS2-026 TREATMENT OF SUSPENDED SEDIMENT IN SIDE BANK REGIONS／土木研究所ICHARM［学］ビスワス ロビン クマール・江頭 進治・萬矢 敦啓
CS2-027 DEBRIS FLOW CHARACTERISTIC ALONG THE MAIN CHANNEL WITH STRUCTURES IN THE ARENAL DE MEJICANOS, SAN SALVADOR, EL SALVADOR／ICHARM［学］ロペス イングリッド
CS2-028 IMPORTANCE OF HYDROLOGICAL MODEL FOR FLOOD MANAGEMENT IN BANGLADESH ／ICHARM［学］イスラム カイル
CS2-029 APPLICATION OF REMOTE SENSING AND RAINFALL RUN-OFF INUNDATION MODEL TO COUNTRY-WIDE INUNDATION MAPPING／ICHARM［学］ポーリナ オンジラ
CS2-030 The effect of submerged water depth on shear stress acting on the bed and downstream slope of levee due to overtopping／Saitama University［学］Doan Van Binh・Doan Van Binh・Sazia Afreen

■International session国際セッション(6) ／14:30～16:00／
宮本 仁志(芝浦工業大学)

CS2-031 THE APPLICABILITY OF CLASSICAL BULK MODEL FOR ESTIMATING SALINITY STRATIFICATION OF CHOKED COASTAL LAGOONS IN SRI LANKA／埼玉大学［学］ペレラ ラシタ・Furusato Eiichi・Tanaka Norio
CS2-032 ONE-DIMENSIONAL MODELING OF AIR POCKET ENTRAPMENT IN RECTANGULAR DUCTS／京都大学［学］バシリアトラビ ハミッド・細田 尚
CS2-033 Continuous Treatment of Groundwater by In-Situ Denitrification and Oxidation Process with Injection of Electrolytic Hydrogen and Oxygen／早稲田大学［学］葉 堅・木我 紅音・内藤 克貴
CS2-034 A Fe-cycle in advanced constructed wetland／早稲田大学［学］リ テイ・稲垣 嘉彦・榊原 豊
CS2-035 Removal of disinfection byproduct precursors by a combined electrochemical and adsorption process／早稲田大学［学］ロ イ・榊原 豊

CSの7会場(豊中総合学館講義室L4) ／9月10日(水)

■International session国際セッション(7) ／8:45～10:15／
中島 伸一郎(山口大学)

CS2-036 Experimental Investigation for Scour Mechanisms of a Breakwater Mound Caused by Tsunami ／ Yokohama National University［学］Islam MohammedRussedul・趙 岩・早野 公敏
CS2-037 An analytical model for one dimensional, transient evaporation in homogeneous soil／九州大学［学］滕 継東・安福 規之
CS2-038 Experimental study of loosened sand due to piping／東京大学［学］楊 陽・桑野 玲子
CS2-039 DEVELOPMENT OF LARGE SIZE FLAT TYPE DISK TRANSDUCER TO MEASURE THE ELASTIC WAVE IN LARGE TRIAXIAL CELL／School of Engineering, The University of Tokyo［学］ポカレル アビラシュ・桑野 玲子
CS2-040 Influence of reinforcements on the seismic response of reduced-scale reinforced soil retaining wall／東京大学［学］ハン シンイエ・HAN XINYE・米良 有玄
CS2-041 DEVELOPMENT OF STACKED-RING SHEAR APPARATUS IN THE INVESTIGATION ON CHARACTERISTICS OF RE-LIQUEFIED SAND／東京大学［学］ワヒュディ セト・Koseki Junichi
CS2-042 FAILURE MODES OF LOOSE TOYOURA SAND UNDER VARIOUS LEVELS OF STATIC SHEAR BY TORSIONAL SIMPLE SHEAR TESTS／東京大学［正］キアロ ガブリエル・清田 隆・古関 潤一
CS2-043 EFFECT OF SILT LAYER IN SEGREGATED SPECIMEN ON LIQUEFACTION BEHAVIOR OF KATORI SAND／The University of Tokyo［学］ファウジ ウサマ ジュニアンシャー・古関 潤一

■International session国際セッション(8) ／10:30～12:00／
木元 小百合(京都大学)

CS2-044 EFFECTS OF CHANGE IN DENSITY OF SAMPLED DATA ON INTERPOLATION IN LIQUEFACTION POTENTIAL ZONING／東京大学［正］ポカレル ラマモハン
CS2-045 ANALYTICAL STUDY OF IMPROVEMENT EFFECTS ON PEATY GROUND BY VERTICAL DRAINS ／VACUUM CONSOLIDATION／名古屋大学［学］NGUYEN Hong Son・田代 むつみ・山田 正太郎
CS2-046 Predictability of the International Geotechnical Codes for Estimating Ultimate Bearing Capacity of Large Diameter Bored Piles／Kyushu University［学］ハッサン マハムド・安福 規之
CS2-047 An Investigation of Effect of Element Size in a Numerical Simulation of Press-in Behavior by Discrete Analysis Method／東京大学［学］木村 俊也・長井 宏平・酒井 雄也
CS2-048 Influence of effective rate in copy cutter length on H&V shield behavior／長岡技術科学大学［正］玉井 達毅・Chaiyaput Salisa・Algjandra Castillo Felix Corina
CS2-049 INFLUENCE OF TEPMERATURE AND CHEMICAL EXPOSURE TIME ON LIQUID LIMIT OF BENTONITE HYDRATED WITH INORGANIC SALT SOLUTIONS ／Saitama University［学］Rashid Hafiz Muhammad Awais・川本 健・L. C. Kurukulasuriya
CS2-050 THE USE OF TRIAXIAL STRAIN GAUGE AND LASER DISPLACEMENT METER FOR DRYING SHRINKAGE MEASUREMENT: A COMPARATIVE ANALYSIS ／Saitama University［学］イランコーン ティリニ・大塚 絢香・長田 昌彦

■International session国際セッション(10) ／12:45～14:15／
千々和 伸浩(東京工業大学)

CS2-055 SEISMIC DAMAGE RANGE EVALUATION OF RC COLUMNS WITH CIRCULAR CROSS SECTION BY ENERGY DISSIPATION USING 3D LATTICE MODEL ／神戸大学［学］シマン マウロ リカルドゥ・三木 朋広
CS2-056 Correlation between Fiber Density Distribution and Flexural Capacity of SFRC Beams Using Optical Density Analysis of X-ray Image／早稲田大学［学］LIM Sopokhem・岡本 健弘・秋山 充良
CS2-057 failure property of UFC panel bonded on steel with adhesive resin／北海道大学［学］クリントラツクル ナツポーン・上田 多門・古内 仁
CS2-058 Numerical Simulation of A Beam Column Joint with Complex Reinforcement Arrangement by 3D Discrete Model／東京大学［学］エダイ リヤント・長井 宏平
CS2-059 Study on the relationship between socio-economic conditions and resource usage for concrete construction in Japan／北海道大学［学］高橋 駿人・Henry Michael・杉山 隆文
CS2-060 DEVELOPMENT OF ATTRIBUTE-ASSIGN-EDITOR FOR ROAD SURFACE POINT CLOUD DATA／熊本大学［学］チャンシャオラッサミー ウォンサコルン・小林 一郎・藤田 陽一

■International session国際セッション(11) ／14:30～16:00／
Yao Luan（埼玉大学）

CS2-061 ASSESSMENT OF SURFACE CRACKS AND TEMPERATURE ON POST-FIRE MORTAR／北海道大学［学］ロンビリヤパーニチ オンニチャ・佐藤 靖彦・Pansuk Withit
CS2-062 EXPERIMENTAL AND MODELLING INVESTIGATIONS ON CEMENT PASTE EXPOSED TO LEACHING AND EXTERNAL SULFATE ATTACK ／東京大学［正］Elakneswaran Yogarajah・石田 哲也・小柳 翔平
CS2-063 INFLUENCE OF MIXING METHOD ON DURABILITY OF ENTRAINED AIR IN MORTAR OF SELF COMPACTING CONCRETE ／ Kochi University of Technology［学］ラス ソバンサティア・大内 雅博
CS2-064 INVESTIGATION OF VOLUMETRIC CHANGE OF CEMENTITIOUS MATERIALS AT DIFFERENT TEMPERATURE AND RELATEIVE HUMIDITY BASED ON PORE-LIQUID INTERACTION ／ Saitama Unniverisity［学］Nirmal Raj Joshi・Asamoto Shingo
CS2-065 CHARACTERISATION OF HYDRATED CEMENT TREADED CRUSH ROCK BASE FOR BASECOURSE

MATERIAL IN WESTERN AUSTRALIA PAVEMENT／Curtin University［正］ジットサギアム ピーラポン・JITSANGIAM PEERAPONG

CSの8会場（全学教育推進機構大講義室）／9月12日（金）

■土木工学に関する資料の収集、保存と利・活用／15:00〜16:30／藤澤 泰雄（八千代エンジニヤリング）

CS12-001 『土木映画の100年―土木技術映像100選ガイド―』の出版について／全国建設研修センター［正］榊山 清人・坂本 真至・大野 春雄

CS12-002 関東大震災記録映像「横浜大震火災惨状」について／土木学会［正］坂本 真至

CS12-003 東日本大震災記録映像収集・公開プロジェクトに基づく平成25年度現地映像調査報告／東急建設［正］梅津 愛・坂本 真至・大野 春雄

CS12-004 東日本大震災の震災遺構に代わる震災アーカイブの利活用／関西大学名誉教授［F］三上 市藏・三上 卓

CS12-005 鉄道分野における一元管理システムの構築について／東京急行電鉄［正］道具 健太郎・杉山 光俊・敦賀 丈史

CS12-006 広田孝一旧蔵の地質調査報告書とその意義／鉄道総合技術研究所［F］小野田 滋

CS12-007 イギリス土木学会（ICE）図書館におけるバーチャル・ライブラリの状況／日本大学［F］五十畑 弘

CS12-008 レファレンス協同 DB 事業にみる土木工学分野のレファレンス機能充実について／北海道教育大学［正］今 尚之・坂本 真至

MEMO

MEMO

実務者必携！ボーリング技術の集大成！

ボーリング ポケットブック 第5版

一般社団法人 全国地質調査業協会連合会 編
A5判／592頁／定価（本体7,000円+税）
ISBN 978-4-274-21445-5

最新のボーリング技術を集大成しつつ、改正された基準・法令などを反映し、コンパクトサイズにまとめた定本の第5版。

初めて土木を学ぶ人が楽しく学習できる入門書！

絵ときシリーズ 水理学 改訂3版

粟津清蔵 監修
國澤正和・西田秀行・福山和夫 共著
A5判／172頁／定価（本体2,600円+税）
ISBN 978-4-274-21566-7

絵ときシリーズ 土質力学 改訂3版

粟津清蔵 監修
安川郁夫・今西清志・立石義孝 共著
A5判／260頁／定価（本体2,500円+税）
ISBN 978-4-274-21459-2

読んで、学んで、楽しく歩こう！

ジオパークを楽しむ本 日本列島ジオサイト地質百選

一般社団法人全国地質調査業協会連合会・
特定非営利活動法人 地質情報整備活用機構・
ジオ多様性研究会 共編
A5判／194頁／定価（本体2,800円+税）
ISBN 978-4-274-50427-3

日本列島各地のジオパークやジオサイトを取り上げ、そこで見られる地質の特徴やメカニズム等をわかりやすく解説しています。

学部生向け教科書のスタンダード！

大学土木 鉄筋コンクリート工学 改訂3版

町田篤彦 編／町田篤彦・関 博・
丸山武彦・檜貝 勇・斉藤成彦 共著
A5判／244頁／定価（本体2,800円+税）
ISBN 978-4-274-21524-7

大学土木 水環境工学 改訂3版

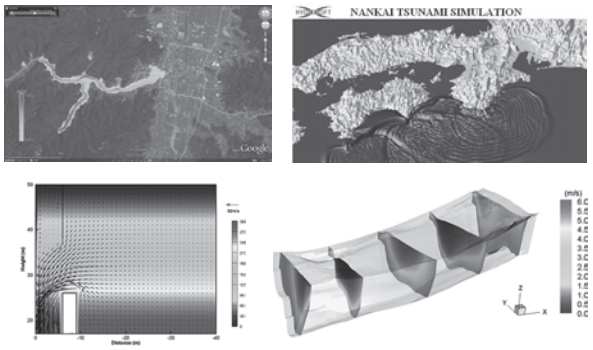
松尾友矩 編／田中修三・神子直之・
齋藤利晃・長岡 裕 共著
A5判／276頁／定価（本体2,800円+税）
ISBN 978-4-274-21525-4

オーム社 Ohmsha
〒101-8460 東京都千代田区神田錦町3-1
TEL 03(3233)0853 FAX 03(3233)3440
www.ohmsha.co.jp
定価は変更になる場合があります。
Ohmsha 100th SINCE 1914

「確かな技術で未来を創る」

河川・砂防・ダム及び海岸の各事業分野において、専門技術を生かし、建設コンサルタント業界における
数値解析と**土木システム構築・データ処理**の高品質な技術サービスを提供いたします。

解析技術サービス



- 土砂水理解析 ● 海岸水理解析 ● 環境水理解析
- 氾濫・防災関連解析 ● 下水道解析 ● 水循環・地下水解析
- 耐震・地盤・構造解析 ● 科学技術解析

情報技術サービス

津波予警報システム

- 土木・防災情報システム ● 解析プログラムのGUI構築
- GIS,Webシステム構築 ● 各種データの処理・分析

HYDROSOFT
株式会社 ハイドロソフト技術研究所
www.hydro-soft.co.jp

【技術に関するお問い合わせは、お電話・HPへお寄せください】 ハイドロソフト

大阪本社
〒530-6126 大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル 26F
TEL：06-6479-3621 FAX：06-6479-3622

東京支社
〒105-6031 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー 31F
TEL：03-6721-5507 FAX：03-6721-5506

“工事の安全”と“省力化”のお役に立つ、工事副資材専門メーカーです。Epoch - Making New Type

無溶接による鉄筋結束金具
場所打ち杭／鉄筋組立用

ゼスロック®
PAT.P

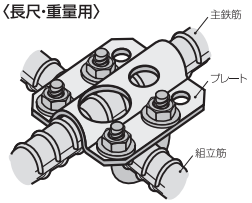
ゼスロックとは、鉄筋組立の“点溶接”に代わって、鉄筋を**ねじ**で組立結合する“無溶接（ゼロ溶接）”鉄筋結合金具のことです。

ねじ山の比較	
	ゼスナーねじ（円形ねじ）
	メートルねじ

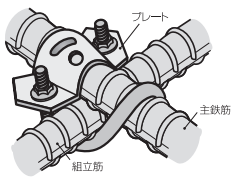
特　長

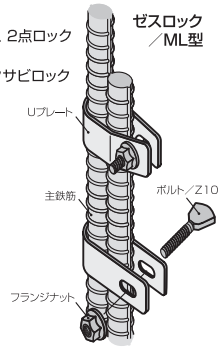
●ゼスロックのゼスナーねじ（ゼン技研製品）は、ねじ山が大きく円形なので、ねじ組立ての作業が、スピードアップします。
●ゼスナーねじの締付け力は、トルク管理を提案します。
●主鉄筋と組立筋の結合金具は、・長尺・重量用の、4点ロック（US型）、・短尺・軽量用には、2点ロック（UL型）があり、各々の使い分けを提案します。
●主鉄筋の重ね継手の結合金具（ML）は、上下鉄筋かごの重量を安全に支えるハチ巻きクサビロック（ねじ結合）です。

ゼスロック／US型（4点ロック）
〈長尺・重量用〉



ゼスロック／UL型（2点ロック）
〈短尺・軽量用〉





建設の安全と省力化・必ず役立つ
建設用副資材・金具

- **プロテックPコン** 塩害防止コーン・インサート
- プロテックPコンシリーズ **MCコン・ZCコン** NETIS登録番号 QS-110027-V
- **テンバー** コンクリート床板の天端出し表示具 NETIS登録番号 KT-120062-A
- **吊りカーン** つりだな足場のつりチェーン用アンカー金具
- **RCT−107** コンクリート専用壁つなぎ金具のアンカー

全国多数実績有

建設の安全と省力にアタック
ゼン技研株式会社
本　社　〒818-0105 太宰府市都府楼南5−16−13
TEL (092)925-8161 FAX (092)925-3449
URL http://www.zen-g.co.jp/
東京営業所　〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1-601
TEL (03)5352-6185 FAX (03)5352-6810

構造物についてどのようなことでもご相談下さい！

社会インフラ相談室 tel : 03-6388-0029

全国の構造物のトラブルを解決してきた旧国鉄構造物設計事務所経験者など経験豊かなスタッフが揃っています。

支承付近の診断と対策

アルカリシリカ反応を生じた構造物の診断と対策

桁の疲労亀裂の診断と対策

塩害を受けた桁の診断と対策

盛土の耐震診断と補強対策

自動車衝突による桁損傷の診断と対策

ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社
JR East Consultants Company
〒171-0021
東京都豊島区西池袋1丁目11番1号メトロポリタンプラザ19階
社会インフラ相談室
TEL : 03-6388-0029　FAX : 03-5949-2796
http://www.jrc.jregroup.ne.jp

自然との調和

私たちは先進技術で
自然と調和し美しい地球を創ることに貢献します

AsunaroAoki

青木あすなろ建設株式会社

代表取締役社長 上 野 康 信

〒 108-0014　東京都港区芝 4-8-2　　TEL 03-5419-1011（代表）

URL http://www.aaconst.co.jp

沿岸域の環境創造

五洋建設が培ってきた海洋土木技術は、
多岐にわたる沿岸域の再生と創造を可能にします

五洋建設
PENTA-OCEAN CONSTRUCTION

東京都文京区後楽2-2-8
www.penta-ocean.co.jp

マスコンクリートの3次元温度応力解析専用プログラム

目地検討も

らくらく温度応力

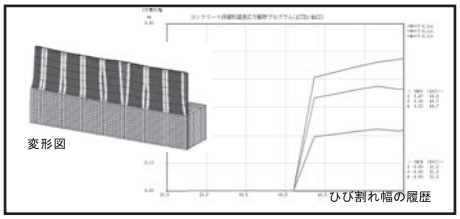
ASTEA MACS Ver.8

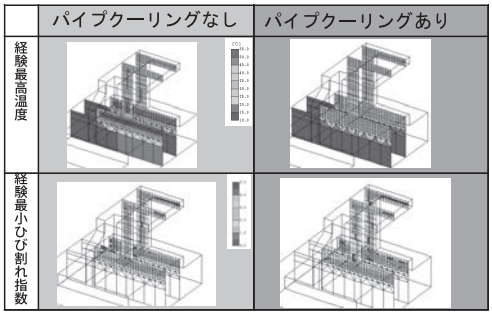
最強バージョンアップ　V8 新規リリース

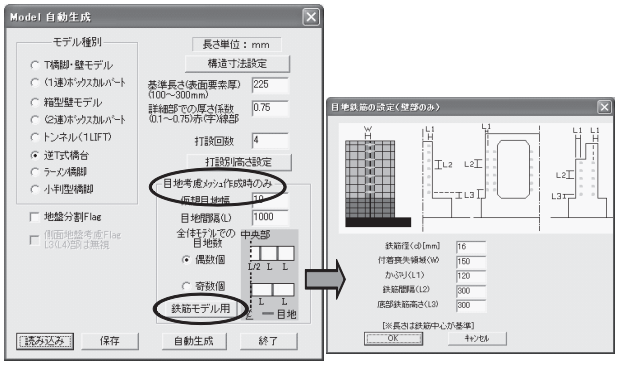
MACS スタンダード版

土木学会RC標準示方書 2012
JCIひび割れ制御指針2008
建築学会マスコン指針に準拠

マスコンクリートの温度応力検討専用に開発されたシステムで、土木学会標準示方書・建築学会マスコン指針に準拠しています。コンクリート打設に伴う境界条件の変化や水和発熱・養生条件などを考慮した３次元非定熱伝導計算と強度発現を伴う温度応力計算を一貫して行なうことが出来ます。プリ・ポスト機能を重視し、標準データベースのデフォルト設定など解析初心者にも優しい設計となっております。自動メッシュ機能と条件自動設定のできる定形パターン8タイプが自動作成できます。(CS 機能完全内蔵)





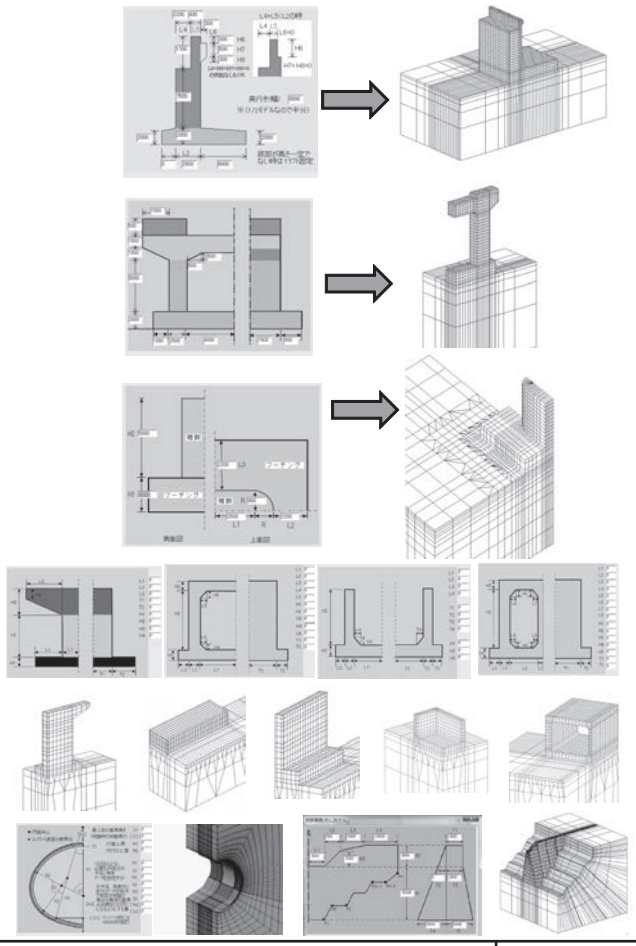


現場向けオートメッシュ搭載MACS

MACS CS Construction Site

現場の技術者が手軽に温度応力評価ができます。スタンダード版との互換性があるので、更に詳細な検討につなぐことが可能です。解析対象構造を限定し、主要な機能のみのコンパクト版です。メッシュ、物性データ、境界条件の自動設定により、作業時間を大幅に短縮できます。

サイズを入力すると自動的にメッシュが完成します。



ASTEA MACS for Windows　スタンダード版			MACS-CS
年間ライセンス	3ケ月ライセンス	1ケ月ライセンス	年間ライセンス
400,000円～	250,000円～	180,000円～	300,000円

上記はすべてサポート込の価格です。

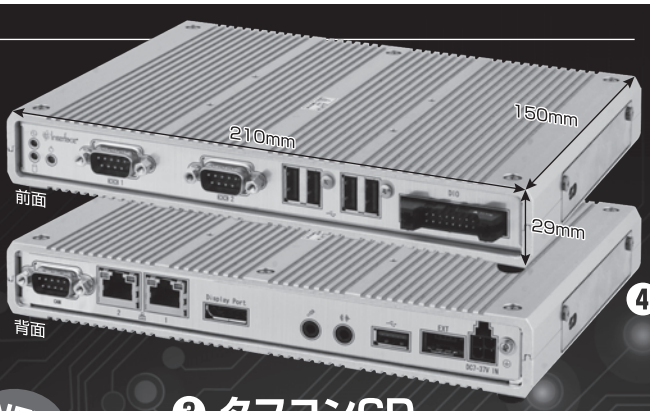
Research Center of Computational Mechanics,Inc.
RCCM 株式会社 計算力学研究センター

〒142-0041　東京都品川区戸越1-7-1　戸越NIビル
TEL.03-3785-3033　FAX.03-3785-6066
E-mail:macs@rccm.co.jp　http://www.rccm.co.jp

Glassembly Devices®

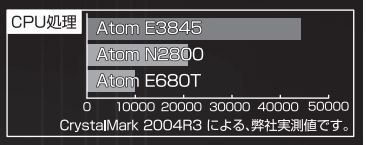
A5サイズ のコンピュータ

❶ 車載CD



型式:ETC-F019(S7)
CPU:Atom E3845 1.91GHz
メモリ:4GB
OS:Windows Embedded Standard 7
起動デバイス:CFast(16GB)
補助デバイス:CFast×1スロット
ディスプレイ:DisplayPort×1
電源電圧:DC 0V～+40V(最大定格電圧)
DC +7V～+37V(連続動作時)
動作温度範囲:−30℃～+70℃

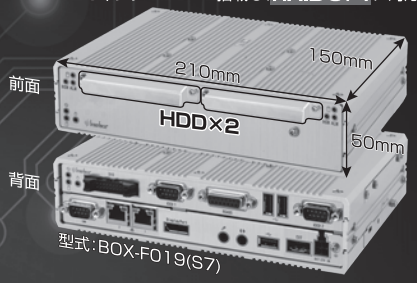
Interface Made in 日本



CrystalMark 2004R3 による、弊社実測値です。

❹ BOX型CD NEW

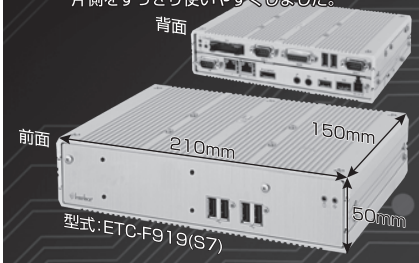
2.5インチ HDD×2搭載し、**RAID 0 / 1** に対応。



型式:BOX-F019(S7)

❷ 車載CD 片面集中モデル NEW

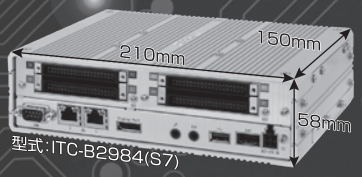
I/Oポートを片面に集中 させ、
片側をすっきり使いやすくしました。



型式:ETC-F919(S7)

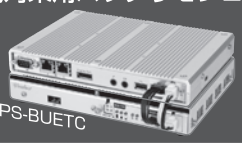
❸ タフコンCD

13種類のI/O構成 から自由に選択
デジタル入出力, アナログ入出力, TEDS,
モーションコントローラ, 通信, NTSC,
光Express, カウンタ, DeviceNet, HDLC



型式:ITC-B2984(S7)

瞬低対策用バッテリモジュール



型式:JPS-BUETC

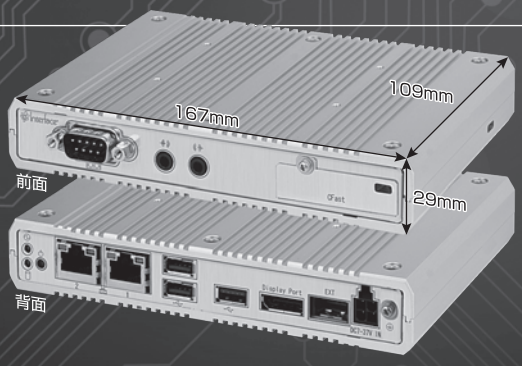
Bay Trail搭載機 発売中！

Atom E3845(4コア) | **FANレス・HDDレス メンテナンスフリー** | **温度範囲 −30℃～+70℃** | **電源ブチ切り**

別オプション 防湿コーティング対応・スクリーニング対応・修理サービス延長契約・瞬低対策

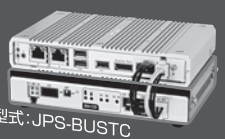
はがきサイズ のコンピュータ

❺ 省エネCD



型式:ETC-G019(S7)
CPU:Atom E3845 1.91GHz
メモリ:2GB
OS:Windows Embedded Standard 7
起動デバイス:SSD(8GB)
補助デバイス:CFast1×1スロット
ディスプレイ:DisplayPort×1
電源電圧:DC 0V～+40V(最大定格電圧)
DC +7V～+37V(連続動作時)
動作温度範囲:−30℃～+70℃

瞬低対策用バッテリモジュール



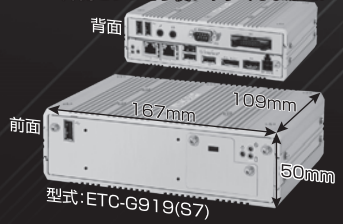
型式:JPS-BUSTC

本製品と各CDシリーズと接続することにより、
瞬断が発生しても、継続動作することができます。
市販のeneloop pro, eneloop(単3形)が利用でき、
電池の取り替えも容易に行えます。

動作温度範囲は0℃～+50℃になります。
上記温度範囲以外でご利用する場合は、
CDシリーズと隔離してご利用ください。

❻ 省エネCD 片面集中モデル NEW

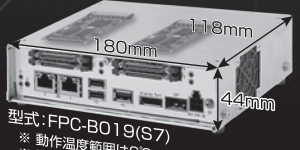
I/Oポートを片面に集中 させ、
片側をすっきり使いやすくしました。



型式:ETC-G919(S7)

❼ I/O CD

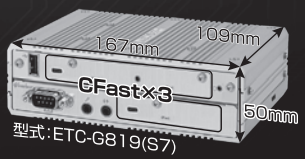
37種類のカードから4つの組み合わせが選択 できます。
デジタル入出力, アナログ入出力,
モーションコントローラ, カウンタ,
GP-IB, RS-232C, RS-485, CAN,
HDLC, NTSC



型式:FPC-B019(S7)
※ 動作温度範囲は0℃～+50℃
※ FAN付き

❽ 省エネCD CFast 3スロットモデル NEW

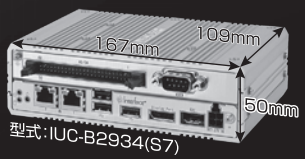
起動デバイスSSD(8GB)と
CFast×3スロット を搭載し、
データストレージを強化したモデル。



型式:ETC-G819(S7)

❾ ソルコンCD

10種類のI/O構成から自由 に選択
デジタル入出力, アナログ入出力,
GP-IB, HDLC, シリアル, CAN,
DeviceNet, 熱電対



型式:IUC-B2934(S7)

Interface®
Vision & Freedom
株式会社 インタフェース

詳しくはwebsiteまで www.interface.co.jp
カスタマーサポートセンタ

☎ TEL:0120-447213
FAX:0120-458257
URL :www.interface.co.jp
E-mail:support@interface.co.jp

製品の仕様、デザイン、価格については、予告なく変更する場合があります。本広告に記載した会社名、商品名は、各会社の商標または登録商標です。

安藤ハザマ

KUMAGAI 熊谷組

佐藤工業

TEKKEN 鉄建

飛島建設

西松建設

MAEDA 前田建設

【アイウエオ順】

学会on the WEB

■オンラインソリューション例

学術研究機関をオンラインシステムでサポートします。

秋田活版印刷株式会社では、土木学会はじめ各学会・研究機関の論文集・講演集の編集印刷製本はもとより、オンライン投稿システム・査読システム等の提供により、研究者の時間というコスト、事務局の経費というコストの削減をお手伝いするとともに、リアルタイムでの管理システムを実現します。

セキュアな環境で提供するオンラインシステムは、投稿の負担軽減、管理の効率化はもちろんのこと、デジタルデータ収集により学会誌・論文集・講演集・予稿集等の刊行物やCD-ROM・DVD・WEBコンテンツと幅広い活用が出来ます。

URL http://www.kappan.co.jp/

Kappan

E-mail info@kappan.co.jp

■運用実績・事例はお問い合わせください

秋田活版印刷株式会社

〒011-0901 秋田県秋田市寺内三千刈110-1

TEL 018-888-3500 FAX 018-888-3505

時をつくる　こころで創る

子どもたちが大人になっていくように、
街も健やかに育っていくと、
そこで暮らすみんなに幸せが広がります。

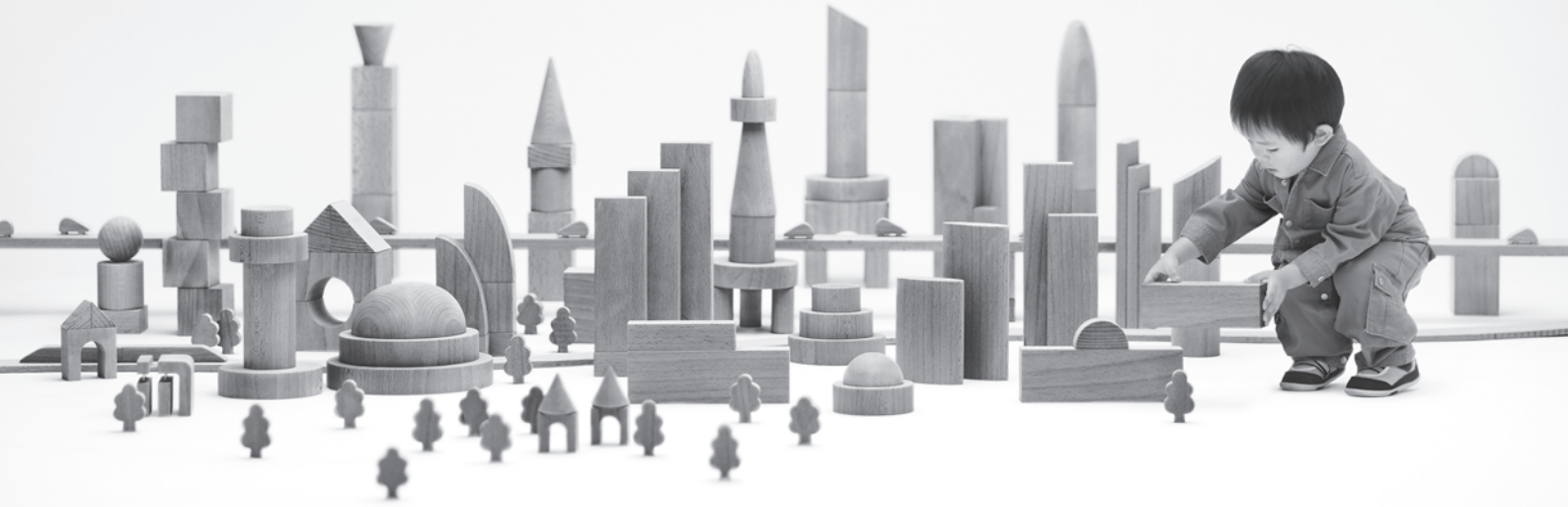
わたしたち大林組は、
親が子どもたちに愛情を注ぐように、
こころを込めて、建物や街をつくっています。

みんなの未来を、夢のある時間で満たすために。

www.obayashi.co.jp

OBAYASHI 大林組

想像を、チカラに。



フランス人の小説家、ジュール・ヴェルヌが残したという言葉があります。「人が想像できることは、必ず人が実現できる」
100年以上も前に彼が空想したロケットや携帯電話が、世界の常識になっている今日。私たちは、「想像」の可能性を否定することはできません。
いま、私たちが建設するひとつひとつが、地球の上でどんな存在なのかが問われる時代。これから築かなければいけないのは、人と地球のいい関係です。100年先、200年先、ずっと先の未来まで。私たちは、想像します。たとえいま困難に思えることでも、やがて世界の常識になる日が来るために。

人が想像できることは、必ず人が実現できる。鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
鹿島

夢から未来を始めよう。

世界をより快適に
安心して暮らせる場所にしたい。
そんな願いを一つひとつの技術に込めて
私たちは“自然と共に生きる”未来を
提案し続けています。

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

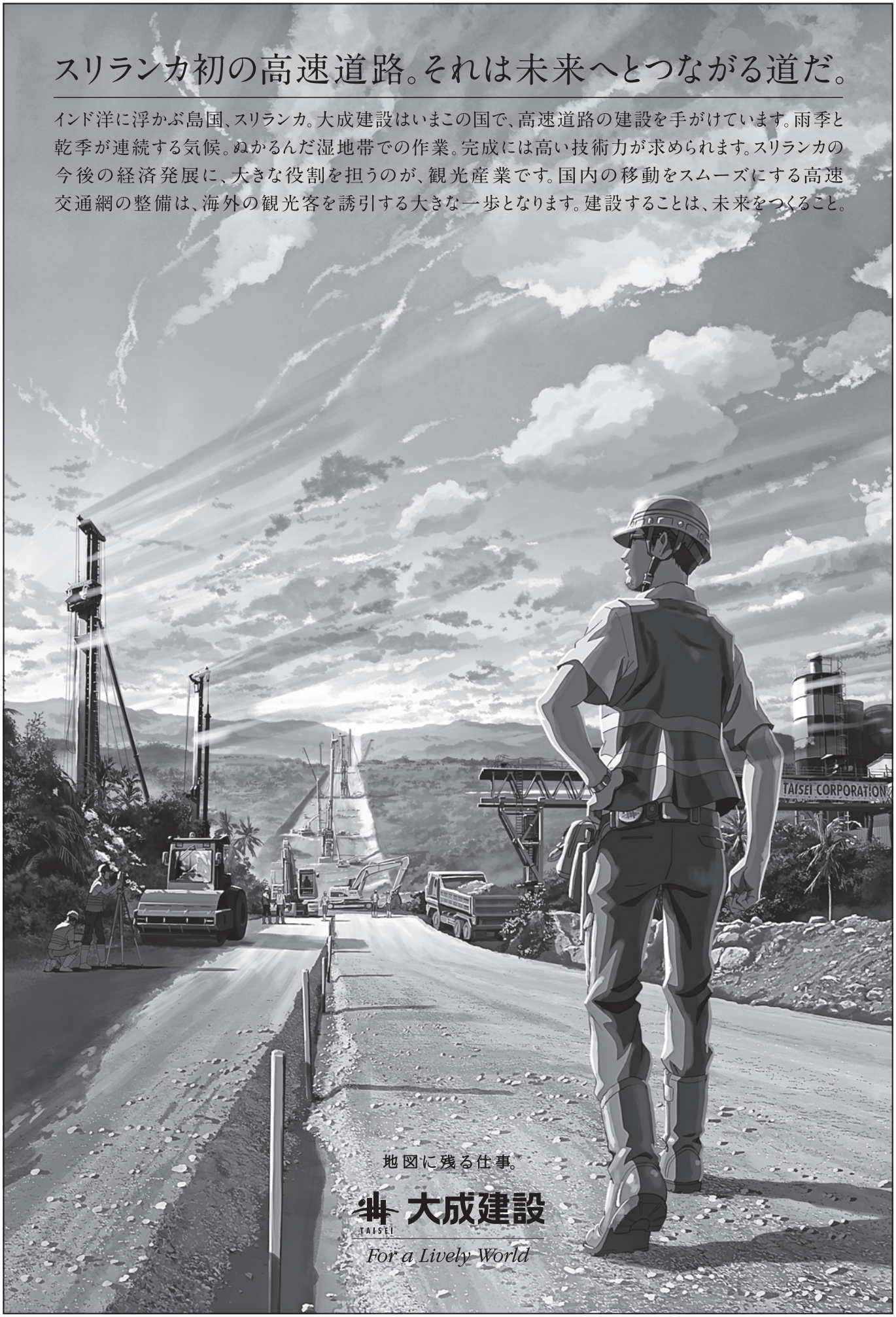
環境アイランド GREEN FLOAT

それは、太平洋に浮かぶ海上都市。
太陽光、風、水といった大自然の力と最新のテクノロジーを融合させることで、
エネルギーや食糧は自給自足、CO_2ゼロを超えたカーボンマイナスを実現。
快適な暮らしと、人と生物との永続的な共生を実現した
「植物質な都市」です。

シミズ・ドリーム 検索

スリランカ初の高速道路。それは未来へとつながる道だ。

インド洋に浮かぶ島国、スリランカ。大成建設はいまこの国で、高速道路の建設を手がけています。雨季と乾季が連続する気候。ぬかるんだ湿地帯での作業。完成には高い技術力が求められます。スリランカの今後の経済発展に、大きな役割を担うのが、観光産業です。国内の移動をスムーズにする高速交通網の整備は、海外の観光客を誘引する大きな一歩となります。建設することは、未来をつくること。



地図に残る仕事。

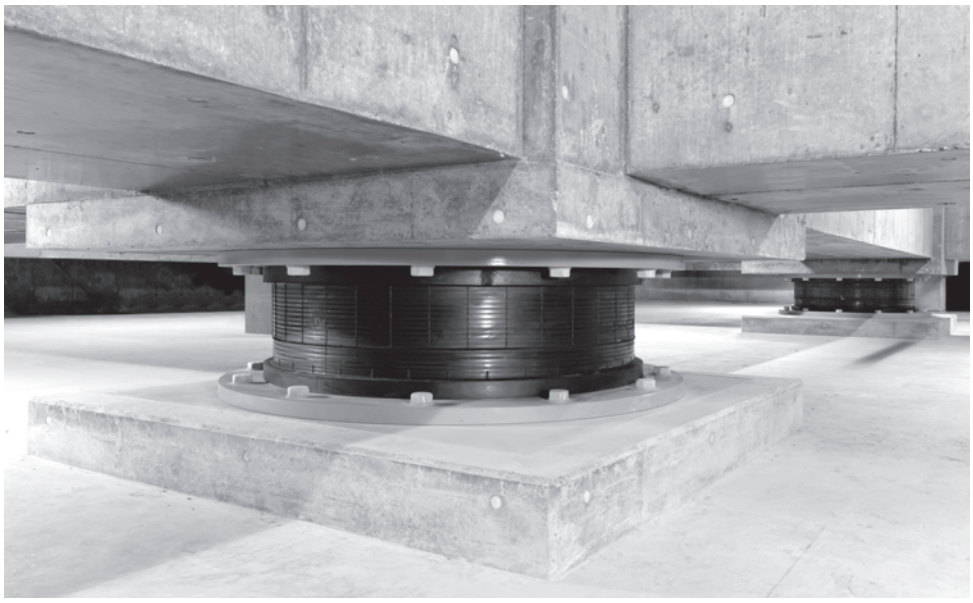
大成建設

TAISEI

For a Lively World

竹中工務店

大地の揺れを、柔らかく抱きとめる技術——「免震」



免震装置（積層ゴム支承）

建物の揺れを少なくして、人の命や財産を守りたい。
私たちは、今後とも免震建築に積極的に取り組み、
業界をリードしていきます。

私たちは「免震の竹中」です。

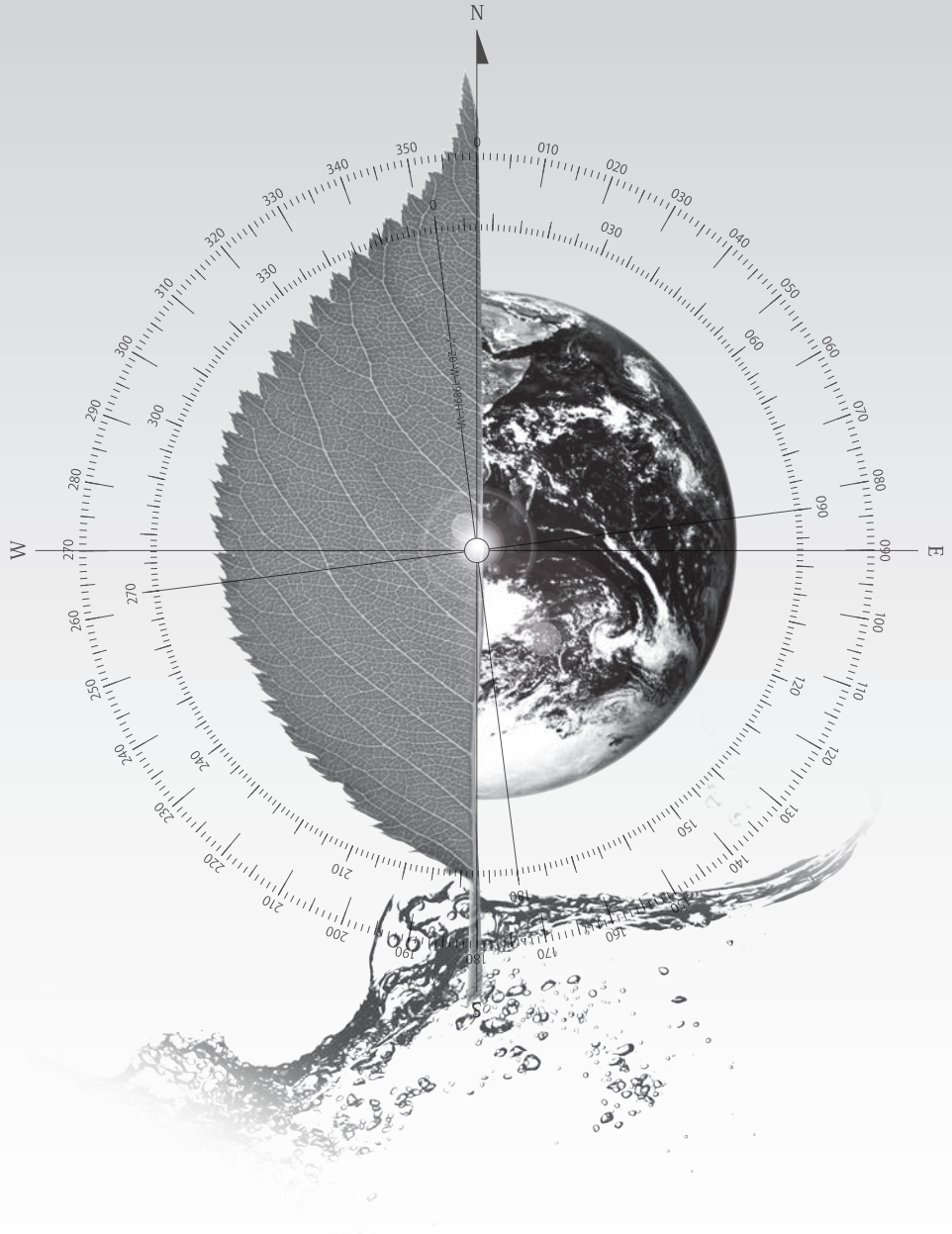
想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

次代への構想

Design for Next Age

建設コンサルタントに求められるもの。
その変化をとらえて、次の世代、次の時代に
受け入れられる社会資本整備に貢献していきます。



株式会社東京建設コンサルタント
TOKEN C. E. E. Consultants Co.,Ltd.

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-15-6 TEL.(03)5980-2633 FAX.(03)5980-2601
http://www.tokencon.co.jp/
支社・支店 ： 東京本社、関西本社、東北支社、北陸支社、中部支社、中国支社、四国支社、九州支社、北海道支店

事業内容

河川計画、河川構造物、河川環境、水質保全、上下水道、道路、橋梁、交通、海岸、ダム、砂防、港湾、環境アセスメント、観測技術、模型実験、都市・地域計画、事業執行マネジメント、防災、LCM、機械電気設備技術、情報通信技術、測量・地質調査、施工管理、建築設計

KASUMI BRIDGE

This structure was completed in 1896,
by Handyside in England.

霞橋

平成 25 年度土木学会田中賞作品賞受賞

生まれかわり、語り継ぐ。

この橋は、道路橋として 2013 年 3 月に竣工しました。
独特の意匠と材料は、1896（明治 29）年竣工の日本鉄道土浦線（現常磐線）隅田川橋梁から引き継ぐものである。

T 字型下弦材などのトラス材や欠円型ローラー支承、コッターピン（楔）を用いた格点部などを現行基準に適用させて再利用し、明治中期の鋼材や構造が現在の道路橋で使えることを現代の人々に伝え、次世代に引き継ぐ。

私達は、「後世に歴史をつなぐ」責任を担う一員として、
技術的・社会的な価値をもつ遺産の保存・利活用にこれからも挑み続けてまいります。

ORICONSUL

株式会社
オリエンタルコンサルタンツ

URL http://www.oriconsul.com

本社 / 東京都渋谷区本町三丁目12番1号 住友不動産西新宿ビル 6 号館
支店 / 北海道・東北・関東・北陸・中部・関西・中国・四国・九州・沖縄

2014年6月19日、
株式会社 大應は創業50周年を迎えます。

○ パンフレット・ポスター・会社案内・学会誌・協会誌・記念誌・季刊誌・各種冊子
○ アンケート印刷・集計・封入/封緘・発送業務

エコ用紙、大豆インク、そして廃材廃液を出さない、環境に配慮した最新のシステムで質と価格にこだわり提供しています。

最新のカラー印刷システムを駆使し、**工期の短縮・高品質**かつ正確で完璧な仕上がり、**低価格のカラー印刷を実現し、一層のコスト削減**にむけてサービスを展開しております。

グラフィックデザイナーと印刷オペレータが直接言葉を交わせる環境が大切です。制作部門と印刷を併設する私達は魅力的な発色にこだわっています。

その他、**高速オンデマンド印刷**で素早く安価に提供しております。
是非一度お試し下さいますようお願い申し上げます。

最先端のデジタルテクノロジー

株式会社 大應 50 SINCE 1964 th ANNIVERSARY

OFF SET オフセット印刷　Design グラフィックデザイン　オンデマンド印刷 ON DEMAND　イベント・セミナー関連印刷 Seminar

カラー総合技術印刷・情報処理・編集加工・Web制作

プライバシーマーク 16190135

本社神田事業部
〒101-0047　東京都千代田区内神田1-7-5
Tel 03(3292)1488　Fax 03(3292)1485
http://www.dai-oh.co.jp

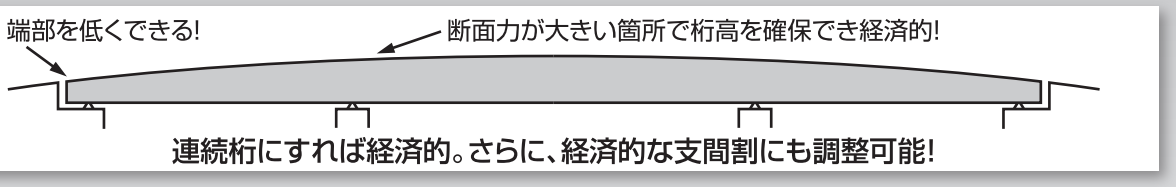
横浜事業部
〒221-0844　神奈川県横浜市神奈川区沢渡1−2 高島台第2ビル 6-F号
Tel 045 (320) 2081 (代表)　Fax 03(3292)1485

新宿営業所
〒160-0023　東京都新宿区西新宿4-1-7 三晃ビル4階
Tel 03(3375)6320

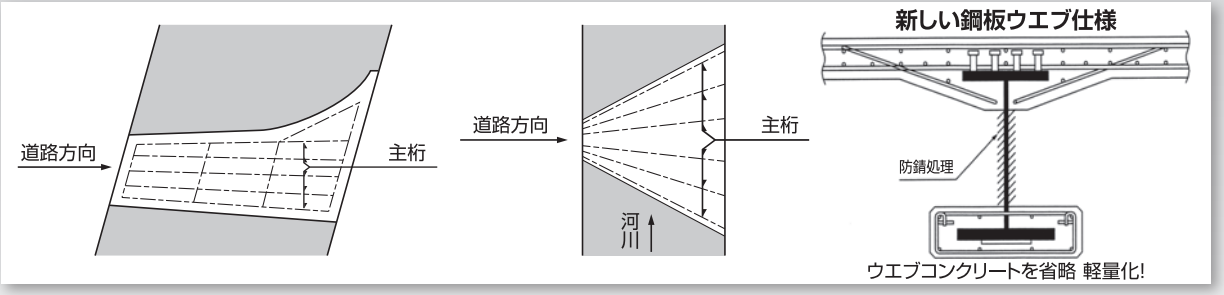
桁高変化が得意なプレビーム桁橋

●桁剛性が高く、低い桁高が可能!　●分割工法、連続桁が可能!

●道路縦断に合わせ、必要な桁高に変化が可能!



●他形式では困難とされる道路線形に対応可能!



●鋼板ウエブ仕様で、死荷重低減・コストダウンが可能!

●45年以上・950橋以上の実績があり、信頼される橋梁!

プレビーム工法 1,000件突破

「カタログ」「設計・施工指針」「標準設計集」「設計・製作・施工要領書」の図書販売、無料の設計計算プログラム、橋梁の実績等をホームページで公開中!

http://www.prebeam.jp

プレビーム振興会

事 務 局 〒114-0023 東京都北区滝野川 1-3-11　TEL(03)3915-5394

東北支部 〒980-0021 仙台市青葉区中央 1-6-35　TEL(022)266-8887
中部支部 〒460-0008 名古屋市中区栄 2-4-1　TEL(052)223-8211
北陸支部 〒939-1593 富山県南砺市苗島 4610　TEL(0763)22-6669
関西支部 〒550-0014 大阪市西区北堀江 1-22-19　TEL(06)6532-4174
九州支部 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-5-19　TEL(092)431-7345

プレビーム振興会会員

- ㈱ＩＨＩインフラ建設
- ㈱安部日鋼工業
- 川田建設㈱
- 川田工業㈱
- 極東興和㈱
- コーアツ工業㈱
- 昭和コンクリート工業㈱
- ドーピー建設工業㈱
- 日本高圧コンクリート㈱
- ㈱日本ピーエス
- ㈱ピーエス三菱
- ㈱富士ピー・エス

賛助会員

- 協立エンジ㈱
- ㈱駒井ハルテック
- ㈱メタルワン建材

美しく、快適な地球環境づくりに邁進する

Environment and new energy
環境・新エネルギー

小水力・地熱発電等のクリーンエネルギー事業の展開
東南アジア諸国の地元企業と連携した生活環境改善を目指すエコ事業の展開

Improvement of country foundation
国土基盤整備

国土強靱化施策に対応する安全・安心で豊かさを実感できる国土づくりを目指して
「技術の長大」の復活と発展
世界に誇る長大橋梁技術のさらなる国外発展

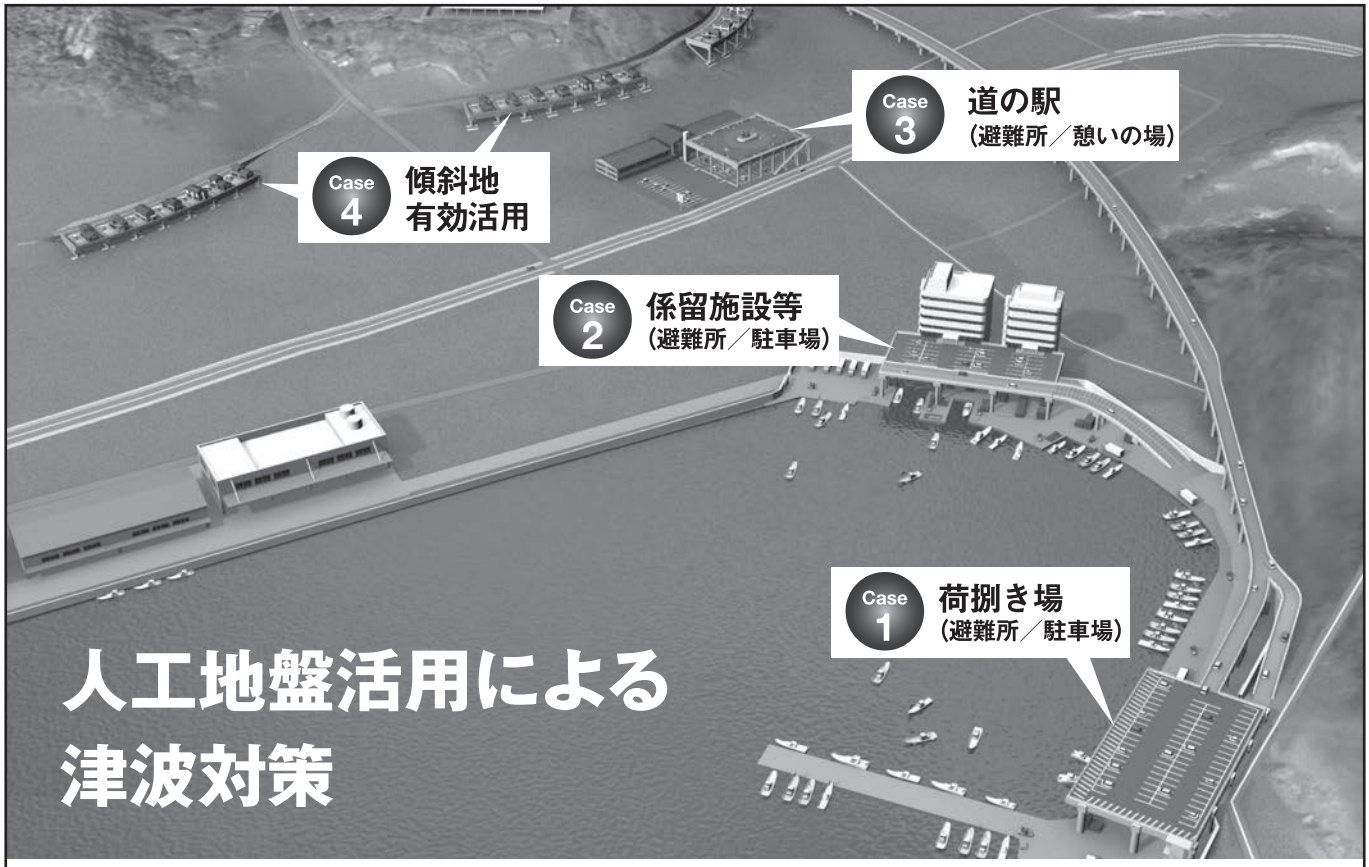
Healthcare,welfare,construction
医療・福祉・建築

ITS 技術を駆使したデマンドバス事業など医療・福祉と連携した地域交通システムの整備
地域の交流と発展に寄与する新たな建築設計

人・夢・技術

株式会社 長大

www.chodai.co.jp



人工地盤活用による津波対策

プレキャストプレストレストコンクリート(PCaPC)を活用して

- いざという時に先ず避難できて、のちにさらに高い場所へ避難でき、安心して仕事ができる環境を造る
- 道の駅など公共の場に避難できる環境を造る

プレキャストプレストレストコンクリート（PCaPC）の利点

1
ひび割れを制御し、
耐久性に優れた構造物を
構築できる構造である。

2
柱が少ないことにより
有効な大空間が得られる。
有効利用例　荷捌き場、魚市場、スポーツ施設、駐車場など

3
耐荷重が大きいため
人工地盤に適する。

4
PCa 化により、現場の
合理化・省力化が容易であり
大幅な**工期短縮**が可能である。

5
PCa 化により、
地域内の PC 専用工場により
大量生産が可能である。

6
基礎から柱の施工まで
地元建設業で対応可能なため、
地域還元比率が高い。

一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会

会長　則久芳行
副会長　杉本武司
副会長　長尾徳博
専務理事　木下賢司

〒162-0821　東京都新宿区津久戸町4番6号（第3都ビル）　TEL 03(3260)2535 (代)　FAX 03(3260)2518

SE CORPORATION

For a high-quality social infrastructure

SEEE工法を主力とするエスイーは、土木技術を高性能化するコア・テクノロジーを柱に、高架橋や斜張橋などの社会インフラ事業分野で建設コストの削減、工期の短縮、施工性向上などを実現するとともに、国際競争力を持つトータルエンジニアリングメーカーとして新製品・新技術の開発を行い、高品質を保証した製品、ニーズに応えたソリューションを国際競争の視点で提案しています。

○矢部川大橋　平成21年3月14日開通

○鷹島肥前大橋　平成21年4月18日開通

○銚子大橋　平成21年3月24日開通

● 矢部川大橋

平成21年3月14日開通した有明海沿岸道路の「矢部川大橋」。福岡県のみやま市高田町と柳川市大和町を結ぶこの橋は、中央支間長が国内最大の261メートルのPC斜張橋です。エスイーがケーブルを提供し、グループ子会社のアンジェロセックも「橋梁形式検討業務」を受注しました。

● 鷹島肥前大橋

平成21年4月18日に開通した鷹島肥前大橋。長崎県鷹島と佐賀県肥前町を結ぶ鉄筋コンクリート主塔の斜張橋（840メートル）で、エスイーの斜材ケーブルが使われています。エスイーは架設工事業務も請け負いました。

● 銚子大橋

平成21年3月24日に新橋の一部が供用開始となった「銚子大橋」。利根川の河口付近、千葉県銚子市と茨城県神栖市を結ぶ長大橋。建設以来40年以上経過し老朽化が激しくなったため、橋の架け替え工事となりました。今回、新橋の斜張橋部分（400m）の架設が終了し、迂回路として開通しました。エスイーは斜材ケーブルの提供と架設工事業務を請け負いました。

SEC 株式会社 エスイー URL http://www.se-corp.com

本　　社 〒163-1343 東京都新宿区西新宿6丁目5番1号（新宿アイランドタワー 43F） TEL.03-3340-5500

東京支店 TEL.03-3340-1801
東北支店 TEL.022-792-0450
四国営業所 TEL.087-826-0481
山口工場 TEL.083-989-6666
大阪支店 TEL.06-6245-0921
名古屋支店 TEL.052-229-0311
北陸営業所 TEL.025-285-7581
九州支店 TEL.092-473-0191
中国営業所 TEL.082-568-9891
北海道営業所 TEL.011-717-5811

ISO9001 認証取得　ISO14001 認証取得

環境認証範囲は山口工場と本社部門

● エスイーグループ会社　株式会社アンジェロセック／エスイーA＆K株式会社／エスイーリペア株式会社／株式会社ランドプラン
● 海外関連企業　フランス INGEROP／韓国 KOREA SEC／台湾 九春工業公司／ベトナム V-JEC／

JASDAQ 証券コード：3423

世界に誇れる技術と英知で
安全で潤いのある
豊かな社会づくりに挑戦する

信頼と技術で
心をつなぐ環境づくり

株式会社 建設技術研究所
本社　〒103-8430　東京都中央区日本橋浜町 3-21-1（日本橋浜町 F タワー）
TEL：03-3668-0451（大代表）
E-mail：koho@ctie.co.jp　http://www.ctie.co.jp/

We add value for a bright future.

パシフィックコンサルタンツ株式会社

www.pacific.co.jp